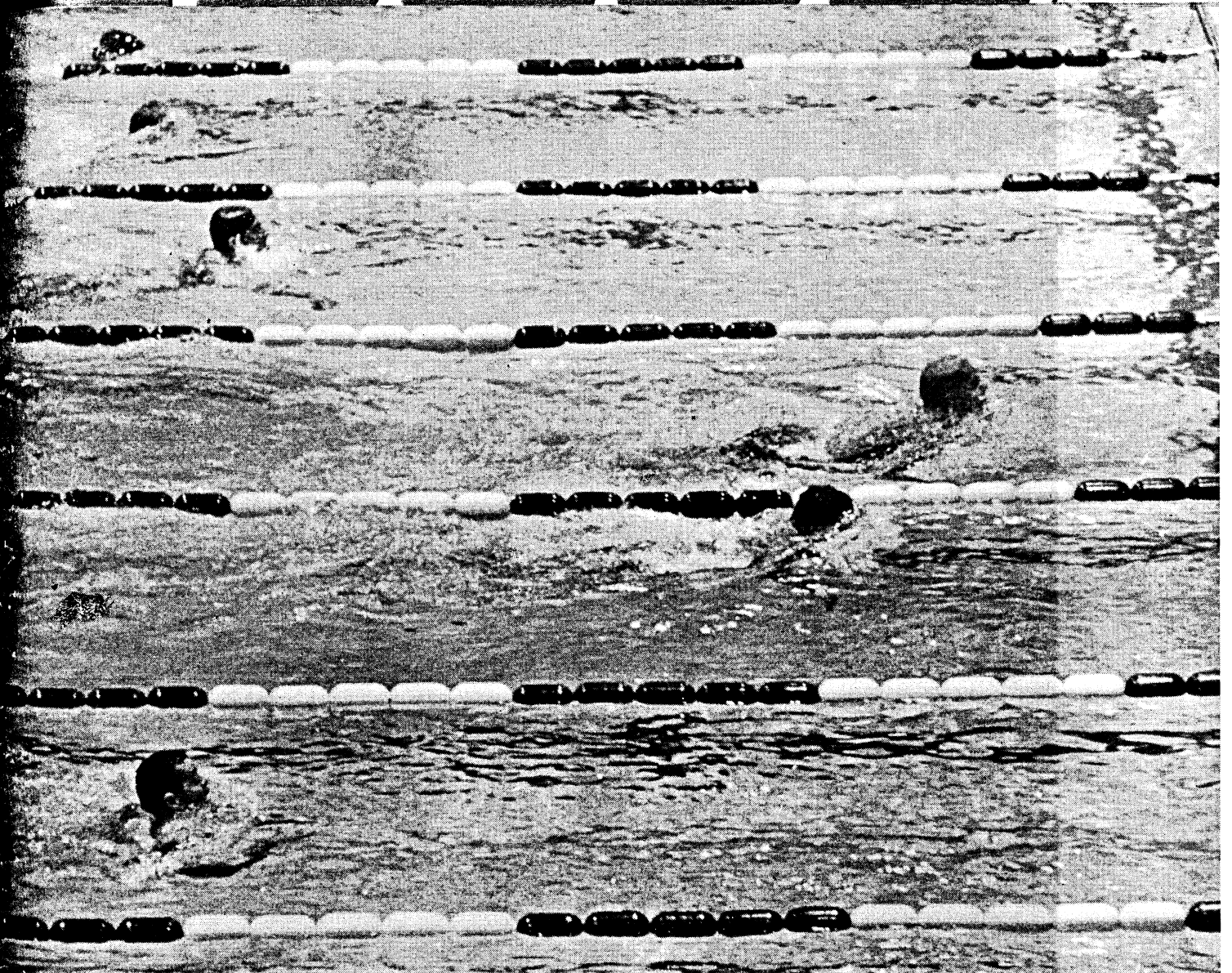


日本水泳連盟
機 関 誌

水 泳

第 135・136 号
昭 和 35 年12月

水



No. 135・136

“SUIEI” Dec. 1960

NIPPON SUIEI RENMEI

(Amateur Swimming Federation of Japan)

目

次

第17回ローマ・オリンピック水上競技大会報告

ローマ大会を終つて	小 出 靖 彦	(2)
競 泳 競 技	太田光雄・赤樫卓爾	(4)
飛 込 競 技	柴 原 恒 雄	(10)
水 球 競 技	鷺 田 武	(11)
水球チーム日誌	神 田 明 善	(20)
マネジャーの任務を終えて	志 村 文一郎	(29)
F I N A 関 係 概 況 報 告	安 部 輝 太 郎	(32)
世界新記録		(33)
第17回ローマ・オリンピック大会綜合成績表		(35)
日本—ユーゴ・ハンガリー交歓競技		(49)
安部輝太郎氏 F I N A 名誉主事に選任さる		(51)
ジュニア部欄の新設に当つて	根 上 博	(52)
本年度水泳教室の報告		(53)
第 8 回九州地区水泳教室報告書	岡 田 正 一	(53)
中国地区	倉 橋 範 彦	(56)
四 国 地 区	北 村 康 雄	(57)
中 部 地 区	南 佳 恵	(60)
関 東 地 区	芦 田 拓 郎	(62)
北海道・東北地区	上 村 稔	(63)
近 畿 地 区	長 沢 二 郎	(64)
第 4 回ジュニア水泳指導会	金 田 平 八 郎	(67)
学童強化を目指した中部女子水泳クラブの設立	社 本 寿 恵 子	(72)
日本スポーツ賞候補推薦		(73)
デーリースポーツ賞受賞者の推薦		(73)
第 6 回全日本中学校通信競技大会反省座談会		(75)
記 録		(76)
日本競泳史上男子 100 傑 (7)	島 田 桃 一 郎	(86)
海外ニュース	坂 本 宗 隆	(89)
昭和35年度定例代議員会議事録		(94)

表紙写真は男子 200m 平泳決勝のゴール前の接戦
上からラザリ (伊) 5 位, メンソニデス (和) 3 位, ヘニンガー (独) 4 位
ムリケン (米) 1 位, 大崎 (日本) 2 位, ギャザコール (豪) 6 位

第17回ローマ・オリンピック水上競技大会

「ローマ大会を終わって」

監督 小 出 靖 彦

7月24日選手権大会後選考会の結果別記のチームが編成された。チーム編成はうまく行ったと思う。特に意図していた大部分の選手が順調に入った事と二新人が選抜された点に意義があったと思う。前者については現在日本の最強者のみ集めた候補選手団の数字に亘る合宿の結果、考えられた選手が選ばれたのであり、後者では水連が今迄考えて来た、選手は水連全機構で作るのだその為には各地方の指導力を高めるのだと云う事が実現し、東京と九州から清新発刺とした新人が堂々と力を発揮してくれた点で大いに意義深く感じた。

続いて山の上ホテルの合宿に入ったが、これは外地における洋風の生活に馴れる為と日米対抗の先例をカツいでである。練習はローマの試合時間が朝、午後、夜であるのに合せて朝と夜にした。ホテル及びその他各方面の非常な御協力と選手の熱意とによって、調子は頗る順調に上って、むしろコーチ陣が抑える事に努力した程になった。

8月11日盛大な見送りを受けて北極まはりで羽田を出発したが、北海道を越えてアリュージョンを飛んだ数時間だけが夜で、その他全部昼間ばかりの36時間の空の旅は、選手達に相当とまどいを感じさせた。ローマでの練習期間は前二回オリンピックの経験からプール使用状況をも考慮して一週間から十日間必要と考えていた。

ローマでの盛んな出迎えを受けて、熱望していたオリンピックプールへ飛び込んだのは13日の夕方夕闇が辺りをつうんでいる頃だった。これはメルボルンの前例を二度と繰り返すまいと、出発前先発の方々には御願していた所でありこの結果、危懼していた硬水の不安もなくなり「軽い水だ、泳ぎ良いプールだ」と云う事ですっかり一同御機嫌になった。村の生活は報導された事と思うので繰り返さないが新しい公務員宿舎で各室に二名づつ入って、まづ申し分ないものであった。但し女子は別棟に入り厳重な区分の為に桑名ジャペロンの御骨折にも不拘色々との意の通り行かず、吾々との連絡その他不十分な点が出た事は残念だった。食事毎日の献立に変化が少い

との不平はあっても質量共々充分であり、その上大使館より握り飯の度々の差し入れがあって、食事の為往復の徒歩以外はまづまづであった。練習プールも、ヘルシンキ、メルボルンの前例に鑑み、各国殺到して一日二三時間、二三コースと考えて行ったに反し三つのプールを使い午前午後と十分の練習時間がとれ、選手の調子は予想以上に早く上って来てコーチ陣を慌てさせた。特にプールの割当をとる為にCONI側と交渉を一手に引き受けられた平井さんと志村君の労を多としたい。

オリンピック村での練習は、以上の通り快調に進められて行ったが、中でも山中選手は異常な迄の熱意を見せ最も早く調子を出し、それに釣られて各選手の調子も高まり、吾々は何とかこれを抑える事に頭を悩ました。その際起ったのが山中顛倒であり、幸い大した事もなくて二日間の休養は本人には清神的に大きな打撃を与えた事と思うが——かへつて良い結果になったとひそかに喜んだものだった。それかあらぬか休日明けの午後には400Mを4分18秒で泳ぎ、その強さに更めて驚かされたと共に安心した事だった。

選手の調子が早く出て来た結果として、これが自信となって盛り上らずに、この調子が大会まで続くかしらとの不安を感じさせ、続けさせ度いとの願ひとなり、練習も調子を落し自分で加減する傾向が見えて来てコーチ陣を心痛させる事になった。こんな多少とまどった精神状態で試合に入って行ったと思う。100mフリーでは入賞は望めないまでも自己新を出して各選手の調子の高さを実証し意気を盛り上らせてほしいと念願したが成らず、高松嬢が実力を発揮出来ず第一予選失格と云う事に依り崩れ去った。秘かに予定していた事とは云えず出しのまづさが不安と焦りとを作ってしまった様に思う。

試合は朝8時半から予選、午後4時から準決、夜8時半から決勝で、飛込は朝と午後、水球は夜10時から第一試合が始り、三試合、終って宿舎に帰るのが午前2時と云う始末。

朝五時に起き味噌汁を作り、出場選手を起し散歩させ

アラブ

握り飯で朝食させ、プールを引率しウォームアップさせる一方、手分けして爾余の選手を起し体操させ食事させ練習させる。終ってプールへ馳けつける。飛込水球の応援をすると云った具合であった。

29日が日曜で試合はなく此処で心機一転し日本としても得意の種目に入ると云うので張り切った。800リレー予選では山中選手からの発意でありリレーメンバーの希望でもあり、best member で然も山中をtopに立てて世界記録を出し、チームの気分を一新させ様と計ったがその結果は御承知の通りであり、その後も必ずしも期待に副い得たものとは思はないが、選手役員の努力は大したものであり良くやってくれたものと特に強調しておき度い。特にあの態勢の中で400のメドレーと800リレーに於ては全員自己新記録を出して本当に実力一杯に戦ってくれた事は感謝に堪えない所である。又山中選手は僚友及び日本国民のみならず全世界の与望を荷負い、又それを強く自覚し日本の為にと非常に深く感じて居た事は他所目にも痛ましい程であった。特に大崎選手が二位となつてからは俺がとの意識に強く燃えた事と思う。この重荷の為にのみとは云はないが彼の心中を察しあの奮斗は何としても特筆しておき度い。又田中聰子選手があの大きな外国選手の中にまじっておめず、おくせず堂々と戦い新記録、新記録で私が夢にも考えなかった三位に入賞した事は山中選手と並んで特記すべき事と思う。

戦績、試合経過、練習日誌等は夫々詳細に発表され検討される事と思うが私自信ふり返って見て次の様に思う。

- 1.今迄考えて来、とって来た方向においては誤りはない。その方法については更に環境に応じ効率的に強力に実施する必要がある。
- 2.インターバル練習法も更にたくましく一歩も二歩も前進せしめるべきだと思う。
- 3.外国選手との試合経験をもっともつと多く持たせて選手をたくましく育て上げる必要がある。特に飛込、水球に就て然り。
- 4.かつてのベルリンにおける日本の如く、此度のアメリカの如く、若い力の揃った選手を多く作ってリレーの前には予選をやる事が出来る位に育て上げておく必要がある。

飛込については、柴原コーチの熱意ある指導で、あの暑さの中を連日猛練習が続けられた。試合については、相当に巧く飛んだと思つても平均して1点乃至1.5点低い様思った。入水をもっと重視し今後の日本の飛込の指導を考え直す必要があるかと思う。各国選手の実力は大体平均していて、難易率の高い種目で点をとる事と、失敗をしない事が必要と思う。此処一発で決勝にと

時に大きく失敗した事も精神力の鍛練と併せて海外の試合の経験の必要性を感じさせられた。

水球は到着したその夜から伊太利チームと練習ゲームをはじめ、外国との練習試合を主体とした練習を続けて行った。クジの結果、最初の南垂との一戦が全運命を決するキープポイントとなり、惜しくも引分けとなった。技術的に云えば、体格の相異はまづおくとして、何としても泳法を水球向に変える事が第一であり、次は海外の本格的な水球試合を数多く経験する必要があると思う。

9月3日でオリンピックゲームを終了し、翌4日は競泳主力はナポリの大陸対抗試合に出場、本年はジュノア協会の招待でカモリ、ジュノアへ向つた。ナポリ行きの選手も合流し9月7日ジュノアで日米対抗と云う形で競泳飛込の親善試合を行った。一度ローマに帰り、全チーム45名が9日朝ユーゴスラビヤのモスターへ飛んだ。山の中の陸軍飛行場に到着、撮影禁止、外貨、カメラ、ラジオ迄登録させられたのには驚いた。モスターでユーゴの選手権大会に参加する筈であったが、寒波襲来の為各地で予選が出来ず単なる親善試合に切り換えられた。水温20度以下で風に吹きさらされた緑に濁った水での試合は選手達は相当つらかつた事と思う。然しユーゴ水協土地の協会の温い心尽しには一同感激した。非常に親愛をこめて迎えてくれた民衆と共に、この態度は終始変わらず心から感謝すべきものであつた事を報告しておき度い。モスターの後は、ユーゴ水球の発祥の地で避暑地であるドブロニク(13日)ザグレブ(14日)を経て首都ベオグラード(15日)と急しい旅をした。此処では大使館に招待され御婦人達御手製の日本料理に舌鼓をうち当日喰べ切れず御寿司その他大皿に頂いてホテル迄持って帰って翌日出発迄賞味した。

9月15日盛大なユーゴ水協の送別中食会で記念品を受け、ゆっくり感謝する暇もなくハンガリーへと飛んだ。ダニューブ河の中の島にあるプールは温泉で一年中泳げると云う50m競泳用、飛込用33mの水球用、それに33mの室内水球用とある立派なもの。水温25度の快適さとコースラインが見えるプール(ユーゴでは一度もコースラインは見なかつた)だと云うので選手達は大喜び、それに最後の試合だと云うので大いに張切って対抗競技では日本新記録や自己新を出した。ユーゴ水連の心からのもてなしに報いてくれた事は何より嬉しかつた。

此の十日間の旅行を通じて、ユーゴ、ハンガリー両水連から日本チームは実に行儀が良いと賞讃され、安部名譽主事から、金メダルならずとも、金メッキ位に値すると評された事からして如何に立派に振舞つてスポーツ国際親善に尽したか御了解頂けると思う。と共に45名の大部隊を言語全く不通の国々を急しい旅を続けかく云は

しめた為には選手の立派さはもとより役員諸君の一致団結献身的な努力があった事は忘れられてはならない。

又本遠征を通じて本チームの一員ではなかったが水泳出身の谷内洋一郎君が終始協力して呉れた事を報告しておく。

最後に、此度FINAの総会に於て安部さんがFINAの名譽主事に当選された事は東京オリンピック完遂の為に本当に力強い事である。安部さん個人にとってはお忙しい上に又大役で全くお気毒ではあるが、日本に於けるスポーツ団体で唯一のものであるだけに尊いものと思う。

然もこの当選が45対43と云う接戦の末のものであり、この成功の蔭には会長はじめ清川北村両氏の御努力と、

アジア、アメリカ、濠州、アフリカ、南米等諸国水連の心からの応援があって実現したものである事を報告し利かせて感謝の意を表しておく。

チーム結成以来60日、この間の選手役員の努力に比してその成果は必ずしも満足すべきものでなかった事は残念であるが、この間に於ける国の内外における日本人諸氏の心からなる御協力応援には感謝の他なく、又伊太利ユーゴー、ハンガリーの水連及び一般民衆の温い御もてなしは終生忘れないものとして残る事を信ずると共に心から感謝の意を表し度い。各役員より詳細報告される諸技術経験については徹底的に検討され全水連がより強くなる為の資料として頂く様心から御願ひして筆をおく。

競 泳 競 技

太 田 光 雄
赤 樫 卓 爾

競泳コーチ

8 月 26 日

◎男子100m自由形予選 (8時30分)

(1組)

1着	K. Kayhko	(フィンランド)	56.8
2着	清水 啓吾	(日本)	57.3
3着	E. Della Savia	(イタリー)	58.2

早朝8時30分よりのレースはきつい。1組出場の清水は非常に水に乗った良い泳ぎでスタート。出足の悪い清水にしては中々よい滑り出しである。併し一斉に50mをターンしてからは大きな波に揺られて軽量の清水の泳ぎが乱れる。ラストスパートよく先行する Kayko を追って2着でゴール。タイムは存外悪いが先づ予選は通過。

(7組)

1着	L. Larson	(アメリカ)	55.7
2着	A. Burer	(南アフリカ)	56.3
3着	石原 勝紀	(日本)	57.5

ラーソンの隣りコースの石原は例に依ってスタート直後の出足はよいが、泳ぎが小さく(腕が伸びていない)次第に遅れ余りよい如く平凡な記録で3着、今後余程の頑張が必要だ。それにしても、昨日迄の鋭い泳ぎが見られないのは上り気味の様子である。予選通過。

◎女子200m平泳予選 (9時55分)

(1組)

1着	B. Goebel	(ドイツ)	2:54.2
2着	R. Lassig	(オーストラリヤ)	2:57.4
3着	高松 好子	(日本)	2:57.6

スタート前から非常なあがり方で、心配した通りレースは全く実力を出し切れず終ってしまった。練習中はここ数日前から非常に好調で2分52、3秒は楽に出し得ると思っていたが非常に悪いタイム、而も泳ぎは全く別人の様な泳ぎであった。試合後どうして泳いだか全然覚えがない程上ってしまったと云う程であった。

相当の好成績で決勝迄残れると思っただけにチームとしては大きなショックである。落選。

◎女子100m自由形予選 (15時)

(2組)

1着	D. Fraser	(オーストラリア)	1:02.1
2着	C. M. Gastelaars	(オランダ)	1:03.9
3着	I. Thorngren	(スエーデン)	1:06.1
4着	佐藤 喜子	(日本)	1:06.4

よく力泳したが実力の相違は何としても大きく落選。併し自分の実力を出し切れなかったのは後のリレーが決勝進出可能であるだけに大いに不安となる。

(3組)

1着	C. Madarasz	(ハンガリー)	1:04.5
2着	H. Pechstein	(ドイツ)	1:05.1
3着	D. Wilkinson	(イギリス)	1:07.4

(4)

目次に戻る

- 4着 M. Iwasaki (カナダ) 1:07.6
- 5着 A. Rockenbach (ベネゼラ) 1:08.5
- 6着 神野 眸 (日本) 1:09.8

スタート直後よりジリジリ遅れて大きく差が付いて6位で落選。最初のレースで仕方がないが、これを経験としてリレーに頑張る。

◎男子100m自由形準決勝 (20時30分)

(1組)

- 1着 L. Larson (アメリカ) 55.5
- 2着 B. Hunter () 55.7
- 3着 A. Burer (南アフリカ) 56.5
- 4着 清水 啓吾 (日本) 57.1

愈々準決勝、好調の清水は2コースではじめから軽い泳ぎでよく飛ばす。而しさすが準決ともなると各選手とも前半からよく飛ばすので、出足の遅い清水は益々不利50mターンは大きく遅れたが75mあたりからよくせり出して追い上げるも遂に力尽きる。而もダブルタッチ、手元の時計では56.6位であったが発表は57.1で遂に落選。

(3組)

- 1着 M. Dos Santos (ブラジル) 56.3
- 2着 G. Dobay (ハンガリー) 56.3
- 3着 P. Lindberg (スウェーデン) 56.4
- 4着 K. Kayhko (フィンランド) 56.6
- 5着 石原 勝紀 (日本) 57.8

美しい泳ぎの石原が全然目に付かない程他の選手の泳ぎは力にあふれてすさまじい。結局益々小さく見えるだけではるかに遅れて遂に決勝進出の夢破れる。

◎男子200m平泳予選 (21時10分)

(4組)

- 1着 増田 勲 (日本) 2:41.2
- 2着 T. Gathercole (オーストラリア) 2:41.7
- 3着 P. Lairola (フィンランド) 2:43.3

漸くにして得意な種目の登場で楽な気持ちで臨む。

5コースの増田は隣コースの Gathercole を押えて1着、余裕のある泳ぎで予選通過、而しこの前の3組とも皆中々好タイムを出しているのももう少し頑張る必要がある。前半の100m1分18秒4は遅過ぎる。

(6組)

- 1着 大崎 剛彦 (日本) 2:39.1
- 2着 G. Desmit (ベルギー) 2:42.4
- 3着 T. Lindstrom (スウェーデン) 2:42.8

全観衆注視の中を見事な泳ぎで軽く40秒を切って予選通過。今日のはじめの出足だけの調子を見る為に飛び出して見る。鋭い泳ぎでピッチもよく上るし、決勝が待遠しい位だ。

併し数日来アキレス筋の痛みを訴えているので、見て

いと足のキックが何となく小さいし、よく利いていない様だ。

これで第一日目が終わったが、昨日の練習迄皆好調でよいタイムで泳いでいたが、大会のフニキに上ってしまったのか、調子が下って来たのかとに角思はざる不成績に終わった。併し第一日目は日本チームとしては不得手な種目が多いのであるから又明日から皆で頑張る事を約して宿舎に帰る。

それにしても、年々諸外国が水泳に熱を入れて、新人の育成に力を入れている事が今日のレースを見て全く脅威に感ぜられた。

8月27日

男子400mメドレー予選 (15時)

(2組)

- | | | | |
|----|------|--------|-----------|
| 1着 | 日本 | 4:16.0 | 渡辺 1:05.5 |
| | | | 大崎 1:11.7 |
| | | | 開田 1:01.9 |
| | | | 石原 56.8 |
| 2着 | イタリー | 4:16.0 | |
| 3着 | ソ連 | 4:16.2 | |

予選の為に皆割合楽々と泳ぎ、相当のタイムで泳ぐ事が出来た。併し3コースイギリス5コースソ連6コースイタリー共思ったより強く結局日本を入れた4チームで大いに競り合うがタッチの差で1着、予選通過。而しこの後のアメリカチームは圧倒的に強く4:08.2で余裕を以って泳ぐので決勝では大記録が出そうだ。

第二日目、この日は日本選手は結局このメドレーだけに出場したのみで終るが各レース共予想外に非常に強くなって居り、余程の奮起をしないと好成績は望めないので、レース中も時間を見ては練習に力を入れる。

8月29日

◎女子100mバタフライ予選 (15時)

(4組)

- 1着 M. Heemskerk (オランダ) 1:11.0
- 2着 B. Fuhrmann (ドイツ) 1:13.2
- 3着 M. Iwasaki (カナダ) 1:14.2
- 4着 宮部シヅエ (日本) 1:15.3

宮部は最初からよく飛ばし力泳するも、次第に抜かれて4位、日本に於ける記録ならば上位進出も出来ると思ったが、力の差は大きく何ともし得ないまま落選。

◎男子200m平泳準決勝 (20時40分)

(1組)

- 1着 W. Mulliken (アメリカ) 2:37.2
- 2着 大崎 剛彦 (日本) 2:38.2
- 3着 E. Henninger (ドイツ) 2:23.5

大崎はこの準決で記録をねらう。最初からピッチを上げて100mラップを1:14.7で折返すが8コース Henninger は更に速い前半1:14.4で入ったので少しあわて気味後半隣4コースの Mulliken シリシリ追いつけラストのスパートすごく遂に大崎を抜いて2:37.2の好記録でゴール、大いに自信をつけた様だ。反面大崎は前半飛ばし過ぎ、ゴール前では完全に浮いて Mulliken のスパートをどうする事も出来ず、2位となる。Mulliken のよいペースメーカーになってしまう。やはり足首の返しがよくない為伸びが少ない事と、オーバーペース気味で得意のラストがなかった。彼にしてはよい経験だったと思う。

(2組)

1着	T. Gathercole	(オーストラリア)	2:39.1
2着	W. Mensonides	(オランダ)	2:39.3
3着	P. Hait	(アメリカ)	2:39.6
4着	A. Klopotoski	(ポーランド)	2:40.8
5着	G. Prokopenko	(ソ連)	2:41.0
6着	G. Desmit	(ベルギー)	2:41.0
7着	増田 勲	(日本)	2:42.3

スタート直後は非常によく水に乗り元気であったが余りピッチも上らず、シリシリと下り1:17.4で折返す。後半の強い増田に期待したが、遂に前え出る事が出来ず、実力以下のレースで7位に終り遂に落選番狂はせとなった。

男子800mリレー予選 (21時30分)

(1組)

1着	日本	(山中 { 58.4 2:01.8 } 福井 { 58.7 2:03.5 } 石井 { 60.7 2:07.2 } 藤本 { 58.9 2:04.6 } 8:17.1 (オリ ック新)
2着	イギリス	8:26.9
3着	ソ連	8:30.6

予想されるベストメンバーでオーダーだけ変えて出場トップを山中にして200の世界新をねらわせる。スタートからよく飛ばし他を大きく引きはなし58.4の好ペースで折返す。この直後少し力を入れて飛ばし過ぎた様でラストスパートに伸びがなく2:01.8で福井に引継ぐ、福井はジックリと落付いた泳ぎで他チーム更を大きく離れたので、もう記録をねらうだけ、これも前半58.7の好ペースで廻りラストもよく出たので2:03.5で3番石井にリレー、福井の堅実味を見せる。石井も大きなリードに気をよくして楽な泳ぎ振りよく飛ばし60.7で前半に入る。後半は少し鋭さが落ちたが、非常によく水に乗っているため好調の様だ。結局は2:07.2で藤本に引継ぐ。藤本は好調、他を15mもはなして2:04.6のタイムで楽に泳ぐ。8:15位のタイムで泳いで見る予定だったが、石井が7秒かかって駄目、併し決勝では大いに期待される。但し、次の組で泳いだアメリカは非常に強力である。

8月30日

◎女子400mメドレー予選 (15時55分)

(2組)

1着	オランダ	4:47.4
2着	ソ連	4:54.4
3着	日本	4:54.4

田中 (1:11.2) 高松 (1:21.9) 宮部 (1:15.7) 佐藤 (1:05.7)

暴発気味のスターターのピストルに驚いた田中でスタートは遅れたが、この為却って浮き出しが早く、以後よく水に乗った泳ぎで絶好調、遂に1:11.2の自己最高タイムで高松に引継ぐ。高松も、200m予選とは見違えるばかりの立派な泳ぎで依然トップを持続して1:21.9の好タイムで3番宮部にリレー、高松の今日の泳ぎなら200も立派にやれたのにと残念がる。宮部は体が立って余り調子はよくなく、グングン落ちて来る。1:15.7で佐藤に引継ぎ、佐藤もよく頑張ったが1:05.7でタッチの差で3位となり、かろうじて予選は通過する。このレースを見て田中の100背泳に大きな望みを抱いた。

◎男子400m自由形予選 (16時30分)

(1組)

1着	山中 毅	(日本)	4:21.0
2着	H. Klein	(ドイツ)	4:31.6
3着	V. Rogusic	(ユーゴスラビア)	4:39.5

山中のラップタイム 1:01.5 2:07.6 3:14.5 4:21.0

待望の山中の登場で吾々も観衆も沸き立つ、予選であるからコンディション調整の意味からも力まなないで軽く泳ぐ事にしてスタート、200m迄は非常にいい調子で泳げたが、結局疲れてラストの200mが少しかかり過ぎて20秒が割れなかった。やはりはじめての出場で相当あがり気味である。気持の固さがはぐれば期待通りやれる筈である。予選通過。

(3組)

1着	I. Black	(イギリス)	4:21.9
2着	福井 誠	(日本)	4:26.7
3着	J. Tracz	(ポーランド)	4:38.6

ダークホースと目される Blackを隣りに置いて、福井はこれを問題としない様に飛び出した。泳ぎも立派であるが遂に200mで追い付かれ、300迄2人の競り合いが続いたが Black のラストは物凄く5m近くの差を付けられて2位となる。併し泳ぎは中々の好調さである。決勝では山中と2人で頑張るだろう。

◎男子100m背泳予選 (20時40分)

(1組)

1着	J. Monckton	(オーストラリア)	1:04.4
----	-------------	-----------	--------

- 2着 J. Csikany (ハンガリー) 1:04.5
 3着 W. Wagner (ドイツ) 1:04.7
 4着 富田 一雄 (日本) 1:04.7

特に背の高い選手の多い背泳ぎにあって富田はいかにも小さく気の毒な位であるが、泳いで見るとどうして堂々たる大きな泳ぎで力泳し、予選乍ら自己最高タイムで予選を通過する。もっと体が欲しい。

(4組)

- 1着 D. Theile (オーストラリア) 1:03.1
 2着 V. Siymar (ソ連) 1:04.6
 3着 G. Avellone (イタリア) 1:05.4
 4着 H. Rigby (イギリス) 1:06.2
 5着 渡辺 和夫 (日本) 1:08.4

どうした事か渡辺は足を全然使はない。レグレスの練習をしている様だ。やはり上ってしまったのか。只腕だけで泳ぎ、体が立ってしまって全く別人の様な泳ぎである。遂にバランスも全然崩して立なおる機会を失って5位で落選。

男子200m平泳決勝 (22時)

- 1着 W. Mulliken (アメリカ) 2:37.4
 2着 大崎 剛彦 (日本) 2:38.0
 3着 W. Mensonides (オランダ) 2:39.7

準決ですっかり自信を付けた Mulliken を中央にして大崎 Henninger, Gathercole 等古豪が一発をねらってスタート。先づ Henninger, Gathercole とが猛烈なピッチで飛び出す。Mulliken 大崎は満を持して大分遅れている。100は Henninger 1:14.6 早いペースだ。続いて Gath. 1:15.8 大崎はスローペースで1:17.7. Mullikenは 1:17.1. 100ターン後先行する二者を追って Mulliken がスパート 150で追い付くが大崎はまだ大分差がある。トップに出た Mulliken をラスト10m で追い付いた大崎は猛烈に追い時頭を並べる処まで来たが遂に力つきて2ストロークの差で2着、涙をのむ。結果論ではあるが、準決の失敗にこりて前半余りにもセーブし過ぎた感がある。併しこれだけの大きな前半の差を後半の而も50で縮めた実力は大変なもので、ペースの配分をあやまったレースと云えよう。

8月31日

男子100m背泳準決勝 (8時30分)

(1組)

- 1着 D. Theile (オーストラリア) 1:03.1
 2着 R. Christophe (フランス) 1:03.7
 3着 R. Bennett (アメリカ) 1:03.8
 4着 J. Monckton (オーストラリア) 1:03.8
 5着 V. Siymar (ソ連) 1:04.6

- 6着 富田 一雄 (日本) 1:05.2

1コースで出場の富田は積極的なレース振りではじめから飛び出し50mは29.9と云う速いペースでトップで折返す。75mまでよくトップをうばって泳いだが、以後完全に浮き遂に6位で落選。全くすばらしいレース振りであった。実力足らずで残念であったが、大いに賞されていい。

男子200mバタフライ予選 (20時30分)

(1組)

- 1着 M. Troy (アメリカ) 2:15.5
 2着 井筒 賢造 (日本) 2:20.3
 3着 G. Kiselev (ソ連) 2:24.6

練習中不調だった井筒がレースになると見違える程立派な泳ぎで、隣りコースの Troy を追う様にして力泳2着で予選を通過。

(5組)

- 1着 K. Berry (オーストラリア) 2:18.9
 2着 吉無田 春男 (日本) 2:19.4
 3着 F. Fanjul (アルゼンチン) 2:25.2

隣りコースの Berry とスタートから最後迄競り合い100mは Berry 1:05.7 吉無田 1:05.5 でトップ。ラストの5mで抜かれる。後半競り合いに心を奪はれてキックが弱くなったので泳ぎに伸びがなかった。

女子400m自由形予選 (21時30分)

(1組)

- 1着 S. Von Saltza (アメリカ) 4:53.6
 2着 C. Lagerberg (オランダ) 4:57.0
 3着 B. Segerstrom (スエーデン) 4:57.6
 4着 G. Weiss (ドイツ) 5:08.6
 5着 J. Samuel (イギリス) 5:12.9
 6着 P. Saini (イタリア) 5:13.1
 7着 江坂 君子 (日本) 5:26.8
 8着 和田 映子 (日本) 5:26.8

和田、江坂共に自分の得意種目ではないので当然の結果であるが、日本の女子も早く5分を切る様にならないと次第に差が大きくなるばかりである。女子の泳ぎと云う観念を早く捨て、泳ぎは男女変りない様になる必要を痛感した。

男子400m自由形決勝 (22時20分)

- 1着 M. Rose (オーストラリア) 4:18.3
 2着 山中 毅 (日本) 4:21.4
 3着 J. Konrads (オーストラリア) 4:21.8

Rose 1:01.3 2:07.2 3:12.2 4:18.3
 山中 1:00.3 2:07.1 3:14.3 2:21.4 } ラップ
 Konrads 1:00.6 2:06.8 3:14.1 4:21.8 } タイム

重苦しい中で、世紀の決戦と云はれるスタートをした

4コースの Somers と共に山中が先づ飛び出す。100 60.3はいいが固くなっている故か泳ぎに鋭さのない感じがする。200mは Konrads がよく出てトップをうばうも山中もこれにピッタリ付いている。この頃から例に依って Rose がピッチを上げスルスルと追いついて前者と肩を並べて来た。200から300の間は全く Rose の試合のうまさ、ここで一気に二人を2身長も離してしまった。続いて Konrads と山中が 300m 折返し、この時は勝負は明かの様になった。併し山中も最後の力を振りしぼって力泳しよく Konrads を押えて2位に入った。300 からの山中は平常のラストもきかず疲労コンパイ乍らよく2位になれたと思う。周囲の重圧から彼の実力を見せずに再び Rose に敗れた事は、オリンピックに優勝すると云う事の困難さをつくづく感じた。福井も前半からよく飛ばして一発をねらったが後半力尽きて遂に8位に終る。

9 月 1 日

◎男子200mバタフライ準決勝(9時45分)

(1組)

- 1着 M. Troy (アメリカ) 2:18.0
- 2着 N. Hayes (オーストラリア) 2:21.6
- 3着 吉無田春男 (日本) 2:21.7

午前中のはやいレースは皆調子が出ずタイムば皆悪い1組の吉無田は隣りコースの Hayes をマークしてよく頑張る前半からよく飛び出し、ラストで Hayes に抜かれたが最後迄頑張る通して堂々3位で準決を通過する。

(2組)

- 1着 D. Gillanders (アメリカ) 2:18.7
- 2着 V. Kuzmin (ソ連) 2:19.1
- 3着 F. Dennerlein (イタリー) 2:20.5
- 4着 井筒賢造 (日本) 2:21.5

井筒もよく飛び出し1:07.1ながら100mトップを奪い奮闘、よく最後まで浮き乍ら頑張るって4位に入り準決を通過、決勝に2名で出場する事になった。

◎男子400mメドレー決勝(20時30分)

- 1着 アメリカ(マッキニー, ヘイト, ハリスン,
1:02.0 1:10.5 58.0
ファーレル) 4:05.4
54.9
- 2着 オーストラリア(タイラ, ギャザコール,
1:02.4 1:10.9
ヘイズ, シプトン) 4:12.0
1:03.3 55.4
- 4着 日本(富田, 大崎, 開田, 清水) 4:12.2
1:04.1 1:11.5 60.4 56.2

背泳と自由形の劣勢を予想された日本チームが全員よく頑張る、オーストラリアとタッチの差を争い3位になった事は大いに賞されよう。富田がよく頑張る自己最高

で入り差が大して開かなかつた為以後も順調に戦い、アメリカとは大きく開いたがオーストラリアと最後迄争い得た原因と云えよう。

◎女子100m背泳予選(20時50分)

(3組)

- 1着 M. Van Velsen (オランダ) 1:11.1
- 2着 田中 聡子 (日本) 1:11.5
- 3着 N. Steward (イギリス) 1:12.0

メドレーですでに11秒台を出して自信を付けている田中はまわりの大きな相手を物ともせず、立派な泳ぎ振りで2位で軽く予選を通過する。予選4組で3位の記録であり決勝が楽しみになった。

◎男子800mリレー決勝(21時50分)

- 1着 アメリカ(ハリスン, ブリック, トロイ,
2:03.4 2:01.9 2:02.9
ファーレル)
2:02.0) 8:10.2
- 2着 日本(福井, 石井, 山中, 藤本)
2:04.8 2:04.8 2:00.6 2:03.0 8:13.2
- 3着 オーストラリア

(ディクソン, デビット, ローズ, コンラッツ) 8:13.8
2:06.6 2:03.2 2:02.7 2:01.3

予想以上に強力なアメリカチームの完勝で日、濠とも影が薄くなった形だが、全力の出し切ったいいレースであった。

トップ福井は果敢に飛び出し100はトップ(59:4)のアメリカのハリスンにわずかに遅れたもののよく頑張る半身長遅れて2番石井に引継ぎ、濠は1身長半遅れる。石井も波の多い中を最後迄泳ぎを崩さず2分04秒8の自己最高で濠をタッチの差だけ押えて山中にリレー、この間アメリカは益々快調で、日本との差4mとなる。山中は全く凄まじいピッチでアメリカを引抜かんとグイグイアメリカを追うがトロイもよく頑張る2mの差を保つ。濠はこれ亦ローズで山中を追うが差は3mと開きアンカーに引継ぐ。愈々最後の決戦、日本は藤本、米ファーレル、濠はコンラッツ、ファーレルはさすがに強く追いつがる藤本を更に離す。コンラッツも100ラップを56.5で入る力泳で藤本を追い一時は肩を並べたが藤本よく頑張るこれを振切って米に続いて2位に入り、濠を0.6秒の差で押える。

むらのない米チームが驚異的な世界新で完勝、強力な底力をまざまざと見せ付けた。

9 月 2 日

◎女子400mリレー予選(8時30分)

(1組)

- 1着 アメリカ 4:18.9
- 2着 イギリス 4:24.4

3着 スエーデン 4:27.3
 4着 イタリア 4:31.8
 5着 日本 4:35.9

(佐藤 和田 江坂 神野)
 (1:05.9 1:09.4 1:09.1 1:11.5)

佐藤が漸く対等に泳いだだけで2番からは10秒近くかかる不調さで問題なく落選、4:25.6秒で決勝まで残り得る実力があっただけに斗志が足りない感じである。

男子1500m自由形予選 (9時5分)

(1組)

1着 山中 毅 (日本) 17:46.5(オリンピック新)
 2着 A. Burer (南アフリカ) 18:17.8
 3着 G. Hetz (ドイツ) 18:32.2
 (1:01.7 2:10.4 3:19.9 4:30.7 5:41.4 6:53.1
 (8:05.0 9:17.9 10:30.4 11:42.7 12:55.5 14:08.4)
 15:21.9 16:35.7 17:46.5)

1500の予選を(タイムレース)組によっては午前の早い時間にやる組と夜やる組があると云う。競技に対する無神経さはあきれるばかり。而も山中、中坊とも午前の組になり非常に不利であるが仕方がない。第1組に出場の山中は相手もいないので自分のペースを作るつもりで、軽い気持ちで泳ぐ。前半は比軽的よく泳げたが、大会がはじまると共に毎日の様に出場している山中は泳ぎにやはり鋭さがなく非常に疲れている様子、併し午前中にしては中々好タイムで軽くオリンピック新で1位となる。

(2組)

1着 A. Somers (アメリカ) 17:54.1
 2着 M. Mclachan (南アフリカ) 18:09.9
 3着 中坊 (日本) 18:30.4
 (1:07.4 2:20.2 3:33.2 4:47.4 6:02.7
 (7:17.3 8:32.0 9:46.7 11:00.7 12:15.2)
 13:30.2 14:45.7 16:01.3 17:16.6 18:30.4)

中坊も2組で早朝の組、18分を切れれば決勝に残れる予定なので一発をねらって飛び出す。300位迄は元気よく泳ぐも400あたりから急に泳ぎも乱れ、ラップも急に落ちて先行する Somers に大きく離なれてしまい18分切る望みは絶える。500あたりからは1分15.6秒のラップで遂に18:30で夜のあとの組の結果が出てから落選が決定する。

男子200mバタフライ決勝 (20時40分)

1着 M. Troy (アメリカ) 2:12.8
 2着 N. Hayes (オーストラリア) 2:14.6
 3着 D. Gillanders (アメリカ) 2:15.3
 4着 F. Dennerlein (イタリア) 2:16.0
 5着 吉無田 春男 (日本) 2:18.3
 6着 K. Berry (オーストラリア) 2:18.5

7着 V. Kuzmin (ソ連) 2:18.9
 8着 井筒賢造 (日本) 2:19.4

Troy が圧倒的な強さを示し、2位以下をはじめから大きく離し、100mラップ1:02.5と云う、驚異的なペースで入る。吉無田もはじめからよく頑張りが3位で1:04.7で廻る。井筒はラストで1:06.3やや遅れる。後半もTroyの独り舞台、興味は2位以下の争いとなる。150あたりから Gillanders が出て Heyes 吉無田が遅れる。Troyが大差で1着、ラスト Hayes がよく出て Gillanders を押えて2着、吉無田力尽きて Dennerlein にも抜かれて惜しくも5位で終るが大いに健闘、積極的なレース振りはよかった。井筒もよく頑張ったが、荒波にもまれた感じで8位に終わったが、よく決勝に進出して吉無田の心の支えとなった事は見のがせない。

女子400mメドレーリレー決勝 (21時)

1着 アメリカ 4:41.1
 2着 オーストラリア 4:45.9
 3着 ドイツ 4:47.6
 4着 オランダ 4:47.6
 5着 イギリス 4:47.6
 6着 ハンガリー 4:53.7
 7着 日本 4:56.4
 8着 ソ連 4:58.4

田中(1:11.2)高松(1:22.5)宮部(1:17.1)佐藤(1:05.6)スタートの田中は他の強豪と互格のレース振りで3位で引継ぎ6位以内を充分目指せるので希望が出る。2番高松もよく頑張りが依然として6位以内を保ち4位ぐらいで宮部へと引継ぐ。宮部はよく頑張るが体が立ってしまい、全然駄目。ここで急に落ちて遂に6位以下となり1:17.1もかかる。佐藤は懸命に先行するハンガリーを追うが遂に及ばず7位となり入賞を逃す。

9月3日

女子100m背泳決勝 (20時30分)

1着 L. Burke (アメリカ) 1:09.3
 2着 N. Steward (イギリス) 1:10.8
 3着 田中 聡子 (日本) 1:11.4

予選記録3位で3コースに居る田中は子供の様に小さいが、あがった様子もない。女子種目唯一の快勝進出で何とか3位以内をと期待する中をスタート、非常にうまく飛び出した。50mでは Burke に半身長の差の田中には非常に速い33秒8のラップで折返す。折返し後は前半の頑張りで疲れたのか、いつもの鋭さはなかったがゴール前10mよく頑張って必死に泳ぎ、3,4,5位と同タイム乍らうまいタッチで期待通り3位に入り初の日章旗をあげた。

◎男子1500m 自由形決勝 (20時50分)

1 着	J. Konrads	(オーストラリヤ)	17:19.6
2 "	M. Rose	(")	17:21.7
3 "	G. Breen	(アメリカ)	17:30.6
4 "	山中 毅	(日 本)	17:34.7
5 "	J. Katona	(ハンガリー)	17:43.7

Konrads	Rose	Brren	山 中
1:04.8	1:05.2	1:03.6	1:03.6
2:14.0	2:14.9	2:12.0	2:13.0
3:24.2	3:24.9	3:21.2	3:22.8
4:34.6	4:35.1	4:31.6	4:33.0
5:45.3	5:45.7	5:42.2	5:43.1
6:56.1	6:56.5	6:52.9	6:53.4
8:6.5	8:07.1	8:03.4	8:04.2
9:16.8	9:17.4	9:13.7	6:15.4
10:26.6	10:27.4	10:24.4	1:26.6
11:36.0	11:37.5	11:35.3	11:37.8
12:44.9	12:47.5	12:47.0	12:48.1
13:53.8	13:57.3	13:58.6	13:59.0
15:03.0	15:06.3	15:11.0	15:11.6
16:12.4	16:14.3	16:23.3	16:23.4
17:19.6	17:21.7	17:30.6	17:34.7

日本チーム最後の種目、而も山中独りの出場で望みをかけて送り出す。レースの前非常に疲れている様子だが元気を付ける。

大カン声の中をスタート山中、Brren 共に元気で飛び出す、メルボルンと同様 Brren は1000m 迄常にラップを取り大奮闘、山中はこれにピッタリ付いて2番手で

進む。併し自信あり気な Konrads, Roseは余り離れない様に付いて泳ぎ前2人の疲れるのを待機している様に余裕を持って泳いでいる。山中も800迄位は軽快に見えた泳ぎも1000mから急に足が利かなくなり体が沈んで苦しうになる。

反対に1000mからの Konrads は力強いストロークでグイグイ泳ぎ遂に Breen を押えてトップに立ちその儘Roeeの追泳を振切ってゴール、2位Rose, ラスト100は山中のいつものスパートも全く見られず別人の様な苦しい泳ぎで、遂に Breenをも抜けず4位に終わってしまった。

山中の実力からして大敗の様には思はれるが、腰を打って以来、太腿部のすじのつり気味なのをかくして連日頑張っていたので1500の時は全く疲労していたのを考えれば全力を振りしぼって頑張った結果だから悔いしないだろう。

1500mを最後に日本チームのレースは全部終わった。選手達は皆色々と云うに云はれぬ不利な条件の中で最後まで全力を尽してよく泳いだ。期待された金メダルを遂に一つも取る事が出来ず、水泳日本のカムバックをこのローマで果す事が出来なかった。これは調子の波をうまく試合に合せる事の出来なかった吾々コーチ陣の失敗に全ての責任があると思う。

併しアメリカの台頭は、それ以前にもっとなすべき多くの選手強化対策の急務を感じさせられた。今日の世界の国々の水泳に対する情熱と、水準の急激なる向上をよく見究めて層の厚い強化策を樹立しなくてはならないと思う。

飛 込 競 技

飛込コーチ 柴 原 恒 雄

今回のローマ大会の飛込チームの結果につきましては別記の通りであります、実は私自身今回精神的に気強く試合に出掛けて行った事は始めてである。それはベルリン大会の時は現役選手であって今回のローマはコーチとして出掛けたと言う相違はあるにしても、ローマに着いて各国の選手の練習を見ていると従来の如く全然練習場における練習の気分と言うか技術面にと云うか、選手が飛んでいて全然気遅れとか、引け目とか云うものを感じないで、この尽で飛んで行けば自分の考え通りに一応進めると云う自信が充分にあった。

結果の数字から見て、あの飛込をこう云う風に飛んでいたら何位になっていたとか、この飛込を失敗せずに練習通りに飛んでおれたならば何位になれたとか云う事は結果から見た成績から言えるだけの事であって、ローマ大会に関する限りあの成績が日本の実力であった事には間違いはない。

然らば日本選手のローマにおける調子はどうかであったかと云うと各々決して悪い調子ではなかった。

只全般的に見て各国の選手共選手のレベルと云うものが、上位の三位程度を除けば何れも十二、三位迄は甲乙

が付け難い程度幅の広いものになっていて、特に目星しい選手と言えば、男子においては飛板のサム・ホール（米）トビアン（米）にメキシコのボテラー選手、高飛込においてはウェブスター（米）トビアン（米）フィリップス（英）と云ったところで、その他は日本選手の好敵手であって決して争へない相手ではない。

女子においては一段とこの型が強く、飛板では一位のクラメル（独）以下ペープ（米）フェリス（英）ウィラード（米）の外は、ソ連のクルトバ、英のロング等は何れも津谷、渡辺両選手の好敵手であったと思う。

特に予選における津谷選手は順調に得点を重ね、第五位の地位にあっただけに準決勝における後宙返り一回半（伸型）の大きな失敗は、練習中が比較的によく調であった事と他の選手が伸型を飛んでいなかった種目だけに魔の一発になってしまったのは何んとしても惜しい事であった。

之と同じに男子高飛込における金戸選手の後飛蝦型と逆立宙返りにおける逆立の流れがわざわざ決勝における上位選手と互角に戦える高難易率の種目を決勝に控えていただけに完全に実力を発揮するチャンスを失った事は重ねて残念な事であった。

之に対し飛板に於ける山野選手は精神的に非常に気軽に飛び続け、予選で第12位から準決勝では逆宙返り一回半で快的な高得点を出して、四位追越して八位で通過し決勝では更に準決勝第五位のホップホール（独）をおさえて第七位を獲得した事は、余り期待出来なかった飛板だけに充分賞讃に値する成果であって御同慶にたえない次第です。

茲で各国選手の特に目についた事を挙げて見ますと、先づ男子飛板でのサム・ホール選手（米）は踏切り、掛り、入水共に非常に飛込の線に乗った申分のない飛込であって、優勝をトビアンに譲ったもの、味のある点では最高の選手であろう。

優勝のトビアン（米）はホールと共に飛び方も大きく

後宙返り二回半、逆宙返り二回半の高率の飛込をこなしホールの後宙返り一回半の僅少なミスに依り幸運の優勝を獲得した。しかしよく練習をやり、人間的にも成長した選手で努力の結果が伺われる選手である。

三位のメキシコのボテラー選手は米国留学中の選手で従って飛び方もトビアンによく似ていて後宙返り二回半、逆宙返り二回半、後前宙返り二回半と最高率の飛込をこなし、160点台を出した選手であるが難種目は比較的の不確実な所が有るが将来性の有る選手と云える。

男子高飛込では何んと言っても優勝のウェブスター（米）で踏切の確実性と強引きは他に類がない最高のものと言える。米女子コーチで来ていた日本でも有名なサミーリーコーチの三年掛りでの仕上げた選手だけあって踏切の強引きが特に目立った。

三位のフィリップス（英）は年少の頃から飛込を始めた選手でよく練習もするし、その練習の一発一発が実に無駄のない飛び方で、トビアンと同じく努力型である。四位のマグリガル（メキシコ）は同様に年少であるが線が強く難種目の三回半が得意で特に入水が鋭く、大いに東京大会に期待される選手として注目される。

女子では、飛板高飛込を通じてクラメル（独）が挙げられるが両種目の優勝をさらっただけであって、入水迄のタイミングをよく自分のものにしていて、入水を確実不変なものにしているのが特長である。

飛板第三位のフェリス（英）の飛込は身体の線が非常に美しくアメリカ式の飛び方で英国女子選手の進歩が目立って来た。

最後に今後日本の飛込がどう云う風な練習に集中して行くべきかと云う事だが、一言にして表現は甚だ困難であるが、先づ第一に精神的な面を含めた体力の養成が第一で、練習が練習の為の練習に終らない様に、如何様な練習にもたえ得る体力を平素から養はねばならないと云う点にしばられると思う。

水 球 競 技

水球コーチ 鷗 田 武

8月12日羽田出発以来36時間の飛行を終えて8月13日午後4時5分ローマのチャンピノ飛行場へ到着しました。長い飛行機の旅で大分疲れが見えて居た様ですが、それでも事故者もなく、全員無事オリンピック村に入り

早速部屋割をすませた後、午後6時30分より夕食前に軽く泳ぐ為、オリンピック・プールへ行きましたが、この時間が丁度イタリーの水球チームの練習時間であったのですが、好意により15分間という短い時間ではあるが練習

試合をしようではないかと云う事になり、少々無理ではあると思いましたが、チームの中で国際試合の未経験者も半数近く居りますので、相手を一日も早く知る為に練習試合をやりましたが、心配した通り、両足のつる者又片足のつる者等で相手チームに思う存分荒されました。此の時のスコアは6-1で文句ない結果でした。而しこの僅か15分間の練習試合ではありましたが、イタリー・チームの示したファイトには驚かさされました。翌14日になってオリンピック村のすぐ近くに（日本村からは徒歩5、6分の所）アニエネ・クラブのプールがありこれが練習場の一つである事が解り30分位の軽い泳を主体とした練習を行い、出発以来の疲れを取る事にしました。吾々は出発以前からオリンピック村に入ってから本大会迄に少くとも10試合位の練習試合をやる様心掛けて居りましたので8月15日から相手チームを求めて、成るべく広い範囲のチームと練習試合をする様スケジュールをたてました。

この理由として

第一に本大会で対戦する相手チームは全て初顔合せであるので相手の力が良く解らない事（特に下位のチームに於ては全く解らない。）其の為に現地で練習試合をして相手チームの特徴を早くつかむ事。又相手チームのフォーメーションを早く知って、それに対する策をたてねばならない必要がある事と、

第二に練習試合を通して、オリンピック大会に於ける笛の方向に早く馴れる事

以上の二つの理由から、オリンピック村に着いてからの練習方針は練習試合を主体として1日2回各1時間宛の練習時間を確保して、練習試合をやる外はシュート練習をして、ゴール・キーパーのコンディションを調整して行くのと共に、シュートの練習をして行く様にスケジュールを組んで行きました。

8月15日

9.00~10.30 アニエネ・プール

日本 0 $\left\{ \begin{array}{l} 0 \text{ --- } 4 \\ 0 \text{ --- } 6 \end{array} \right\}$ 10 アメリカ

この試合ではアメリカチームに逆チャンスの時のマーク・チェンヂが悪くノーマークを多く作られて一方的に攻撃された。

16.00~18.00 アニエネ・プール

日本 7 $\left\{ \begin{array}{l} 3 \text{ --- } 2 \\ 4 \text{ --- } 3 \end{array} \right\}$ 5 南アフリカ

このチームは巨人が多い割に泳ぎは左程強くない、そこでゴール前のフォワードをピストン式に動かしてドリブル・シュート、及び逆チャンスからの速攻でリードを取る事が出来た。

8月16日

17.00~18.00 アニエネ・プール

日本 1 $\left\{ \begin{array}{l} 0 \text{ --- } 3 \\ 1 \text{ --- } 3 \end{array} \right\}$ 6 アラブ連合

この試合ではパスが非常に悪く相手にカットされたり又ハンド・オフ、フット・オフを非常に笛を吹かれて苦戦した。

今日17日からの練習時間の割当てが定まり、オリンピック・プール、ローズ・プール、アニエネ・プールの三箇所が練習場として指定された。この内ローズ・プールとオリンピック・プールが本大会の試合場として使用されるプールである。時間割は一日各チームが1時間の練習時間を割当られた。日本チームの練習時間は、オリンピックプールが1回、ローズプールが1回、アニエネプールが6回という割当てであり、時間的には午前中2回、午後2回、夜間4回という具合に定められました。而し吾々としては1日1時間の練習時間では時間的に不足して居る為に、この打解策として日本チームの練習時間の前後のチームに話をつけて、1日少くとも2時間は練習出来る様にする。

8月17日 アニエネ・プール

10.00~11.00

日本 2 $\left\{ \begin{array}{l} 0 \text{ --- } 6 \\ 2 \text{ --- } 4 \end{array} \right\}$ 10 ソ連

この試合は前半攻防転換のチャンスをつかれて、ノーマークが出来、一方的に攻撃されたが、後半はマーク・チェンヂを素早くやった為に前半程のノーマークが出来ず4-2のスコアにする事が出来た。ソ連チームは非常に泳ぎが強く、強烈なシュート力を持って居る。

8月18日 アニエネ・プール

9.15~10.00

日本 3 $\left\{ \begin{array}{l} 0 \text{ --- } 4 \\ 3 \text{ --- } 3 \end{array} \right\}$ 7 アメリカ

アメリカとは二度目の試合であったが、前半サイドのマークが少々甘かった所をつかれて得点され、又相手チームの当りが非常に早い為にパスがおくれ勝ちとなつて、タイムリーなパスが出来ず相手にカットされる事がしばしばあった。

21.00~22.00 ローズ・プール

日本 3 $\left\{ \begin{array}{l} 2 \text{ --- } 7 \\ 1 \text{ --- } 4 \end{array} \right\}$ 11 ルーマニヤ

今夜はローマ到着以来初めての夜の試合であった。ルーマニヤチームは非常にすぐれたシュート力をもって居り、両サイドからのシュートもたくみにゴール・キーパーの弱点についてシュートして来る為、シュート圏外とは云え決してマークを外す事は出来ない。又逆チャンスの飛出しが早く、ノーマークを作られて防禦陣をかくらんされた。又ローズ・プールの照明は少々暗い様に感じられるので今後このプールに馴れる必要がある。

8月20日

17.00~18.00 アニエネ・プール

日本 4 $\left\{ \begin{array}{l} 1 \text{ --- } 4 \\ 3 \text{ --- } 2 \end{array} \right\}$ 6 南アフリカ

南アフリカとは二度目の練習試合であったが、前半無理なシュートが相当あって逆チャンスをつかれてリードされたが、後半日本チームのペースに乗せる事が出来3-2とリードする事が出来た。日本チームにメチャクチャファウルが多くゾーン・デフェンスをひいて相当反撃する事が出来たが、未だパスが所々でカットされて居る。

8月21日 オリンピック・プール

19.00~20.00

日本 3 $\left\{ \begin{array}{l} 2 \text{ --- } 4 \\ 1 \text{ --- } 2 \end{array} \right\}$ 6 アラブ連合

アラブ連合チームとも二度目の試合であり、今夜は是非勝ちたいと全員ファイトを出して戦ったが、ゴール前の動きに対して、パスのタイミングが合はず思ふ様なシュートが出来なかった。又無駄な反則が多く、ことに6点得点された内3点迄はペナルティー・シュートで得点されて居り、これは今後の本大会に於ては厳につつまなくてはならない事である。

而し今日あたりから試合はこびに余裕が出て来た様で、笛にも又相手方のフォーメーションにも馴れて来た様である。明日は試合の組合せが決定する予定である。

8月22日

15.00~16.00 アニエネ・プール

日本 2 $\left\{ \begin{array}{l} 1 \text{ --- } 6 \\ 1 \text{ --- } 7 \end{array} \right\}$ 13 ハンガリー

この試合は全くのワンサイド・ゲームに終わった。ハンガリー・チームは完全なるオールランダー・システムで、チーム中の誰れでもがチャンスとなれば確実に得点出来るシュート力を持ち、攻防転換を充分活用して思切って飛び出し水あきのある相手に的確なるパスをして速攻をして居る為、ほんの少しの出足の差が大きく得点にひびいている。出足の差が非常に目立った試合であった

20.00~21.00 ローズ・プール

日本 8 $\left\{ \begin{array}{l} 4 \text{ --- } 3 \\ 4 \text{ --- } 2 \end{array} \right\}$ 5 ブラジル

今夜の試合は本大会も後3日後に控えて居るので、日本チームとしてはレギュラー・メンバーを組んで試合をする。

- 1 G・K 加藤
- 2 L・B 浅沼
- 3 R・B 佐藤
- 4 H・B 清水
- 5 L・F 宮村
- 6 C・F 藤本
- 7 R・F 高木

以上のメンバーで試合を行う。

前後半共良く泳ぎ後からのノーマークを生かして得点チャンスをつかみ、ゴール前で左右にゴール・キーパーを振り切つてのリレー・シュート。又中距離シュート等常にリードを奪つての試合であった。特にブラジル・チームの泳力の弱い所を日本チームが良く泳ぎぬいてチャンスを作って居た。特に若手の清水、藤本あたりが大分試合なれして来たのが目立って居た。今日の試合は久々の勝試合であり、日本チーム本来の試合運で終始する事が出来たので選手一同この試合で相当の自信を持ったのは大きな収穫であったと思う。又今日発表された本大会の組合せでは相当強敵揃いのグループに入つてはいるが幸にも全チーム共、一度或いは二度練習試合を行ったチームばかりであるので、本大会に備えて作戦がたて易く、又相手のフォーメーションも多少は解つて居るので力一杯戦う事が出来ると思う。

8月23日

8.00~9.00 アニエネ・プール

泳ぎ 600m

シュート練習 2ヤード, 4ヤード, 6ヤード

ダッシュ 6回

ペナルティー・シュート

以上単独の練習を行い、休養をする為、一日中部屋にて休む。

8月24日

19.00~20.00 アニエネ・プール

泳ぎ 600m

ドリブル・シュート (2,4 6ヤードシュート)

ダッシュ 5本

ペナルティー・シュート

昨日の練習と同様軽く練習を切り上げて一日休養する本日迄本大会を目標に11回に及ぶ練習試合を行つて来たが、其の間僅かに南アフリカ、及びブラジルの二チームに勝つ事が出来た程度ではあるが、外国チームとの試合に対する心構えと、本大会を前にしての試合馴れ及び笛に対する練習は充分出来た事と思う。

選手も一試合、一試合する度に次第に自分のくせを出す事が出来る様になり、プレイにも大分ゆとりが出来て来て居り、又攻防転換等の場合のマーク・チェンジもスムーズに出来て来た。日本チームの欠点としては第一にパスを的確にもって行く事、第二にボールを大切にキープして得点チャンスが出来る迄無駄なシュートをしない事。第三に攻防転換の逆チャンス完全に押える事等を特に注意して行く事で、これが完全に試合で行なはれば明日対戦相手であるアラブ連合には勝つ事も決して不可能ではないと思う。今夜は選手全員を集めて明日よりの本大会に対する作戦会議を行う。

本大会の経過

ローマ・オリンピック大会は、地元イタリーを始め、ハンガリー、ユーゴスラヴィヤ、ソビエト、ルーマニヤ、フランス、オランダ、ドイツ、アラブ連合、ブラジル、アルゼンチン、オーストラリア、南アフリカ、アメリカ、ベルギー、日本の以上16チームが参加いたしました。

試合の方法はこの16チームを、前回メルボルン大会の上位8チームをそれぞれシードして、他の8チームはちゅうせんでそれぞれのグループに組入れられました。各グループは次の通りです。

グループA

イタリー
ルーマニヤ
アラブ連合
日本

グループB

ソビエト
ドイツ
アルゼンチン
ブラジル

グループC

ユーゴスラヴィヤ
オランダ
南アフリカ
オーストラリア

グループD

ハンガリー
アメリカ
フランス
ベルギー

以上の4グループに於て予選リーグ戦が行なわれました。そして、

1. 準決勝に進出する事の出来るのは各グループの予選リーグ戦に於ける上位1, 2位のチームであり、勝残りの8チームによって準決勝が行なわれる事
2. 準決勝に於けるグループは最初の予選リーグ戦のグループに於ける、AとBとをワングループとし、CとDを他のグループとして構成される事。
3. 各準決勝の上2位チームで1位から4位決定の決勝戦が行なわれ、下位2チームに依って5位～8位決定戦が行われる。
3. 同点の場合はゴール・アベレージに依って順位が決定される。これはゴールの得点に100を乗じ、そして失点によって割る事に依って求められる。

5. もし平均得点が同点であるならば、特別な試合として二つのチームによって新しい試合が行なわれ勝敗の決する迄これを行う。

6. 予選リーグ戦で試合をしたチーム間にあつては再試合を行わず、その結果が全トーナメントに対する得点として計算される。

尚勝点は、勝が2点、引分けはそれぞれ1点づつ負は0点とする。

この様な方法によって本大会は行われました。又メンバー提出は試合開始時間より5時間前に F. I. N. A. オフィスに提出する事になって居ります。

8月25日

10.00～11.00 アニエネ・プール

泳ぎ 600m

ドリブル・シュート

ペナルティー・シュート

ダッシュ 5回

今日はオリンピック大会の開会式が行われるが、水球チームは今夜から試合が始まるので休養を取る為全員出席せず、テレビにて入場式を見る。

水球の試合はオリンピック大会の最初の試合であり、又日本選手団としては先陣をうけたまわる事になるので、何んとかして白星を挙げたい。そして日本選手団のすべり出しに勢を得たいと思い、全員に気合をかける。午後5時30分軽い夜食をとった後試合に対する注意を与える。

第一にボールを大切に取扱う事、そしてパスを早く廻す、つまり持過ぎてタイミングを外し、又的確なパスが出来なくなる恐れがある為、そして動いて水あきのある所えパスを廻して行く事。

第二にシュートをした後の逆チャンスを充分注意する事。つまり一人がシュートをしたら全員がインサイド・マークに出て相手をマークする。相手方に絶対にノーマークをつくらせない事。

第三に防禦はゾーン・デフェンスを用いゴール前での反則を少くし、そして相手方のポイント・ゲッターを押える事。

第四ゴール前を思い切って開いて後からの突込を生かしてそこえパスをして攻撃をして行く事。

第五にボールを持った相手には早目にタックルして相手のパスをくるはず事等を注意する。

20.30～21.30 ローズ・プール

日本 3 { 2 — 1 } 3 アラブ連合

加藤 1 フィナゼル

浅沼 2 アズミ

佐藤 3 ガワル
 清水 4 エル・レヤフェイ
 宮村 5 エル・サエド
 藤本 6 ブケリー
 高木 7 ラーマン

レフリー：ハレボフ（ソ連）

前半日本チームはパスをゆっくり回し、チャンスがあればゴール前にパスをし、シュートが無理と思えば横に切れて縦の突込にパスをすると云った具合に非常にスロー・テンポで試合が行なわれたが、ゴール前でのマークチェンジがうまく行かず右サイドからシュートをされ、エル・サエドに得点された。而し日本チームはアラブのガワルが退水を命じられたチャンスに相手方のゾーン・デフェンスをゆきぶりでくずし清水よりのパスを高木がリレー・シュートをして同点とする。尚続いて清水、高木のコンビで7分20秒に1点を追加し2-1とリードしたが8分近くに浅沼が退水させられたので3-2のゾーンデフェンスをし、思ったよりゾーンが効果的であれば相手方のシュートを止めて速攻にうつるも得点する事が出来ず前半を終了する。後半1分に日本のシュートのミスから逆チャンスを作られ、ガワルがノーマーク・シュートを強行得点となり同点とされる。又3分20秒ふたたびガワルがゴール前でのフリップシュートがきまり3-2と逆転された。ここでアラブはスロー・テンポにペースをかせ無理をせずチャンスをうかがって居たが8分ガワルが退水となり、そのチャンスを藤本から佐藤へのリレー・シュートで同点と追込んだが残り時間が1分少々で得点する事が出来ず引分に終わった。

8月26日

10.00~11.00 アニエネ・プール

泳ぎ 600m

ドリブル・シュート

ペナルティ・シュート

ダッシュ 5回

7時30分夕食をすませ8時30分全員集合し対イタリア戦について注意を与える。

イタリアチームの特色として、ロングシュートが強力であるから中盤に於ても決してマークを外さない様にする事。又出足が非常に早いので相手の出足にまけぬ様常に先に泳ぐ様にし、ノーマークを作らせない事、又昨日の試合の経験からハンド・オフを特に注意する事等注意を与える。

22.40~23.40 オリピック・プール

日本 1 $\left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 0 \end{array} \right\} \frac{2}{6}$ 8 イタリア

加藤 1 スピネッリ

浅沼 2 ダルトルイ
 佐藤 3 シオンタ
 清水 4 アンブロン
 宮村 5 バルメシアニ
 藤本 6 ゲッリニ
 高木 7 マネッリ

レフリー：ロウレント（仏）

センターボールをイタリアに取られたので大きくゾーン・デフェンスをし、1分31秒ゴール前でフリースローを得たバルメシアニからゲッリニに低いパスを送り速いシュートで1点、3分38秒相手のドリブルの突込みを後からタックルして藤本が退水される。3-2のゾーン・デフェンスで好守、特にG・K加藤の好守で逆に攻撃をかけるチャンスがあるもシュートが定まらず6分1秒ゲッリニがノーマークにて2点目をあげる。2点先行された後、8分46秒右サイドから佐藤のループ・シュートが定まり得点、2-1となるも9分18秒藤本再度退水となる。ししかイタリアチームも9分48秒シオンタが退水となり両チーム1名ずつ退水のまま前半を終る。後半センターボールを奪はれハーフライン間近から左コーナーエロングシュートを定められ意表をつかれる。日本チームは高木、清水を交互にゴール前に位置させ、そこへボールを集めて攻撃をして行ったのが失敗し、シュートが定まらず、又パスの悪いのをカットされ逆チャンスをつかえずどい出足でノーマークを作られ、完全にペースをくずされ6-0と一方的におしまわれて終わった。後半も前半同様スローテンポでオープンにボールを廻して中へ突込む戦法をとればもっと戦えたのではないかと思う。

8月27日

9.00~10.00

泳ぎ 400m

ドリブル・シュート

ペナルティ・シュート

ダッシュ 5回

7時夕食後全員集合の上、対ルーマニア戦の注意を与える。

昨日の対イタリア戦での失敗を二度と繰返さぬ様。チャンスが出来る迄はボールをオープンに廻して攻めいそぎをしない事。ゴール前の2m線を確保する事。ルーマニアチームを攻防轉換の出足が早いのでノーマークを作らせない様に切換えしを早くする事。特にサイドからのシュートを警戒する事。ボールを持って居る者には思い切ってタックルして行く事等を注意する。

22.00~23.00 ローズ・プール

日本 1 $\left\{ \begin{array}{l} 0 \\ 1 \end{array} \right\} \frac{1}{3}$ 4 ルーマニア

- 加藤 1 ステファネスク
 浅沼 2 バジタ
 佐藤 3 ザハン
 清水 4 ブラエク
 宮村 5 スザポ
 藤本 6 グリントesk
 高木 7 クローネル

レフリー：ズッケルマン（瑞）

前半良くオープンにボールを廻してチャンスをうかがって居るが、得点する事も出来ず5分9秒ルーマニヤチームのブラエクが左コーナーとシュートを定めて1点を奪われ1-0のまま前半を終る。後半は日本チームも良く動いてノーマークのチャンスを作るもパスがおくれ気味で得点とむすびつく事が出来ず苦戦する。1分28秒、2分21秒、ザハンがシュートなりと3-0リードされる。4分3秒ルーマニヤのバジタ退水となり、4分51秒日本チーム佐藤がペナルティーをもらい得点、3-1となる。7分49秒ルーマニヤに再度バジタが退水になり反撃のチャンスをむかえるも得点する事出来ず、逆に7分52秒ルーマニヤのクローネルのシュートが定まり4-1となり、そのままタイム・アップとなる。

この試合に敗れたため、二敗一引分となり準決勝進出が出来ずに終わった。尚予選リーグ戦は8月29日迄行なわれた。

本大会の結果

8月25日 オリンピック・プール

20.30 h

ユーゴ 2 $\left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 1 \end{array} \right\} 1$ オランダ

レフリー：ズッケルマン（瑞）

21.30 h

イタリ 4 $\left\{ \begin{array}{l} 2 \\ 2 \end{array} \right\} 3$ ルーマニヤ

レフリー：パウエンズ

22.30 h

ソヴィエト 5 $\left\{ \begin{array}{l} 4 \\ 1 \end{array} \right\} 4$ ドイツ

レフリー：コスタ（伊）

ローズ・プール

20.30 h

日本 3 $\left\{ \begin{array}{l} 2 \\ 1 \end{array} \right\} 3$ アラブ連合

レフリー：ハレポフ（ソ連）

21.30 h

アルゼンチン 2 $\left\{ \begin{array}{l} 0 \\ 2 \end{array} \right\} 2$ ブラジル

レフリー：ブランディー

22.30 h

南アフリカ 3 $\left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 2 \end{array} \right\} 2$ オーストラリヤ

レフリー：セグラ

8月26日

オリンピック・プール

22.40 h

イタリ 8 $\left\{ \begin{array}{l} 2 \\ 6 \end{array} \right\} 1$ 日本

23.40 h

ハンガリ 7 $\left\{ \begin{array}{l} 2 \\ 5 \end{array} \right\} 2$ アメリカ

レフリー：パトラー

ローズ・プール

11.00 h

フランス 3 $\left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 2 \end{array} \right\} 2$ ベルギー

12.00 h

ルーマニヤ 5 $\left\{ \begin{array}{l} 3 \\ 9 \end{array} \right\} 0$ アラブ連合

ドイツ 1 $\left\{ \begin{array}{l} 3 \\ 3 \end{array} \right\} 3$ ブラジル

オランダ 5 $\left\{ \begin{array}{l} 2 \\ 3 \end{array} \right\} 3$ オーストラリヤ

8月27日

オリンピック・プール

21.50 h

イタリ 9 $\left\{ \begin{array}{l} 6 \\ 3 \end{array} \right\} 4$ アラブ連合

22.50 h

ハンガリ 9 $\left\{ \begin{array}{l} 6 \\ 3 \end{array} \right\} 4$ ベルギー

ローズ・プール

10.00 h

ソ連 7 $\left\{ \begin{array}{l} 5 \\ 2 \end{array} \right\} 4$ アルゼンチン

11.00 h

ユーゴ 7 $\left\{ \begin{array}{l} 3 \\ 4 \end{array} \right\} 1$ 南アフリカ

21.00

アメリカ 10 $\left\{ \begin{array}{l} 3 \\ 7 \end{array} \right\} 4$ フランス

22.00 h

ルーマニヤ 4 $\left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 3 \end{array} \right\} 1$ 日本

8月29日

オリンピック・プール

22.15 h

ユーゴ 6 $\left\{ \begin{array}{c} 3 \\ 3 \end{array} \right\} 2$ オーストラリア
23.15 h

ドイツ 4 $\left\{ \begin{array}{c} 2 \\ 2 \end{array} \right\} 2$ アルゼンチン

ローズ・プール
10.00 h

アメリカ 5 $\left\{ \begin{array}{c} 3 \\ 2 \end{array} \right\} 2$ ベルギー

11.00 h

ソ連 8 $\left\{ \begin{array}{c} 5 \\ 3 \end{array} \right\} 2$ ブラジル

21.00 h

オランダ 3 $\left\{ \begin{array}{c} 0 \\ 3 \end{array} \right\} 3$ 南アフリカ

22.00 h

ハンガリー 11 $\left\{ \begin{array}{c} 6 \\ 5 \end{array} \right\} 3$ フランス

以上で予選リーグ戦を終了し其の結果次の8チームが準決勝に進出する事になった。

Aグループ Bグループ Cグループ Dグループ
イタリア ソ連 ユーゴ ハンガリー
ルーマニア ドイツ オランダ アメリカ

8月30日

準決勝の組合せは次の通りである。

Eグループ

イ タ リ ー

ソ 連

ル ー マ ニ ヤ

ド イ ツ

Fグループ

ハンガリー

ユーゴ

アメリカ

オランダ

オリンピック・プール

18.10 h

ソ連 3 $\left\{ \begin{array}{c} 1 \\ 2 \end{array} \right\} 2$ ルーマニア

22.30 h

イタリア 3 $\left\{ \begin{array}{c} 1 \\ 2 \end{array} \right\} 0$ ドイツ

23.30 h

ハンガリー 3 $\left\{ \begin{array}{c} 2 \\ 1 \end{array} \right\} 1$ オランダ

8月31日

オリンピック・プール

12.00 h

ユーゴ 6 $\left\{ \begin{array}{c} 3 \\ 3 \end{array} \right\} 2$ アメリカ

23.00 h

ルーマニア 3 $\left\{ \begin{array}{c} 0 \\ 3 \end{array} \right\} 3$ ドイツ

24.00 h

ソ連 0 $\left\{ \begin{array}{c} 0 \\ 0 \end{array} \right\} 2$ イタリア

9月1日 オリンピック・プール

22.20 h

アメリカ 7 $\left\{ \begin{array}{c} 3 \\ 4 \end{array} \right\} 6$ オランダ

23.20 h

ユーゴ 2 $\left\{ \begin{array}{c} 1 \\ 1 \end{array} \right\} 1$ ハンガリー

以上準決勝の結果、決勝戦の1位—4位決定戦に進出するチームは、イタリア、ソ連、ユーゴ、ハンガリーの4チームとなり、5位—8位決定戦に出場するチームは、ルーマニア、ドイツ、アメリカ、オランダの4チーム決定しました。

9月2日

ローズ・プール (5位—8位決定戦)

10.00 h

ドイツ 4 $\left\{ \begin{array}{c} 2 \\ 2 \end{array} \right\} 3$ アメリカ

11.00 h

ルーマニア 5 $\left\{ \begin{array}{c} 3 \\ 2 \end{array} \right\} 4$ オランダ

オリンピック・プール (1位—4位決定)

22.30 h

ソ連 2 $\left\{ \begin{array}{c} 1 \\ 1 \end{array} \right\} 2$ ハンガリー

24.30 h

イタリア 2 $\left\{ \begin{array}{c} 1 \\ 1 \end{array} \right\} 1$ ユーゴ

9月3日

オリンピック・プール

10.00 h (5位—8位決定)

ルーマニア 6 $\left\{ \begin{array}{c} 4 \\ 2 \end{array} \right\} 4$ アメリカ

11.00 h

ドイツ 6 $\left\{ \begin{array}{c} 3 \\ 3 \end{array} \right\} 5$ オランダ

21.50 (1位—4位決定)

ソ連 4 $\left\{ \begin{array}{c} 2 \\ 2 \end{array} \right\} 3$ ユーゴ

22.50 h

イタリア 3 $\left\{ \begin{array}{c} 2 \\ 1 \end{array} \right\} 3$ ハンガリー

1位から4位決定は

1. イタリア

2. ソ連

3. ハンガリー

4. ユーゴ

5位—8位決定は

5. ルーマニヤ
6. ドイツ
7. アメリカ
8. オランダ

以上の様な結果でした。

8位以下の下位順位決定戦が行われませんでした。準決勝に進出出来なかったチームは

アラブ連合
日本
アルゼンチン
ブラジル
南アフリカ
オーストラリア
フランス
ベルギー

の8チームでした。

本大会の結果が示す如くヨーロッパ勢が非常に強く上位8チームの中でアメリカをのぞいては全部ヨーロッパ勢によって占められて居ると云った現状です。ここにローマ大会を通じて感じた事を申して見ますと、水球の方向としては完全なるオールランダー・システムが採用されて居りすぐれた泳力と良く訓練されたスタミナとを駆使してフィールド全般を良く使い速攻と遅攻とを上手に組合せて一度手にしたボールは得点となる迄決して無駄なシュートをせず大切に居る事が目立ちます。又決勝リーグ戦などに於て感ずる事は力の水球に変化して来て居るのではないかと思はれる程で、攻防転換等による逆チャンスにタイミング良く飛び出しても中盤あたりのたくみなマーク・チェンジにより速攻の効果が発揮出来ず、かえってロングシュートとかスタンディングシュートによってゴール・キーパーの意表をつくシュートで得点して居るケースがしばしばありました。

又前回のメルボルン大会に於て見られなかった事としては、本大会に於ては自から沈んだり、又相手の後について泳ぎ乍らあたかも足で蹴られたと云った様な動作をしてレフリーをごまかすトリック・プレイが盛んに使はれて居ました。又審判技術は全般的にタイムリーな笛が多く、実にきびしく反則をてきはつして居りましたが、地元イタリーチームの試合の場合には地元の盛んな応援に押されて多少公平をかけた様に思はれました。

吾々は来るべき東京大会を考える時に日本の水球は今後どの点を強化して行くべきかローマ大会の体験からこの事を検討して見たいと思います。技術的な面については

第一に泳力及びスタミナの強化

これは体格の小さい日本人にとって一番重要な事ではないかと思ひます。先づ泳力について云えば日本チームの場合一番外国チームと比較して劣って居なかったのはスピードだと思ひます。而し現在の泳力では充分ではなく少くともチームの平均泳力が60秒位の所までもって行かねば駄目だと思ひます。而しその他に泳ぎのチェンジ・ペースを学ばねばならないと思ひます。何時も同じペースで泳いで居たのでは相手に調子を合されて終い瞬間的に動き乍らのチャンスは仲々生れて来ないと思ひます。又瞬間的な競り合いに於ても同様な事が云はれます。其の為には腕の力を強化して行く必要があると考えられます。又一方スタミナの点についてもいくらすぐれたテクニックを持って居てもスタミナがなくてはこれを充分發揮する事も不可能であり、又体力の差からくるハンディキャップを機動力によってカバーしなければならぬ現状では重要な事だと思ひます。

第二にボールワークの訓練

これは基本的な技術として一番劣って居る様に思ひます。第一に遠投力が弱い事、次にハンドリングの悪い事が挙げられます。これはスナップの使い方を研究して行くのが先決問題だと思ひます。良く外国選手は手が大きいからボールをつかむ事が出来るが手の小さい日本人には彼等のまねは出来ないと云はれて居ますが決してそうではなくもっと訓練して行けば決して彼等に負けたいと思ひます。特に本大会に於てボールワークの悪さが目立った様でこの点あきらめずに取組んで行く必要があると思ひます。

第三にシュート力の強化

シュート力の強化についてはボール・ワークの問題が関連して居ると思ひますが、それとは別にシュートの種類をもっと多くマスターする必要があると考えます。これは特にゴールキーパーと対になった時にあらゆる角度からのシュートを知る必要がありゴール・キーパーの意表をつくフリップシュート及びナックリング又はプッシュシュート等をもっと修得する事が肝要です。特に7~8ヤードの比較的マークの甘い所から出す中距離シュートなど効果的だと思ひます。

第四にオールランダープレイに徹する事

現在の水球の方向がフィールド全般にわたって機動性が發揮されて居る状態では、フォワードとかバックと云った区別がなく動きにつれてバックがゴール前に突込んでシュートする場合もあり、フォワードが味方のゴール前でディフェンスに当る事もあると云ったシステムでは当然オールランダープレイが必要となつて来るべきで今後は当然此の様なシステムをマスターして行

かねばならないと思います。日本チームの場合には原則としてゾーンデフェンスを主体として進んで来ましたが、ゲームの変化からマンツーマン・デフェンスを余議なくされる場合に此の点非常に不安定な状態になりフォワードなどメジャーファウルを取られた事がしばしばありました。又攻撃する場合にも折角バックからノーマークのチャンスをつくって飛び出して行ってもシュートが定まらなると云うにがい経験をして居り此の点大いに研究する必要があると思います。

第五に海外試合（特にヨーロッパ方面で）を多く経験する必要がある事

これはローマ大会の結果が示す如くヨーロッパ勢が非常に強い現状では多くを彼等から学ぶ必要があると思います。これは技術的な面で大きなプラスとなる事は明かであり、又外国チームと試合する事により日本の水球技術発展の良ききっかけとなると思いますので今後機会あるごとにどしどし対外試合を持って精神的な面での強さも学ぶ必要があると思います。

第六に審判技術の習得をする必要がある

これはローマ大会に於て、日本が現在行なっている様

な審判技術では通用しない事、つまりオリンピックで吹かれる笛を研究して行かなければ折角の技術を生かす事が出来ないという事を痛感しました。例えば日本で許されて居る反則がオリンピックでどしどし反則として笛を吹かれ、ハンドオフ・フットオフ、又はフェイントモーション等は全く禁じられて終い手も足も出ないと云う例がありました。

これは大きな問題で折角日本で仕上げた技術が発揮出来なかつた一つの原因でもあり、今後は技術的な面の進歩と共に審判技術も相当勉強して行かないと再度の失敗をする事になると思います。ローマ大会で一貫して居た事はルールに忠実であり、フィールド全般を良く見てタイムリーな笛を吹いて居た事で決して日本に於てもこれが出来ない事はないと思います。特に感じた事は大体以上の事であります。吾々はローマ大会に於て二敗一引分という不成績に終りましたが来るべき東京大会には総力を挙げて水球強化にあたり少くとも決勝リーグに進出したいと思います。又頑張れば決勝リーグ進出も不可能ではないという確信を持って居ります。

全自動機械審判器の完成へ

周知のとおり、ローマ大会における男子 100 米自由形のデヴィット（豪）とラーソン（米）の 1 着判定問題は、安部さんの話しでは現在でも米国のリッター氏から安部さんへ手紙がきてまだ尾を引いているそうで問題の根深いことを物語っている。

競馬とか外のスポーツでは既に写真判定によっているものもあるが、水泳は相手（端壁）もあり、水中タッチやスプラッシュなど余計なおまけもあるので判定はいささか大変である。日本水連では、つとに関係者の御努力によりエレキを採用しそれなりには実効をあげているが、ローマ大会での 100 米自由形の深刻な争いをまのあたり見てこられた安部さん初めコーチ陣は東

京大会を目前に控え早急に万全の対策を立てるべき必要があることを痛感されたようである。そこで先般来より安部さんを初め施設委員会のメンバーが数次にわたり協議を重ね専門の大学の先生方や写真の専門家の意見を聴取したり研究方を依頼する等現在懸命の努力が払われている。

その結果、現在のところ音響と写真の 2 方面から大体の目鼻がついたようであるが、これら関係者の熱心な努力の結果が東京大会への成果となつて立派に実ることを切望してやまない次第である。

（編集）

水 球 手 一 日 誌

水球コーチ兼選手 神 田 明 善

代表選手強化期

- 1) 昭和34年8月日本選手権終了後第一次オリンピック候補25名を決定、浜松市(半僧坊)信愛高校プールにて水球泳力と基礎技術養生に重点を置き14日間の強化合宿を行う。尚合宿所の一切の面倒を見て下さった半僧坊住職は精神力の鍛練並びにチームワーク養生の為に是非座禅会が必要な事であると申され度々我々の為に朝食前に強行して下さいました事は後々まで好影響を及ぼした事と深く感謝する次第です。
- 2) 昭和35年2月下旬第二回目の強化合宿を東大プールに於て行う。攻撃防禦の基礎に重点を置く、本合宿より候補16名とする。
- 3) 4月28日より5月9日まで長野県野沢温泉プールにて総ゆるの基礎に重点を置き第三次強化合宿を行う。
- 4) 5月15日より5月25日までスポーツマンホテルに合宿、都営室内プールにて防禦に主力を注ぐ。コーチ2名候補選手16名。
- 5) 6月上旬前回と同所にて攻撃専門の強化合宿を行う
- 6) 6月26日より7月6日まで前回と同所にて攻撃、防禦の確立の為合宿を行う。本合宿終了後候補選手を10名に絞る。
- 7) 7月14日より7月24日まで前場所にて日本選手権終了までゲーム中心に強化を行う。
- 8) 7月25日より8月12日までオリンピック最終仕上合宿を山の上ホテルにて行う。都内各プールが公開其他の理由により思う様に使へぬ為午前立教大学プール午後成城大学プールにて練習をするが往復の交通に可成りの疲労と時間を要した。併し宿舍の方並びにマネージメントの良図により統制あり気持のよい強化練習をする事が出来た。

羽田よりローマまでの飛行記

昭和35年8月12日(晴, 風強し)

台風6号が中国地方を通過の為関東方面も幾分風が強い。併し快晴である。気温31°湿度高し、9時 Hill Top Hotel を盛大なる歓送裡に出発。羽田空港にて関係者各位縁故一同の激励の見送りを受け一同必勝の気志に胸を膨らませ乍ら機上の人となる。

SAS機にて12時30分出発快適な飛行のもと一路アンカレーヂへ、約14時間後内地では未だ真夜中であろうに早朝冷気漂う清潔なアンカレーヂ空港に給油の為着陸約1時間休憩。マッキンレー連山を眼下に見ながら一路真北へ、北極点を通過、此処では磁石が縦になるとか冗談を飛ばしつつ更に快飛を続けオスローに向う。

8月13日(晴)

8.30(現地時)オスロー着、上空より見た所では洋館建がマッチ箱の如く並んでまるで箱庭の様である。屋根の赤、入江の紺、森林の緑のコントラストが実に美しい。何処の入江にも大少様々なヨットが並んでいてさすがは海の国と云う感じを受けた。

約1時間半後コペンハーゲン着、非常に美麗で大きなターミナルであり配置と採光の素晴しさでは第一級空港であろう。此処まで来ると本当にヨーロッパにきた感じである。新しい機に乗り替えローマまで約4時間途中スイス上空にてアルプス連山を雲上に遠望、モンブランなどまるで絵の様である。

16.00 ローマ、チャンピーノ空港着入国手続後バスにて市の目抜き通りを通り選手村に向う。

19.00 オリンピックプール(フォロイタリコ)に行き練習を行う。

イタリーチームと練習試合約15分、身体の大きいのに非常に敏捷で好機に対するスタートが素晴らしい仲々やる。旅の疲れもあったが残念乍ら6対1にて惜負。

夜食後身の回り品を整理来伊第一夜を過す。

大会開始迄の調整期

8月14日(快晴)

午前中休養並びに荷物整理

日向は非常に暑いが室内や日影は空気が乾燥している為凌ぎ易い。

午後 Villaggio Olimpico の南(徒歩で約10分)にある水球専用のプール(33米) ANIENEにて約40分軽い練習を行う。此処はクラブ組織になっていてプールの隣にはテニスコートが三面もある。番人がいて朝から晩まで芝生、花壇等を手入れしていて非常に気持がよい。

17.30 より日本選手団及び他3カ国の入村式が華麗な服装の楽隊の先導により行なわれる。村長さんが伊太利

語と英語で我々に歓迎の挨拶をして呉れる。入村国は全体の5分の1位である。

日本大使官邸にて晚餐レセプションあり、焼鳥、納豆、酢物、新香、日本酒 etc. , 一同大喜び。

8月15日(晴)

午前アメリカチームと15分ハーフ二回行ふ。以下戦評の詳細はオリンピック経過報告に載せませう故内容は省略致します。

イタリアとアラブ連合の練習試合は5対0でイタリアの勝。

イタリア対ユーゴ 5対0でイタリア。ユーゴは大分手を抜いている模様だ。

15.30より南アフリカと対戦、7対5にて快勝、敵の得点も味方退水時が殆んどである。(両チーム合せて前後8回の退水あり)。日本チームは非常によく動いてチャンスが相当出来ているのであるが、パスが通らないので随分損をしている。もう少し頭を上げねば駄目。レフリーはエジプト人であったが判定に内地とでは相当の違いがあるので選手もプレーし難い点があったと思う。何にしろ早く国際的な笛に慣れねばならぬ。

来伊以来初の勝利戦なので一同御機嫌。

8月16日(快晴)

現在まで参加16カ国の内到着チームは8チーム、ドイツ、フランス、ベルギー、オランダ、ハンガリー等欧州勢は自国で最後の仕上げをやり、大会間際に乗り込んで来るのであろう。

午前アラブ連合と試合の予定であったが変更になり17.00より行ふ。

残念乍ら6対1にて負、体格の差は別として判定は不公平を極め他国選手も誹謗していた。併し負けは負け此の次は必ず勝ってみせるぞ!!

8月17日(晴)

ローマと云う所は全く雨の少い所だ。連日雲一つ見ない我々が来伊する前何日も快晴であったとか、それでいて水がとても豊富である。ローマ市より30km以内は工場建設禁止になっているので空気が非常に清浄で建物の白さが透通る様であり着ている物が汚れない。

10.00よりソ連と練習ゲーム 10対2

重量感のあるチームである。今更体格差は如何とも仕難いが馬力を以て当るより他なし。モジャレンコ(名前が難しく分らないので毛むくじゃらの容姿から来たニックネーム)の浮力、シュート力のもの妻さには唯々舌を巻くばかりなり。

16.00より保養の為市内散歩、バスターミナルで解散集合は19.00

繁華街を一通り廻る。さすがに芸術の都、致る所で美

しい噴水や彫刻にぶつかる。巡査が皆美男子でスマートで親切である。ローマ市は起伏が多く小高い丘には立派な洋館建、高層アパートがカラーセンス宜しく実に芸術的に建っている。道路も素晴らしくさすがに首都である。イタリア人は緑を実に愛する。ヴェランダ等には必ず花壇や植木がある。

8月18日(晴)

午前、未到着国の割当時間にアメリカチームと練習ゲームをする。7-3(前後半15分づつ)我が軍は止まっているプレーが多い為パスが通らない。又最前線の態勢が整はぬ内にパスが来る、相手の当りが早いので全体のコンビネーションが崩れて了う。ボールをキープする技術を修得する要あり、必要な時丈のダッシュでは駄目無駄泳ぎとの併用で始めて効を奏することが出来る。

20.00 バラの水泳場にてルーマニアと対戦、11-3。目立ってうまいプレーヤーはいないが全体的に底力がある。さすがに本場欧州で揉まれている丈けあってゲーム運びも上手である。照明が不十分な為かG・Kは非常にやり難そうであった。

観客も多く、プールは美麗で水質が実に快適である。観客席とプールの間にバラの花壇があり反対側にはオリンピック用の仮スタンドが設けてある。

バラプールの往復の夜景は実に素晴らしい。道路が全部上からの採光なので自動車は殆んど豆灯でしかも相当のスピードで走っている。トンネルは真昼の様な明るさで夢のハイウエーとでも云い度い所。

8月19日

午前は練習を休み水球用ボールを買いに市内まで行く在庫が無いので予約のみ、内地からは練習に不自由をしない様持参したが現地のは大分大きき重きに差がある様に思われる。

16.00 オーストラリアと練習ゲーム 5対3

ボロとしての泳ぎ、技は我々以下であるが体格の差のみが決した様な気がする。彼等もボールを持たないで泳いでいる時はさすが競泳王国素晴らしいスピードがあるが一度試合になると全々通用しない、此辺に難しさがある様だ。

21.00よりオーストラリアとプールを半々にしてシュート練習を行う。

オリンピック本試合は殆んど夜間併も22.00過ぎが多いと聴いている早く慣れねばならぬ。

8月20日(晴)

相変らずの快晴である。

午前他チームの対抗ゲームを見学、アメリカ対ソ連 7-5にてソ連の勝。

モジャレンコ(ソ連5番)何時も乍ら感嘆の他なし。

ハンドリング、ダッシュ、其の他常に自軍のリーダーとしてプレーしている。

17.00 南アフリカとゲーム 6対4にて惜負。

技術的には決して劣っておらぬが馬力に今一踏ん張り欲しいところ併し今後のいい薬になった。

毎日 19.00 頃には必ず何処かの国の入村式がある。何度聞いても華麗で荘厳なファンファーレだ。

21.00 よりバラの水泳場にて練習、南アフリカの練習時間であるが譲って貰う。競技場までの輸送が悪く後にハンガリーの練習が控えている為に約20分しか出来なかった。

ハンガリーは監督が携帯マイクにて練習を司令している。何とも云えなく上手でまるで水中技とは思えぬ、実にポロをよく知っている。攻撃の早さ、間のとり方、パスの正確なこと、G・Kのうまさ、総べて芸術的がっている。見て居る内に何か気後れがして来たが併し同時に別のファイトが湧いて我々の目標がはっきりして来た様な気がした。

8月21日(晴)

8.00ベルギーの練習時間にてトレーニングする。

19.00 オリンピックプール(フォロイタリコ)にてアラブ連合と練習ゲーム 6対3

審判の不公平には観衆も驚いていた。併し負けは負けで今後のいい薬になった。少し位ラフなプレーにも当り負けせぬこと、本試合で当たったら此の仕返しは必ずさせて載かねば!!

8月22日(晴)

午前休養。

15.00 よりハンガリーと練習ゲーム 15対2

レギュラーとサブの区別が付かぬ様選手の層が厚い、上手の一言 気持よく負けました。

21.00 バラの水泳場にてブラジルと対戦、前後半25分づつ、日本チームは実によく泳いだしこちらのフォーメーションがバリバリ出る。佐藤主将が実によく動いてゲームを我軍のペースに巻き込んでいた。

来伊以来初めて試合らしい試合をしたので一同悠々選手村に御帰還。

F I N A Water Polo Board よりルールの検討案来る一応の回答を出す。

組合せ決定、F I N Aの動きが遅い様に感ぜられる。

第一グループ	第二グループ
日 本	ソ 連
イ タ リ ー	ド イ ツ
ル ー マ ニ ヤ	ブ ラ ジ ル
ア ラ ブ 連 合	ア ル セ ン テ ン

第三グループ

ユ ー ゴ ー

オ ラ ン グ

南 ア フ リ カ

オーストラリヤ

第四グループ

ハンガリー

ア メ リ カ

ベルギー

フ ラ ン ス

8月23日(晴)

8.00 ANIENEにて練習をする。主にシュートとロングパス。

午後はオリンピックプールが少年大会の為使えず休養 態々明後日より大会本試合である、調子は上々夜間は気候がよい為か睡眠も充分である。斗魂が盛々湧いて来る。

8月24日(晴)

午前休養

午後ローマ法王の謁見あるも宿舎にて休養。

19.00 ANIENEにて最後の仕上げ。

本日まで本場の水球並びに笛に当り慣れする為に最初に予定した練習ゲーム数も希望通りこなし後は全力を尽して体当たりあるのみ。

オリンピック大会期

8月23日(快晴)

10.00 よりルーマニヤと半々にて軽くアップ。開会式には水球より1名(神田)参列。

15.00 日本宿舎下集合、行進隊長近藤天氏、選手村入口よりサブトラックまで四列縦隊の行進で行くが沿道猛烈な歓迎に遭い遂には一列になる。山中君の人気には何時も乍ら驚き入る。ムッソリーニ記念碑裏にあるサブトラックは実に素晴らしくスタンド周辺には大理石の男性立像が整然と起ち並んで居てフィールドの芝生、トラックのアンツーカーとのハーモニーはさすが芸術の国である

17.00 サブトラックより地下道を通ってメインスタジアムへ。日本デレゲーションの入場である。数万の大観衆が万来の拍手を以て歓迎して呉れる。大プラスバンドが天にも轟くばかりに行進曲を奏でている。感激の瞬間の天辺より足先までじーンとして細胞の心まで緊張して来る。暑さも忘れ、唯夢中でアンツーカーの上を歩いて行く、左右、左右近藤天氏の号今も全く聞えない。

スタンドの各所より日の丸の群が小旗大旗を千切れんばかりに打振って呉れる。貴賓席前を通過する頃は全身がつっぱって了って何時帽子を脱で被ったのか分らぬ位であった。フィールドを一周中央に整列する日本はギアナとイギリスの間である。さすがグレートブリテンは御行儀がいい。

アメリカも非常に人気があった。

最後に主催国イタリアの大デレゲーションの入場。耳

を轟さんばかりの大歓声、スタンドが破れんばかりである。

各挨拶のあった後愈々聖火の到着。長身の最終ランナー（イタリア選手）により高々と掲げられ遙々ギリシャより引継がれて来た聖火がグラウンドを歓声裡に一周し数拾段を一気に駆け上りスタンド最上段に設けられた聖火台に点火された。ファンファーレが三度びローマ全市に響けとばかり麗奏される。西陽が一時第17回オリンピックを賛えるかの如く燦然と聖火台を照らしている。クーベルタン男爵の辭が電光盤に輝く。西陽が沈み正面スタンド後方モンテマリオの丘上に両手を差し延べローマに来た我々を心から迎えて呉れるかの如く黄金に輝くサンピエトロの立像がくっきりと落陽光に浮んでいたのが印象的であった。退場開始各所の邦人群に帽子を打振って答える紋付姿も見られる。

浴道の歓声を受け乍ら徒歩にて選手村まで帰る。開会式終了後直ちに試合場に向う。途中交通が思う様に行かず混雑を避け乍らバラの水泳場まで約50分も掛かってしまった。日本で云う白バイの様な先導車が居なかったら何うなった事か。今後の輸送が気掛りである。

大会第一戦 日本対アラブ連合 22.30 開始

以下試合内容詳細は戦評記にて掲載致します。当日誌には対戦スコアのみにて省略させて戴きます。

3対3の引分けとなる。皆非常によくやってみえました。こちらもそうであったが敵は相当上っていてプレーが少々鈍かった。技術的には日本の方が上であることは確かだ。会長、監督、清川氏、志村氏、派遣記者多数観戦。明日は愈々メインプールにて強敵イタリアーと対戦、全力を尽して敢闘あるのみ。

8月26日（晴）

10.00 より ANIENE POOL にて軽くトレーニング。

大会第二戦 日本対イタリアー 22.40 開始

大観衆に一人一人紹介されいささか上り気味。G・K加藤は実によく止めて前半佐藤のループも決り2対1の大善戦、後半実力の差は如何とも仕難く6対0、合計8対1観衆が非常に熱心でルールを良く知っているので審判も判定には神経質な位厳格である。

8月27日（晴）

午後アニエネにて約1時間軽く仕上げをする。

大会第三戦 日本対ルーマニヤ 22.00 開始

此の一戦に勝てば決勝リーグに進出出来る為皆石に嚙り付てもと決然たる態度にて臨む。G・K加藤の好守により前半1対0に押える後半更に1点をリードされるも、佐藤ベナルテスローにて点を返す。併し善戦これ努めるも及ばず遂に4対1にて惜負す。

各グループ上位2カ国が決勝リーグ進出の為第一グル

ープからはイタリアーとルーマニヤと決定。

小出、太田、志村、柴原各氏応援観戦。

8月28日（晴）

相変らずの晴天イタリアーと云う所は全く雨が少い。

10.00 よりアニエネにてオランダと練習ゲーム。ヘルシンキ、メルボルンの国際級選手が全部引退してチームがぐっと若返へっているとの事、実力はルーマニヤより弱いだらう5対3。

本日は日曜日なので各競技とも試合なく選手村も静かである。

午後Sauna風呂に入り一同疲れを癒す。

8月29日（晴）

我々は試合が終了したので以後決勝リーグ研究見学と競泳応援に専念。

○アメリカ対ベルギー 5対2

実力は大差なくもアメリカは実によく泳ぎ廻る。全員頭がよく上っている。日本としては肘から先丈けで投げる研究をする要あり。

○ソ連対ブラジル 8対2

相手が弱い為か作戦には見るべきものなし。ソ連⑥のモジャレンコは陸上ではそう大きく感じないが一度び入水すると途徹もなく大きい。矢張り偉大なるプレーヤーと云うべきか。③の突込みが非常によい。

○ユーゴー対オーストラリヤ 6対2

ユーゴーのG・Kが恐らく最強であろう。2点を許したが皆退水中でユーゴーのバックが少々強引過ぎる。ユーゴーは突込みがよく敵ゴール前の瞬間的なチャンスを実にものにする。

○ドイツ対アルゼンチン 5対1

ドイツは防禦のチームであり決り手が弱い。得点の殆んどがバックが抜けてやったもの。アルゼンチンと一度練習ゲームをやって見たかった。ブラジルと同程度位であろう。

8月30日（晴）

午前オスカー・バルター（日本にプロコーチとして申込んでいる）が率いる混合チームと練習ゲーム。20.00より競泳応援。詳細は別項戦記にて

○イタリアー対ドイツ 3対0

イタリアーのG・Kが実によく止める若いうまい、点差が着かぬのはドイツが防禦を主としたチームだからであろう。併しイタリアーの中巨離からのシュートは速くて実にいいコーナーを突く。

○ハンガリー対オランダ 3対1

オランダも若いチームでよく頑張った。ハンガリーは矢張りパスに一日の長あり。

○ソ連対ルーマニヤ 3対2

ルーマニヤもよく頑張った。特に③の主将猛烈な激斗である。

8月31日(晴)

○ユーゴ対アメリカ 6対2

アメリカも泳力では劣らなくても水球基礎には一段の差を認めざるを得ない。特にG・Kはユーゴの方が遙かに上手である。

○ルーマニヤ対ドイツ 3対3

ドイツのバックが非常によく頑張った。ルーマニヤは平均していて穴がない。

○イタリー対ソ連 2対0

ソ連モジャレンコ必死のシュートもイタリーG・K(Rossi)の好守に何回となく阻まる。手の抜きが早く実にいいキーパーだ。地元とは云えイタリヤの応援は物凄い。終るまで『イタリヤ』の連呼である。

9月1日(晴)

○アメリカ対オランダ 7対6

アメリカは泳力を活かした必死の攻撃で若い老舗オランダを破る。攻撃に勝る防禦なし。

○ハンガリー対ユーゴ 2対1

世界の両強豪ここに対決、追いつ追はれつ秘術を尽した激烈なる死斗である。最後はペナルティーにより決まる。終って観戦していた我々まで非常に疲労を感じる。帰村のバスの中でぐったりである。

9月2日(晴)

バラの水泳場にてデーゲームを二試合観戦。

○ドイツ対アメリカ 3対2

連日の激戦でアメリカも相当疲労している模様。5位~8位決定戦なので気の抜けた様な試合だ。

○ルーマニヤ対オランダ 5対4

穴のないルーマニヤが全体的に押気味であったが案外点差がなかったのはオランダが少ないチャンスを可成りものにして得点に結び付けていた。

メインプール(フォロイタリコ)にて二試合観戦

○ハンガリー対ソ連 2対2

ハンガリーは体格差で押されるのを恐れて主将のマルコピッチ老功キャルパターを引込め大きくて若い者に替える。猛烈な激斗でソ連モジャレンコの最後のフローティングシュートは一人を後に背負ってのシュートで人間技とは思はれぬ。終っても我々は未だ拳を握った掌が汗ばんでいた。

○イタリー対ユーゴ 2対1

イタリー対ソ連戦にも増して凄い声援である。競技場全体が一丸となって『イタリヤ』の連呼である。

後半ユーゴはペナルティーで追着くもイタリーはタイムアップ直前敵ゴールに殺到したF・Wがフローティ

ングより好パスを受けG・Kの肩越しに決める。あの態勢からよくあそこへ決めたものだ。怒号の如き大歓声は何時までもローマの星空に響き亘っていた。

9月3日(晴)

愈々水泳競技最終日である。

午前中休養、今日は又特別に暑い。自転車競技で選手が倒れたとか。

女子100m背泳で日本女子選手中唯一人の受賞である田中聡子の表賞式が行はれた。大会役員の先導により三選手が静々とスタート台附近よりプールサイドを通り表賞台まで進む。田中選手が一番小さい。でも本当によくやって呉れた。夜空に揚った日章旗を見つめていると眼頭が熱くなって来た。

○ソ連対ユーゴ 4対3

秘術を尽して死斗の繰返しと云う他に形容なし。後半ユーゴの⑦膨膜を破り交替、相手も相当荒いプレーであったが原因はそれ以前にある様だ。モジャレンコは得点こそ少いが良くチームをリードしていた。ソ連の猛攻に次ぐ猛攻にさしも世界一を誇るユーゴのG・Kも遂に4点を許して了った。この結果イタリーは最終戦の如何に係わらず優勝と決定、コーチの制止もそっこのけの大喜び、無理もなからう。

○イタリー対ハンガリー 3対3

水球全試合の最終戦である。

若さとファイトの新鋭イタリーに対するハンガリーは体格差の苦戦を予想してソ連戦同様キャルパター、マルコピッチのベテランを引込め大きな若手で対決、開始後間もなくイタリー一人退水鉄壁を誇るGK(Rossi)も素早い球回しと好ハンドリングにより遂に1点を許す、次いでフローティングの引掛けシュートこれが真コーナーに決り瞬く間に2点を先行、併し若さと機動力に優るイタリー猛烈なファイトを燃し前半終了直前同点に漕ぎつけるも再びハンガリー得点、追いつ追はれつ熱戦を繰返し乍ら3対2のスコアにて後半に移る。

後半の半分を過ぎた頃イタリー得意の中巨離真コーナーを突く好シュートに同点と追付く、唯もうスタンドは怒号の嵐である。死斗を繰返す内遂にタイムアップ3対3の同点引分け、ここに第17回オリンピック水球優勝の栄冠は地元イタリー・チームの頭上に燦然と輝いた。実によく闘いました。その歓喜は計り知れぬものがあります。ハンガリーも立派に闘いました。

スタンドも手製の松明を燃やし祖国の優勝を祝福して大喜び、表賞式でのイタリーチームの観喜する様子が印象的であった。イタリー国歌の吹奏と同時に全スタンドより合唱が力強く湛き上がって来る。

電光盤一杯に大きく ITALIA と浮上る

遠征旅行期

9月4日(晴)

本日より水泳チームは2班に別れて行動。

第一班 ナポリ組 FINAギャラ行太田コーチ以下
16名

第二班 ローマ組 柴原コーチ以下28名。

柴原, 鷗田, 神田, 小柳, 水球(10名) 競泳(9名)

飛込男女(5名)

9.00よりローマ市内見物, ガイドが付いていたが一応
北村氏に解説役をお願いする。約3時間の予定。

選手村——テベレ川沿いに南下——最高裁判所前——
ローマで一番古い橋——パチカン宮殿(サンピエトロ寺
院)——ガリバルジ記念碑——ローマで最古の寺院パン
テオン——古代競技場コロシウム——カラカラ浴場外郭
のみ——無名戦士の記念碑 VITTORIANO——市内目抜
を通り帰村。

サンピエトロ寺院の中はさすがカソリック教の総本山
荘厳なる聖気が漲ぎっている。正面向って右の入口より
直ぐの所に有名なミケランジェロの彫刻がある。全体の
構成, 表情, 身体のかなし, 気品, 色彩等実に素晴しく
全体から受ける感じは冷いがそれでいて何処か人を抱き
込む様な温かきがある不思議な彫刻である。あまりの素
晴しさに唯茫然と暫く佇む。天上は非常に高くドーム型
をしていてそれが各柱とよくマッチしている, 総ゆる所
が飾付けしてあり, 各柱の下の鳩が月桂樹の小枝をくわ
えているのが印象に残る。

石の壁画はよくも此の様に美事な色が出るものだ。天
然の石とは思われぬ華麗さでモザイクの極美であろう。
恐らく一日中拝観していても飽きぬであろう。見足りない
所が随処にあるが時間がなく残念である。一応見終っ
て出て来ると心の髄まで清められた様な気がする。

ローマ人, イタリア人, いや世界各国のカソリック信
者が此の様な神聖なる場所にて心を清め安住の地を求め
ているのであろう, 立派な事である。VITTORIANOの
荘大華麗さには驚くばかり!! 午後19.00迄自由行動。

9月5日(晴)

5.00起床, 6.00選手村よりバスにて終着駅へ。6.53出
発, 変わった風景を楽しみ乍ら一路ナポリへ。

日本を出発する前より張り詰めた気持の連続であり,
又来伊してから試合まで緊張の仕通しである。その労
をねぎらう意味でも楽しい回遊にせねばならぬ。

ナポリ駅にて第一班と合流し, バスにて出発, ナポリ
市内を出てポンペイの古墳に向う。ベスピオス火山を右
に左に見ながら途中カメオの工場に寄る。地中海から採

取される貝殻にて造ったもので美事な装飾品である。続
いてポンペイを見物, 何千年もの昔この様な立派な生活
を人間がしていたとは何うしても想像がつかぬ, 銅や鉛
で造った水道器具, ポンペイの赤と黒と呼ばれる色彩,
総てオリジナルであるとは驚きである。

ポンペイの中にある近代レストランで昼食後再びバス
にてナポリ郊外を見物, 硫黄の噴き出ている活火口を見
てから海岸のドライブウエーを遊覧, 遠くソレントの先
にカプリ島が霞んで見える。

ヨットハーバーのクラブレストランで夕食, 素晴らしい
音楽を聴き乍ら南伊太利の雰囲気満喫する。

ナポリより夜行列車にてゼノアに向う。ローマにて第
一班16名下車, 途中ピサ辺りが洪水のためフローレンツ
を廻りゼノアに行く。

9月6日(曇後晴)

7.30ゼノア到着, ホテルメトロポリに到着。昼食後
ゼノアよりカモグリ迄海岸線をドライブ, バスの前に大
きな日章旗を付けて走るので通行人が珍しがって皆後を
振向いて行く。此の辺りの光は恐らく北伊太利随一であ
ろう。入江続きの海岸線と丘陵の木々の緑に赤い屋根の
家屋が点在する風光はとて筆にては現せません。

軽い夕食後21.00親善試合開始。

藤本(水球)は200プレストに出場軽く3分を切り柴
田はリレーに出場大活躍,

ポロは当地クラブと対戦せるも中々手強く4対4の引
分け, 決して勝てぬ相手ではないがゲームより10日間近
くも速ぎかっている上練習も充分出来なかった為やっ
と後半になって調子を取り戻したが既に時間がなく残念で
あった。尙当クラブより2人のオリンピック選手を出し
ているイタリー全体のレベルが高い為中々いい選手がい
る。競泳の選手が実に一生懸命応援して呉れる, 此の次
は是非勝ちたいものである。

9月7日(晴)

朝4.30柴原氏, 通訳氏と共に16人組を迎えに駅に行く
連絡が悪く10.30迄待つ。イタリー人の悠長と御付合い
するには忍耐がいる。昼食後バスにてゼノア市内見物,
ピクトリヤ広場——海岸通り——港湾ターミナル——コ
ロンブス銅像——ゼノア市一望の高台——無名戦士の記
念碑——ホテル帰着16.00。

夕食まで水球全員にてゼノアの海岸ニューリドにて地
中海の鯨よろしく大はしゃぎ。

夕食後20.30より試合開始, 本日は水球はなく競泳の
相手が全部米国選手である。皆頑張って泳いだので観衆
も盛に拍手を送る。水球チーム丈で400継泳に出場,
柴田, 青山, 宮村, 藤本4分7秒。

正式夕食後ホテルに帰着。

9月8日(雨後曇)

ゼノアより12.00頃ローマに到着。

来伊以来の雨である。午後買物自由行動、選手村に帰り荷造り、一同出したり入れたり一騒動。

9月9日(晴)

5.30起床、フミッチーナ空港(ローマ郊外)に行く。未完成ではあるが中々立派なターミナルである。ユーゴ一航空会社の飛行機にて約1時間半モスター郊外の飛行場(?)に着く。トラップが無いので椅子を積み重ねて降りる。女子は一苦勞、送って来た飛行機は直ぐ帰って下ろす。イタリーとは大分感じが違って殺風景だ。銃を持った兵隊が各所に立っている。此の時の団体行動のよかった事、集合やバスの乗降は実に敏捷である。何時もこうでありたいものだ。二台のバスに分乗お互いの安否を気付かいつつモスター市内に向う。

山は荒れて風が強く一日中吹いている。全くの田舎町併し我々の接待に当って呉れた人々は皆親切で一生懸命やって呉れる。午後プールにて練習、水温18°

当地では水球試合がない為競泳よりは時間を掛けてやる。30分以上続けると冷凍人間が出来上る。夕食など非常な歓待である。鵜田氏5階の最端の一人部屋なので盛んに寂寥を嘆いていた。

9月10日(晴天なるも風強し)

朝食後歩いて市内見物、市場、寺院塔、トルコ支配下当時の古橋等。

午後練習、昨日より水温は低い、ユーゴ一の選手は寒いと云い乍らも相当時間泳いでいた。

9月11日(晴相変わらずの強風)

午前休養

午後練習後19.00より親善試合。競泳は問題にならぬが平泳ぎだけは男女とも強い。飛込み1人2発ずつ風が強かったので大分苦勞している。夜は何時も乍らの歓待。

9月12日

午前バス遊覧、モスターより約45分、山奥の泉に行く断崖の下よりこんこんと天然水が湧いている。途中葡萄棚のレストランにて少休止。練習後19.00より強風の中にて親善試合開始、昨日負けたレースも本日は全部お返しをして抑える。小柳氏のコミックダイブ、昔とった杵柄にモスターの人々も大喜びであった。始めの内は取つき難いが慣れて来ると皆親切である。

9月13日(晴)

7.10モスターを出発、バスにて高原を疾走、途中少休止の後約4時間後ドブルヴニックに着く。

旅慣れているせいか女子の佐藤選手はあの窮屈な永バス旅行中御睡眠の連続で恐らくユーゴ一高原の素晴らしい風景は御存じあるまい。インピリアル・ホテルに到着

き昼食をとる。モスターとは違い全体が非常に明るい海岸町である。映画『バイキング』も当地で撮影したとか古い城壁に囲まれた中世紀のそのままの感じである。此処は又ユーゴ一水球の発祥地であり、親善試合もポロがメインイベントである。郊外高台にあるパンガロー風のホテルに旅装を解く。海水浴、市内見物に楽しい午後を送る。

20.00より海岸城壁内の海水プールにて親善試合を行う。競泳は全々相手にならず物足りない位である。塩水プールの為か皆記録が非常に良い。観客はスタンドが一杯なので城壁の上まで人垣で埋まっており、海上からはボートに乗っての観戦である。ポロはオリンピック選手が2名も入っていて中々強チームである。前半高木独特のシュート、後半清水のタイミングを外すシュートと得点するも敵に5点を許す。照明が悪くG・Kは非常にやり難かった。ユーゴ一の国民性を現はした様なチームで派手なプレーはないが実に質実剛健で確実に得点して来る。我軍もチャンスは相当出来るのであるがバスが悪く返へて敵の好機となって下ろす。併しオリンピック大会前よりは可成身体の大いのに当り慣れをして来た。夕食後帰舎。

9月14日(晴)

朝食後二班に別れ飛行場まで約40分双発2台にてザグレーヴに向う、約1時間ザグレーヴの飛行場より国際見本市に行く。市長歓迎挨拶の後トレーラー車にて場内を一巡各国とも盛大に展示していた。バスにて市内見物後試合場に向う。競泳は相変わらず相手にならず。

本日の相手は昨日よりも手強くオリンピックのレギュラーが2名ばかり入っている。非常な低温で後半は完全に冷えきってバスも飛ばなければプレーまで縮かんでしまった。ハーフタイムでも敵は漬り放しであるのには慣れとはいえ驚いた。耐寒訓練の要あり。前半は相当いい試合をしたが後半はすっかり敵に圧せられ11対2にて惨敗す。夕食後夜行列車でベオグラードに行くべく駅まで来るが指定予約係との喰違いがあり先発40名が20名になり散々である。プラットホームで待つ事約1時間半次の汽車へバラバラに乗車若い者達は心細くて頻りに連絡に来る。

9月15日(晴)

6.30ベオグラード着、パレスホテルに到着。

朝食後昼まで休憩の後市内見物、ダニューヴ河畔の古城跡に行く。試合場までは大使館及び在留邦人が沢山応援に来て呉れる。

ポロは当地パルチザンクラブと対戦、オリンピック選手を混えて強力チームである。高木、清水各1点入れるも体格差は如何とも仕難く遂に9対2にて負、併し大分

大きいのに当り慣れして来て可成りいいプレーも見られた。ユーゴの国民性そのままのプレーで剛健そのものである。作戦的には高度のものではないが体力がありハンドリングの良さでは第一級である。ゲーム中の好機を擱える為にももっと頭を上げた泳ぎでなければならぬ。

試合終了後日本大使館にて夕食の歓待を受ける。大使夫人並びに在留邦人夫人連の心からの御馳走、久し振りの日本食、思はずバンドを弛める次第。海苔巻、稲荷寿司、にぎりめし、梅干、沢庵、福進漬、奈良漬、胡瓜の酢物、野菜の煮付、しらたき、紅生姜、蒲鉾、ワサビ、天婦羅、なすのしぎ焼、みそ汁等々。あまり食べ過ぎて外に出て体操をして又第二回戦をやってる者もいる。併しよほど準備したとみえて遂に我々の征服する事は出来なかつた。最後のお茶の美味かつた事本当に有難う。

9月16日(晴)

朝ベオグラード飛行場よりユーゴ航空2機にて出発ミスターランパーサー、ミスターネナノヴィッチ色々御世話になりました。何日まで御元気で御機嫌よう。約1時間半の後、ブタペストに着きホテルアストリアに行く。昼食後市内見物、戦前ヨーロッパでは一番美しく整然とした都と聴いていたが第一次大戦及び5年前の動乱にて町中は相当損んでいる。方々に弾痕が見受けられ当時の市街戦の物凄さが想像される。丘の上にある城跡に建てられた平和の為の記念碑は実に雄大で立派なものだ。此処から大きさ水量ではヨーロッパ第一のダニューヴ河を挟んでブタペストの市が足下に一望される。我々専用バスの運転手は髭を生し恐い顔をしたオッサンであるがその声実に可愛いので一同大喜び、男子背泳の渡辺選手などこの声が聴き度くて何時も一番先に乗り込んでオッサンの傍の席を占めあまりイカスのでオッサンと同じ帽子まで買い込んで了った。電車の運転手、車掌等女の労働者が多いのには異様に感ぜられる。

豪華な部屋のホテルにて旅の疲れを癒す。

9月17日(晴)

ダニューヴ河の二又に別れた大きな州の様な島に水泳場其の他の設備があり市の中心に近く一大遊園地がある。

朝食後10.00より11.00まで練習。

水泳場は実に立派なもので室内に33米(水球用)と子供プール、室外に33米、50米飛込みプールと温泉を利用した素晴らしいもので一年中使える。冬の寒い時などは更衣室より巾2米の運河を泳ぎ抜けて室外プールまで行く事が出来る設備も然る事乍ら従業員が非常に大切に何処も手が届いているので気持がよい。水温は常に23~24°が保たれ、温泉の出口36°位とのこと。

3.00入場式、オリンピックの顔馴じみがざらりという

プールのコンディションがいい為か競泳は皆記録がいい。富田日本新1:03.6、山中100m 55.7、メドレ4:12.2ハンガリーの申出により水球は新規則にて行ふ。正式な新規則の通知がFINAより来ないので一応レフリーの判定は従来通りで競技時間を5分づつの4回途中休2分が3回として行ふ。休憩時には最初に提出したメンバーの中より何人でも交替が認められる。勿論責任者よりの申出を必要とする。

世界水球界の元老ライキ氏(FINAの水球委員長)が興味深く注視している内に試合開始、泳ぎそのものでは負けないがゲームに対する判断と身のこなしが非常に早くちょっとの間でもチャンスにするのが上手だ。合せてハンドリングが素晴らしいのでG・KよりF・Wにボールが渡るまで水付かずである。第2ピリオード藤本のハンド・ツー・ハンドは実に美事に決まり、敵のG・Kも見送る仕末。第4ピリオード高木得意の引掛けを決める。途中浅沼、青山、柴田と逐次交替せるも敵の猛攻の連続に遂に12点を許して了った。

突込み態勢が実にいい。特にゴール前6米辺りから2米までのコースの取り方、体格差もあるが最後の伸びなどとてもよい。勿論最初の位置の取り方もよい。常に頭が上っているのでゲーム中の対応が早い。チャンスとみると思はぬ所からでもシュートして来る。併し無駄なシュートは無く無理だと思ふと執拗にパスをしながらキープをして次のチャンスを狙う、非常にいい勉強になった。

我々チームも一試合毎に上達して行くので競泳の連中もスコアの差は別としてこれが真の水球だと盛んに声援して呉れた。

9月18日(晴)

午前練習、日曜日の為プールは家族連れで一杯であり日光浴の非常に好きな国だ。

さすがに水球王国である。早朝よりクラブ対抗の連続で、丁度日本の草野球並に普及している。ブタペスト丈けでも数拾のクラブがありその中より選ばれた者が更に雌雄を決して出て来るのだから強いわけである。壘球チームまで対抗戦をやっており身体不具者でも水から上がらねば分らぬ位元気な者と一緒になってやっている。観客も沢山いていいプレーなどすると盛んな拍手である。一試合が終りそうになると次のチームが準備万端して待機しており次々とゲームが行はれる羨しい仕方である。練習後ブタペストの高台にある寺院並びに城跡を見物に行く。

昼食後14.00より試合場に行く。

日本が来欧以来40日の最後の試合なので一同大張切、競泳は無理な旅の最後にも拘らずよく頑張って日本新2

ツ。本日のハンガリーは最強メンバーG・Kキャルマテ
ーマルコピッチ、キャルパターと皆3回以上もオリンピ
ックに出場しているヴェテランであり残りが又ローマに
来て活躍した優秀なメンバーである。

実にもうまく味方ゴール前では少しも油断出来ない。彼
等にしてみれば6〜7米はシュート圏内である。パスが
いいので突込みをする者が思い切ったプレーが出来る。
猛攻の前に遂に点を許して了った。第3ピリオードで高
木が清水よりパスを受け敵左側コーナーに半ループを決
めたのが結局唯一の得点になって了ったが皆非常によく
泳いだ。チャンスが出来るのであるがパスが通らなかつ
たり、通ってもタイミングが合はなかつたり、個人のプ
レーが一杯で今一步のコンビネーションが必要である。
3カ国に亘る強い旅遠征であったが最後の試合まで身体
を悪くする者もなく皆よくやりました。

試合出来は遠征の疲れもあったが、90点を付けてよい
であろう。特にベテランの根性と新人のファイトを買
う。

20.00 よりハンガリー水連の主催で心のこもった晩餐
パーティーを開いて呉れた。ハンガリー最後の夜は実に
楽しかった。

9月19日(ハンガリー晴 ローマ雨)

早朝食後二班に別れて空港に向う。

9.30双発機にてローマへ出発、紳士スタイルのライキ
氏が大きく帽子を打振って送って呉れた。御好遇を深謝
す。何日まで御元気で。Mr. ライキ。

ローマ郊外フミッチーナ空港に着く予定であったが天
候が悪く約3時間半も掛りチャンピーノ空港に着く。途
中悪気流にもまれること1時間半皆すっかりグロッキー
になって了ったところ意地悪阿部チャン写真をパチパチ
後発機が中々来ない。方々に電話する内やっと連絡とれ
る。後発機はフミッチーナ空港に着きバスにてチャンピ
ーノに一行を連れて来る。一安心。ローマはひどい雨で
宿舍アクア・アセトーザに着く頃は益々強くなって来た。

20.00 まで買物自由行動、ローマ最後の日なので皆雨
にもめげず濡れ乍らも町に出て行く。我々の気持を察し
てか17.00頃にはすっかり上がって了った。明日より長
い間御世話になった志村文一郎氏とお別れである。社用
でまだ欧州を廻って来なければならぬとの事、色々有難
う。御元気で文チャン。

明日空港での計量が心配で4kgに収めるのに一苦労、
コートの袖を縫ったり凡そ着物と名の付くものを全部着
込んで一本刀土表入の駒形茂平みたいになつたり大騒ぎ
である。此時位い4kgが軽く感じた事はなかるう。明日
案内空港は素通りするのではなかるうか。

帰国飛行記

9月20日(晴)

朝食後帰国手続の書類を整理、志村氏は我々より先に
出発。

12.00 宿舍(アクア・アセトーザ)より何時もの馴れ
た道を通り又名残を惜みつつチャンピーノ空港に向う。
ターミナルの通関では全々計量をしないので一同ほっと
したり逆に拍子抜け。

15.35 S A S機は快調なるエンジン音を轟かせ乍らチ
ャンピーノを出発 ARRIDEVERCHI ROMA。

左手にスイスのアルプス連山を見ながらコペンハーゲ
ンまで昨日とはうって変わった快適な空の旅。コペンハー
ゲンで約1時間の休憩、その間買物等にて時間を潰す。

飛行機を乗替え夜空を一路アンカレーヂへ。

9月21〜22日(晴)

コペンハーゲンを出て途中ノールウエーのボーダーに
給油の為真夜中に寄航、磯の薫りがするターミナルにて
約1時間休憩の後再び飛翔を続ける。皆旅馴れて来たせ
いか静かである。あまり食欲がないが出されると平らげ
て了う。喉ばかり乾く。北極近くなりふと窓の外を見る
と美事なオーロラだ。快晴にして星の煌く北極夜空にく
っきりと浮んでいる。大きなカーテンを上げた如く又そ
れが風にはためくかの如く刻々と変化して行く。少々目
を離して又見ると先刻とは全々変わった型のオーロラが夜
天空に浮んでいる。蛇の様に竜の様に大きなフラフープ
の様なそしてネックレスの様に下は雲か海か氷原か!!
北極よさようなら。

ダグラスDC-7Cは暗室にエンジンを赤々と燃しながら
快飛を続ける。アンカレーヂに休憩の後、機は南下し
東京に向う。何日の何時なのか時間の観念が少々怪しく
なる。白雲原が何処までも果しなく続く。食事をするが
朝か昼か夜か区別がつかぬが、日附変更線をすぎたばか
りだから朝食にして置く。

10.00 (日本時間)懐しの日本が遠く霞んで見える。
段々眼下に広がって来る。松島辺りらしい。山々の線が
目にしみる富士山が遙か右前方の雲上に悠然と頭を出
している。一同思わず『日本はやっぱりいいなあー』。
利根川、筑波山、霞ヶ浦、木更津、あっと云う間に東京
湾である。皆身の回りの整理に忙しい。羽田では盛大な
る歓迎であった。本日は皇太子様がアメリカに訪問され
る日とか。良き御旅行である事を祈りつつ羽田を出て国
立競技場へ。

体協の日本選手団解団式の後スポーツマンホテルにて
水連、派遣選手の解団式を行ふ。留守の皆様御苦労様で
した。皆無事に帰って来ました。必ずしも満足すべき成

績ではありませんでしたが、此の貴い経験を今後対外試合に、そして来るべき東京大会に必ずや生かし皆様の御

期待に添う覚悟であります。

マネジャーの任務を終えて

志村文一郎

東京で約20日間、海外で40日間通算約2カ月のチーム行動でありました。

正式の経過報告は別に纏めるとして今回は不取敢裏話的なものという編集委員会よりの御註文であります、特にとって置きの話があるわけでもありません。

何れにせよ東京オリンピックを控えて今回の代表選手団の体験は内外から充分吟味され今後の施策に生かされなければならないものと考えます。従って虚飾なく、又誇張もない報告が必要とされるのでありますが、正直の処選手の懸命の努力にも拘らず成績が好意的な期待を下廻るものであった事がどうも筆を重くします。結果論的に云えば、我々の選手、我々のチームには何か欠陥がなければならぬし、米豪両チームには何かよい点がなければならぬのですが、私の身最負もあります、大世界帯であったにも拘らず、今回のチームそれ自体はよく纏って居たと思います。

今回のチームは競泳男女、飛込男女及び水球が一括水泳チームとして行動したのでありますが、当然まあ個々の練習、競技スケジュールを持っているのでありますから、之を纏めるという事が一つの問題でありました。例えば競技時間に付いても飛込は朝8時半から始まるので6時に起床し6時半出発でプールに行かねばならず、逆に水球は夜11～12時から競技時間で村へ帰って夜食を食べて寝るのは2時になるという様な事があり、然も競泳は各日2～3種目が午前、午後乃至夜と3回に分れてあり出場する選手と練習する選手と競技が終了した選手とが居り、夫々のスケジュールによって行動する事となりますので競技中の10日間は覚悟はして居りましたもののテンヤワンの忙しさでした。

この様な日課にも拘らずチームとして纏っていたと云えるのは選手が進んで統制の内に入って呉れた事、役員が相互によくカバーし合った事によると思います。殊に主将には自分の競技以外にこの様なチーム行動の面で可成りの負担をかけざるを得なかったのでありますが、各主将共寧ろ積極的にこの役を引き受けて呉れた事が非常

に力になりました。

自分の非力を棚上げした形で推論すれば、この様な競技日課を前提とすれば役員は今回のチームの場合手不足でありました。殊に女子のシャペロンは本部の桑名さんに殆んど水泳専門と云ってよい位非常なお世話になりましたが、出来れば、水泳チーム内にシャペロンを持つ様にす可きだと感じました。逆に云えば日本の場合には役員が引率するという形で選手を掌握して居りますが、今後は全般に亘る要所を指示するに止められる様集団行動の訓練を日頃から充分に行って置く必要もあり、又役員自身何もかも背負い込む事は却ってチームの行動を制約する面のある事を反省する必要があると思いました。

一番心配したのは健康でしたが、幸に大した事故者もなく済みました。唯肉食偏重のせいが消化不良の下痢を起した者、馴れぬ環境と精神的緊張によって筋肉痛を起した者が出ました。

合宿を通じ食事については成る可く米飯やパンを食べず料理を主に食べ肉食に対応して野菜を多く摂る様指導しましたが、矢張り洋式の食事は重いという感じが抜けなかった様です。競技スケジュールに入ってから殊に握り飯に味噌汁といった食事が喜ばれた事は食習慣の変え難さを感じさせられました。

この握り飯は日本大使館の差入れ品と桑名さん等シャペロンの方々に作って頂いたもので大変助かりましたが逆に云えば選手村の食事で充分間に合う様に食習慣を変える事が今後の課題だと思えます。

筋肉痛の問題はチームドクターから専門的な報告が発表されるかと思いますが、競技前寧ろ調子を控え目にして練習スケジュールになってから起って来たもので、競技に対する緊張感とその一因であったと思います。勿論競技に際して全然緊張感のない選手は内外を通じてあり得ないと思いますが、今回のチームの場合には特定の選手に背負い切れぬ位の期待が寄せられていた事が反省されなければなりません。之は当然善意の期待であり、又勝つ事を目標とした場合には強い者が注目される事も又

避けられぬのでありますが、今後の選手の養成の方向にも関連して反省すべき点があるのではないかと思います。この点今回のチームの中心となった山中、大崎、田中の三選手は非常に苦勞したと同時によくやったと思います。

私は勿論オリンピックは初経験でありますし、又チームマネジャーとしても日米対抗の経験丈けでありますので誠に非力で監督始め諸コーチの適切な指示があつて漸く何とか相勤めたという実情であります。従つて色々な事を経験しましたが扱となると消化不良で纏りません。10日間に亘る競技会を戦い抜くので精一杯だったというのが私の正直な感想であります。勿論私は標準にはなりません、何れにせよ余裕なくしては勝ち得ないのがオリンピックだと思います。米豪チームにあつて我々になつたものはこの余裕ではなかつたかと感じます。吾々のチームの選手はその選考事情からしても米豪に比しかけ換えのない選手でありましたし、殊に世界的レベルに於ては余りにもかけ換えが過ぎました。東京で

勝つ為にはアメリカ並とは行かなくても、もっともっと選手層を厚くする事が先決ではないでしょうか。又国際試合の経験にしても食事の問題、言葉の問題にしても日本の選手は残念乍らハンディキャップがあります。これをうめて尙余裕を持つ様な態勢を作る事が今後の大きな課題でありましょう。

今回のチームは装備の面、生活給与の面では体協よりの援助もあり、恐らくは誠に恵まれた所遇を受けたと思います。屢々合宿で利用した、国立競技場スポーツマンホテル、東京都屋内プール、最終合宿でお世話になつた山の上ホテル、神宮プール、装備面で絶大な協力を頂いた白木屋の関係者の方々の御好意も私にとっては忘れられぬものであります。又海外にあつてはローマ、ベオグラード、ブタペストの大公使館の方々、選手団本部の役員諸氏、等数多くの方々の好意を受けた事を報告し感謝の意を表し度く存じます。

余りにも大きな体験でありました為消化不良で甚だ纏りない事となりましたが、不取敢の報告と致します。

全国理事会及び在京代議員会決定事項

注：理事会、代議員会の議事録は次号本誌に登載の予定です。

去る12月4日(日)10時より丸ビル精養軒において、ローマ・オリンピック大会の報告を主とし全国理事会及び在京代議員会が開催されたが、主たる議事事項は次のとおりであった。

1. 報告事項

ローマ・オリンピック水上競技の経過と成績につき小出監督、安部名誉主事、太田、柴原、鷗田、各コーチより夫々担当部門別に詳細な報告があつた。

なお、競泳、飛込、水球とも夫々反省すべき点は早急に検討し東京大会に備へるべき旨説明があつた。またFINA総会において安部氏がFINA名誉主事に選出されたことも併せて報告された。

2. 決定事項

1) 次期会長選出方法

来年1月末開催の定例全国代議員会において決定されるべき次期会長問題は、今後の強化対策遂行との関連もあり重大事項であるので、1月15日(予定)東京において、全国各ブロック代表8名、執行部3名、学生部会3名、顧問代表2名、評議員代表2名計18名が参集し、選出方法等を協議することとした。

2) 東京オリンピック大会の強化対策東京大会のための強化方針、対策等を早急に講ずる要があるので、会長問題とは別に別途全水連の衆知を結集した強化委員会を設け強力に推進することとした。(構成等は未定)

(編集)

F.I.N.A. 関係概況報告

安部輝太郎

会議、議事録等一部未着のものあり、詳細報告は此等
が揃った上の事として、余り時が経たぬ内に概要なりと
も御報告する必要があると思うので、茲に小生担当部面
の概略を御報告します。

1. F.I.N.A. 総会

8月22日は第一日、9月5日に第二日を開催、総加盟
国77カ国の約9割代表等の約100名が出席した。

a) 新加盟国としてソマリが認められ、一方シリアと
エジプトはアラブ連合の名の下に合併することになっ
た。

b) 東独が中共と試合した事に対する処罰は8月1日
迄加盟停止とした名誉主事の処置が承認された。

c) 競技規則の改訂に関し多数の提案があったので、
此等は各専門委員会で討議の上理事会で審議し、総会第
2日に之を採択することとした。其の結果、競泳には大
した変更はないが飛込は種目等に可成りの改訂がなさ
れ、水球では正味競技時間を5分毎の4ピリオドとし、
間に2分の休憩を入れますと、各ピリオドの終りにメン
バー交替をしても良い事等が大きく変わった。シンクロは
全面的に新しいルールが採択された。

此等新ルールは1961年4月2日から実施されることと
なった。

d) F.I.N.A. 財政は英米の預金と株式投資を併せて時
価合計約1千万円の残がある。

e) 加盟国の増大に鑑み、理事会並びに各専門委員会
の定員を増大し、原則として各大陸から少くとも1名を
選出することとした。

f) 加盟金は今迄の三階級を廃し、一律に年15ポンド
となった。

g) オリンピック申込制限を昔の通り各個人種目3名
とし、尙水泳のプログラムが淋しいので新種目を追加す
る様、此の2点に付いてIOCに強く要望することが決
議された。

h) 第2日の役員改選で理事会構成は下記の通り決っ
た。

会 長	R.M.リッター	(米)
名誉主事	安部輝太郎	(日)
名誉会計	E.J.スコット	(英)
副 会 長	B.ザルフォース	(瑞)

理 事	W.B.フィリップス	(豪)
〃	J. デヴリース	(和)
〃	B. ラ イ キ	(洪)
〃	A. de O. サーレス	(香)
〃	G. リ ガール	(仏)
〃	H. ゲ ッ ツ	(南亜)
〃	B. バイヤー	(西独)
〃	A. ランバサ	(ユーゴ)
〃	V. ペルコッコ	(伊)
〃	S. フィルソフ	(ソ連)
前 会 長	R. デラールヴ	(白)
〃	M. ネ グ リ	(アルゼンチン)

2. 理 事 会

順序が逆になるが6月6日の上記新理事会で、各国際
専門委員会が下の如く任命された。

a) 競泳委員会

長	L. ジョンソン	(米)
副	S. グランヂ	(豪)
名誉主事	清川正二	(日)
委 員	L. デュッシュマン	(仏)
〃	J. モ レ ラ	(亜)
〃	H. ランストローマー	(瑞)
〃	M. ベッケン	(伯)
〃	A. プ リ ー	(南亜)
〃	P. ハ ウ チ	(加)
〃	E. グブハート	(西独)
〃	G. オストス	(メキシコ)
〃	K. イタアセヴスキー	(ソ連)

b) 水球委員会

長	B. ラ イ キ	(洪)
副	A. キチアコフスキー	(ソ連)
名誉主事	W. タイヴァー	(英)
委 員	V. ポリック	(ユーゴ)
〃	A. コ デ カ	(伊)
〃	S. ウッカーマン	(瑞)
〃	J. マホーニイ	(米)
〃	M. セ グ ラ	(アルゼンチン)
〃	T. バタイエ	(亜)
〃	H. セ ー ド	(アラブ)

〃	H.W.ウイングリー	(香)
〃	H.A.ドナー	(豪)
c) 飛込委員会		
長	L. ヴェンデヴェン	(白)
副	R.J.スミス	(米)
名誉主事	G. マトヴィエフ	(英)
委員	柴原恒雄	(日)
〃	L. クリグスタイン	(豪)
〃	R.B.ホニクマン	(南巫)
〃	G. ダルマツ	(伊)
〃	H. プルマン	(西独)
〃	G. ヴーロク	(ソ連)
〃	A. マリスカル	(メキシコ)
〃	G. マイヤー	(豪)
〃	E. プッサール	(仏)

d) シンクロ委員会		
長	J. アームブルスト	(和)
副	R.G.デパルド夫人	(メキシコ)
名誉主事	J. クッシュマン	(米)
委員	白山源三郎	(日)
〃	J.H.モリソン	(豪)
〃	Y.E.エルディン	(アラブ)
〃	K. ジャコビ	(西独)
〃	H. ワーレン	(加)
〃	L. デテイエ	(仏)
〃	S. ショーン	(東独)
〃	E. アマット	(西)
〃	バシ・アリ・シャイク	(パ)

此の他、理事会(旧)はオリンピック運営委員会を兼ねて競技役員を選任等を行う他、又上訴審判として抗議の処理に当たったため、8月22日、28日、31日、9月1日、3日、と頻りに開催された。

競技役員として日本から参画したのは樋口会長、清川、北村の三氏が決勝審判、途中審判を勤められ、計時員には白山源三郎氏と間島鉄柱氏を委嘱した他、飛込審判には小柳氏が当り、何れも各国役員に伍して出色の手腕を発揮された。

3. 審判問題

男子100m自由形で、1着デヴィットと2着ラースンの判定に米国が再々強硬に抗議したので経緯を説明すると下の通りであった。

a) 先づ決勝審判法であるが、プールの左右に各10名の審判員がヒナ段に位置して見るのだが、1952年以來のリッター(米)方式で「君は1着を見ろ、君は3着を見ろ」と云うやり方(之には日本は常に強く反対して来

た)此の場合、デヴィットを1着と見た者が2名で、ラースンが1名(皮肉なことに此の1名は豪州の役員であった)処が2着はデヴィットを申告した者が之亦2名でラースンだとした者が1名であった。

茲で、決勝審判の投票では両者共甲乙ナシとして、エレキに頼るべきだったと僕は思うが、審判主任が更に一票、デヴィットを1着と入れたので1着の票が3対1とバランスを破り、審判長はエレキを無視して此を採ったものである。

因に此の時の審判長ザルフォースと審判主任ランストローマーは共に瑞典人で、米国は審判主任には投票権は無い。インチキだとイキ巻いたものだった。

オメガのエレキの結果は

	ラヴィット	ラースン
	55.2	55.0
	55.2	55.1
	55.2	55.1

と明らかにラースンの優位を物語っていた。

上訴審判会議で「審判主任に投票権ありや否や」に付き採決が行はれ、「投票権有り」と決定したので「審判長の措置は不当でない」と云うことになり、米国の抗議は却下された。

然し上述した様に、僕が審判長ならば、審判主任の一票を受理する前に(或は之を無視してでも)エレキに重点を置いたであろう。

後日、アキラメ切れぬ米国は更に3種のビデオテープを提供して再考を要求した。理事会は、若しハッキリとした確証が写真で出て居たらば、既に優勝式迄済んで居ても判定をクツガへしても良いとして之等のフィルムを見たが残念乍らフィルムでは、ラースンの方が先に着いたであろうと思はれることは確かなんだがスブラッシュと水面反射の爲め、肝心の手先のタッチが映って居ない爲め、「証拠不十分」と云うことに終って了った。

斯ることのない様、東京大会では是非完全自動審判機の完成が要望された次第である。

今の様な手動ストップのエレキでは、エレキはエレキでも人的強差が必ず混入するからである。

飛込審判ではソ連の審判が1人退陣を命ぜられたのはオリンピックの一進歩であった。

水球のレフェリーも問題が多く、特にユーゴはカンカンに怒って「アノレフェリーなら試合をやらぬ」と憤りガイしていたが大分後味の悪いものであった。が之には仲々改善の決め手がなく困難な問題で、要は水球運営委員の識見と決断に掛るので、今度はデラーヴやデヴリーの勢力が薄れ、ライキが浮び上って来てるから、東京ではいくらか良くなることを期待して居る。

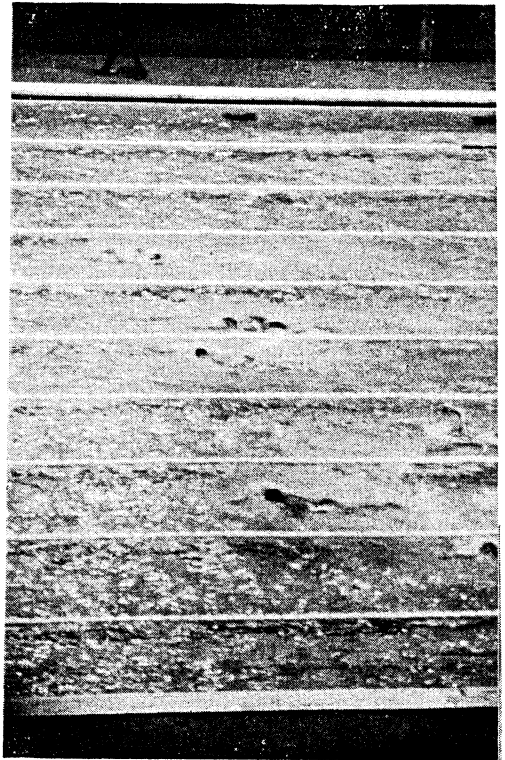
第17回ローマ・オリンピック水上競技大会



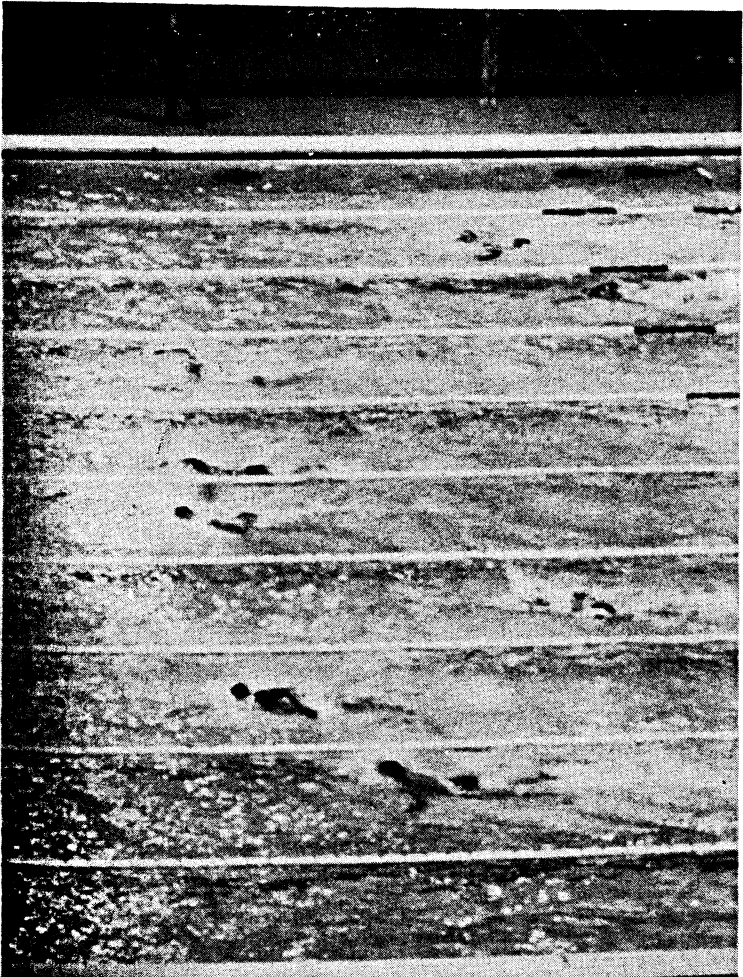
男子400m自由形決勝のレース経過 300m附近
 上から⑧レンツ⑦マクラクラン⑥ローズ⑤山中
 ④ソマーズ③ブラック②コンラッツ①福井



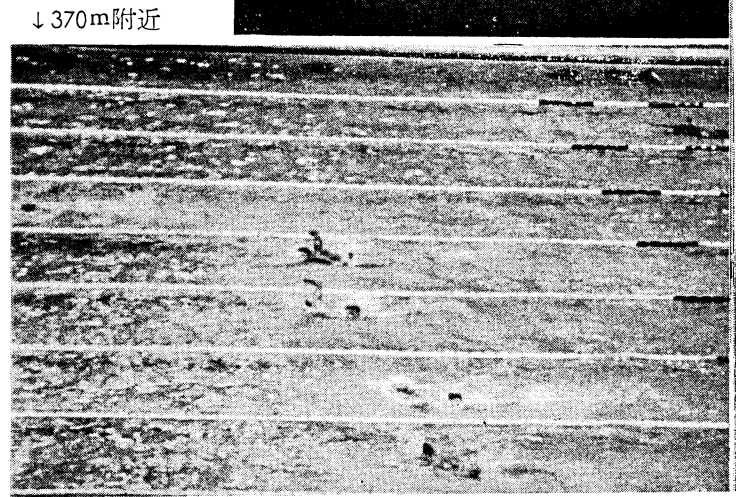
→ 男子400m自由形決勝ひるがえる日章旗。



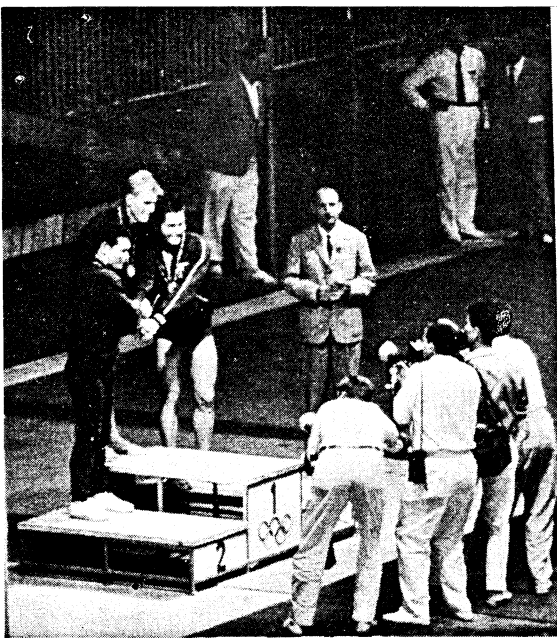
→ 300m附近



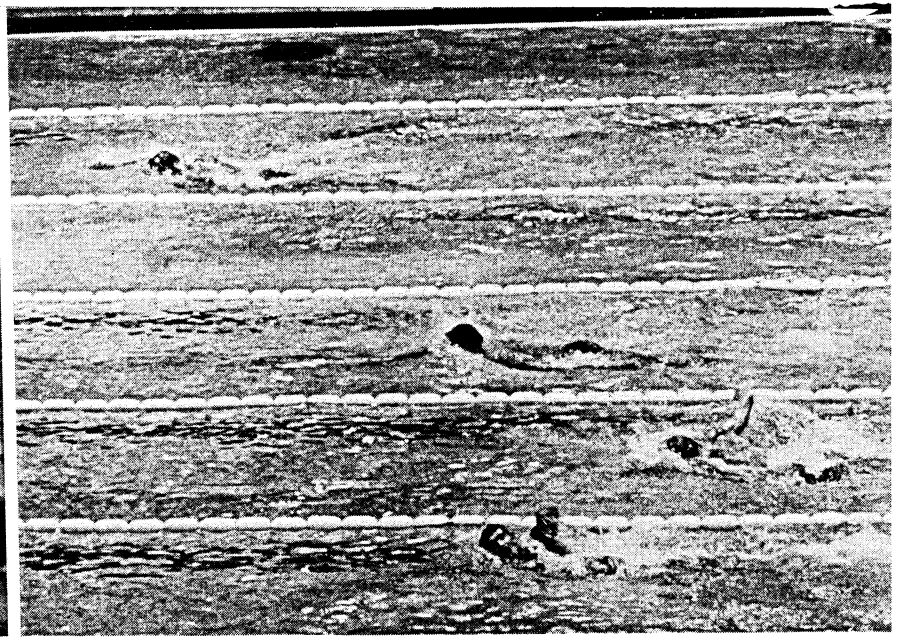
← 手前より福井、コンラッツ、ブラック、ソマーズ、山中、ローズ、マクラクラン、レンツ



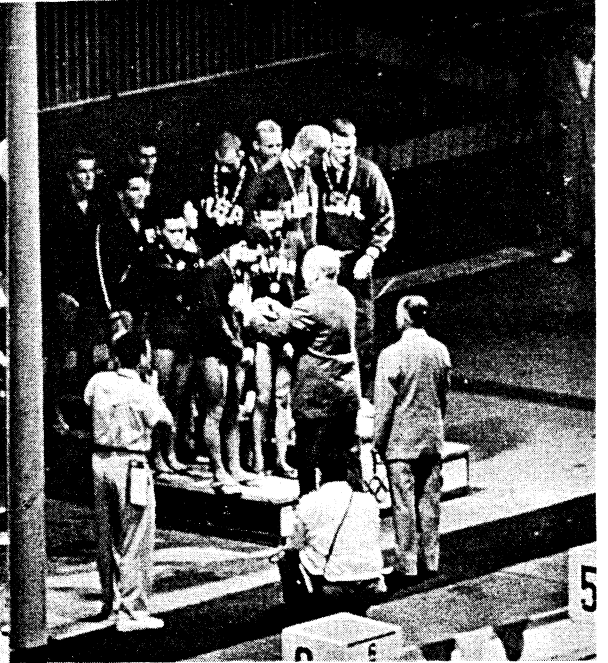
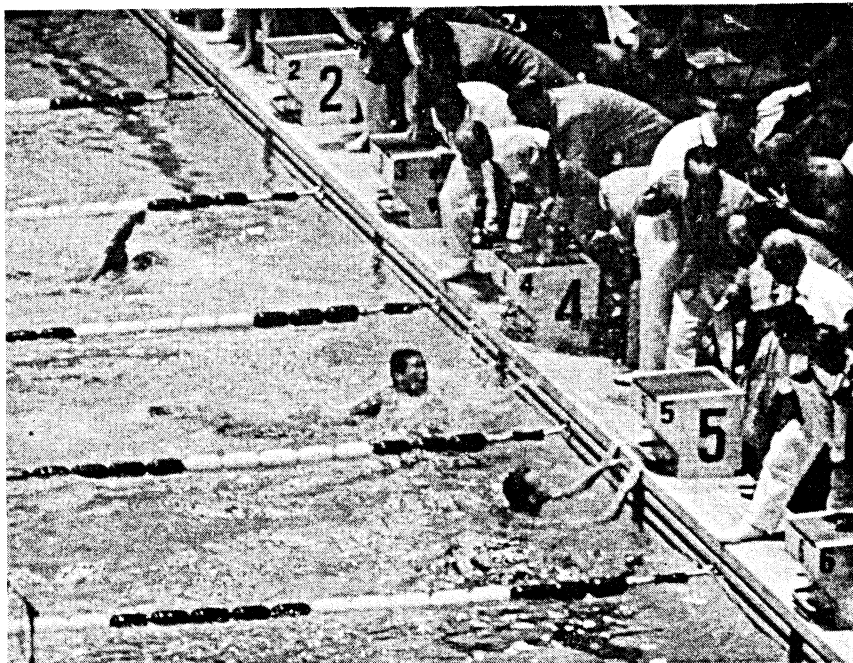
↓ 370m附近



↑ 表彰台の山中, ローズ, コンラッズ
400m 自由形。



↑1500m 自由形決勝, 1130m あたりの熱戦
手前から山中, ローズ, コンラッズ, プリン。

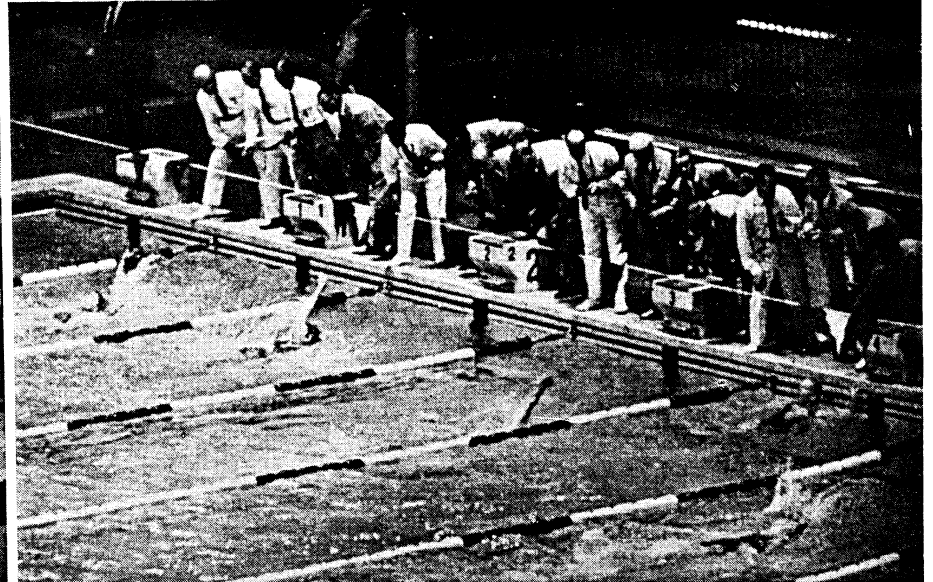


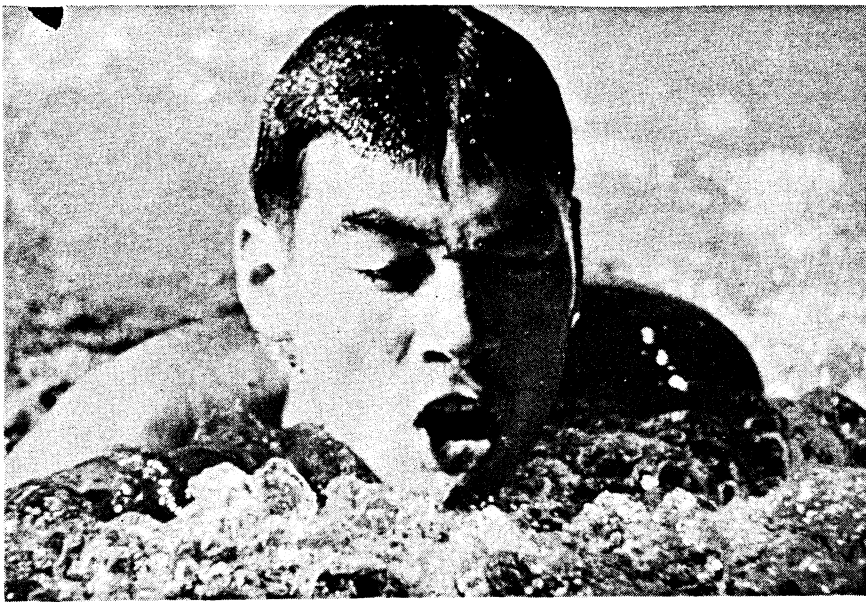
↑ 800m リレーのゴール
4コース 藤本選手のゴール・タッチ 3コース 豪州 (コンラッズ)
5コース アメリカ (ファーレル)。

↑800m リレーの表彰銀メダルを受ける山中選手
右からアメリカチーム (トロイ・ブリック・
ハリスン・ファーレル)
日本チーム (藤本・山中・福井・石井)
豪州チーム (デヴィット・コンラッズ・
ローズ)

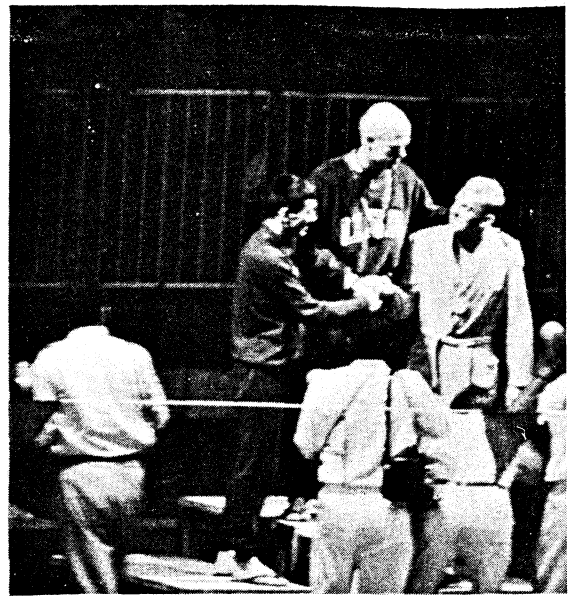
↓ 400m メドレー・リレーの表彰
アメリカチーム 左から マッキー・ハイト・ラースン・ファーレル。
豪州チーム // タイラ・ヘイズ・ギャザコール・シプトン。
日本チーム // 大崎・清水・開田・富田。

↓女子 100m 背泳決勝のゴール。左からピアセン
ティニ(5着), ステュワード(2着), 田中(3着),
パーク(優勝), ファンフェルゼン(7着)

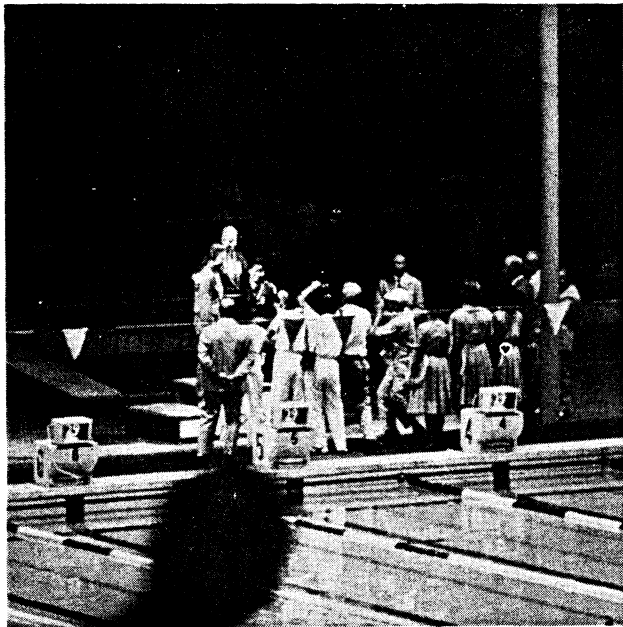




日本のお家芸 200m 平泳で見事銀メダルを獲得した
大崎選手の力泳ぶり。



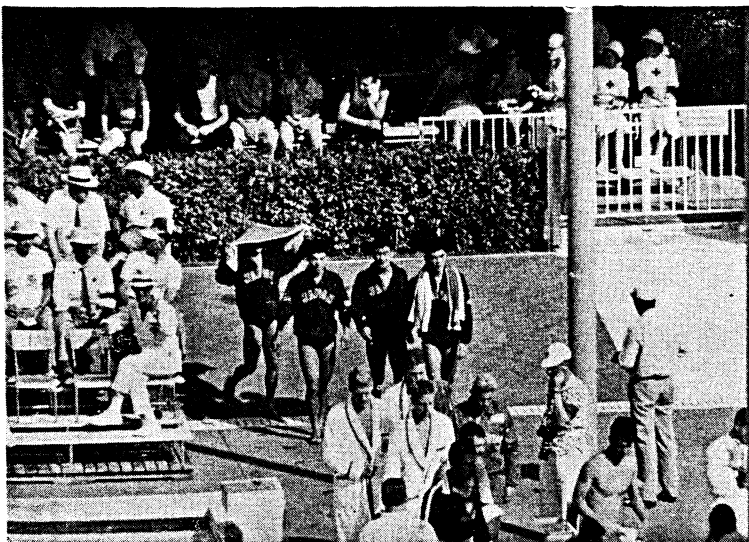
男子 200m 平泳決勝の表彰式
左より大崎選手，ムリケン，メンソニデス。



女子 100m 背泳決勝の表彰式
2着を占めた喜びの田中嬢（右端）パーク，ステュワード。



女子水泳のため気をはいた田中嬢。

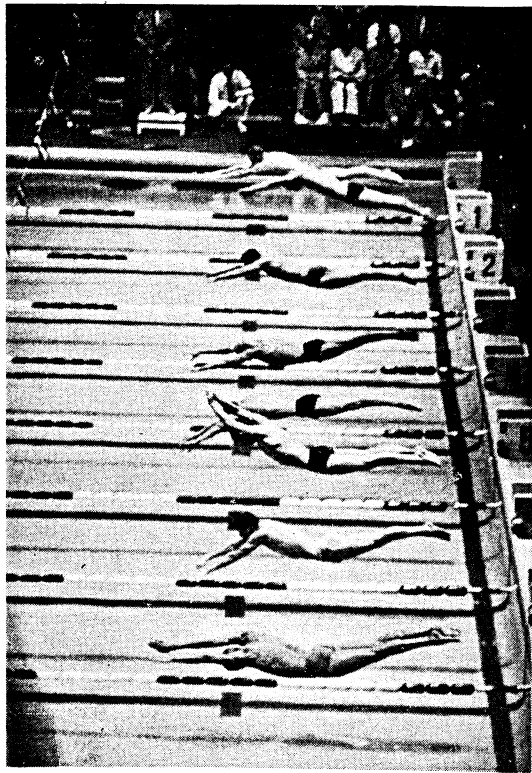


男子 400m メドレー・リレー予選出場の日本チーム
中央右より大崎・渡辺・開田・石原の各選手。

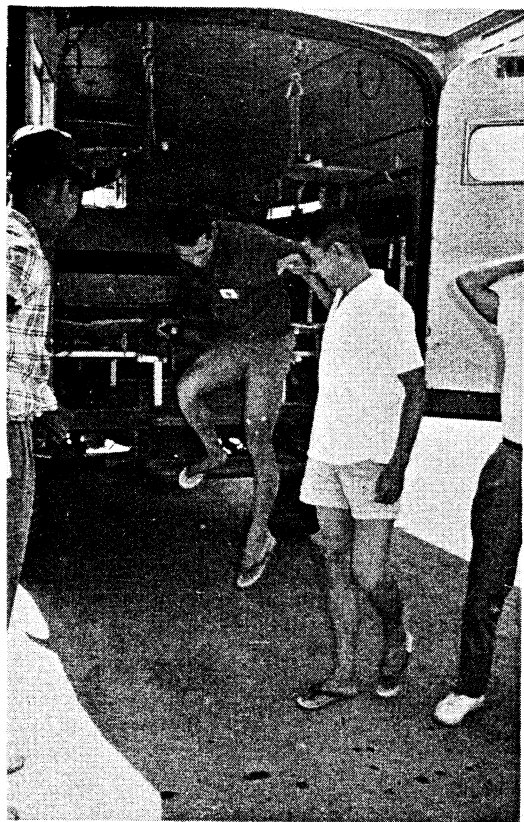


パーク嬢（左）と400m 自由形優勝の
フォンソルツァ嬢（右）（ともにアメリカ）。

（この頁は毎日新聞社提供）



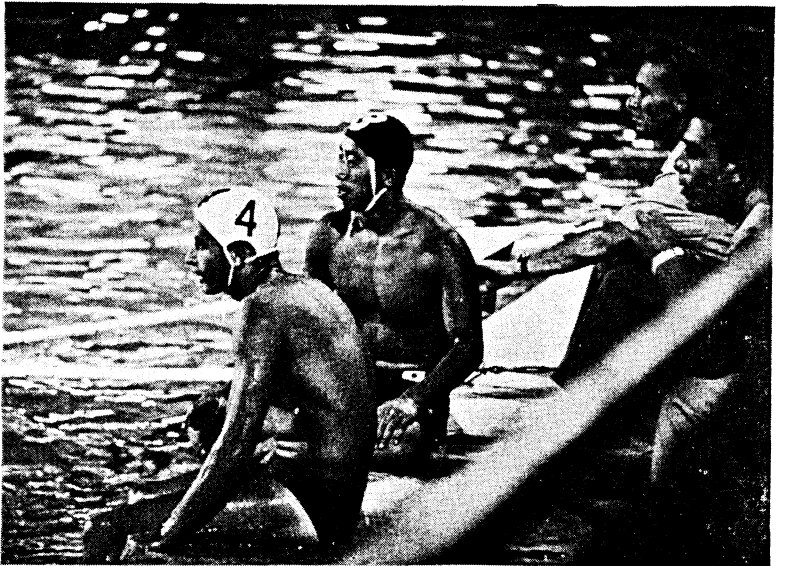
男子 100m 自由形決勝スタート。



練習中負傷，診察を受け宿舎に戻る山中選手。左より小出監督，山中君太田コーチ。



飛込チームの練習風景。
右より渡辺嬢、金戸君、柴原コーチ
津谷嬢、山野君。



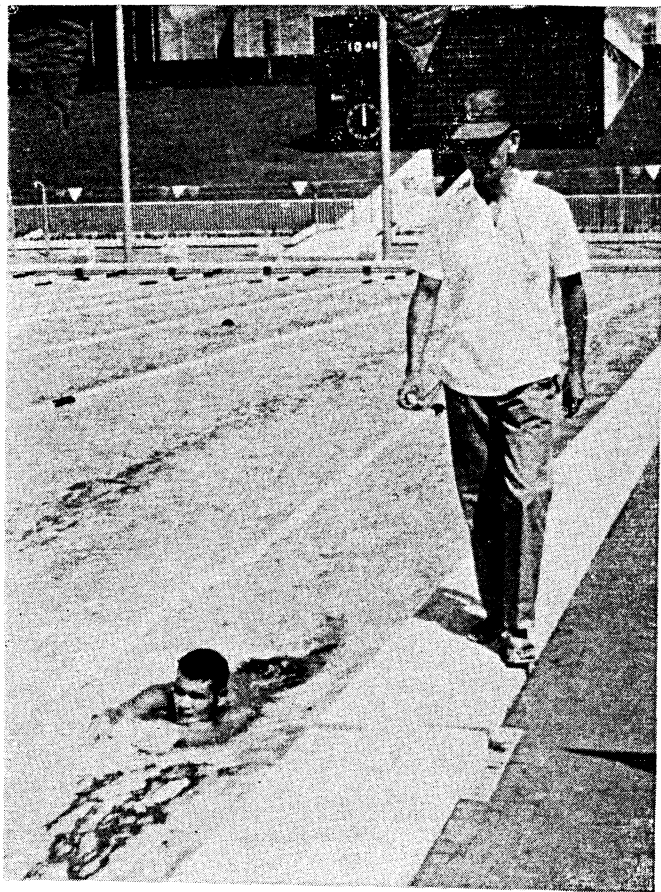
一九六〇・八・二五・日本対アラブ連合
三対三、水球試合中退水を命ぜられ心配
そうに見守る佐藤(孝)君。



オリンピック村にて……水球チーム。



ローマ市内にて
左より富田君、田中嬢、一人おいて
増田、吉無田君、赤樫氏。

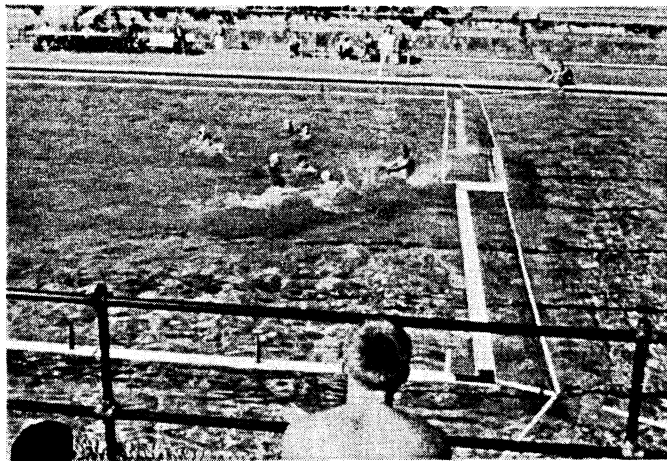


オリンピックプールにて太田コーチと山中君。



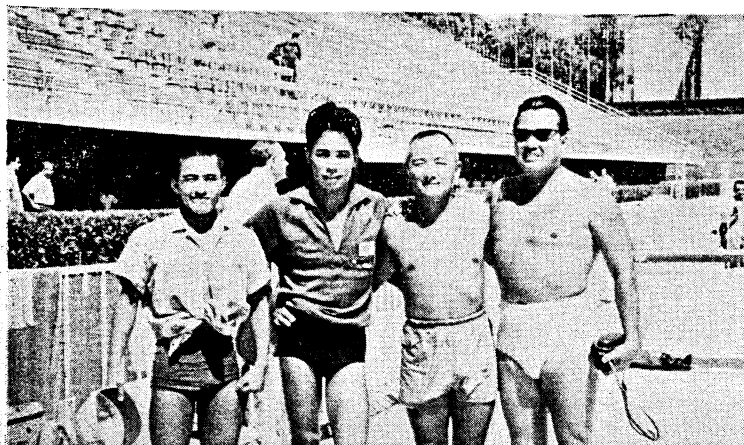
1960. 8. 22. マニエネ練習プール

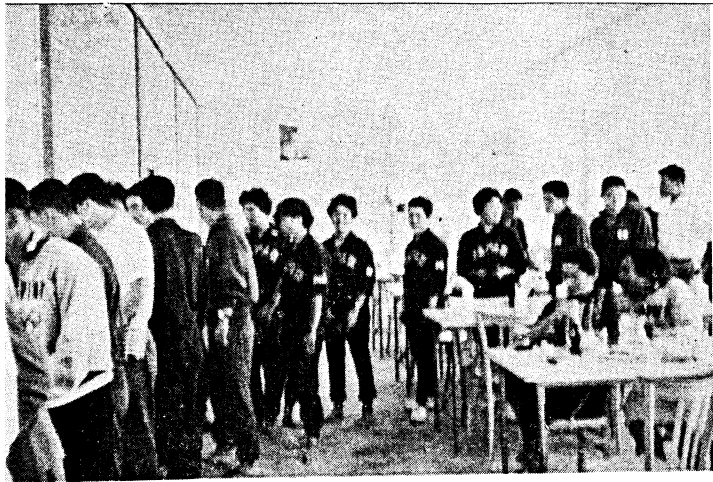
1960. 9. 2. ローズプール, ルーマニヤ対オランダ 5-4
G. K の左脇下を抜く。



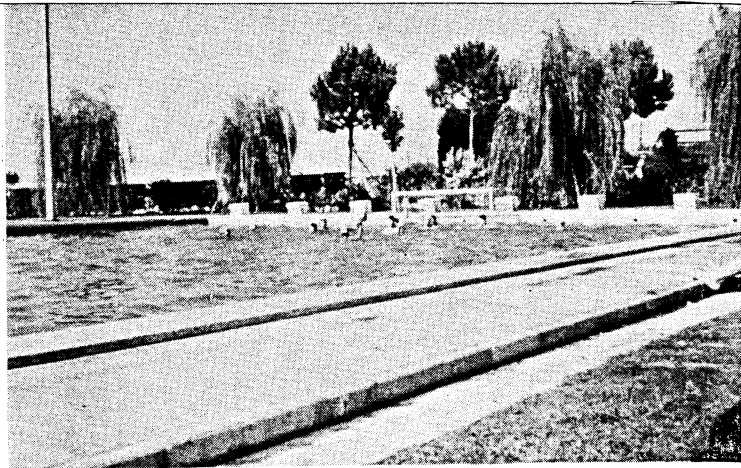
右より柴原コーチ, サミーリー (米女子コーチ)
馬淵, 金戸君。

プールサイドにて 飛込練習を見る柴原コーチ (左端)。





1960. 8. 22. 選手村内アジア食堂にて。



マニエネ練習プール



ローマ市内にて左より佐藤，田中，渡辺，津谷の諸嬢。

ローマ市内を見学する水泳チーム。

ローマ市内にて左より中坊，一人おいて山中選手及び太田，赤檜，小出の諸氏。

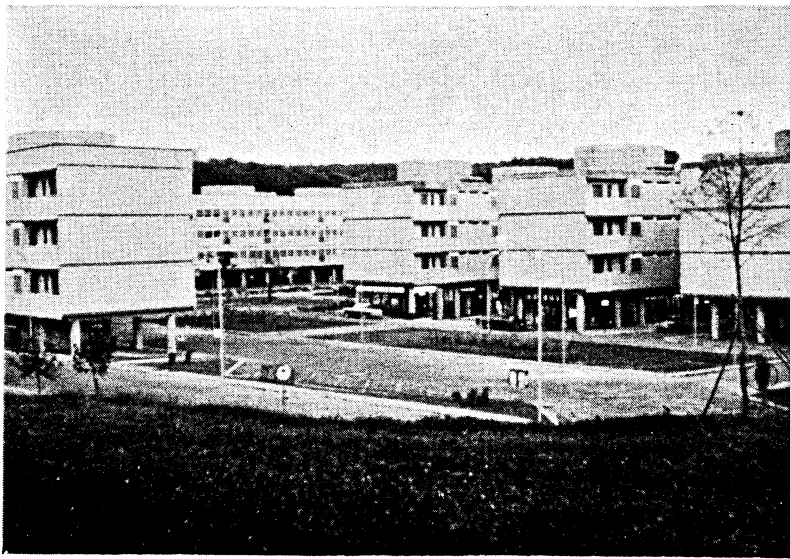




NHK報道陣とインタビューする左より
大崎君，田中嬢，小出監督。



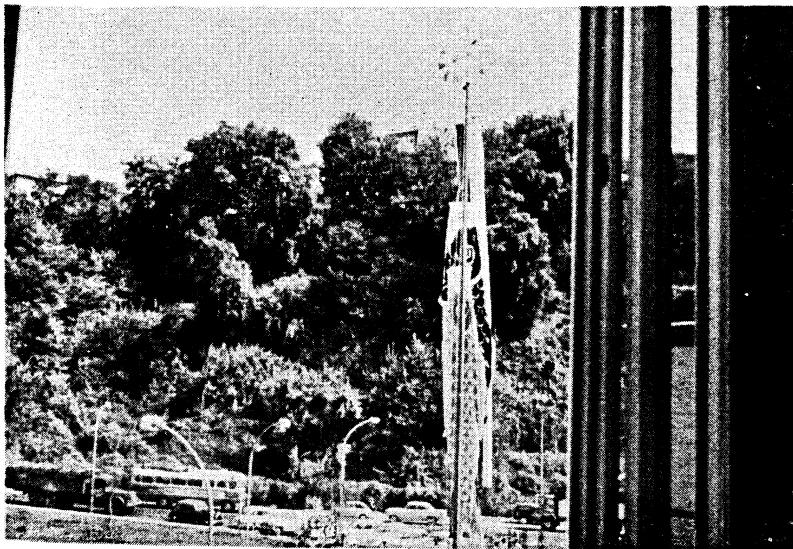
ローマ市内にて左より増田君，田中嬢，藤本君。



選 手 村



ローマ市内の遺跡にて右より山野，馬淵君，
柴原氏，渡辺嬢。



選手村日本選手団宿舍窓より意気昂揚のための
鯉登りも見える（1960. 8. 23）。



←

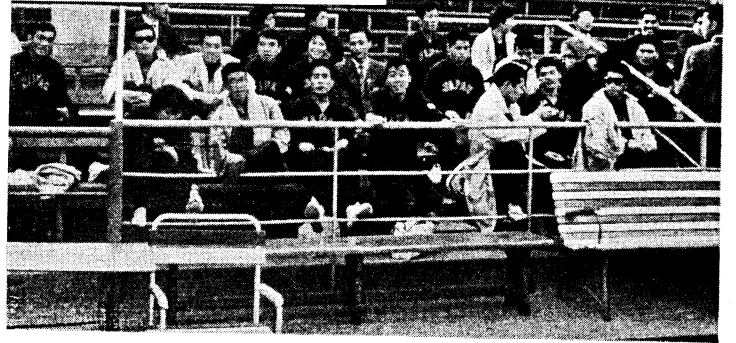
ベオグラードメインプールにて



北イタリアゼノア郊外
カモグリ海岸。



親善試合前の一とき



水泳チームの帰国。

世界新記録

1960年9月3日ローマにおいて開催されたFINA理事会で、次の世界新記録が公認された。(機関誌130・131号P2~4参照)

距離	時間	氏名	国籍	場所	水質	年月日
----	----	----	----	----	----	-----

男子

自由形

220 y	2:01.6	J. コンラッズ	(オーストラリア)	シドニー	塩水	1960- 2-20
400m } 440 y }	4:15.9	J. コンラッズ	(")	"	"	1960- 2-23
1500m } 1650 y }	17:11.0	J. コンラッズ	(")	"	"	1960- 2-27

バタフライ

100m	58.7	L. ラースン	(アメリカ)	トレド	淡水	1960- 7-24
110 y	1:00.5	L. ラースン	(")	カルヴァーシティー	"	1960- 7-8
200m	2:12.8	M. トロイ	(")	ローマ	"	1960- 9-2
220 y	2:17.5	N. ヘイズ	(オーストラリア)	タウンズヴィル	"	1960- 8-6

背泳

200m	2:16.0	T. ストック	(アメリカ)	トレド	淡水	1960- 7-24
------	--------	---------	--------	-----	----	------------

個人メドレー

400m	5:04.5	D. ラウンサヴェル	(アメリカ)	トレド	淡水	1960- 7-24
------	--------	------------	--------	-----	----	------------

リレー

440 y	3:45.7	オーストラリア		タウンズヴィル	淡水	1960- 8-2 (G. シプトン・J. デヴィット・J. ヘンリックス・D. ディクソン)
800m	8:10.2	アメリカ		ローマ	淡水	1960- 9-1 (G. ハリソン・R. ブリック・M. トロイ・J. ファーレル)
880 y	8:16.6	オーストラリア		タウンズヴィル	淡水	1960- 8-6 (J. ヘンリックス・D. ディクソン・J. コンラッズ・M. ローズ)

メドレー・リレー

400m	4:05.4	アメリカ		ローマ	淡水	1960- 9-1 (F. マッキニー・P. ハイト・L. ラースン・J. ファーレル)
------	--------	------	--	-----	----	---

距離	時間	氏名	国籍	場所	水質	年月日
----	----	----	----	----	----	-----

女子

自由形

100m } 110y }	1:00.2	D. フレイザー	(オーストラリア)	シドニー	塩水	1960- 2-23
200m } 220y }	2:11.6	D. フレイザー	"	"	"	1960- 2-27
400m	4:44.5	C. フォンソルツァ	(アメリカ)	デトロイト	淡水	1960- 8-5
440y	4:45.4	I. コンラツズ	(オーストラリア)	シドニー	塩水	1960- 1-9
800m	9:55.6	J. セデルクィスト	(スエーデン)	ウプサラ	淡水	1960-8-17

平泳

100m	1:19.0	U. キューパー	(東ドイツ)	ライプツィヒ	淡水	1960- 7-14
110y	1:21.2	R. ラッシグ	(オーストラリア)	ブンダバーグ	"	1960- 1-7
200m	2:49.5	A. ロンスブロー	(イギリス)	ローマ	"	1960- 8-27

バタフライ

110y	1:10.8	D. フレイザー	(オーストラリア)	シドニー	塩水	1960- 2-23
200m	2:34.4	M. ヘームスケルク	(オランダ)	ライプツィヒ	淡水	1960- 6-12

背泳

100m	1:09.0	L. バーク	(アメリカ)	ローマ	淡水	1960- 9-2
200m	2:33.3	田中 聰子	(日本)	東京	"	1960-7-23
220y	2:37.2	M. ウイルスン	(オーストラリア)	タウンズヴィル	"	1960- 8-4

個人メドレー

400m	5:36.5	D. デヴァロナ	(アメリカ)	インディアナポリス	淡水	1960- 7-15
------	--------	----------	--------	-----------	----	------------

リレー

400m	4:08.9	アメリカ		ローマ	淡水	1960- 9-3 (J. スピレマン・S. ストーブス・C. ウッド・C. フォンソルツァ)
440y	4:16.2	オーストラリア		タウンズヴィル	淡水	1960- 8-6 (D. フレイザー・A. コルクハウン・I. コンラツズ・L. クラップ)

メドレー・リレー

400m	4:11.1	アメリカ		ローマ	淡水	1960- 9-2 (L. バーク・P. ケムプナー・C. シュラー・C. フォンソルツァ)
440y	4:50.2	オーストラリア		タウンズヴィル	淡水	1990- 8-4 (G. ベケット・R. ラッシグ・J. アンドリュ・D. フレイザー)

第17回 ローマ・オリンピック

大会総合成績表

(F. I. N. A. 公式記録)

亜……………アルゼンチン
 豪……………オーストラリア
 奥……………オーストリア
 白……………ベルギー
 ビ……………ビルマ
 伯……………ブラジル
 プ……………ブルガリア
 加……………カナダ
 チ……………チェコスロバキア
 セ……………セイロン
 キ……………キューバ
 丁……………デンマーク
 比……………フィリピン
 芬……………フィンランド
 仏……………フランス
 独……………ドイツ
 日……………日本
 英……………イギリス
 希……………ギリシャ
 香……………ホンコン

イ……………インドネシア
 氷……………アイスランド
 イス……………イスラエル
 伊……………イタリア
 ユ……………ユーゴスラヴィア
 ル……………ルクセンブルグ
 マ……………マラヤ
 墨……………メキシコ
 諾……………ノールウエー
 新西……………ニュージーランド
 和……………オランダ
 波……………ポーランド
 葡……………ポルトガル
 プ……………プエルトリコ
 台……………台湾
 ロ……………ローデシア
 羅……………ルーマニア
 シ……………シンガポール
 西……………スペイン
 米……………アメリカ

南ア……………南アフリカ
 典……………スエーデン
 瑞……………スイス
 土……………トルコ
 洪……………ハンガリー
 ソ……………ソ連
 ウ……………ウルグワイ
 ヴ……………ヴェネゼラ
 ヴェ……………ヴェトナム

注：1. ゴチック体のものは、世界新記録またはオリンピック新記録および優勝記録であり、また、予選準決勝にあってはそれぞれ通過記録である。
 2. リレーの第1泳者の記録および1500m自由形の途中800mの記録は全部正式計時である。

競泳男子

100 m 自由形 (エントリー 52, 出場51)

予選 1 (8/26 朝)

1. K. カユコ (芬) 56.8
 2. 清水啓吾 (日) 57.3
 3. E. デラ・サヴィア (伊) 58.2
 4. G. カリ (奥) 58.3
 5. リベイロ (葡) 1:00.2
 6. ローデス (西) 1.00.7
 7. R. ワグネル (ル) 1:04.3

予選 2

1. J. デヴィット (豪) 56.0
 2. A. ゴットヴァール (仏) 56.9
 3. I. ルジコフスキー (ソ) 57.9
 4. U. ヤコブセン (独) 57.9
 5. ディムヤティ (イン) 59.1
 6. L. A. ニコラオ (亜) 1:00.2
 7. フォン (マ) 1:03.4
 8. グリックスティ (マル) 1:07.8

予選 3

1. M. ドス・サントス (伯) 56.3
 2. A. シャリュモン (波) 56.5
 3. C. グルート (加) 57.6
 4. J. エスカランテ (墨) 57.6

5. R. クロウン (和) 57.7
 6. グロパイズ (仏) 59.3
 7. バル ッ チ (瑞) 1:02.9
 棄 M. マクラクラン (南ア)

予選 4

1. G. ド バ イ (洪) 56.5
 2. V. ソローキン (ソ) 58.2
 3. B. ノルドワール (典) 58.5
 4. J. ボウマン (和) 58.8
 5. ト ラ ウ ベ ル (イス) 59.7
 6. チ ャ ン (香) 1:01.1

予選 5

1. J. ヘンリックス (豪) 56.9
 2. P-O. リンドベルイ (典) 27.1
 3. L. ラントス (洪) 57.4
 4. S.R. ラクーク (英) 59.1
 5. ナ ブ コ (伯) 1:00.1
 6. ギスラーソン (イス) 1:00.8
 7. F. エリザルデ (比) 1:03.0
 8. ドーリング (マ) 1:08.9

予選 6

1. B. ハンター (米) 56.6
 2. R. パウンド (加) 57.7
 3. ロ カ (キ) 58.3
 4. J. コチョミュア (ユ) 58.7
 5. G. ペロンディニ (伊) 58.9
 6. プ ファン (ペ) 1:01.3
 7. フィキルシ (土) 1:03.0

予選 7

1. L. ラースン (米) 55.7
 2. A. プレアー (南ア) 56.3
 3. 石原勝記 (日) 57.3
 4. B. アルチナ (波) 57.9
 5. P. フェール (独) 58.0
 6. W. オドネル (英) 59.2
 7. アルネリ (ユ) 1:00.5
 8. ル リ ー (イス) 1:00.9

準決勝 1 (8/26 夜)

1. L. ラースン (米) 55.5
 2. B. ハンター (ノ) 55.7
 3. A. プレアー (南ア) 56.5
 4. 清水啓吾 (日) 57.1
 5. I. ルジコフスキー (ソ) 57.5
 6. C. グルート (加) 58.0
 7. P. フェール (独) 58.4
 8. A. ゴットヴァール (仏) 58.5

準決勝 2

1. J. デヴィット (豪) 55.8
 2. R. パウンド (加) 56.5
 3. A. ジャリュモン (波) 56.9
 4. J. ヘンリックス (豪) 57.2
 5. U. ヤコブセン (独) 57.4
 6. L. ラントス (洪) 58.0
 7. V. ソローキン (ソ) 58.7
 8. J. エスカランテ (墨) 59.0

準決勝 3

1. M. ドス・サントス (伯) 56.3
 2. G. ド バ イ (洪) 56.3
 3. P-O. リンドベルイ (典) 56.4
 4. K. カ ユ コ (芬) 56.6
 5. 石原勝記 (日) 57.8
 6. B. アルチナ (波) 57.8
 7. R. クロウン (和) 57.9
 8. E. デラ・サヴィア (伊) 58.4

決勝 (8/27 夜)

1. J. デヴィット (豪) 55.2 (オ新)
 2. L. ラースン (米) 55.2
 3. M. ドス・サントス (伯) 55.4
 4. B. ハンター (米) 55.6
 5. G. ド バ イ (洪) 56.3
 6. R. パウンド (加) 56.3
 7. A. プレアー (南ア) 56.3
 8. P-O. リンドベルイ (典) 57.1

400 m 自由形 (エントリー41, 出場40)

予選 1 (8/30 昼)

1. 山中 毅 (日) 4:21.0 (オ新)
 1:01.5 2:07.6 3:14.5
 2. H.J. クライン (独) 4:31.6
 1:04.1 2:12.9 3:23.1
 3. V. ログシク (ユ) 4:39.5
 1:05.2 2:17.2 3:29.7
 4. T. ホルヤンスキー (洪) 4:46.2
 5. イ ル ク (奥) 4:58.1
 6. フリドリッ (瑞) 5:02.3
 棄 F. ファンブル (亜)

予選 2

1. J. コンラッツ (豪) 4:24.3
 1:01.8 2:08.3 3:15.7
 2. J. カ ト ナ (洪) 4:29.5
 1:02.6 2:09.9 3:19.4
 3. R. キャンピオン (英) 4:32.3
 1:03.0 2:12.1 3:22.3

4. S-G.ヨハンソン (典) 4:35.6
1:04.0 2:14.2 3:25.9
5. K.ハーヴィスト (芬) 4:36.0
1:03.3 2:13.3 3:24.8
6. ポムマ (仏) 4:36.5
兼 L. コレスニコフ (ソ)

予選 3

1. I.M.ブラック (英) 4:21.9
1:02.1 2:09.5 3:17.0
2. 福井 誠 (日) 4:26.7
1:01.7 2:09.2 3:17.8
3. J.トラス (波) 4:38.6
1:03.5 2:15.1 3:28.4
4. P-O.エリクソン (典) 4:41.2
5. I.スヴァント (芬) 4:42.1
6. R.グズマン (墨) 4:42.2
7. スーザ (葡) 4:51.6

予選 4

1. S.M. ローズ (豪) 4:22.5
1:03.5 2:10.4 2:16.7
2. A.ブレアー (南ア) 4:31.9
1:03.9 2:12.5 3:22.4
3. P.ガレットィ (伊) 4:35.6
1:04.8 2:14.4 3:25.2
4. M.ジェガー (ユ) 4:41.4
5. H.ナスティオン (イン) 4:54.0
6. トラウベル (イス) 4:58.6
7. チェナウ (葡) 5:24.6

予選 5

1. M. マクラクラン (南ア) 4:25.9
1:03.4 2:11.6 3:20.3
2. E.レンツ (米) 4:29.2
1:02.8 2:11.2 3:19.7
3. J-P.クルティエユ (仏) 4:36.5
1:04.2 2:14.2 3:25.5
4. ロカ (キ) 4:41.3
5. コッシオ (西) 4:50.1
6. フォン (マ) 5:07.3

予選 6

1. A.ソマーズ (米) 4:19.2 (オ新)
1:00.6 2:05.8 3:12.1
2. M.オカンボ (墨) 4:35.3
1:04.0 2:13.6 3:23.2
3. G.ヘッツ (独) 4:38.4
1:03.6 2:11.6 3:27.9
4. B.サイラニ (比) 4:40.2

5. J.ルトムスキー (波) 4:42.8
6. M.ロシ (伊) 4:45.1
7. ズエルスト (西) 4:52.5

決勝 (8/31 夜)

1. M.ローズ (豪) 4:18.3 (オ新)
1:01.3 2:07.2 3:12.2
2. 山中 毅 (日) 4:21.4
1:00.3 2:07.1 3:14.3
3. J.コンラツ (豪) 4:21.8
1:00.6 2:06.8 3:14.1
4. I.ブラック (英) 4:21.8
1:02.0 2:09.1 3:16.0
5. A.ソマーズ (米) 4:22.0
1:00.0 2:06.6 3:14.1
6. M.マクラクラン (南ア) 4:26.3
1:03.1 2:11.4 3:19.4
7. E.レンツ (米) 4:26.8
1:02.4 2:10.6 3:18.9
8. 福井 誠 (日) 4:39.6
1:01.2 2:07.7 3:17.4

1500 m 自由形 (エントリー34, 出場30)

予選 1 (9/2 朝)

1. 山中 毅 (日) 17:46.5 (オ新)
1:01.7 2:10.4 3:19.9 4:30.7 5:41.4
6:53.1 8:05.0 9:17.9 10:30.4 11:42.7
12:55.5 14:08.4 15:21.9 16:35.7
2. A.ブレアー (南ア) 16:17.8
1:06.3 2:19.3 3:33.1 4:47.3 6:01.8
7:16.8 8:30.8 9:44.3 10:56.6 12:09.7
13:22.8 14:36.3 15:50.0 17:04.0
3. G.ヘッツ (独) 18:32.2
1:02.3 2:14.7 3:30.1 4:46.5 6:01.9
7:16.6 8:31.5 9:46.7 11:00.7 12:15.8
13:31.3 14:46.1 16:01.4 17:17.1
4. I.スヴァント (芬) 18:41.1
1:06.1 2:19.1 3:33.2 4:47.6 6:02.2
7:16.6 7:31.6 9:46.0 11:01.5 12:17.6
13:33.8 14:50.0 16:07.1 17:24.8
5. A.グズマン (墨) 16:11.1
6. P.ガレットィ (伊) 20:28.2
7. ゴルツェ (瑞) 20:45.1

予選 2

1. A.ソマーズ (米) 17:54.1
1:07.4 2:19.8 3:31.8 4:43.8 5:56.3
7:08.3 8:21.1 9:34.1 10:45.5 11:56.6
13:07.9 14:19.5 15:31.0 16:42.5
2. M.マクラクラン (南ア) 18:09.9

1:08.1 2:21.4 3:34.0 4:47.2 6:01.8
7:16.0 8:29.9 8:42.8 10:57.0 12:11.2
13:23.6 14:34.8 15:46.3 16:58.6

3. 中坊昌美 (日) 18:30.4
1:07.4 2:20.2 3:33.2 4:47.4 6:02.7
7:17.3 8:32.0 9:46.7 11:00.7 12:15.2
13:30.2 14:45.7 16:01.3 17:16.6

4. R.C.スリーナン (英) 18:57.1
1:08.6 2:23.2 3:38.9 4:54.6 6:10.8
7:27.2 8:44.7 10:02.4 11:19.9 12:37.2
13:54.5 15:11.3 16:27.6 17:43.2

5. ティンマウン (ピ) 19:09.8

6. キチョヴィチ (ユ) 19:29.0

棄 フェオ・カラオ (ヴ)

予選 3 (9/2 夜)

1. G. ブリーン (米) 17:55.9
1:04.3 2:14.3 3:25.4 4:36.5 5:48.7
7:01.0 8:13.1 9:25.6 10:37.8 11:50.3
13:02.7 14:15.3 15:28.1 16:40.9

2. L-E.ベンクトソン (典) 18:19.7
1:05.6 2:17.8 3:31.2 4:43.3 5:56.0
7:09.7 8:23.8 9:38.5 10:52.9 12:07.5
13:22.2 14:36.9 15:51.6 17:06.5

3. V. ログシッチ (ユ) 18:51.8
1:08.1 2:24.1 3:40.7 4:57.2 6:12.1
7:27.5 8:43.5 6:59.4 11:14.7 12:30.7
13:47.7 15:04.5 16:21.2 17:33.9

4. トーレス (西) 19:21.8

5. M. ロシ (伊) 19:52.9

6. A. ボドナー (洪) 20:22.2

棄 チェナー (プ)

予選 4

1. J. コンラッツ (豪) 17:52.0
1:04.5 2:14.6 3:24.8 4:36.2 5:46.8
6:58.5 8:10.5 9:22.4 10:34.5 11:47.3
12:59.8 14:12.6 15:25.6 16:38.7

2. J. カトナ (洪) 17:53.5
1:04.3 2:14.5 3:25.2 4:36.8 5:48.4
7:01.3 8:14.0 9:26.9 10:40.0 11:52.8
13:06.9 14:20.1 15:33.7 16:45.5

3. R. キャンピオン (英) 17:54.8
1:04.5 2:15.0 3:25.5 4:37.0 5:49.0
7:01.8 8:14.2 9:27.0 10:40.1 11:52.9
13:06.9 14:20.3 15:34.0 16:45.3

4. U. ミロウ (独) 18:22.7
1:05.1 2:17.8 3:31.5 4:45.3 5:59.5
7:13.9 8:28.0 9:42.6 10:57.4 12:12.3
13:27.0 14:42.4 15:56.7 17:11.1

5. M. オカムボ (墨) 18:29.0
1:04.5 2:16.1 3:29.8 4:44.7 5:59.4

7:14.3 8:28.6 9:43.0 10:57.7 12:13.0
13:28.7 14:44.1 15:58.4 17:14.2

6. H. ナスティオン (イン) 19:18.6
棄 トラウベル (イス)

予選 5

1. M. ローズ (豪) 17:32.8 (オ新)
1:06.1 2:16.0 3:26.3 4:36.4 5:47.2
6:57.9 8:08.1 9:18.5 10:29.5 11:39.3
12:49.7 14:00.4 15:11.4 16:22.2

2. B. サイラニ (比) 18:18.8
1:08.3 2:20.8 3:33.1 4:45.5 5:58.3
7:10.8 8:24.3 9:38.0 10:51.4 12:05.7
13:20.3 14:34.8 15:49.5 17:04.5

3. G. アンドロソフ (ソ) 18:39.0
1:08.5 2:21.7 3:35.4 4:49.5 6:03.6
7:18.8 8:34.1 9:49.3 11:04.8 12:20.8
13:37.4 14:53.6 16:09.3 17:24.4

4. ドゥルスト (瑞) 19:21.9

5. スーザ (葡) 19:40.1

棄 B-O.アルムステット (典)

決勝 (9/3 夜)

1. J. コンラッツ (豪) 17:19.6 (オ新)
1:04.8 2:14.0 3:24.2 4:34.6 5:45.3
6:56.1 8:06.5 9:16.8 10:26.6 11:36.0
12:44.9 13:53.8 15:03.0 16:12.4

2. M. ローズ (豪) 17:21.7
1:05.2 2:14.9 3:24.9 4:35.1 5:45.7
6:56.5 8:07.1 9:17.4 10:27.4 11:37.5
12:47.5 13:57.3 15:06.3 16:14.3

3. G. ブリーン (米) 17:30.6
1:03.6 2:12.0 3:21.2 4:31.6 5:42.7
6:52.9 8:03.4 9:13.7 10:24.4 11:35.3
12:47.0 13:58.6 15:11.0 16:23.3

4. 山中毅 (日) 17:34.7
1:03.6 2:13.0 3:22.8 4:33.0 5:43.1
6:53.4 8:04.2 9:15.4 10:26.6 11:37.8
12:48.1 13:59.0 15:11.1 16:23.4

5. J. カトナ (洪) 17:43.7
1:03.8 2:14.0 3:25.3 4:37.4 5:48.8
1:00.8 8:12.0 9:24.1 10:36.3 11:47.7
12:59.8 14:12.0 15:24.0 16:35.1

6. M. マクラクラン (南ア) 17:44.9
1:04.2 2:16.2 3:27.7 4:39.4 5:51.2
7:03.1 8:15.2 9:27.3 10:39.5 11:51.6
13:03.3 14:14.8 15:26.3 16:36.8

7. A. ソマーズ (米) 18:02.8
1:05.0 2:14.4 3:24.7 4:34.8 5:45.6
1:56.7 8:08.3 9:21.8 10:35.4 11:49.8
13:03.5 14:18.5 15:33.5 16:48.0

8. R. キャンピオン (英) 18:22.7

1:02.9 2:14.0 3:26.0 4:37.6 5:50.4
 7:03.5 8:16.0 9:30.7 10:45.5 12:00.7
 13:16.0 14:32.2 14:48.9 17:05.9

200 m 平 泳 (エントリー44, 出場42)

予 選 1 (8/26 夜)

1. W. マリケン (米) (1:16.9) 2:38.0
 2. G. プロコペンコ (ソ) (1:15.7) 2:39.2
 3. G. ローワンスン (英) (1:18.8) 2:45.0
 4. ウ ナ ー ル (土) (1:20.3) 2:49.0
 5. サ ロ ソ (比) (1:20.7) 2:53.3
 - L. フェルカイ (洪) 失 格
 - G. ブランナー (墺) 失 格
- 棄 A. オアント (羅)

予 選 2

1. A. ゴロフチェンコ (ソ) (1:16.0) 2:41.0
2. D. ペリシク (ユ) (1:17.4) 2:41.1
3. C. ウォルクデン (英) (1:17.3) 2:41.5
4. M. ミトロファン (羅) (1:16.3) 2:41.8
5. ザ ブ リ ス (伯) (1:19.0) 2:48.6
6. ブーランガー (仏) (1:19.8) 2:54.4
7. ワイルドハーバー (瑞) (1:23.8) 2:58.7

予 選 3

1. W. メンソニデス (和) (1:17.5) 2:39.0
 2. R. ラザリ (伊) (1:18.3) 2:41.2
 3. K. エンケ (独) (1:17.8) 2:44.6
 4. R. アンドリー (仏) (1:20.5) 2:46.5
 5. P. スパンガロ (伊) (1:19.5) 2:53.8
 6. ウイリアムス (セ) (1:22.1) 2:59.8
- 棄 シレガール (イン)

予 選 4

1. 増 田 勲 (日) (1:18.4) 2:41.2
2. T. ギャザコール (豪) (1:18.5) 2:41.7
3. P. ライロラ (芬) (1:16.9) 2:43.3
4. B. ニルソン (典) (1:19.0) 2:45.7
5. S. ラビノヴィッチ (加) (1:18.4) 2:47.2
6. リ ー (台) (1:19.4) 2:52.8
7. リ シ (瑞) (1:22.0) 2:56.6

予 選 5

1. P. ハ イ ト (米) (1:15.0) 2:40.8
2. A. クロボトウスキー (波) (1:16.9) 2:41.4
3. G. クンジャジ (洪) (1:16.7) 2:42.2
4. E. ヘニンガー (独) (1:15.3) 2:42.4
5. V. スボシル (チ) (1:16.2) 2:42.4
6. デ ィ ア ズ (西) (1:22.1) 2:52.9
7. ト ル オ ン (ヴェ) (1:21.5) 2:53.0

ジュワイツァ (ル)

失 格

予 選 6

1. 大 崎 剛 彦 (日) (1:16.7) 2:39.1
2. G. デスミット (白) (1:17.2) 2:42.4
3. T. リンドストローム (典) (1:16.5) 2:42.8
4. W. パートン (豪) (1:18.4) 2:43.9
5. アルシナ (西) (1:21.7) 2:51.4
6. シェフア (イス) (1:21.1) 2:51.7
7. ザチャロポロス (希) (1:24.2) 2:56.4

再 予 選 (8/27 昼)

1. E. ヘニンガー (独) (1:14.8) 2:39.5
2. G. デスミット (羅) (1:16.2) 2:41.1
3. V. スボシル (チ) (1:16.1) 2:41.7

準決勝 1 (8/29 夜)

1. W. マリケン (米) (1:16.1) 2:37.2
2. 大 崎 剛 彦 (日) (1:14.7) 2:38.2
3. E. ヘニンガー (独) (1:14.4) 2:38.5
4. R. ラザリ (伊) (1:16.8) 2:40.3
5. A. ゴロフチェンコ (ソ) (1:16.2) 2:40.9
6. M. ミトロファン (羅) (1:17.1) 2:41.6
7. C. ウォルクデン (英) (1:17.0) 2:41.7
8. D. ペリシク (ユ) (1:17.6) 2:44.2

準決勝 2

1. T. ギャザコール (豪) (1:16.9) 2:39.1
2. W. メンソニデス (和) (1:17.0) 2:39.3
3. P. ハ イ ト (米) (1:15.8) 2:39.6
4. A. クロボトウスキー (波) (1:16.3) 2:40.8
5. G. プロコペンコ (ソ) (1:17.0) 2:41.0
6. G. デスミット (白) (1:16.8) 2:41.8
7. 増 田 勲 (日) (1:17.4) 2:42.3
8. G. クンジャジ (洪) (1:17.0) 2:42.4

決 勝 (8/30 夜)

1. W. マリケン (米) (1:17.1) 2:37.4
2. 大 崎 剛 彦 (日) (1:17.7) 2:38.0
3. W. メンソニデス (和) (1:17.8) 2:39.7
4. E. ヘニンガー (独) (1:14.6) 2:40.1
5. R. ラザリ (伊) (1:18.6) 2:40.1
6. T. ギャザコール (豪) (1:15.8) 2:40.2
7. A. クロボトウスキー (波) (1:17.5) 2:41.2
8. P. ハ イ ト (米) (1:16.4) 2:41.4

200 m バタフライ (エントリー39, 出場34)

予 選 1 (8/31 夜)

1. M. トロイ (米) (1:03.5) 2:15.5(オ新)
2. 井 筒 賢 造 (日) (1:06.5) 2:20.3
3. G. キセリョフ (ソ) (1:06.5) 2:24.6

4. A. ポペスク (羅) (1:05.5) 2:24.6
5. I. ブライス (英) (1:06.2) 2:24.9
6. フォッサティ (伊) (1:07.9) 2:31.9
7. シッターズ (和) (1:10.9) 2:36.6

棄 ファン・フー・ドン(ヴェ)

予選 2

1. F. デンネルライン(伊) (1:05.7) 2:18.3
2. V. クズミン (ソ) (1:05.8) 2:19.3
3. E. リオス (墨) (1:07.3) 2:22.7
4. T. ベングトソン (典) (1:07.6) 2:25.0
5. W. シーベル (独) (1:06.9) 2:25.4
6. G. コルテウェグ (和) (1:07.2) 2:26.4
7. C. グルート (加) (1:07.3) 2:27.7

棄 シェファ(イス)

予選 3

1. D. ギランダース (米) (1:04.6) 2:16.2
2. L.A. ニコラオ (亜) (1:07.7) 2:23.9
3. P. パズディレク (チ) (1:07.7) 2:24.2
4. A. ハムサイン (比) (1:05.0) 2:27.9
5. L. バズ・ヨルシ (葡) (1:08.6) 2:28.9
6. パーセク (伯) (1:13.5) 2:50.8
7. ラドニーク (ユ) (1:25.0) 3:00.6

棄 H. ナスティオン (イン)

予選 3

1. N. ヘイズ (豪) (1:05.3) 2:18.1
2. I. スヴァント (芬) (1:07.3) 2:23.9
3. J. バッハマン (独) (1:07.1) 2:25.0
4. ヴィディル (仏) (1:12.0) 2:36.0
5. デラフェ (西) (1:11.7) 2:39.8
6. A. ラジャー (比) (1:07.5) 2:39.8

棄 I. ブラック (英)

予選 4

1. K. ベリー (豪) (1:05.7) 2:18.9
2. 吉無田 春男 (日) (1:05.5) 2:19.4
3. F. ファンフル (亜) (1:06.3) 2:25.2
4. L. キッス (洪) (1:08.9) 2:31.0
5. レオン (西) (1:10.9) 2:31.4
6. ログシッチェ (ユ) (1:11.3) 2:35.5
7. フォン (マ) 2:56.4

棄 M. アムプラス (洪)

再予選

1. J. バッハマン (独) (1:07.2) 2:23.1
2. T. ベングトソン (典) (1:08.4) 2:25.1

準決勝 1 (8/1 朝)

1. M. トロイ (米) (1:04.6) 2:18.0
2. N. ヘイズ (豪) (1:07.7) 2:21.6

3. 吉無田 春男 (日) (1:06.6) 2:21.7
4. K. ベリー (豪) (1:06.8) 2:23.1
5. E. リオス (墨) (1:08.7) 2:24.2
6. G. キセリョフ (ソ) (1:07.7) 2:24.8
7. L.A. ニコラオ (亜) (1:08.6) 2:26.8
8. I. ブライス (英) (1:07.8) 2:26.8

準決勝 2

1. D. ギランダース (米) (1:07.1) 2:18.7
2. V. クズミン (ソ) (1:07.3) 2:19.1
3. F. デンネルライン(伊) (1:07.1) 2:20.5
4. 井筒 賢造 (日) (1:07.1) 2:21.5
5. P. パズディレク (チ) (1:08.0) 2:23.5
6. J. バッハマン (独) (1:08.6) 2:28.4
7. A. ポペスク (羅) (1:10.3) 2:28.5

I. スヴァント (芬) 失格

決勝 (9/2 夜)

1. M. トロイ (米) (1:02.5) 2:12.8(世新)
2. N. ヘイズ (豪) (1:05.3) 2:14.6
3. D. ギランダース (米) (1:04.7) 2:15.3
4. F. デンネルライン(伊) (1:04.7) 2:16.0
5. 吉無田 春男 (日) (1:04.7) 2:18.3
6. K. ベリー (豪) (1:05.6) 2:18.5
7. V. クズミン (ソ) (1:05.0) 2:18.9
8. 井筒 賢造 (日) (1:06.3) 2:19.4

100 m 背泳 (エントリー37, 出場37)

予選 1 (8/30 夜)

1. J. モンクトン (豪) 1:04.4
2. J. チッカニー (洪) 1:04.5
3. W. ワグナー (独) 1:04.7
4. 富田 一雄 (日) 1:04.7
5. H. ヴェルパウエン (白) 1:05.0
6. J. キャブレラ (西) 1:06.5
7. R. セルクエイラ (葡) 1:06.7
8. コロヴォス (希) 1:13.8

予選 2

1. R. ベネット (米) 1:02.0(オ新)
2. L. パルピエル (ソ) 1:03.5
3. J. ディーツェ (独) 1:04.0
4. J. チスグート (和) 1:05.9
5. F. スーダ (澳) 1:06.0
6. M. ドルチッチェ (ユ) 1:06.0
7. シュナイダー (イス) 1:11.1
8. フキルシ (土) 1:15.2

予選 3

1. R. クリストフ (仏) 1:04.0

- 2. G. サイクス (英) 1:04.8
- 3. R. ポイトン (加) 1:05.7
- 4. B-O. アルムステット (典) 1:05.9
- 5. A. ガキシオラ (墨) 1:05.9
- 6. A. デオリヴェイラ (伯) 1:07.9
- 7. ミュラー (ル) 1:12.8

予選 4

- 1. D. タイラ (豪) 1:03.1
- 2. V. シーマル (ソ) 1:04.6
- 3. G. アヴェローネ (伊) 1:05.4
- 4. H. リクビー (英) 1:06.2
- 5. 渡辺和夫 (日) 1:08.4
- 6. L. コルテズ (比) 1:08.7
- 7. バルグラフ (瑞) 1:11.0

予選 5

- 1. F. マッキニー (米) 1:02.4
- 2. P. ディズ・エスペレタ (亜) 1:04.7
- 3. S.O. グレンナー (芬) 1:04.7
- 4. C. ラフィー (仏) 1:05.8
- 5. G. エルサ (伊) 1:05.8
- 6. E. ラベル (墨) 1:08.0
- 7. コンラド (洪) 1:19.9

準決勝 1 (8/41 朝)

- 1. D. タイラ (豪) 1:03.1
- 2. R. クリストフ (仏) 1:03.7
- 3. R. ベネット (米) 1:07.7
- 4. J. モンクトン (豪) 1:03.8
- 5. V. シーマル (ソ) 1:04.6
- 6. 富田一雄 (日) 1:05.2
- 7. S.O. グレンナー (芬) 1:05.2
- 8. H. ヴェルバウエン (白) 1:06.2

準決勝 2

- 1. F. マッキニー (米) 1:03.8
- 2. W. ワグナー (独) 1:03.9
- 3. L. バルビエル (ソ) 1:04.3
- 4. J. ディーツェ (独) 1:04.7
- 5. G. サイクス (英) 1:04.7
- 6. P. ディズ・エスペレタ (亜) 1:05.0
- 7. J. チッカニー (洪) 1:05.2
- 8. G. アヴェローネ (伊) 1:06.5

決勝 (8/31 夜)

- 1. D. タイラ (豪) 1:01.9(オ新)
- 2. F. マッキニー (米) 1:02.1
- 3. R. ベネット (米) 1:02.3
- 4. R. クリストフ (仏) 1:03.2
- 5. L. バルビエル (ソ) 1:03.5

- 6. W. ワグナー (独) 1:03.5
- 7. J. モンクトン (豪) 1:04.1
- 8. V. シーマル (ソ) 1:04.6

800 m リレー (エントリー16, 出場15)

予選 1

- 1. 日本 8:17.1(オ新)
(山中, 福井, 石井, 藤本)
(2:01.8 2:03.5 2:07.2 2:04.6)
- 2. イギリス 8:26.9
(ミルトン, マーティンディ,
2:09.5 2:06.5
チャンピオン, ブラック)
2:07.7 2:03.2)
- 3. ソ連 8:30.6
(ソローキン, ニコラーエフ,
2:07.7 2:08.0
トルストブレト, ニキーティン)
2:08.1 2:06.8)
- 4. スエーデン 8:30.6
(アルムステット, ベングトソン,
2:10.1 2:07.0
ノルドワール, リンドベルイ)
2:06.9 2:06.6)
- 5. ポーランド 8:32.0
(シャリューモン, アルチナ,
2:08.3 2:07.8
トラズ, ルトムスキー)
2:08.0 2:07.9)
- 6. フランス 8:41.2
(グルティエユ, グロパイズ,
2:07.4 2:10.8
カモーン, ボワトオ)
2:09.7 2:13.3)
- 7. スイス 9:18.1
(バエルッチ, ゲルッチ,
2:18.3 2:20.4
フリードライン, ドースト)
2:20.9 2:18.5)

棄権 フィリピン

予選 2

- 1. アメリカ 8:18.0
(ダントン, ウィンターズ,
2:06.8 2:04.0
クラーク, ハリソン)
2:04.0 2:03.2)
- 2. オーストラリア 8:24.2
(ディクソン, リグビー,
2:04.6 2:06.6
ウッド, デヴィット)
2:06.7 2:06.3)
- 3. ドイツ 8:29.4
(ヴィーガント, ヘッツ,
2:06.8 2:08.3
ツィロルド, クライン)
2:08.5 2:05.8)

4. フィンランド 8:29.7
 (スヴァント, ハーヴィスト,
 2:10.0 2:07.5
 グレンナー, カユコ)
 2:08.0 2:04.2)

5. ハンガリー 8:32.6
 (ミュラー, ラントス, ドバイ, カトナ)
 2:11.8 2:07.7 2:05.5 2:07.6)

6. イタリア 8:38.1
 (デンネルライン, ビアンチ,
 2:11.6 2:08.5
 ロマニ, ガレットイ)
 2:10.9 2:07.1)

7. ユーゴ 8:49.8
 (ジェガー, キチョヴィチ,
 2:09.6 2:12.9
 プリノヴェチ, ロクシッチェ)
 2:15.4 2:11.9)

8. メキシコ 8:50.3
 (R. グズマン, A. グズマン,
 2:12.8 2:13.7
 エスカランテ, オカンボ)
 2:15.4 2:08.4)

決勝 (9/1 夜)

1. アメリカ 8:10.2(世新)
 (ハリスン, ブリック, トロイ, ファーレル)
 2:03.4 2:01.9 2:02.9 2:02.0)

2. 日本 8:13.2
 (福井, 石井, 山中, 藤本)
 2:04.8 2:04.8 2:00.6 2:03.0)

3. オーストラリア 8:13.8
 (ディクスン, デヴィット,
 2:06.6 2:03.2
 ローズ, コンラッズ)
 2:02.7 2:01.3)

4. イギリス 8:28.1
 (ミルトン, マーティンデイ,
 2:08.7 2:05.2
 キャンピオン, ブラック)
 2:08.4 2:05.8)

5. フィンランド 8:29.7
 (スヴァント, ハーヴィスト,
 2:09.0 2:08.1
 グレンナー, カユコ)
 2:07.3 2:05.3)

6. スエーデン 8:31.0
 (ヨハンソン, ペングトソン,
 2:09.1 2:08.2
 ノルドワール, リンドベルイ)
 2:06.5 2:07.2)

7. ドイツ 8:31.8
 (ヴァーガント, ヘッツ,
 2:06.3 2:09.0
 ツィロルド, クライン)
 2:08.4 2:08.1)

8. ソ連 8:32.2

(ルジコフスキー, ニコラーエフ,
 2:10.3 2:08.0
 ソローキン, ニキーティン)
 2:07.0 2:06.9)

400 m メドレー・リレー

(エントリー18, 出場18)

予選 1 (8/27 昼)

1. オーストラリア 4:14.8
 (キャロル, パートン, ベリー, シプトン)
 1:04.6 1:13.3 1:01.7 55.2)

2. ドイツ 4:17.7
 (ワグナー, ティテス, ロッター, ヤコブセン)
 1:04.3 1:12.2 1:04.0 57.2)

3. フランス 4:21.7
 (クリストフ, プーランガー,
 1:03.2 1:15.4
 ポンマ, ゴッドヴァール)
 1:05.5 57.6)

4. メキシコ 4:23.1
 (ガキシオラ, ラヴェル,
 1:05.4 1:18.6
 オカンボ, エスカランテ)
 1:02.3 56.8)

5. フィンランド 4:27.3
 (グレンナー, ライロラ,
 1:05.2 1:16.2
 スヴァント, コイヴァク)
 1:06.6 59.3)

6. イスラエル 4:37.6
 (シュナイダー, シェファ,
 1:11.3 1:19.3
 ルリー, トラウベル)
 1:06.9 1:00.1)

予選 2

1. 日本 4:16.0
 (渡辺, 大崎, 開田, 石原)
 1:05.5 1:11.8 1:01.9 56.8)

2. イタリア 4:16.0
 (アヴェローネ, ラザリ,
 1:05.8 1:12.0
 デンネルライン, ビアンチ)
 1:00.7 57.5)

3. ソ連 4:16.2
 (バルビエル, コレスニコフ,
 1:03.8 1:13.0
 キセリョフ, ルジコフスキー)
 1:03.0 56.5)

4. イギリス 4:16.8
 (サイクス, ウォルクデン,
 1:03.9 1:13.1
 ブラック, クラーク)
 1:02.4 56.4)

5. フィリピン 4:28.0
 (コルテズ, サロン, エリザルデ, サイラニ)
 1:08.4 1:18.1 1:02.9 58.6)

6. ブラジル 4:30.1
 (デオリヴェイラ, ザブリス,
 1:07.2 1:15.6
 パーセク, デアブルー)
 1:08.5 58.8)

7. イギリス 4:17.6
 (サイクス, ウォルクデン,
 1:03.6 1:12.4
 ブラック, クラーク)
 1:03.3 58.3)

予選 3

1. アメリカ 4:08.2(オ新)
 (ベネット, ハイト, ギランダース, クラーク)
 1:02.6 1:11.2 59.8 54.6)

8. オランダ 4:18.2
 (ジスクート, メンソニデス,
 1:06.3 1:13.4
 コルテウェグ, クローン)
 1:02.6 55.9)

2. カナダ 4:15.3
 (ホイートン, ラビノヴィッチ,
 1:04.8 1:12.3
 グルート, パウンド)
 1:02.1 56.1)

3. オランダ 4:16.1
 (ジスクート, メンソニデス,
 1:05.6 1:12.2
 コルテウェグ, クローン)
 1:02.2 56.1)

4. ハンガリー 4:17.7
 (チッカニー, クンジャジ, キッス, ラントス)
 1:04.6 1:13.1 1:03.0 57.0)

5. ユーゴ 4:25.5
 (ドルチッチェ, ペルシク,
 1:06.1 1:14.9
 ログシッチェ, コチョミュア)
 1:06.3 58.2)

6. ポルトガル 4:39.9
 (セルクエイラ, スーザ, ヨルゲ, リベイラ)
 1:07.1 1:24.7 1:06.8 1:01.3)

決勝 (9/1 夜)

1. アメリカ 4:05.4(世新)
 (マッキニー, ハイト, ラースン, ファーレル)
 1:02.0 1:10.5 58.0 54.9)

2. オーストラリア 4:12.0
 (タイラ, ギャザコール, ヘイズ, シプトン)
 1:02.4 1:10.9 1:03.3 55.4)

3. 日本 4:12.2
 (富田, 大崎, 開田, 清水)
 1:04.1 1:11.5 1:00.4 56.2)

4. カナダ 4:16.8
 (ホイートン, ラビノヴィッチ,
 1:05.4 1:12.4
 グルート, パウンド)
 1:03.0 56.0)

5. ソ連 4:16.8
 (バルビエル, コレスニコフ,
 1:04.7 1:12.5
 キセリョフ, ルジコフスキー)
 1:02.4 57.2)

6. イタリア 4:17.2
 (アヴェローネ, ラザリ,
 1:05.5 1:12.7
 デンネルライン, ピアンチ)
 1:01.4 57.6)

競泳女子

100 m 自由形 (エントリー32, 出場32)

予選 1 (8/26 昼)

1. I. コンラッツ (豪) 1:04.2
 2. E. テルスプトラ (和) 1:04.4
 3. K. ボロス (洪) 1:05.2
 4. Ka. ラルソン (典) 1:06.3
 5. パシフィシ (伊) 1:07.1
 6. パロン (墨) 1:07.9

予選 2

1. D. フレイザー (豪) 1:02.1
 2. C. ハステラールス (和) 1:03.9
 3. I. ソーングレン (典) 1:06.1
 4. 佐藤喜子 (日) 1:06.4
 5. ノヴォトニー (墺) 1:07.4
 6. A. ソーンスタインドッター (氷) 1:07.5

予選 3

1. C. バイノゲル (洪) 1:04.5
 2. H. ベヒスタイン (独) 1:05.1
 3. D. ウィルキンソン (英) 1:07.5
 4. M. イワサキ (加) 1:07.6
 5. ロッケンバッハ (ヴ) 1:08.5
 6. 神野 眸 (日) 1:09.8
 7. プリド (西) 1:10.0

予選 4

1. C. フォンソルツァ (米) 1:01.9(オ新)
 2. U. プルンナー (独) 1:04.6
 3. H. フロス (仏) 1:05.8
 4. M. ステュワート (加) 1:06.0
 5. U. フーグ (ソ) 1:06.7
 6. H. エスピノ (比) 1:07.8
 7. サットクリフ (ロ) 1:09.0

予選 5

1. N. ステュワード (英) 1:03.5
 2. C. ウッド (米) 1:04.3
 3. P. サイニ (伊) 1:04.4

- 4. M. シャマル (ソ) 1:06.4
- 5. ギャイロ (仏) 1:08.0
- 6. スーザ (墨) 1:08.4

準決勝 1 (8/27 夜)

- 1. C. フォンソルツァ (米) 1:02.5
- 2. N. ステュワード (英) 1:02.9
- 3. C. バイノゲル (洪) 1:03.0
- 4. I. コンラッツ (豪) 1:04.7
- 5. H. フロス (仏) 1:05.4
- 6. P. サイニ (伊) 1:05.4
- 7. I. ソーングレン (典) 1:05.6
- 8. H. ペヒスタイン (独) 1:05.6

準決勝 2

- 1. D. フレイザー (豪) 1:01.4(オ新)
- 2. E. テルプストラ (和) 1:03.7
- 3. C. ハステラールス (和) 1:03.9
- 4. C. ウッド (米) 1:04.2
- 5. M. ステュワード (加) 1:04.2
- 6. U. ブルンナー (独) 1:04.8
- 7. K. ボロス (洪) 1:06.2
- 8. Ka. ラルソン (典) 1:06.5

決勝 (8/29 夜)

- 1. D. フレイザー (豪) 1:01.2(オ新)
- 2. C. フォンソルツァ (米) 1:02.8
- 3. N. ステュワード (英) 1:03.1
- 4. C. ウッド (米) 1:03.4
- 5. C. バイノゲル (洪) 1:03.6
- 6. E. テルプストラ (和) 1:04.3
- 7. C. ハステラールス (和) 1:04.7
- 8. M. ステュワード (加) 1:05.5

400 m 自由形 (エントリー-24, 出場22)

予選 1 (8/31 夜)

- 1. C. フォンソルツァ (米) 4:53.6(オ新)
1:06.5 2:20.3 3:36.0
- 2. T. ラヘルベルヒ (和) 4:57.0
1:08.8 2:24.7 3:40.8
- 3. B. セゲルストローム (典) 4:57.6
1:09.4 2:25.0 3:41.5
- 4. G. ワイス (独) 5:08.6
1:10.7 2:30.2 3:49.6
- 5. J.V. サムエル (英) 5:12.9
- 6. P. サイニ (伊) 5:13.1
- 7. 江坂君子 (日) 5:26.8
- 8. 和田映子 (日) 5:26.8

予選 2

- 1. I. コンラッツ (豪) 4:59.2
1:10.0 2:25.5 3:42.0
- 2. C. シムメル (和) 5:00.1
1:09.6 2:26.0 3:42.6
- 3. H. フロス (仏) 5:00.6
1:09.4 2:25.7 3:42.9
- 4. C. ハウス (米) 5:00.7
1:09.2 2:25.7 3:43.0
- 5. ウィルソン (ロ) 5:16.8
- 6. スーザ (墨) 5:21.3
- 7. ミュラー (墺) 5:25.1

棄 M. エゲルヴァリ (洪)

予選 3

- 1. J. セデルグィスト (典) 4:55.6
1:09.4 2:25.3 3:41.5
- 2. N. ロー (英) 4:55.7
1:07.1 2:23.0 3:40.1
- 3. D. フレイザー (豪) 4:57.6
1:10.4 2:26.3 3:43.0
- 4. U. ブルンナー (独) 5:05.3
1:08.5 2:25.9 3:44.5
- 5. ヴェスチ (伯) 5:18.3
- 6. M. フランク (洪) 5:21.9
- 7. バロン (墨) 5:26.4

棄 M. イワサキ (加)

決勝 (9/1 夜)

- 1. C. フォンソルツァ (米) 4:50.6(オ新)
1:06.5 2:18.7 3:33.2
- 2. J. セデルグィスト (典) 4:56.9
1:09.2 2:24.2 3:40.0
- 3. T. ラヘルベルヒ (和) 4:56.9
1:08.5 2:22.6 3:38.2
- 4. I. コンラッツ (豪) 4:57.9
1:09.0 2:24.8 3:42.1
- 5. D. フレイザー (豪) 4:58.5
1:08.5 2:24.5 3:43.2
- 6. N. ロー (英) 4:59.7
1:08.1 2:24.3 3:43.0
- 7. C. シムメル (和) 5:02.3
1:08.8 2:24.0 3:43.6
- 8. B. セゲルストローム (典) 5:02.4
1:08.8 2:26.5 3:45.3

200 m 平泳 (エントリー-29, 出外28)

予選 1 (8/26 朝)

- 1. B. ゲベル (独) (1:24.5) 2:54.2
- 2. R. ラッシグ (豪) (1:25.5) 2:57.4
- 3. 高松好子 (日) (1:25.9) 2:57.6
- 4. M. ピアラ (仏) (1:26.7) 3:02.2

5. E. マウレル (ソ) (1:27.3) 3:03.1
6. マイナーズ (ロ) (1:28.0) 3:05.2
7. ウォーベル (塊) (1:28.3) 3:09.3
8. ハンゲルブーラー (瑞) (1:29.4) 3:10.1

予選 2

1. A. ロンスブロー (英) (1:23.4) 2:53.3
2. バルトス (洪) (1:23.8) 2:58.7
3. B. エリクソン (典) (1:26.8) 2:59.8
4. A. ミルコウィッチ (仏) (1:26.6) 3:01.5
5. フィリップヴィッツ (塊) (1:27.5) 3:02.6
6. コロボワ (ソ) (1:24.5) 3:02.7
7. マルセリニ (伊) (1:29.6) 3:09.8

予選 3

1. W. ウルセルマン (独) (1:21.6) 2:52.0
2. M. コック (和) (1:24.5) 2:55.2
3. P. ケムプナー (米) (1:24.4) 2:55.5
4. クリステンセン (丁) (1:24.7) 2:56.2
5. C. ゴスデン (英) (1:24.7) 2:56.9
6. マックホール (加) (1:29.2) 3:07.7
7. カスタン (西) (1:32.9) 3:10.4

棄 シュミドリン (瑞)

予選 4

1. A. デンハーン (和) (1:24.4) 2:54.0
2. A. ワーナー (米) (1:25.5) 2:53.3
3. ゼナーロ (伊) (1:25.2) 2:57.0
4. アンダーセン (丁) (1:25.6) 2:59.9
5. J. ホーガン (豪) (1:25.7) 2:00.3
6. カドレコワ (チ) (1:27.3) 3:01.7
7. フレイタス (葡) (1:29.9) 3:13.3

決勝 (8/27 夜)

1. A. ロンスブロー (英) (1:22.2) 2:49.5(世新)
2. W. ウルセルマン (独) (1:20.2) 2:50.0
3. B. ゲベル (独) (1:22.9) 2:53.6
4. A. デンハーン (和) (1:22.9) 2:54.4
5. M. コック (和) (1:23.5) 2:54.6
6. A. ワーナー (米) (1:24.3) 2:55.4
7. P. ケムプナー (米) (1:24.7) 2:55.5
8. クリステンセン (丁) (1:23.8) 2:55.7

100 m バタフライ (エントリー28, 出場25)

予選 1 (8/29 昼)

1. C. シュラー (米) 1:09.8(オ新)
2. J. アンドリュ (豪) 1:10.3
3. V. ポズニアク (ソ) 1:13.2
4. J. オールドロイド (英) 1:14.2
5. ベルマー (墨) 1:16.5
6. ヤネル (塊) 1:18.4

棄 マックホール (加)

予選 2

1. S. ワット (英) 1:12.3
 2. Z. ペロヴェツカイア (ソ) 1:12.6
 3. Kr. ラルソン (典) 1:13.0
 4. ベネク (伊) 1:21.4
 5. ウイルスン (ロ) 1:18.4
- 棄 D. フレイザー (豪)
棄 G. ロザダ (比)

予選 3

1. C. ウッド (米) 1:11.1
2. A. フォールバイ (和) 1:12.4
3. H. アインシュミット (独) 1:14.6
4. Ka. ラルソン (典) 1:15.0
5. マルティネズ (墨) 1:17.9
6. M. エゲルヴァリ (洪) 1:19.4
7. リボーレル (仏) 1:20.4

予選 4

1. M. ヘームスケルク (和) 1:11.0
2. B. ファールマン (独) 1:13.2
3. M. イワサキ (加) 1:14.2
4. 宮部 シズエ (日) 1:15.8
5. フォンギース (比) 1:16.3
6. キャロン (仏) 1:17.1
7. セッチ (伊) 1:19.5

決勝 (8/30 夜)

1. C. シュラー (米) 1:09.5(オ新)
 2. M. ヘームスケルク (和) 1:10.4
 3. J. アンドリュ (豪) 1:12.2
 4. S. ワット (英) 1:13.3
 5. A. フォールバイ (和) 1:13.3
 6. J. ペロヴェツカイア (ソ) 1:13.3
 7. Kr. ラルソン (典) 1:13.6
- 棄 C. ウッド (米)

100 m 背泳 (エントリー30, 出場30)

予選 1 (9/1 夜)

1. L. ランウェル (南ア) 1:12.0(オ新)
2. N. デラッシュ (仏) 1:12.5
3. L. ヴィクトロワ (ソ) 1:12.8
4. S. バーバー (加) 1:13.4
5. G. ベケット (豪) 1:13.7
6. L. クーパー (ロ) 1:15.8
7. ロッケンバッハ (ヴ) 1:18.6
8. タマソヴィッツ (洪) 1:21.5

予選 2

1. L. パーク (米) 1:09.4(オ新)
2. E. ペターセン (丁) 1:12.6
3. I. シュミット (独) 1:13.1
4. M. ウイルスン (豪) 1:13.8
5. R. ドバー (和) 1:14.2
6. L. クリポフ (ソ) 1:14.5
7. ヴェッターリ (瑞) 1:19.6
8. セイス (ル) 1:23.9

予選 3

1. R. ファン・フェルゼン (和) 1:11.1
2. 田中聰子 (日) 1:11.5
3. N. ステュワード (英) 1:12.0
4. H. シュミット (独) 1:13.3
5. M. ダヴィド (洪) 1:15.7
6. ファイディガ (伊) 1:18.5
7. ファン・パリース (白) 1:20.4

予選 4

1. S.A. ルイズ (英) 1:12.2
2. R-M.ピアセンティニ (仏) 1:12.2
3. N. ハーマー (米) 1:13.8
4. K. ミカエルセン (丁) 1:14.3
5. サットクリフ (ロ) 1:15.2
6. セルピリ (伊) 1:20.3
7. トリットナー (埃) 1:20.8

決勝 (9/3 夜)

1. L. パーク (米) 1:09.3(オ新)
2. N. ステュワード (英) 1:10.8
3. 田中聰子 (日) 1:11.4
4. L. ランウエル (南ア) 1:11.4
5. R-M.ピアセンティニ (仏) 1:11.4
6. S. ルイズ (英) 1:11.8
7. M. ファン・フェルゼン (和) 1:12.1
8. N. デラッシュ (仏) 1:12.4

400 m リレー (エントリー13, 出場12)

予選 1 (9/2 朝)

1. アメリカ 4:18.9
(デヴァロナ, ドール, ルースカ, ボトキン)
1:06.5 1:04.5 1:05.2 1:02.9)
2. イギリス 4:24.4
(ノークス, サムエル, ハリス, ステュワード)
1:06.9 1:04.5 1:05.7 1:04.3)
3. スエーデン 4:27.3
(ソーングレン, Ka.ラルソン,
1:05.5 1:07.2
Kr.ラルソン, セゲルストローム)
1:07.2 1:07.4)

4. イタリア 4:31.8
(ベネク, コンタルド, パシフィシ, サイニ)
1:09.3 1:08.6 1:08.1 1:05.8)
5. 日本 4:35.9
(佐藤, 和田, 江坂, 神野)
1:05.9 1:09.4 1:09.1 1:11.5)
6. メキシコ 4:43.1
(マルティネツ, ベルマー, パロン, スーザ)

予選 2

1. オーストラリア 4:17.6
(モルガン, コルフーン,
1:05.5 1:02.5
エヴァラス, クラップ)
1:05.4 1:04.2)
 2. ハンガリー 4:22.2
(タマソヴィッチ, フランク,
1:07.2 1:05.6
ボロス, バイノゲル)
1:06.0 1:03.4)
 3. ドイツ 4:24.2
(ステフィン, ペヒスタイン,
1:06.5 1:05.6
ワイス, ブルンナー)
1:06.7 1:05.4)
 4. ソ連 4:31.9
(ラホフスカヤ, フーグ, ソスノフ, シャマル)
1:09.0 1:08.2 1:08.8 1:05.9)
 5. フランス 4:35.2
(フロス, キャロン, リボーレル, ガイロ)
1:07.3 1:10.1 1:09.8 1:08.0)
- オランダ 失格

決勝 (9/3 夜)

1. アメリカ 3:08.9(世新)
(スピレオン, アトープス,
1:02.5 1:03.5
ウッド, フォンソルツァ)
1:02.0 1:00.9)
2. オーストラリア 4:11.3
(フレイザー, コンラッス,
1:00.6 1:03.2
(オ新) クラップ, コルフーン)
1:04.7 1:02.8)
3. ドイツ 4:19.7
(ステフィン, ペヒスタイン,
1:05.6 1:04.7
ワイス, ブルンナー)
1:05.4 1:04.0)
4. ハンガリー 4:21.2
(トマソヴィッツ, フランク,
1:07.1 1:05.0
ボロス, バイノゲル)
1:05.9 1:03.2)
5. イギリス 4:24.6

- (ステュワード, ノークス, サムエル, ハリス)
1:05.3 1:06.2 1:06.5 1:06.6)
6. スエーデン 4:25.1
ソーングレン, Ka.ラルソン,
1:05.5 1:06.1
(Kr.ラルソン, セゲルストローム)
1:07.6 1:05.9)
7. イタリア 4:26.8
(サイニ, セッチ, コンタルド, パシフィシ)
1:05.5 1:06.8 1:07.8 1:06.7)
8. ソ連 4:29.0
(ラホフスカヤ, フーグ, ソスノワ, シャマル)
1:08.4 1:07.0 1:08.2 1:05.4)

400 m メドレー・リレー

(エントリー13, 出場12)

予選 1 (8/30 昼)

1. イギリス 4:49.0
(ルイズ, ロンスブロー,
1:11.7 1:21.0
オールドロイド, ステュワード)
1:13.2 1:03.1)
2. アメリカ 4:49.3
(パーク, ワーナー, ウッド, スピレーン)
1:10.3 1:24.8 1:10.5 1:03.7)
3. ドイツ 4:49.6
(I. シュミット, キューペル,
1:12.1 1:19.6
ファーマン, ブルンナー)
1:13.1 1:04.8)
4. ハンガリー 4:52.8
(ダヴィド, バルトス,
1:13.5 1:21.0
エゲルヴァリ, バイノゲル)
1:15.7 1:02.6)
5. フランス 4:59.7
(ピアセンティニ, ピアラ, キャロン, フロス)
1:11.5 1:23.6 1:18.9 1:05.7)
6. イタリア 5:04.4
(セルピリ, ゼナーロ, ベネク, サイニ)

棄権 メキシコ

予選 2

1. オランダ 4:47.4
(ファン・フェルゼン, デンハーン,
1:11.1 1:22.8
ラヘルベルヒ, テルプストラ)
1:10.2 1:03.3)
2. ソ連 4:54.4
(ヴィクトロワ, コロボワ,
1:12.7 1:23.6
ポズニアク, シャマル)
1:13.0 1:05.1)
3. 日本 4:54.5

- (田中, 高松, 宮部, 佐藤)
1:11.2 1:21.9 1:15.7 1:05.7)
4. オーストラリア 4:55.7
(ベケット, ラッシング,
1:15.3 1:20.6
アンドリュ, コンラッズ)
1:16.7 1:03.1)
5. カナダ 4:59.5
(バーバー, マックホール,
イワサキ, ステュワード)
6. ロデシア 5:12.9
(クーパー, マイナース,
ウイルソン, サトクリフ)

決勝 (9/2 夜)

1. アメリカ 4:41.1(世新)
(パーク, ケムプナー,
1:09.0 1:20.9
(世新) シュラー, フォンソルツァ)
1:08.9 1:02.3)
2. オーストラリア 4:45.9
(ウイルソン, ラッシング,
1:13.9 1:20.1
アンドリュ, フレイザー)
1:10.3 1:01.6)
3. ドイツ 4:47.6
(I. シュミット, キューペル,
1:11.4 1:19.3
ファーマン, ブルンナー)
1:11.8 1:05.1)
4. オランダ 4:47.6
(ファン・フェルゼン, デンハーン,
1:11.2 1:22.8
ヘームスケルク, テルプストラ)
1:10.9 1:02.7)
5. イギリス 4:47.6
(ルイズ, ロンスブロー,
1:11.9 1:21.0
ワット, ステュワード)
1:11.5 1:03.2)
6. ハンガリー 4:53.7
(ダヴィド, バルトス,
1:14.2 1:21.0
エゲルヴァリ, バイノゲル)
1:16.0 1:02.5)
7. 日本 4:56.4
(田中, 高松, 宮部, 佐藤)
1:11.2 1:22.5 1:17.1 1:05.6)
8. ソ連 4:58.1
(ヴィクトロワ, コロボワ,
1:14.2 1:24.5
ペロヴェツカイア, シャマル)
1:14.0 1:05.4)

男子飛板飛び込み (32名出場)

	予選	準決勝	決勝
1. G. トビアン (米) ②62.03 ②107.33 170.00			
2. S. ホール (米) ①62.16 ①107.49 167.08			
3. ボテラ (墨) ③60.66 ③106.96 162.30			
4. A. ガキシオラ (墨) ⑥54.89 ⑥94.67 150.42			
5. E. メイスナー (加) ⑧53.62 ⑦94.23 144.07			
6. L. マリ (伊) ⑤55.04 ④96.49 143.97			
7. 山野 外嗣夫 (日) ⑫52.84 ⑧94.08 140.46			
8. D. ポフェール (独) ④55.10 ⑤94.91 133.95			
セネコ (仏) ⑦53.93 ⑨92.47			
W. メッサ (伊) ⑨53.47 ⑩92.28			
オールテル (独) ⑮51.80 ⑪91.90			
メルニコフ (ソ) ⑩53.30 ⑬91.86			
ヘルストローム(典)⑭51.91 ⑬91.31			
G. ルンドクィスト(典)⑬52.36 ⑭91.23			
K. マルクィッカ (澳) ⑪53.12 ⑮90.73			
デュブレ (澳) ⑯51.48 ⑯89.26			

女子飛板飛び込み (18名出場)

	予選	準決勝	決勝
1. J. クラマー (独) ①56.23 ①98.60 155.81			
2. P. ポープ (米) ②52.67 ④90.02 141.24			
3. E. フェリス (英) ③52.37 ⑤89.46 139.09			
4. M. ウィラード (米) ⑧50.64 ⑦88.78 137.82			
5. N. クルトワ (ソ) ④52.35 ②92.19 136.11			
6. J. マクドナルド(加) ⑨50.42 ③91.23 134.69			
7. A. ロング (英) ⑦50.87 ⑧87.18 129.63			
8. D. デュボン (和) ⑥51.20 ⑥88.81 123.35			
N. グリグラン (仏) ⑩48.96 ⑨85.72			
W. オルテル (独) ⑪48.64 ⑩84.49			
E. コソラポワ (ソ) ⑫47.88 ⑪84.01			
S. ナイト (豪) ⑭46.19 ⑫83.25			
S. モルゲンルード(ロ) ⑬47.12 ⑬82.07			
渡辺 久美子 (日) ⑯44.32 ⑭80.57			
G. ラグサート (和) ⑮460.3 ⑮80.39			
津谷 鹿乃子 (日) ⑯51.95 ⑯80.37			

男子高飛び込み (28名出場)

1. R. D. ウェプスター(米)⑨52.21 ③99.72 165.56
2. G. トビアン (米) ④54.10 ①106.08 165.25
3. B. E. フェルプス (英) ①57.35 ②101.85 157.13
4. R. マドリガル (墨) ⑩52.03 ⑥95.88 152.86
5. R. スペルリング (独) ②57.25 ④96.83 151.83
6. G. ガルキン (ソ) ⑤54.07 ⑤96.74 141.69
7. F. エンスカト (独) ⑬51.23 ⑦93.03 138.86
8. A. シソエフ (ソ) ⑥54.03 ⑧93.03 135.59
K. マルクィッカ (澳) ③55.13 ⑨91.37
金戸 俊介 (ロ) ⑦52.65 ⑩90.99
G. ルンドクィスト(典) ⑧52.32 ⑪90.86
T. オーマン (典) ⑮50.97 ⑫89.50
馬淵 良 (日) ⑭51.12 ⑬89.13
A. スポルドネ (伊) ⑪51.90 ⑭88.77
J. コワレフスキー(波) ⑫51.24 ⑮87.22
H. ルークェ (仏) ⑯50.74 ⑯83.55

女子高飛び込み (15名出場)

1. J. クラマー (独) ①56.30 91.28
2. P. ポープ (米) ②54.70 89.94
3. N. クルトワ (ソ) ③55.38 86.99
4. J. イルウィン (米) ⑥51.90 83.59
5. ゴロコフスカヤ(ソ) ⑧51.53 83.03
6. N. トーマス (英) ⑦51.77 82.21
7. N. グリグラン (仏) ⑫49.68 81.18
8. A. ロング (英) ⑤52.12 80.98
9. J. マクドナルド(加) ⑨51.31 80.49
10. 渡辺 久美子 (日) ⑩51.04 79.60
11. 津谷 鹿乃子 (日) ⑪49.76 77.90
12. ハンソン (典) ④53.03 77.43

日本—ユーゴ・ハンガリー交歓競技

オリンピック参加後、水泳チームはユーゴおよびハンガリーからの招待によって、それぞれの国を訪ね、交歓競技を行った。成績は次の通りである。

日本・ユーゴ交歓 9/11~12 於モスタル50m

男子

100自	1. 山中 毅	58.6
	2. 柴田 徹	1:00.2
	3. 石原 勝記	1:00.5
	4. B. ヴォルキャンセク (ユ)	1:01.2
200自	1. 山中 毅	2:08.6
	2. M. ジェガー (ユ)	2:11.8
	3. 清水 啓吾	2:12.0
400自	1. 福井 誠	4:37.2
	2. 藤本 達夫	4:42.4
	3. M. ジェガー (ユ)	4:46.1
100平	1. 大崎 剛彦	1:14.3
	2. G. ペリシク (ユ)	1:15.2(ユーゴ新)
	3. 増田 勲	1:15.6
200平	1. G. ペリシク (ユ)	2:40.2(ユーゴ新)
	2. 大崎 剛彦	2:41.4
	3. 増田 勲	2:45.2
100バ	1. 開田 幸一	1:02.3
	2. 井筒 賢造	1:03.1
	3. B. ヴォルキャンセク (ユ)	1:07.3
200バ	1. 吉無田 春男	2:21.6
	2. 井筒 賢造	2:24.4
	3. M. テルゾヴィク (ユ)	2:49.2
100背	1. 富田 一雄	1:06.0
	2. 渡辺 和夫	1:07.0
	3. M. ドルシク (ユ)	1:08.6
400混継	1. 日本	4:22.5
	(富田, 増田, 吉無田, 山中)	
	2. ユーゴ	4:40.0
	(ヴラニク, ペリシク, ヴォルキャンセク, ロンザ)	

女子

100自	1. 佐藤 喜子	1:07.2
	2. T.V. キャンジク (ユ)	1:11.4
	3. 神野 暉	1:12.8
200自	1. H. ゼイラー (ユ)	2:31.1
	2. 和田 映子	2:36.0
	3. 江坂 君子	2:37.1
400自	1. H. ゼイラー (ユ)	5:24.2
	2. 江坂 君子	5:33.8
100平	1. 高松 好子	1:25.9

2. A. マリシク (ユ)	1:26.2	
200平	1. " "	3:03.6
	2. 高松 好子	3:04.3
100バ	1. 宮部 シズエ	1:16.9
	2. M. ジェロヴァク (ユ)	1:28.6
100背	1. 田中 聰子	1:14.8
	2. D. ピリク (ユ)	1:20.8
400混継	1. 日本	5:10.0
	(田中, 高松, 宮部, 佐藤)	
	2. ユーゴ	5:34.2

日本・ユーゴ交歓 9/13 於ドゥブロフニク50m 塩水

男子

100自	1. 清水 啓吾	57.5
	2. 山中 毅	57.9
	3. L. ロンザ (ユ)	1:00.0
200自	1. 福井 誠	2:06.4
	2. 藤本 達夫	2:07.8
100平	1. 大崎 剛彦	1:12.8
	2. 増田 勲	1:15.2
100バ	1. 開田 幸一	1:01.1
	2. 吉無田 春男	1:03.2
100背	1. 富田 一雄	1:05.4
	2. 渡辺 和夫	1:07.0
200混継	1. 日本	1:45.0
	(山中, 中坊, 石原, 清水)	
	2. ユーゴ	1:46.2

女子

200自	1. 佐藤 喜子	2:23.2
	2. H. ゼイラー (ユ)	2:26.8
200平	1. 高松 好子	2:57.7
100背	1. 田中 聰子	1:14.6
200混継	1. 日本	2:06.8
	(和田, 宮部, 神野, 佐藤)	

日本・ユーゴ交歓 9/14 於ザグレブ 50m

男子

100自	1. 山中 毅	58.0
	2. 福井 誠	59.0
	3. 石原 勝記	59.6
	4. B. ヴォルキャンセク (ユ)	1:00.8

200自	1. 藤本達夫	2:09.2
	2. M. シェガー (ユ)	2:11.0
100平	1. 大崎剛彦	1:14.0
	2. 増田勲	1:16.6
	3. トミシク (ユ)	1:17.2
100バ	1. 開田幸一	1:03.2
	2. 吉無田春雄	1:04.0
	3. 井筒賢造	1:04.4
	4. B. ヴォルキャンセク (ユ)	1:05.8
100背	1. 富田一雄	1:05.8
	2. 渡辺和夫	1:06.8
	3. M. ドルシク (ユ)	1:07.5

女子

100自	1. 佐藤喜子	1:08.2
	2. 和田晩子	1:11.6
	3. 神野眸	1:11.6
200平	1. A. マリシク (ユ)	3:04.2
	2. 高松好子	3:05.8
100バ	1. 宮部シズエ	1:18.2
100背	1. 田中聰子	1:18.0

日本・ハンガリー交歓 9/17-18於ブダペスト50m

男子

100自	1. G. ドバイ (洪)	55.9
	2. 清水啓吾	56.7
	3. 藤本達夫	57.2
	4. L. ラントス (洪)	57.2
	5. 石原勝記	57.3
	6. L. スランカ (洪)	57.6
400自	1. 山中毅	4:26.6
	2. 福井誠	4:30.3
	3. J. カトナ (洪)	4:32.5
100平	1. 大崎剛彦	1:12.6
	2. 増田勲	1:13.9
	3. G. クンシャジ (洪)	1:15.4
200平	1. 大崎剛彦 (1:17.2)	2:38.9
	2. 増田勲	2:41.0
	3. G. クンシャジ (洪)	2:45.0

100バ	1. 開田幸一	1:01.8
	2. 吉無田春男	1:02.4
	3. 井筒賢造	1:03.3
	4. L. キッス (洪)	1:04.2
100背	1. 富田一雄	1:03.5 (日新)
	2. J. チッカニー (洪)	1:03.8
	3. 渡辺和夫	1:04.2
200背	1. 富田一雄 (1:08.6)	2:20.7 (日新)
	2. J. チッカニー (洪)	(1:09.3) 2:22.1 (洪新)
	3. 渡辺和夫	2:27.1
400継	1. 日本	3:45.0 (日新)
	(山中, 藤本, 清水, 石原)	56.4 55.9 56.1 56.6
	2. ハンガリー	3:46.9 (欧新)
	(ドバイ, スランカ, ミュラー, ラントス)	55.7 57.8 56.6 56.8
	(欧新)	
400混継	1. 日本	4:12.2
	(富田, 大崎, 開田, 山中)	1:04.2 1:11.9 1:00.4 55.7
	2. ハンガリー	4:19.3

女子

100自	1. C. マダラス (洪)	1:03.1
	2. M. フランク (洪)	1:05.4
	3. 佐藤喜子	1:05.8
100平	1. K. キラーマン (洪)	1:21.2
	2. M. ベリンデ (洪)	1:25.9
	3. 高松喜子	1:27.2
200平	1. K. キラーマン (洪)	2:52.9
	2. 高松好子	3:00.5
100バ	1. M. エゲルヴァリ (洪)	1:15.3
	2. 宮部シズエ	1:16.7
100背	1. M. ダヴィド (洪)	1:13.5
400継	1. ハンガリー	4:19.1 (洪新)
	2. 日本	4:34.7
400混継	1. ハンガリー	4:53.5
	2. 日本	5:00.4

安部輝太郎氏FINA名誉主事に選任さる

既に新聞紙上に報道されたように、ローマで開催されたFINA総会において、本連盟安部名誉主事は選挙の結果多数によりFINA名誉主事に選出されました。申すまでもなくFINA名誉主事の地位は会長に次ぐ重要ポストであり、FINA全体の事実上の統括者として今後開催されるであろう理事会、総会の開会、IOCとの

連絡はもち論加盟国への通報、指示、世界記録の公認審査等国際水連各般の事務を執行することになるもので、日本水連にとっても非常に名誉なことであると同時に東京大会を控え重要事務が山積し多忙を極められることになるものと考えます。ここに御紹介申上げるとともに各位の御協力を切望します。

▷ローマ大会雑感◁

第17回ローマオリンピック大会も種々な話題を残し、悲喜交々のうちにその幕を閉じた。勝敗はともかくとして選手諸君、コーチ団各位の非常な活躍と御努力に対しては心からなる感謝の意を表する次第である。本当に御苦労さんでした。水泳とは一応無縁ではあるが、マラソンのアベベ選手の優勝は、幕切れを飾るにふさわしい劇的な興趣を盛りあげたが、この予想外の勝利は単に人種問題を超越したなにかおかしがたいものを感じさせるとともに鋼鉄のような意志力と厳しい鍛練に因るものであることをわれわれに考えさせたようである。ところで水泳の会期10日間は、選手諸君にとり異境の馴れぬ風土、気候のなかにあって、あわただしさとともに緊張感とコンジションの調整に必要以上に神経をすりへらしたことだろう。しかしよく言われることだが、そういうハンデを差引いてもオリンピックという晴の舞台を前にしては、どんな名選手でも興奮にかきたてられようし、とかく自己を失い勝になるものようだ。また、コンジションの在り方についても結果論的には批判があるようであるが、如何なるレースでも指導者が選手個々の適性を見きわめ総合的調整の上に全選手をして絶好調をきわめさすということは容易なことではない。ましてオリンピックともなれば問題はしかく簡単ではない。指導者には深い経験に基く卓越した計画性と指導力を要することは言を俟たないが、異なる諸種の環境を計算に入れ、更に異質な選手個々の動向を常時把握しながら選手の調子のヤマを大会当日に引っぱりあげるということはコーチ団の任務とは言いながら大変なことと思う。もち論、コーチ団の計画性そのものにも問題はあるにしても見落してならないことは、調子のヤマとか絶好調を持するというのも所詮は選手自体の自覚と努力の累積が集約され初めて達成されるものであり、己を知るものは選手以外にはないということである。そうは言っても、オリンピックの舞台では他律的になり易いだけにこのような自己管理が果してそのまま通用するかどうか、いうべくして単純に律せられるものではない。

何れにしても、コーチ団の役割は大きくかつ重いものであるに違いないが、同時にそれは選手個々の自覚と強い精神力の総和が結びつき作用してこそ栄冠への道が叶えられるのである。

ところで、われわれの目標の彼岸はもち論東京大会ではあるが、その意味からはローマ大会はその踏台だという考え方がある。しかしながら、ローマ大会での成績が東京本会への成果につながるバロメーターであり、オリンピックという至上の舞台であるからには、あらゆる総合力をしぼり全能を傾けての斗いでなくては許されない筈である。もち論選手諸君にはそういう考えがいささかもある筈がないことは当然であるが単に試金石だという態のものでは余りにも甘いイージーな考えに失するものと言えよう。してみるとこの度のローマでの経験は非常に貴重であり、よい教訓をもたらしたものであることができる。しかし山中君のあの超人的な活躍や大崎君、田中嬢の入賞への真摯な敢闘振り、リレーメンバーの世界記録への挑戦等はとにかく持てる力を傾け尽しての活躍であつたらうし、当事者でなければ判らないあの場の雰囲気なり長期間のレースの展開等を考え併せればよくぞやったりと賞讃の言葉を惜しまないものである。更にはまた体力的にも精神的にも人間力の限界すれすれの努力を要したことは十分想像できよう。

それにしても、デヴィット、ローズ、トロイ、ムリケン等に見られたあのすさまじい馬力とペースのかけ引等は何を物語ったか。

今後の課題として十分考えさせるものを含んでいる。練習方法の改善、特にインターバル練習法への反省と検討、及び体力の練磨、更に米・豪に見られるエイジグループ組織の導入ひいては文部次官通達撤廃をめぐっての中小学生对策等東京大会を目指し強化対策としてなすべきこと検討を要すべきことは多々あろう。

それには頑健な体力と精神力、環境への適応性等を養うことはもち論、基本的には練習方法の科学的管理は或る種のハード・トレーニングを基礎として行われるべきであるということではないか。(プールサイド)

ジュニア部欄の新設に当って 根 上 博

「丈夫な若木や苗を逞ましく育てなければいい収穫を得ることは出来ない」水泳の世界にあってもこれと同じ様に疲れを知らない十代の若い年令層を逞ましく育て、鍛えなければ今日の様に高い水準にある水泳界の諸強豪を打破って王座に就くことは至難である。

その実証として近年世界の王座に在る豪州や最近頼みに力を増して再びその勢を盛り返してきた米国が共に若い年令層の強化や育成に力を注ぎ今日の結果を生んだことは明らかである。今夏のオリンピック・ローマ大会の競泳に於て水泳競泳場のメインポールに高々と国旗を挙げ国歌を吹奏されたのは米国と豪州が圧倒的多数を占め、男子水泳競技の8種目は米国と豪州の夫々が4種目宛優勝を分け合って優劣なし。

これに比べ日本水泳界は戦後ヘルシンキ大会以降3回のオリンピック大会で優勝の栄冠に輝いたのはメルボルン大会で古川選手による200m平泳が唯一のものとするに遑々たるものである。毎回今一息足らずで米国や豪州の後塵を拝して居る原因は一つには日本人の国民的自信の喪失に因るものであり、戦争以前には一等国の国民として誇りと自信をもって世界を闊歩し外国人に対し言語や体格による劣等意識を少しも持たなかった。スポーツの世界にあっても自信をもって常に優位に立って闘うことが出来た。然し乍ら戦後はこれらの事情が変ってオリンピックの如き各国の精鋭の競う場に於ては国民的自信を喪い競争に十分実力を発揮し得ず紙一重の差をもって破れ去って居る。更に水泳にとってはこの自信喪失の外に重大なことは十代の若い年令層即ち中学校の水泳を強化育成に十分な施策をとることが出来なかったことである。水泳連盟としては戦後中学校水泳の育成強化対策を決して等閑視したのではないけれども、義務教育となった中学校のスポーツ活動には余りにも多くの制約があり過ぎたので勢い強化の対照は高等学校や大学の既成選手に置きざるを得なかった。

中学校の選手育成や強化は僅かに水泳教室や通信競技等と誠に微温湯の施策をとりつつ各関係方面に制約の解除運動を続けて居るけれども効果は薄く十分な情熱を込めて対策を練り事に当らなかった憾みはあり、水泳連盟の責めはまぬかれない処である。然しこの間にも中学校の選手を育成し強化し、日本水泳界の為に常に新鮮な若い逞ましい若木や苗を供給し続けて来た幾多の中学校水泳の指導者があったことを改めて見なおし、その行為に深甚の感謝をする必要がある。種々の制約や困難を克服して、めげず撓ゆまず、熱心に育て上げ養成した真の水泳愛好者の指導者の方々の努力が日本水泳界が今日も世界に誇ることの出来る選手層の厚さの基を為して居る

のである。

中学校水泳の強化育成方策の一つである全国ジュニア大会は本年鎌倉プールに於て開催した。ローマ大会に代表団を送り、各種競技会が複そうして水泳連盟が手薄であったとは云え、準備その他の不手際から不評をかった。然し全国から集まった指導者の方々や選手諸君は不平不満を忍んで熱心に協力し努力をはらって新鮮で潑刺とした泳ぎを示し、極めて高度な新しい記録を幾つか生み出したことは不幸中の幸いであった。選手と指導者の方々に讃辞を呈するものである。特にこの指導会に於て中学校指導者の方々に依る熱心な建設的意見を聞くことが出来たのは新しい記録と共に水泳連盟にとり大きな収穫であり、今後の中学校の強化対策の一つの指針を与えられたと云う可きである。その意見の中に早急に中学校の指導者の横の連絡がとれる様に強い要望があった。現在の中学校の指導者の方々は水泳選手を育成するに最も重要である若い年令層の選手に基礎訓練を施し乍ら、例え通信競技等はあるにしてもチームを率い中原に駒を進めて、その手腕を振るい選手の全能力を發揮させて優勝の歓びを味わうことも得られず、只ひたすらに若木や苗を作る可く水泳の基本を指導し、育成した選手が巣立ちゆく先きを見つめてその成功を祈り、更にまた若木や苗を新しく育成することの繰返しに終始する、所謂縁の下の力持ち的極めて地味な仕事に精魂を傾けて撓ゆまないその情熱や休むことなく続けられる努力には満腔の敬意を表するのみである。指導者の方は日本水泳の限らない発展こそ希って居るのであり最も重要な基礎訓練の指導に身を挺して居るのである。

自らの指導して居る技術や訓練の方法の良否、疑問、その成果が同じ様な道を励む人々に知って貰い度い。またその人々がどの様な研究をし、どの様な訓練をし、どんな成果をあげて居るかを知り度い現状に於てはまったく暗中摸索であり、この際水泳連盟の機関誌を通してお互いの連絡をとり、併せて水泳連盟の考え方なり方針を承知し、機動力をもって中学校の強化に当り度いとのことであった。

水泳連盟としては中学校のみを対照として新しく機関誌を発刊することは現況に於ては困難であるが既刊の「水泳誌」にジュニアの欄を設けて日本水泳界にとって最も重要であり、緊急を要する十代の若い年令層の育成強化をいかにす可きか、中学校の指導者の方々の意見や研究の回答を願ったり水泳連盟の施策等を収録して指導者の方々の参考に供し全国のジュニア大会の際の要望に応えたいと思うのである。乞期待。

(筆者は本連盟常務理事)

本年度水泳教室の報告

第8回九州地区水泳教室報告書

岡 田 正 一

1. 参加状況

1. 期間……自8月10日～至8月13日
2. 会場……別府市菅室内プール（公認50米）
3. 参加府県名及参加人員
福岡県 9名（引卒者1名，男子4名，女子4名）
熊本県 46名（引卒者3名，男子22名，女子21名）
大分県 35名（引卒者2名，男子23名，女子10名）
鹿児島県 9名（男子3名，女子5名）
沖縄 6名（引卒者2名，男子4名）
以上5県105名（男65名，女40名）

4. その他の事項

- A 男女を通じて体位は概ね中位程度で男子の身長1m70以上の者は稀であり体重60K以上の者も僅少であった。女子も男子の水準に同じ程度。野球選手のような素晴らしい体軀の持主は皆無に近く、この辺にも日本水泳界の問題点の一つが存するようである。
- B 福岡県選手の参加が僅少（男女8名）であったことの理由は、水泳教室開催の前日に福岡県瀬高プールで近県中学水上が行なわれた為と思われるが、来年度からは水泳教室開催期日と勘案して近県中学水上を行ない、多数の優秀選手を参加させるよう配慮ありたい。尚、長崎、佐賀、宮崎の三県不参加である。これに就ては、経済的な理由もあるのではないかと推察されるので、後に述べるように、九州地区を二つのブロック別にするなどとも考えられる。

2. 指導内容

1. 指導方針及指導計画

水泳選手として大成する為には、強健な身体と不屈の精神、そして高度の技術が必須条件であることの徹底。従って指導の計画は短時日ではあったが、日常生活指導と健康管理の上に、日本水連提示の練習スケジュールを消化すると共に出来得る限り個々の選手に接して泳法の指導に当った。

2. 指導の重点的事項（特に泳ぎについて）

- A 泳法の指導。泳法に大きい欠点を持つ選手が相当数いたが（特に女子に多い）これに対しては可能な限り個々に当って矯正，指導に努めた。理解は意外に早かった。バタフライと平泳に個人差（泳法上の）の多いのに一驚した。
- B 基礎練習の重要性を確認させる。腰の安定，手脚のバランス，能率的なビートやストローク等について常に研究的であれと注意。
- C インターバル，トレーニングの理解と実施。但し時間不足にて不徹底であったと反省。
- D 精神陶冶。泳ぎを通して臨機に行った。

3. 指導効果

1. 個別に実施した泳法指導は大きい効果があったようである。例えば、バタフライのドルフィン・キックの不要領からピッチのあがらなかった者が僅かの矯正と注意で急速の進歩を見せたり、平泳のキックなど、基本的となる指導は、かなりの長時間を要しても徹底的に行うことの必要性を再確認した。
2. 科学的な泳法研究は既に中学の頃から行なわねばならないが、熊本水連の好意によって、日本水連編集のフィルムを上映し、参加者の多大な感銘を得た模様である。腕の掻き，強いビート，無理のない呼吸，泳ぎ全体のバランスなど著名選手のそれを見て感得する所が大きかった，と言っていた。これは、単に映画による指導のみでなく，学問的にも解明して彼等の強い指針ともなるものを与えるべきだと思ふ。
3. 短時間100名という参加者の全員に，満足感を与えることは困難と思われるが，男女の性別や学年別による力量差を超越して，相互に強い刺激を与えられ懸命に且つ真摯に力泳した4日間の教室は極めて有意義であった。何処の何中学の何という選手は，自分にとっての目標である。と各選手の一人一人が感得して強い斗志を燃やしたことや，自分の欠点を知り他選手の長所を知って，これに近づく為努力する姿は，我々コーチにとって何よりの満足感を与えてくれた。
4. 東京大会への意欲を持つ者が散見され，我々が彼等

の精神的な支えともなるべきだと痛感した。尚九州地区の選手の集体会であるとの親睦感から、今後お互いに励まし合う気運が見られ、この点から観ても効果的であったと思われる。

4. 希望及意見

1. 標準記録の水準が低いのではあるまいか。第2日目の記録会では標準記録を突破した者が二十数名(男女合計)に及んだが、この者は出来得れば全員、ジュニア大会に参加出来るよう取計らって頂き度い。標準記録は突破したが、鎌倉には行けなかったということで失望した者も多いが、これ等の少年達の第一の夢はジュニア参加であろう。従って、今後は標準記録を今少し高い水準のものにして、之に達した者は全員参加の栄を与えて頂き度い。尚、標準記録に関しては、各学年別に設定して頂ければ幸甚である。
2. 九州地区は、中学の水泳人口が漸増の傾向にあるので、水泳教室を一会場にしばることは、指導の徹底や管理面で不適當と思われる。出来得れば九州を二地区に分けて実施して頂くことを熱望する。経費面で難点があるかも知れないが、九州の現状と将来とを想えば、敢えて断行して頂き度い。幸にして指導者にも恵まれているので強くお願いする次第です。
3. 第2日目を記録会とするプログラムには賛成である。教室の運営、指導の実際にも適切である。
4. 開催時期について。インター、ミドルに相当するものがジュニア大会と判断されるので、この性格をより明確化して各選手層にアピールが必要があると思う。従って、水泳教室は、ジュニア大会以前に実施するのがよい。仮りに、ジュニア大会(インター、ミドル)を8月下旬開催とすれば、水泳教室は8月中旬か初旬に持って頂き度い。全国中学通信は従前通り、水泳教室の前でもよいのではないか。もっとも、全国通信を以てインター、ミドル的なものとすれば別であるが。
5. 第2日目実施の記録会の種目を統一して頂き度い。例えば、全中通信のように。そうでないと各地区によってまちまちとなることがあるのではないか。
6. 沖縄の参加に関しては特別の措置を構じて頂き度い。ここ数年来、沖縄地区の水泳熱は素晴らしく、沖縄水連の組織も、その実態も極めて堅実であるし熱意も高いので将来が期待されている。特に、ジュニア大会には当分の間標準記録に到達しなくとも特別参加を認めてはどうであろうか。今夏も昨夏も沖縄水連は高校生(男女)中学生を九州に派遣して十数日を佐伯鶴城プールで合宿練習に励み成果をあげている。この熱意と真摯な態度は高く評価されるものと信ずる。

7. 水泳教室並びにジュニア大会への参加補助額は現在のままでもよいが、出来得れば増額されることが望ましい。
8. 前述したが、中学水泳選手の体位が概して貧弱である。何かの方法で優れた体格の持主を訓練することは出来ないものかと思う。我々に課せられた一つの課題でもある。

参加者名簿

講師	氏名	所属	勤務先
主任コーチ	岡田 正一	大分県水泳連盟	佐伯鶴城高校
	渡辺 修	大分県水泳連盟	臼杵高校
コーチ	佐藤 哲男	〃	臼杵市教育庁
〃	西 拓	鹿児島県水泳連盟	鹿児島県始良郡 福山町教育庁
〃	加口 貢	大分県水泳連盟	臼杵市東中学校
〃	元田 平八郎	〃	佐伯市大入島南小学校
〃	菅 毅寿	〃	南郡東雲中学校
〃	薬師寺 肇	〃	別府温泉プール
引率者	氏名	所属	
鹿児島県	前園 芳己	鹿児島県宮之城中学校	
熊本県	林 恵	熊本県嘉島中学校 (上益城郡嘉島村)	
〃	笠原 八郎	〃 隈府中学校 (菊池郡菊池市)	
〃	福島 幹郎	〃 八代第一中学校	
福岡県	金子 達弥	福岡県山門郡三橋中学校	
沖縄	赤嶺 亀三	沖縄郡覇市首里中学校	
大分県	船橋 昭五	大分県大入島中学校	
沖縄	平良 勉	琉球大学体育課 (水泳部長)	
県名	学校名	選手名	種目
熊本県	八代三	高瀬 悦二郎	自由形
〃	出水	芦刈 巧	〃
〃	八代一	木田 和夫	〃
〃	人吉一	沼田 信寛	〃
〃	山鹿	米川 尙晃	〃
〃	人吉一	中村 淳	〃
〃	山鹿	日隈 修	〃
〃	八代二	中沢 一則	〃

熊本県	大隈八嘉嘉八山隈八山隈大	道府三島島一鹿府二府二鹿府道	東中大三増清米岩福隈松緒松高	島堀島田水田永原部田方岡木	正捷洋一海幸清道義泰正徳修正	二之一光洋治久雄文孝彦光生彦	背	泳	熊本県	東山ノ大日湖大嘉	雲手島中東道島	菅笠団小天池木中坂押島和豊緒田堀山片藤草林森高原藤綱田小白寺浦浦青浜渡永井黒嶋錦松高	毛塚手野田村川本方津田田方上切木淵掛野田毛礼本屋中原坂緑井上野木田辺井上瀬田戸本橋崎	逸敏祝川文婦美子豊静和美良みどり由美子和洋美智子博惠美子房清福優千映キク子順好とも子淳恵禎百合君弘郁より子美子子	郎雄男守子美子枝子	自由形	
熊本県	八嘉嘉八山隈八山隈大	道府三島島一鹿府二府二鹿府道	東中大三増清米岩福隈松緒松高	島堀島田水田永原部田方岡木	正捷洋一海幸清道義泰正徳修正	二之一光洋治久雄文孝彦光生彦	背	泳	熊本県	東山ノ大日湖大嘉	雲手島中東道島	菅笠団小天池木中坂押島和豊緒田堀山片藤草林森高原藤綱田小白寺浦浦青浜渡永井黒嶋錦松高	毛塚手野田村川本方津田田方上切木淵掛野田毛礼本屋中原坂緑井上野木田辺井上瀬田戸本橋崎	逸敏祝川文婦美子豊静和美良みどり由美子	郎雄男守子美子枝子	自由形	
鹿兒島県	横川福三十木糸首	川内山中字原中	弓下出森大艶秋名知中宮松林福矢向石団久村芳古東北山石青坂江	削橋水田坪島山真念村成田田川井塚保上賀野田本田原木本藤	敏盾勝武繁宜清幸康健憲利良喜敏寿弘隆健義幸順	充夫隆男喜康眺明史和次美章二夫淳広幸秀則由正一広剛信蔵	自由形	泳	鹿兒島県	八八白隈嘉八嘉八白八嘉	代一島二川二島屋南城屋城中西ノ部手脇手	田堀山片藤草林森高原藤綱田小白寺浦浦青浜渡永井黒嶋錦松高	堀山片藤草林森高原藤綱田小白寺浦浦青浜渡永井黒嶋錦松高	和洋美智子博惠美子房清福優千映キク子順好とも子淳恵禎百合君弘郁より子美子子	子美子子	泳	
福岡県	三木糸首	川内山中字原中	弓下出森大艶秋名知中宮松林福矢向石団久村芳古東北山石青坂江	削橋水田坪島山真念村成田田川井塚保上賀野田本田原木本藤	敏盾勝武繁宜清幸康健憲利良喜敏寿弘隆健義幸順	充夫隆男喜康眺明史和次美章二夫淳広幸秀則由正一広剛信蔵	自由形	泳	鹿兒島県	八八白隈嘉八嘉八白八嘉	代一島二川二島屋南城屋城中西ノ部手脇手	田堀山片藤草林森高原藤綱田小白寺浦浦青浜渡永井黒嶋錦松高	堀山片藤草林森高原藤綱田小白寺浦浦青浜渡永井黒嶋錦松高	和洋美智子博惠美子房清福優千映キク子順好とも子淳恵禎百合君弘郁より子美子子	子美子子	泳	
沖繩	糸首	川内山中字原中	弓下出森大艶秋名知中宮松林福矢向石団久村芳古東北山石青坂江	削橋水田坪島山真念村成田田川井塚保上賀野田本田原木本藤	敏盾勝武繁宜清幸康健憲利良喜敏寿弘隆健義幸順	充夫隆男喜康眺明史和次美章二夫淳広幸秀則由正一広剛信蔵	自由形	泳	鹿兒島県	八八白隈嘉八嘉八白八嘉	代一島二川二島屋南城屋城中西ノ部手脇手	田堀山片藤草林森高原藤綱田小白寺浦浦青浜渡永井黒嶋錦松高	堀山片藤草林森高原藤綱田小白寺浦浦青浜渡永井黒嶋錦松高	和洋美智子博惠美子房清福優千映キク子順好とも子淳恵禎百合君弘郁より子美子子	子美子子	泳	
大分県	山ノ浦	手島脇雲代関島手島手関島雲中	石団久村芳古東北山石青坂江	井塚保上賀野田本田原木本藤	良喜敏寿弘隆健義幸順	由正一広剛信蔵	自由形	泳	大分県	筑紫ノ山ノ中山	筑紫ノ山ノ中山	筑紫ノ山ノ中山	筑紫ノ山ノ中山	筑紫ノ山ノ中山	筑紫ノ山ノ中山	筑紫ノ山ノ中山	筑紫ノ山ノ中山

第 8 回中国地区水泳教室報告書

倉 橋 範 彦

先ず開催地元の関係各方面の多大の御高配、また付添の先生方の熱心な御協力に対し、厚く御礼申し上げます。

中国地区は地理的に広範囲である上に、開催地が宇部市と云う中国地方の末端でもあるせいから、中国五県の内岡山、鳥取の二県が不参加であったことは誠に残念であった。従って参加予想人数60名に対し、参加人数は33名で多少の淋しさを感じた。

選手達はこの水泳教室前に行われた通信競技、引き続いて水泳教室に備えての合宿練習、また遠距離の選手は汽車の旅で相当の疲労の色が見えた。従って開講2日目の午前中に行った記録会は最悪のコンディションに遭遇した様で、33名中自己のベストタイムを出した選手は1人も居らず大半は大巾に下廻り、ジュニア指導会標準記録を破った選手は3、4名に過ぎない有様であった。しかし、練習を度重ねるにつれて選手達も母校での練習と異なり、他県他校の良い競争相手が出来たものが新しい雰囲気の中で互いに競争し合い、ファイトを燃やして練習に熱中したことはこの水泳教室の目的の一端でもあり、有意義であった。

この様にして練習熱の盛り上った4日目の最終日の午前中、試しに再度レースをやらして見ると、先般の記録会の時と違って大半が自己のベスト或はそれに近いタイムを出していた。これは技術指導に依って生まれた成果ではなく、変った環境の中での練習で刺戟された結果がこの様に現われたものである。従って中学生にはちょっとした刺戟を与えることに依って大きく飛躍するものである。

練習は水連より指示されたスケジュールよりやや多目に行ったが、初日、オール1000米をやらせる際少数の者が「1000米も泳いだことがないから泳げない」と云う愚痴を洩らした者があった。話を聞いて見ると、学校の練習はロングは長くて400、後は50、或は100のインターバル程度で、インターバルは距離が短くて楽だと云うことである。近年インターバル・トレーニングが盛んに叫ばれているが、往々にして地方の者で誤った考えを持っている者がある様である。

インターバル・トレーニングの主眼は、耐久力、持久力の養成にあり、耐久、持久力の養成は苦しい練習を重

ねることに依って生まれるものである。インターバルは距離こそ短いが苦しみの上では旧式練習方法より数段上でなければならぬ。中学生時代は特に泳ぎの基礎を造る鍛練期間であり、基礎を造るには、長い距離を泳ぐことに依って自分にマッチした泳法を造り出すことである。基本も不完全の間から、インターバル或はダッシュのみの練習に没頭することは泳ぎに安定性がなく不適格である。往々にして指導者中にもインターバル・トレーニングの明確な意味も解せず、唯単に短距離を数回やるのがインターバルと理解しているのが案外多いのではなからうか。この様な意味から選手より寧ろ指導者の指導をもっと徹底して行く必要がある。

泳法の点では、全般的に足が弱い様に見受けられた。中の4、5名は、非常によい足を持って居るが、反面少数の者は足の練習方法を知らない者も居た。足の練習は足を強くするのみでなく、泳ぎの姿勢をも造る基礎練習であるから、もっともっと重要視しなければならない。特に痛感したことは腕力が乏しいことである。腕を水中に入れて最後まで掻いている者はなく、皆途中で抜いている。

日本選手は外国選手に比して腕力が劣っている。特に最近の中学生以降の者は昔の人に比較して身体は大きくなっているが力の点では後退しているのではなからうか。

交通機関或は機械類などの文明の発達に依り、人力は次第に要しなくなり、自然体力も減退して行くが、特に中学生にはこの影響が大きい様に思われる。現在の中学生が、往年ロスアンゼルス・オリンピックで活躍された諸先輩の当時のレベルに達することの出来ないのも、この様な力の不足が基因しているのではなからうか。

この様な観点から、もっともっと力の育成をすることが肝要である。

ターニングも大般の者はオーバーフローを持たなければ出来ない状態であるが、これからは中学時代から、クイック・ターンをマスターし、実行して行った方がよいと思う。

尚練習が終った3日目の夜、地元の関係者、付添の先生方に御参集を願い座談会を行った。種々な話題が出されたが、主なるものに就いて記すと、水連より提案の「

現在の水泳教室を以前のインターミドルの様な形式に復活させたい」に対し、可能なら賛成である。しかし、中学生の県外大会参加は文部省が許可しないから不可能であろう。若し可能でもインターミドルよりも寧ろブロック内での選手権大会の方が参加人員も多いし、有意義であるとのこと。又、「水泳教室とジュニア指導会とをどちらを先に行った方がよいか」に対し、水泳教室を先に行った場合、ジュニア指導会参加資格を得る為に一生懸命になるから本年の様に水泳教室を先に行った方がよいとのこと。

その他 〃水泳教室開催日は8月15、16日の旧盆は避けた方がよい、〃水泳教室とジュニア指導会との期間をもっと長くして欲しい、〃水泳教室での選手の食事の標準カロリーの大体の所を指示して貰いたい、〃などの水連に対する要求があった。

山口県の部

種目	氏名	学校	学年
男子 自由形	末永 栄	通	3
〃	柏原 憲治	常盤	3
〃	金本 博幸	柳井	2
〃	岩本 和行	常盤	2
〃	米井 要	豊田前	1
女子 〃	次郎万 茂子	三近	2
〃	藤井 文子	川下	2
〃	石井 充枝	三近	2
男子 背 泳	村本 幸雄	川下	3
〃	永田 孝一	桃山	3
女子 〃	秋本 純子	森野	2
〃	山本 みどり	豊田前	2
男子 平 泳	藤井 友竝	柳井	3
〃	原田 保則	豊田前	3

女子 平 泳	山部 美根子	〃	2
〃	池 永 喜代美	通	
〃	嶋 津 登志子	川下	2
男子 バタフライ	中牟田 信夫	豊田前	3
〃	江本 正	森野	3
女子 〃	長畑 恵美子	三丘	2

広島県の部

女子 自由形	中野 厚子	高陽中	3
〃	川本 倫子	瀬戸田中	2
〃	吉野 礼子	高陽中	1
平 泳	三浦 都子	竹原中	2
〃	川村 静香	瀬戸田中	2
背 泳	瓦家 和子	瀬戸田中	3
〃	天野 みどり	竹原中	2
バタフライ	下村 昌代	高陽中	3
〃	田村 佐洋子	瀬戸田中	1
男子 自由形	朝倉 一郎	三原工中	3
〃	高橋 等	修道中	3
〃	西村 嘉男	瀬戸田中	2
平 泳	中本 義則	国泰寺中	2
〃	片田 伸治	三次中	3
バタフライ	得能 一主	三原工	3

島根県の部

男子 自由形	中島 小太郎	浜田二中	3
女子 〃	渋谷 節代	〃	3
〃	山崎 光子	川越中	3
男子 平 泳	大下 敏昭	浜田二中	3
女子 〃	米原 富士子	〃	3
〃	新井 敏江	〃	2
男子 背 泳	服部 哲男	不参加	1

第8回四国地区水泳教室報告書

北 村 康 雄

1. 参加状況

- (1) 期 間 8月11日～14日
- (2) 会 場 徳島市 城南高校プール 50m
- (3) 参加県 徳島県 男子 20名 女子 16名 付添 3名

- | | | | |
|---------|---------|--------|-------|
| 愛媛県 | 男子 2名 | 女子 名 | 付添 1名 |
| 香川県 | 男子 15名 | 女子 12名 | 付添 2名 |
| 高知県 | 男子 13名 | 女子 1名 | 付添 2名 |
| (4) その他 | 主任講師 1名 | | |
| | 補助講師 4名 | | |

2. 指導内容

① 指導方針, 計画

A 水泳教室練習スケジュール

第 1 日

午後15時 開校式

実技 オール100m 200m×2 50m×4

第 2 日

午前9時 記録会

午後15時 実技 ビート 400m

インターバル 200×4

〃 50×6

ダッシュ 25×6

第 3 日

午前9時 実技 インターバル 200×4

〃 50×6

ビート 400

ダッシュ 25×8

午後 実技 同上

第 4 日

午前 実技 同上 開校式

午後 昼食後解散

B 水泳教室日課

起床 午前6時30分

朝食 〃 7時

実技 〃 9時~12時

昼食 午後12時30分

実技 〃 15時~18時

夕食 〃 18時

就寝 〃 21時

上記日課表を作成, 尚選手, 付添等を含め80名余の大世帯のため四宿泊所に分宿する。従って起床後の体操, 其の他生活指導は付添者に依頼する。

C 低学年標準記録設定

ジュニア大会の詮衡記録として水泳教室記録が対象となるので低学年標準記録を設定し刺激を与えた。

			1 学年	2 学年
男子	自由形	100m	1:11.0	1:09.6
		200m	2:45.0	2:40.0
		400m	5:48.0	5:37.0
		800m	12:11.0	11:52.0
男子	背 泳	100m	1:24.0	1:23.0
		200m	3:10.0	3:06.0
男子	平 泳	100m	1:27.0	1:26.0
		200m	3:08.0	3:06.0
男子	バタフライ	100m	1:25.0	1:24.0

女子	自由形	200m	3:15.0	3:10.8
		100m	1:28.0	1:25.0
		200m	3:15.0	3:07.0
女子	背 泳	400m	7:03.0	6:44.0
		50m	47.0	45.0
		100m	1:43.0	1:38.0
女子	平 泳	100m	1:43.0	1:40.0
		200m	3:45.0	3:39.0
女子	バタフライ	50m	50.0	47.0
		100m	2:00.0	1:53.0

上記設定基準は日本水泳連盟, 全国中学体育連盟より指示されたジュニア指導会標準記録並びに通信競技30傑表による。

(2) 指導の重点的事項

A 記録会

すでに今回で8回目の水泳教室になるが目的は第1回水泳教室の目的, ジュニアの強化には変りはないが手段は変遷している。当初の方法は全国中学生を1カ所に集会し, 泳法其の他競泳の技術的面の指導に重点を置いていたように伺われ, 記録会は水泳教室期間中の成果として最終日に記録会を行って来た。近来の水泳教室は地域的に分け開催し, 日頃各中学校で練磨した成果を競うものとして記録会を行い, その優秀記録によってジュニア大会の詮衡資料としている。従って今回の水泳教室は記録会に重点を置いた。本年後のジュニア大会出場者詮衡は学年別に考慮するとの日本水泳連盟から指示があったので低学年に刺激を与える意味に於いて前記低学年標準記録を設定し記録会を行った。

主たる記録

男子	自由形		400m	800m
	渡辺 吉松	美須加	2年	5:21.4
	中村 信明	鶴 尾	3年	5:27.2 11:16.2
男子	自由形		100m	200m
	高橋 和雄	城 東	3年	1:06.7 2:30.2
	島内 一有	高 知	2年	1:07.3 2:36.9
	前田 義和	城 東	3年	2:33.3
男子	平 泳		100m	200m
	石川 健二	城 東	3年	1:17.7 2:52.9
	富山 武久	詫 間	3年	1:25.2 3:05.9
男子	背 泳			200m
	池淵 博	鳴門二	3年	3:00.1
	前田 志郎	高 知	3年	2:59.8
男子	バタフライ		100m	200m
	吉川 寿夫	美須加	3年	1:13.5 2:55.4
	横山 徹郎	中 村	3年	1:20.0 3:08.4

川村 豊	高知	2年	1:20.6	3:10.3
女子 自由形			100m	200m
土之内照子	土佐女	2年	1:18.2	3:00.6
村上 容子	土佐女	3年	1:23.8	3:01.5
女子 背 泳			50m	100m
飯野 悦子	紫 雲	3年	41.0	1:29.7
斉田美佐子	鳴門二	3年	41.3	1:30.5

B インターバル練習法の徹底

インターバル練習法について日本水泳連盟では善し、悪し、の結論は出していない。現在中央の大学では採用しているが全面的に切替たのではなく併用している学校が多い模様である。ここで個人的意見として結論を出すのは危険であるから善悪は保留にしてインターバルとは如何なるものかを、この機会に選手付添の方々と協力し実施してみた。勿論、インターバル法は綿密なる調査と広大な長期計画が必要なので、ここで行ったものは完全なるものとは云えない。

第2日目午後の実技

力の認識

練習量は水泳教室標準記録スケジュールに合し、各選手に専任計時員（付添講師，其の他関係者の協力による）を付け、レース度に選手に記録を知らせる。インターバルは各専任計時員が正確15minをとり、2回目のレースより5m手前の水中からスタートする。これを繰り返し、疲労による時間差を各選手に認識さす。

第3日目午前 実技

スタミナの強化

前日に行った疲労による記録の下降線を如何に矯正してゆくかが問題である。

矯正方法として前日に記録した（200m×4）資料に基き標準記録を設定しこの記録を1回より4回まで持続するよう云い含め200mレースを4回、前日と同様なインターバルを取り行った。その結果、下降線は幾分か緩やかになった。勿論この下降線が短時間に均衡線を描く事は考え得られないが長期間の強化練習によって矯正し得るものであると思う。この方法の結論は出席者が帰郷後に何回か「力の認識」と「スタミナの強化」の繰返しによってはじめて私達に回答を与えてくれるだろうと思う。

今回の水泳教室では11, 12, 13号の台風の針路となり、又参加人員75名の大世帯のためには時間的に余裕がなくインターバル法によるスタミナの強化が十分に指導出来なかったのが残念であった。

3. 総 評

水泳教室で世話役が何よりも心配することは事故である。幸にして事故が皆無であったことは関係者にとって大きな喜びであった。

この期間、天候に恵まれず晴天は数時間であったが選手、関係者の強力な熱意により、この悪条件を克服し標準スケジュールを執行出来た事に感謝する。

1) 記録的レベル

日本水泳連盟の標準記録に達した選手数70名中、男子11名、女子2名という数字は全国8ブロックで上位に座するとは云えない。特に女子選手の不振が如実に現われている。一部傑出した選手も見受けられるが全国的レベルからは数段の努力が必要だと思う。

2) 技術的レベル

a) 泳法 この数年間で全国的に泳法については研究され、レベル・アップしたが一部中学生が取り残されているように思われる。

各選手に正式指導の有無を質問したが大半の選手は指導を受けていないとの返答であった。全選手の泳法を規格化するのには問題があるが基本的技術の指導、接触機会は必要であると思う。全般的ビートが有効化されていないのが目立った。それに反し選手達の質問は腕の動作に集中されビートに対する関心が薄いのが気掛りであった。

泳のスピードに対する研究熱意は旺盛であるが、「記録の向上」、「瞬間的な競い」に必要なスタート、ターニング、タッチ、の研究がなされていない。今後は泳法の研究と共に補助動作を研究努力され度い。

4. 座 談 会

日 時 8月12日

場 所 徳島市鷹匠町 澄屋旅館

出席者 徳島県水泳関係者、付添者、講師

1. 水泳教室申し込手続の簡素化

- ① フォームを規格し一葉用紙で足りるように考慮してほしい。
- ② 手続上、現在では二部提出しているが一部では否か検討され度い。

2. 水泳教室の在り方

- ① 現在ジュニア大会出場者を中央で制限しているがこれを解除して頂き度い。これは希望者が無制限に出場するという意味でなく各ブロックの上位入賞者が参加出来るよう検討して頂き度い。
- ② 四年後の東京オリンピックを目指しての強化指導

であるから年令的に考慮し、低学年も出場出来るように学年別に詮衡され度い。

3. 四国地区中体連の状況

四国ブロックでは昨年より、すでに四国中学対抗試合(名称は未定)立案中である。本年度は不幸にして一県不参加のため実現出来なかったが来年からは三県

だけでも行い度いと考えている。尚四国ブロックだけでは淋しいので近畿ブロックと合併して刺激を求め度いと思っている。

4. 機関誌の活用

水泳教室の実績を水泳機関誌に掲載し地方指導員の知識培養に資して頂き度い。

第 8 回 中 部 地 区 水 泳 教 室 報 告 書

南 佳 恵

日 時 1960・8・15~18
場 所 浜松市元城プール

指 導 者

ヘッドコーチ 伊 藤 登
 コーチ 磯 部 悟
 コーチ 田 中 稔

参 加 選 手

男子 自由形

県別	学 校 名	学年	氏 名
静 岡	竜洋中学校	3	鈴 木 孝 治
"	磐田第一中学校	3	加 藤 汎
"	富士中学校	2	小 沢 祐 和
石 川	輪島中学校	3	逢 坂 清 則
"	"	3	通 筋 清
愛 知	中京中学校	3	清 水 清 広
"	"	3	鷲 野 季 弘
"	"	2	笹 田 憲 之
"	"	2	森 守
"	前津中学校	3	服 部 重 勝
"	愛知中学校	3	大 池 巖
静 岡	篠原中学校	2	天 野 憲 一

背 泳 (男子)

静 岡	八幡中学校	3	木 野 立 雄
"	篠原中学校	3	鈴 木 正 治
愛 知	中京中学校	3	田 村 務
"	"	2	畑 野 勉
"	愛知中学校	3	版 部 末 義

平 泳 (男子)

静 岡	竜洋中学校	1	川 島 文 雄
"	磐田第一中学校	3	鈴 木 欽 次

"	篠原中学校	3	鈴 木 義 光
愛 知	中京中学校	2	柴 田 弘
"	小牧中学校	3	穂 積 忍

蝶 泳 (男子)

静 岡	竜洋中学校	3	牧 野 康 二
"	篠原中学校	"	刑 部 祐 一
愛 知	中京中学校	"	馬 上 豊
"	愛知中学校	"	長 谷 川 弘
石 川	小松・芦城中学校	"	番 字 一 弥

自由形 (女子)

静 岡	静大浜松附属中学校	1	宮 本 聖 子
"	八幡中学校	3	林 恵 美 子
"	富士中学校	1	早 川 一 枝
"	信愛中学校	2	疋 田 清 子
愛 知	淑徳中学校	3	加 藤 毬 子
"	"	1	額 額 いつ子
"	"	"	伊 藤 咲 子
"	椋山女学園中学校	3	小 倉 千 恵 子
"	"	2	水 野 喜 代 子
"	"	"	深 谷 澄 子
"	"	"	斉 尚 子
"	"	1	菅 原 由 美 子
"	"	"	近 藤 圭 子

背 泳 (女子)

静 岡	竜洋中学校	3	小 池 和 子
"	篠原中学校	"	那 須 田 米 子
"	鷲津中学校	"	中 村 和 子
愛 知	淑徳中学校	2	大 宮 美 枝 子
"	"	1	瀬 川 明 江
"	椋山女学園中学校	2	道 家 知 子
"	"	"	佐 藤 光 代 子
"	"	1	瀬 崎 淳 子

平 泳 (女子)	1	天 野 由美子
静 岡 竜 洋 中 学 校	3	田 中 宏 子
" 掛 川 西 中 学 校	"	岩 井 一 枝
" 篠 原 中 学 校	"	那 須 田 幸 恵
" "	"	相 曾 律 子
愛 知 淑 徳 中 学 校	"	永 坂 美 恵 子
" "	2	浅 井 弘 美
" 椋 山 女 学 園 中 学 校	3	近 藤 陽 子
" "	"	久 保 田 正 子
" "	2	小 島 史 子
蝶 泳 (女子)		
静 岡 竜 洋 中 学 校	3	佐 藤 公 子
" 八 幡 中 学 校	2	溝 口 悦 子
愛 知 淑 徳 中 学 校	3	川 上 静 江
" 椋 山 女 学 園 中 学 校	3	鈴 木 久 子
" "	2	中 丸 典 子
" "	1	川 合 美 知 子

平 泳	静 岡	0	0	4
	愛 知	0	2	3
		0	2	7
蝶 泳	静 岡	0	1	1
	愛 知	1	2	1
		1	3	2
	計			6
				37
		男	女	
男 女 計	静 岡	11	13	} 64 名
	愛 知	13	24	
	石 川	3		

第 8 回 中 部 地 区 水 泳 教 室 日 誌

○ 8 月 15 日 (月)

11.30 浜松元城プール集合

12.00 開講式 於元城小学校

参列者 東海水連常務理事 社本 信義
 県水連会長 津倉 彦次
 浜名湾会長 鈴木 清蔵
 県水体連副会長 村松 良一
 日水連常務理事 南 佳恵
 浜名湾理事長 宮本 秀夫
 " 常務理事 牧野 哲夫
 ヘッドコーチ 伊藤 登
 コーチ 磯部 悟
 コーチ 田中 稔

静 岡 県 24 名
 愛 知 県 37 名
 石 川 県 3 名
 計 64 名

15.00 実技 ロ ン グ 1000
 ダ ッ シ ュ 50×4

17.30 宿舎

17.30~18.30 入浴

18.30~18.30 夕食

19.00~20.30 学習並自由時間

21.00 消灯・就寝

○ 8 月 16 日 (火)

6.30 起床・体操・洗面

7.00~7.30 朝食

7.30~8.30 清掃・準備

8.30 出発

9.00 練習開始

11.00 午前部の部終了

13.30~17.00 記録会

17.00~19.30 推せん会

県 別 参 加 人 員

男 子

種 目	県 別	1 年	2 年	3 年	計	
自由形	静 岡	0	2	2		
	愛 知	0	2	4		
	石 川	0	0	2		
	小 計	0	4	8	12	
	背 泳	静 岡	0	0	2	
背 泳	愛 知	0	1	2		
	石 川	0	0	0		
	小 計	0	1	4		
	平 泳	静 岡	1	0	2	
	平 泳	愛 知	0	1	1	
石 川		0	0	0		
小 計		1	1	3	5	
蝶 泳		静 岡	0	0	2	
蝶 泳		愛 知	0	0	2	
	石 川	0	0	1		
	小 計	0	0	5	5	
	小 計				27	

女 子

種 目	県 別	1 年	2 年	3 年	計
自由形	静 岡	2	1	1	
	愛 知	4	3	2	
	小 計	6	4	3	13
背 泳	静 岡	0	0	3	
	愛 知	0	3	3	
	小 計	0	3	6	9

19.30～22.00 各県代表者会議

○8月17日(水)

練習 (午前) (午後)

19.30より 二班に分け「目でみる水泳教室」上映

○8月18日(木)

練習 (午前)

12.00 開講式・推せん者発表

12.30 解散

中部地区水泳教室総評

中部地区水泳教室を振り返ってみますと、選手達はジュニヤ大会を目標として精進して来たようで、これに参加する事を望み意欲があがり、レベルも一段と向上してきている。

これをみて東京大会にはと意を強く致しました。

尙水泳教育のあり方を今少し考えておきたいと思う。

始めの頃は指導が中心でありましたが、現在はジュニアの予選のようになっていきます。しかも2日目に記録会の為後の二日の持ってゆき方も色々と考えられ何か少し考えさせられます。まあコンディションの調整維持しか考えられません。

希望事項

水泳教室(7月下旬)

通信競技(8月中旬)

ジュニヤ(8月下旬)

各指導会共記録会を中心として3日間予定で開催して頂きたい。

ヘッドコーチ 伊藤 登

水泳教室雑感

参加人員について 中部地区は、静岡、愛知、岐阜、三重、石川、長野、富山の7県が参加することになって

いるが、このうち選手が参加した県は愛知、静岡、三重の3県だけ、しかも別表のごとく石川県は64名中3名、その他のほとんどが愛知、静岡の2県に集中していることはジュニア層に重点をおいて指導しているところは局部的といわざるを得ない、東京オリンピックを目前にひかえジュニア層の普及がのぞまれる。

練習について 水泳教室がジュニア指導会と期日が接近しているため、ジュニア指導会のための予選会という雰囲気。

水泳教室4日間のうち2日目に記録会を行ないジュニア指導会参加選手がすでに決定された。その結果前半二日は記録会のためのコンディショニング、後半の二日は参加者決定後のため、いささか気抜けした感じで水泳教室本年の「正しい泳法の指導」「効果的な練習法」など教室の内容から離れた単なる予選会の感が強かった。今後の水泳教室の運営について一考を要する。

参考事項 当地で現地指導者が期間中に開催した座談会の主な事項をまとめてみると。

○水泳教室通信競技、ジュニア指導会の開催時期は水泳教室を7月下旬とし、教室の参加人員を多くし、正しい泳法の指導、効果的な指導法など教室的内容のものにして頂きたいという要望あり。

○通信競技は8月中旬 ジュニア指導会は8月下旬としジュニア指導会は国体のような大きな試合に折り込んで実施して欲しいという意見が強かった。

○ジュニア層に水泳を普及するためジュニア向けの水泳誌を発行して欲しい。形式は新聞のようなものでもよいから一般に配布出来るよう簡単なものを多く発行して戴きたいのだが……。という意見あり。

開催地静岡県のジュニア層に対する情熱の入れ方は非常なものが感じられ、又本大会運営も立派なものであった。

第8回関東地区水泳教室報告書

芦 田 拓 郎

第8回関東地区水泳教室は山梨県甲府市甲府総合グラウンドプールに於て開催されました。参加県、参加者は次の通りであります。

参加者一覧表

参加県名	男	女	計	引率者男	女	計
神奈川県	10	6	16	2	2	4
千葉県	11	4	15	-	-	-
東京都	25	24	49	1	1	2

山梨県	3	8	11	2	1	3
埼玉県	6	4	10	1	-	1
合計	55	46	101	6	4	10

以上の如く選手 101 名、引率者 10 名と云う例年にない程の多くの参加者を集めて 8 月 12 日から 15 日迄行ないましたが、未だ参加しない県があったのは誠に残念であった。集った選手達は皆頗ぶる元気で、この水泳教室前に催された通信競技大会で各々種目の強い選手の名前だけはすでに知っていた様で集合するや「あの選手は何んという名前ですか」とか「ああ、あの選手が何々君か」という様にお互に自分の競争相手を見つけてファイトを燃やしていた。

集った日は軽い練習を行ない、2 日目、3 日目と記録会を行なったわけですが、丁度この両日が台風の影響で大雨といった最悪のコンディションで選手達はこの大雨の中を宿舎からプール迄（500 m）を裸で往復しなければならぬ羽目になった。そのため選手の中に風邪を引く者が 3 人程出てしまったが、幸い大した事にはならなかった。この様に最悪のコンディションの内に行なわれた記録会は余り良い結果とは云えないが、それでも自己のベストを出した選手も多数いた。この状態で好結果を望む方が無理な様であった。

練習は午前を各種目に亘って泳ぎの基礎的技術指導を中心に行なったのでありますが、やはり関東地区の中学生は中央に近いだけに、技術的な理論と云うか理屈は良く知って居た様だ。それも本当の理論ではなく、各大学の

一流選手達が口にする様な事をそのまま云っている様だった。例えばインターバル練習に関しても、選手選は大学で行なっている既成選手達が行なうインターバルの表面だけを見聞きして、唯単に短い距離を力を制分しながら数回繰返す事がインターバル練習であると考えている者がいる。インターバルの本髄ともいべき持久力、耐久力等の力の養生にあると云う事を忘れ、長い距離など泳ぐ必要など毛頭ないなどと思っているらしい。

大学生など短距離選手が 200 以上泳いでいないんだものといった様に既成選手がこうやっているんだから我々もこれで良いんだという、変な理屈をつけてやろうとしない。これでは駄目で、やはり中学生の様にこれから水泳選手になろうと思う者にもっと水泳の基礎練習ともいべき、泳ぎの姿勢、足、手といったものを重視して練習を重ねるべきではなかるうか、そのためにはやはり長い距離を泳いで、自分自身で自分の泳ぎを見出す、人の真似をするんでなく、自分独自の泳法を見出す事によって、誰も到達してない記録が生まれて来るのではないだろうか。特に中学生などの年少者の指導にあたられておられる先生方の中に、余りにも理論的、技術的に走り過ぎて基礎の練習指導という面を忘れておられる方が多いのではないかと私は思った。勿論水泳だけではないが、スポーツの中には理論も技術も大いに学ばなければならない、水泳の練習の中には理論や理屈では解されない所謂スパルタ式練習があって然るべきだと思う。

第 8 回北海道・東北地区水泳教室報告書

上 村 稔

水連よりの報告記録順序(1)(2)(3)について御報告できないことを残念に思いますが、冒頭に福島水連会長、橋氏岡部氏の水泳日本再建へ御尽力下さったことを厚く御礼申し上げたいと思います。

御承知の如く北海道、東北地区は比較的水泳環境に恵まれず、根上、岡部両先輩を得るとはいえ、現在の日本水泳界に於ては他地区に比してレベルの点に於て、一步を譲っている状態です。

現在迄、7 回の水泳教室が全国的に開催されておりながら、東北、北海道地区に於ては開催できなかったことを本年担当地区である福島水連では非常に残念に思はれたとのことで、私が福島へ出向く前日には在京代議員で

ある吉田先生よりも開催できるとの御連絡を受けた程でした。私が当地に着いた時には猶、地区内の選手、関係者の方々への御連絡、呼びかけ等、非常に努力して下さっていたのですが、参加人員 7 名で遂に残念ながら流会の止むなきに至りました。

そこで、何故東北、北海道地区が毎年このような状態であるかということについて御報告する義務があると思いますので、関係者の云々の御意見も合わせて私の所感を申し述べたいと思います。

① 水泳教室についての学校関係者の認識について

水連関係者は水泳教室開催の意義と目的については十分に徹底されておりますが、学校関係者に於ては認

識の度が低いと思はれます。教室と云う以上、泳げない者を泳がす所といった程度、更に標準記録にこだわって参加に積極的でない関係者のおられることは日本水連に於ても一考を要す所だと思います。ピラミッドの頂点が、日本水上の代表と考えるならば、飽く迄も広く大きく底辺を考えるべきで、山中君の出現を思い合はず時に、この様な東北、北海道地区の状態ではならないと思ひます。水連に於ても各関係機関を通じて、この点についてのPRに努めて戴きたいと思ひます。

② 経費の点について

この様に申し述べては失礼かと思ひますが、他地区に比して、経済的に恵まれていないと思ひます。為に教室開催についての経費に於ても、指導者への経費負担は期待されておりませんが、参加者に対する経費負担(水連)のをもう少し考えて戴きたいと思はれます。

③ 東北、北海道地区の地理的な面について

東北、北海道地区と総括するのは地理的に無理があると思ひます。東北は、中央に那須火山脈を控えて、直線的には近い様に考えられますが、交通的には大き

く廻らねばならず、北海道は海の向うであることからいって分離すべきではないでしょうか？

④ 水泳教室を地区ブロック大会とすることについて

水泳教室を地区大会とし、ジュニア講習会を中央大会に発展させることについては大賛成の由でした。最後に私見を申し述べます。

① 地方の実際水泳関係者の熱情のみが、水泳人口開発育成の本当の力であること。

② 優秀選手の育成は、地方の指導者に於て、為されるべきだということ。

以上①②によって考えますと、地方の個々の選手について中央の指導者が指導することについては、結構なことだと思いますが、根本的には優秀な人材を発掘し、育成し、それを日本水上の頂点へと押し上げてくれるのは、実際に選手と共に寝、共に苦しんだ地方水泳関係者の力だと思ふのです。従って、徒らに中央に於て個々の選手育成に力を注ぐことよりも、寧ろ地方水泳関係者の情熱が一点に注ぐ様な方針を中央に於てはとるべきだと思ひます。そしてそれが日本水上再建の近道だと思ひます。

第8回近畿地区水泳教室報告書

於 奈良県五条市五条中学プール

期日 自昭和35年8月15日
至昭和35年8月18日

長 沢 二 郎

参 加	8月15日
主任講師 秋 永 修	14:30 開 会 式
補助講師	15:00 練 習 開 始
自由形 上 地 康 夫	long
山下 貞 子	Beating
平 泳 葉 室 鉄 夫	Dush
翼 健 治	①自由形 男短
平 谷 銀 子	女 800 300 } 50×2
背 泳 森 前 みどり	男長
坪 井 查 稚 子	女 800 300 } 25×4
生活指導 平 井 日 出 雄	②平 泳
沢 濃 利 勝	600 300 } 50×2
前 田 一 雄	25×4
本部視察員 長 沢 二 郎	③パタフライ 男
	女 600 300 } 50×2
	④背 泳
	600 300 } 50×2
	25×2

8月15日	晴時々薄曇
14:30 開 会 式	
15:00 練 習 開 始	
①自由形 男短	800 300 } 50×2
女	600 300 } 25×4
男長	1000 300 } 50×4
女	800 300 } 25×2
②平 泳	600 300 } 50×2
	25×4
③パタフライ 男	600 300 } 50×2
女	400 300 } 25×2
④背 泳	600 300 } 50×2
	25×2

初日の為、顔合せ程度の練習となる。
特に基本泳法の指導に重点を置く。

8月16日 午前
9.00~12.00 快晴

			long	Beating	ミッテル	Dush
①平 泳	男	400	200	150	} 25×4	
	女	400	200	150		
②バタフライ		400	200	150	25×2	
③背 泳		400	200	75	25×4	
④自由形	男短	600	} 200	} 150	} 25×4	
	女	400				
	男長	800	} 200	} 300	} 50×2	
	女	600				

午後の記録会に備へ比較的距離を短かくする。ターニング、スタートの練習に重点を置く。

8月16日午後 薄曇り

記録会

(記録は別に報告した通り)

15日午後及び16日午前中の練習のみでは合宿の成果は出て来ない儘の記録会であったが一応各人のベスト記録或いはそれに近いものが出た様である。

記録会后自由練習

個人単位の泳法指導

夜コーチ陣の種目別の研究会

- 背 泳 ①体が硬く泳ぎが硬い
③軽くローリングを付ける必要がある
③ビートが弱い
- バタフライ ①特に肩の硬いのが目立つ
②キックが足先だけとなり体が十分使はれていない
③腰が弱い
- 平 泳 ①体が硬い
②足の開きが不足
- 自由形 ①体が硬い
②その為体が寝すぎている
③手足のコンビネーションが悪い
④手のキャッチが悪い

8月17日午前 快晴

		long	Beat	Dush
①バタフライ		400	200	} 50×4 25×4
②背 泳		400	200	} 50×4 25×6
③自由形	男短	600	} 200	} 50×4 25×6
	女	400		
	男長	800	} 200	} 50×6 25×4
	女	600		
④平 泳		400	200	} 50×5 25×5

選手達の疲れ方が以外に早い。

Dush に重点を置く。

8月17日午後 晴

		long	Beat
①自由形	男長	100×10	} 100×3
	女	100×8	
	男短	50×10	} 男 100×4 50×4
	女	50×8	
②平 泳	男	100×6	} 100×4
	女	100×4	
③バタフライ	男	50×8	} 男 50×6 女 50×5
	女	50×6	
④背 泳	男	50×8	} 50×6
		50×6	

全部に泳法指導の繰り返し。

初めてインターバル練習を行って見たが中学生にはインターバルは無理であり実益がない様に思い途中から制限時間を決めて行った。

8月18日 午前

- ①各1種目の記録会
- ②1時間泳法指導
- ③30分 25m のダッシュ 4回
選手の疲れが目立つ。

総 評

A) 選 手

- 1) 全般に体が硬い。柔軟体操を十分行う必要がある。
- 2) 基本的な泳法を知らない。泳法指導をみっちり行う必要を認める。

B) 合 宿

- 1) 五条中学の好意に依り宿舍食事生活指導は非常にスムーズに行った。
- 2) 合宿期日を通信競技の1週間前に行い、合宿の記録及通信競技の記録を取る。そうすれば通信競技の記録も向上するものと思われる。

C) 練 習

- 1) 本部から来た練習案のインターバルは中学生には不向である。
- 2) 記録会はあく迄合宿最後に行うべきである。
- 3) 補助講師は種目別に最低1名を確保しなければ合宿練習の成果は上らない。

参加選手の殆んどが非常に体が硬いのが目立った。所謂柔軟体操を知っていて実行しないからではなく、そうした体操を知らないからではないかと思う。身体(諸関節)が硬いと云う事は、泳法指導に当ってその効果を十分挙げる事が難かしい。従って今回は(1昨年一関東一の場合もそうであったが)泳法を全面的に改良する事はできなかつた。硬い関節をもっているも改良出来る泳

ぎは改良できたが——僅か3日間では各自のプールに帰ってからが疑問であるが——関節が硬い為改良できない泳ぎ(部分的に)もかなりあった。柔かくなったらこういう泳ぎが理想的な泳ぎであるという泳法を実際に見せて選手各人の泳法との相異——改良すべき点——を認識させるという方法を採用した。然し乍ら、選手全員を同一フォームにする事は止めた。各人には各人の特色があるからである。総体的に見て特に秀れた泳ぎもなく、特に悪い泳ぎもなかった様に思う。泳ぎ込めばそれだけで直る泳ぎも若干あった。

選手の中には仲間が多い等という事から或いは練習中不真面目な態度の者もいたが、総体的には概して一生懸命やったのではないかと思われる。

僅か3日と云う期間は余りにも短かいのではないか。集合して漸く軌道に乗り掛けた頃に解散では目的を達成する事が困難である。泳法を徹底的に改良するならば個人差があり期間は長い程良く、訓練が目的なら1週間~10日間位が必要であろう。只選手を集めて参考記録会を催すだけなら話は別費用に問題があるなら人数を減す方法もあるし、男女別々にする事も一方法ではなかるうか。

尚地方の希望等を含めて次の通り申し添えます。

- 1) 期日 水泳教室をもっと早くやり、水泳教室、通信大会、ジュニア(中央)、とした方が良いのではないか。

ジュニア部欄就設についての御願い

前掲の根上さんが言われていますように今日程次代を背負うべき少年諸君の強化育成が叫ばれていることはないと思います。月刊程度の新聞方式にして関係者に配付してはという御意見もあったようですが、現状では種々困難なので本機関誌を十分活用し、地方の第一線で直接御指導に当たっておられる各位の参考に資したいと考えますのでよろしく御利用下さるよう御願い致します。

(編集)

- 2) 中央に於けるジュニアの指導方針又は方法等に就いて批判的な声がかかなり多くの人々から聞かれているとの事。具体的な事は聞き及ばなかったが反省すべき事ではあるまいか。各地から選手を集めて短期間に練習をして記録会を行うというだけでなく、更にもっと深い指導を望んでいるのではないかと思う。
- 3) 中学生以下を対象とした柔軟体操をもっと地方に普及する様水連で何かを考えて欲しい。

目で学ぶ

水泳教室 < 2 巻 >

白黒16ミリ 長さ220m 上映時間20分

価格 25,000 円

企画・監修 日本水泳連盟

製作 共同テレビジョンニュース

指導 松沢 一鶴, 太田 光雄

赤樫 卓爾

今回共同テレビニュース社では水連との協力合作により上記のような水泳映画を完成した。学校教材、その他水泳指導のため有益と考えるので御利用戴きたい。なお登場選手は、石原、見上、藤本、山中、長谷、那須、開田、大崎、中川、フェレール、グリーン、ソマーズ、ローズ、マッキニー、トロイ等である。

第4回ジュニア水泳指導会

金 田 平 八 郎

日 程

8月22日 正午 宿舎集合

午後2時 開会式（鎌倉市営プール）

〃 2時半 練習

〃 4時半～5時半 附添者との打合せ

〃 6時 夕食

〃 8時～9時 学科

〃 9時半 就寝

〃 10半 閉会式（鎌倉市営プール）
引続き30分間 自由練習

〃 11時半 昼食

正午 解散

場 所 鎌倉市営プール

宿泊所 日本学生会館（プールより約100m）

参加者 118名

8月23日

午前7時 起床

〃 7時10分 体操（屋上にて）

〃 7時半 朝食

〃 9時～11時半 練習

午後0時半 昼食

〃 1時～2時 午睡

〃 3時 水連代表（根上民）全員に挨拶

〃 3時10分～5時半 競技会（別記の通り）

〃 6時半 夕食

〃 8時 学科『目で学ぶ水泳教室』を觀賞。

〃 9時半 就寝

(内 訳)					
新 潟	1	京 都	1	高 知	5
東 京	14	奈 良	5	広 島	6
神奈川	4	大 阪	8	福 岡	3
山 梨	1	和歌山	1	宮 崎	1
千 葉	1	兵 庫	1	大 分	9
静 岡	12	香 川	4	熊 本	8
愛 知	23	愛 媛	2	鹿 児 島	5
石 川	2	徳 島	1		

8月24日

午前6時半 起床

〃 7時 朝食

〃 9時～11時 練習

午後0時半 昼食

1時～2時半 午睡

〃 0時半～2時半 附添者との協議会（宿舎
広間にて）

〃 3時～6時 記録会（別記の通り）

〃 6時半 夕食

〃 7時半～8時半 学科

〃 8時～9時 夕食会（附添者全員）

〃 9時半 就寝

8月25日

午前7時 起床

〃 7時半 朝食

〃 8時～9時半 鎌倉海岸にて海水浴（生徒
の希望が多かったので実施、但し、希望
しない者は宿舎に残す）

今年のジュニアは上記の概要が示すように行なわれました。幸い天候も最終日（8月25日）の朝がただけ小雨に見舞われましたが、その他は概ね良好で当初の計画通り実施され、事故者も2、3人程度でしかもみんな来た時と同じように元気に帰っていかれ、第1回の参加者約70名に対し10数名もの事故者が出たことを思うとき、今回は118名もの多数の参加者がありながら事故者が今迄で最も少く全日程を終了したことは参加者の自覚の高揚とともに、引卒してこられた先生方の平素心身ともにわたる蔭ながらのご薫陶の賜でしょう。

さて今年のジュニアの最大の特徴は何といってもジュニア独自の形をもって行なわれたことです。というのは第1回と第2回が全日本選手権と、又、昨年の第3回は日米対抗名古屋大会というふうにしてそれぞれ時期を合せて、それを見学研究し、又、その中で記録会をもってきたのですが、今回は所謂独自の形でブロック対抗という形をとりジュニアそのものの形式は従来より対抗意識を増して行なわれました。ジュニア自体の伸展を期し、併せてインターミドルに近づく一方策としてとられたのではないかと想像していますが、例年こられている先生方からみれば全日本等見学の機会がなかったし、記録会も観衆がいなくて従来程の感激に乏しく、その点では、これまでの方が華やかであったので何かもの足りない方も

あったかしないと存じます。いずれにしたらよいか。その良否の論議は今後に譲るとして、とにかくこのことは過去3回迄と違った点に於て大きな特色といえましよう。

期間中に行なった競技会、記録会についてみると全国から特に記録のよいものをピック・アップしただけあって、このジュニアでも可成りの好記録をのこしている。

先ず第一に、特筆すべきものとして、自由形では大池巖（愛知・愛知中・3年）400m 4分55秒3, 800m 10分22秒6, 森田武男（福岡・三橋中・3年）400m 4分59秒2, 800m 10分18秒0, 殿上玲子（東京・成女中・3年）100m 1分11秒8, 200m 2分40秒5, 背泳の岡田八詠子（奈良・五条中・3年）50m 37秒7, 100m 1分24秒0, 平泳の石川健二（高知・城東中・3年）100m 1分19秒0, 200m 2分48秒6, バタフライの高橋栄子（大分・山ノ手中・3年）100m 1分23秒4があげられる。この6人（男女各3）はいずれも中学生として大変よいというだけでなく、もう少し伸びるだけでもインターハイでの活躍は大いに期待できる。

これに続くものとしては、自由形で杉山彰（東京・成蹊中・3年）200m 2分23秒6, 加藤汎（静岡・磐田一中・3年）200m 2分24秒5, 清水清彦（愛知・中京中・3年）400m 5分6秒5, 土ヶ内照子（高知・土佐女子中・1年）100m 1分15秒3, 木村トヨ子（熊本・嘉島中3年）400m 5分56秒0, 背泳で宮良高志（東京・日大豊山中・3年）200m 2分44秒3, 浦上涼子（福岡・熊西中・1年）50m 39秒2, 平泳で鈴木欽次（静岡・磐田一中・3年）100m 1分20秒5, 水本栄子（東京・成徳中・3年）100m 1分31秒3, 山口栄（千葉・館山二中・2年）100m 1分32秒8, 永坂美恵子（愛知・淑徳中・3年）200m 3分17秒5, 田上和子（熊本・八代三中・2年）200m 3分17秒5, バタフライで川村邦彦（神奈川・潮田中・3年）100m 1分9秒8, 吉川寿夫（愛媛・美須賀中・3年）100m 1分12秒5, 古賀幸子（神奈川・横浜学園中・3年）50m 36秒0, 中西美智子（奈良・野原中・3年）100m 1分27秒3, 川上静江（愛知・淑徳中・2年）100m 1分30秒4である。

さらに1, 2年生に目を向けると、前記の土ヶ内照子・浦上涼子・山口栄・田上和子・川上静江のほか自由形で高瀬悦二郎（熊本・八代三中・1年）400m 5分21秒4, 小沢祐和（静岡・富士中・2年）400m 5分23秒1, 木田和夫（熊本・八代一中・2年）800m 10分57秒4, 宮本聖子（静岡・静岡大附中・1年）100m 1分18秒3, 深谷澄子（愛知・椛山中・2年）100m 1分17秒7, 早川一枝（静岡・富士中・1年）400m 5分59秒3, 虎野千鶴子（大阪・帝塚山中・2年）200m 2分50秒1,

背泳で水落志保美（東京・成女中・1年）100m 1分32秒4, 平泳で川島文雄（静岡・竜洋中・1年）200m 3分0秒2, 葉室カヤ子（大阪・羽衣中・1年）100m 1分37秒1, 高橋叔子（東京・成女中・1年）200m 3分33秒0, 綱屋千代（鹿児島・鹿屋中・2年）200m 3分22秒4, バタフライで藤田修孝（東京・日大豊山中・2年）100m 1分12秒7, 坂本憲正（大阪・花乃井中・2年）100m 1分17秒6, 川合美知子（愛知・椛山中・1年）100m 1分38秒0, 小緑好子（鹿児島・宮之城中・2年）50m 40秒5がある。これらの人達には、来年のジュニアや通信大会に特に大きな期待を寄せたい。

上記の状況からみても低学年の場合、男子の方が女子よりもさらに上位進出が困難であることがわかる。年鑑で全国平均による発育課程（身長・体重・胸囲・坐高）を調査すると、男子は中学1・2・3年、女子は小学5・6年から中学1・2年にかけて最も著しい発育ぶりをその数字が示している。勿論個々については人によって違うと思うが、一般的にみて1・2年の低学年の生徒が上級生をしのいで大会出場の機会を得るということは非常に困難であることがわかる。年一度でもよいから県単位の所謂大きな大会に出場する機会をより多くの1・2年生にも与えてさらに一段の練習意欲をもたせたいものである。大体、速くなるための水泳程苦しく、忍耐力を要し、又永続性のいるスポーツはなからう。遊びとしての水泳ならともかく強い選手になるための水泳には野球などのような興味にも乏しい。勿論、興味をもたせる工夫は必要なわけであるが、所詮それには記録をあげていくことに殆んどつきている。その力をためすべき大会に出られない者をどうやって強い選手に仕立てていくか。そこに多くの低学年生を把握し、引上げていくかの対策があるわけだ。それには年一度でよいから、学年別の競技会をもつことが最もよいと考える。そうすれば有能な者で他のスポーツへ変っていく者はずっと少なくなることは確かである。いつもすぐ目の前に目標があるわけだ。アメリカではすでにエイジ・グループによる競技会を開いて、オリンピックでその成果をあらわしているではないか。諸賢の御一考とその実現方をこの際強くお願いしたい。

次に、今年のジュニア参加者の選考事情をお知らせし、御了解をいただきたく、この点にふれますが、要項にもあるように参加者は水泳教室から選出するのがたてまえになっていますが、何か一線を劃するものがないとなかなか選考に支障をきたす。そこで、今年は幸い通信競技が約1週間前にあったので、その記録にもとづいて記録順に候補者をあげ、水泳教室での成績、状況報告と相まって最終的に学年を考慮して決定したわけです。

この学年考慮については、かりに各学年3名宛とした場合、種目によっては4位に入っている3年生が落ちる事態が起きるし、又、逆に30位までに2年が1名、1年なしという種目もあった。そこで記録本位と学年割当との中間的考え方に立って選考会議により決定したのであります。

期間中、附添の先生方から陸上競技のモチ方との比較批判がありました。とかく水連と中体連がうまくいっていないということがいわれますが、一つには陸上競技の指導者が殆んど体育の教師であるのに対して水泳の指導者の場合は体育以外の教科の教師がその大多数を占めています。しかも中体連は体育の教師だけでかためているのが

実情である。その上、文部省で出している次官通達の対外試合の規則で、その対策が一番苦慮している水連と円滑にいかない一因がある。そしてその最も苦しい立場にあるのが現場の水泳指導者であるといえる。東京オリンピックもあと4年後にひかえ、要は立派な強い選手を出すことである。どの指導者もそのような障害がなく、心おきなく心からの献身的指導の出来るようにしなければならぬ。さもないとすでに水泳気違いになっている者以外の新しい多くの指導者を生むために大きなマイナスになる。水連と中体連とが早く一体となって水泳強化の方向に進むよう、相互の努力を切に望んでやまない。

第4回 ジュニア水泳指導会

鎌倉市営プール(50m)公認

氏名	所属	決勝	予選	氏名	所属	決勝	予選
8月23日							
男子ノ部				200 m 平泳			
	100 m	自由形		1 石川 健二	城東	2:50.9	2:43.6
1	逢坂 清則	輪島	1:05.0	2 鈴木 欽次	磐田一	2:54.6	2:57.0
2	鷺野 季弘	中京	1:05.5	3 鈴木 義夫	篠原	2:58.5	2:59.2
3	小川 史男	成蹊	1:05.8	4 川島 文雄	竜洋	3:00.7	3:00.2
4	高橋 和雄	城東	1:06.0	5 穂積 忍	小牧	3:01.4	3:01.4
5	島内 一有	高知	1:07.3	6 向井 純市	海南二	3:02.4	3:01.4
6	前田 義和	城東	1:10.4	7 富山 武久	詫間	3:05.3	3:03.5
7	石井 良広	山ノ手	1:11.2	8 伏木 英和	花乃井	3:06.6	3:06.6
	400 m	自由形		9 中本 義則	国泰寺	3:08.8	3:05.8
1	森田 武男	三橋	4:59.2	秋山 暁	榊原		3:07.4
2	清水 清彦	中京	5:06.5	200 m バタフライ			
3	杉山 彰	成蹊	5:13.8	1 川村 邦彦	汐田	2:42.8	2:45.6
4	中村 信明	鶴尾	5:18.0	2 馬上 豊	中京	2:46.7	2:51.2
5	加藤 汎	磐田一	5:23.6	3 吉川 寿夫	美須賀	2:47.4	2:48.6
6	高瀬悦二郎	八代三	5:25.0	4 小手川 守	日代	2:56.6	2:53.2
7	小沢 裕和	富士	5:26.9	5 田中 正己	花乃井	2:57.0	2:56.4
8	佐藤 晴雄	近衛	5:27.3	6 坂本 憲正	"	2:58.5	3:01.0
9	笹田 憲之	中京	5:29.3	7 石村 強	御園	3:01.1	2:56.1
	800 m	自由形		8 藤田 修孝	日大豊山	3:01.1	3:01.0
1	大池 巖	愛知	10:22.6(中学新)	9 団塚 祝男	大入島	3:01.2	2:59.1
2	原 光信	花乃井	10:52.6	梅本 義弘	下市		3:04.9
3	弓削 敏光	横川	10:53.5	100 m 背泳			
4	芦刈 功	出水	10:57.4	1 宮良 高志	日大豊山	1:16.3	1:16.0
5	木田 和夫	八代一	10:57.4	2 中村 正臣	逗子開成	1:17.3	1:17.8
6	鈴木 孝治	竜洋	11:04.6	3 中島 捷之	隈府	1:17.5	1:18.9
7	渡辺 吉松	美須賀	11:16.2	4 田村 務	中京	1:18.8	1:18.4
8	野口 和雄	東田	11:33.4	5 岸上 昇	花乃井	1:19.2	1:18.9

6	島岡 義二	柏崎一	1:19.8	1:18.9	野尻 博美	成 女	3:34.2
7	大堀 洋一	八代三	1:20.1	1:20.1	松本 信子	中 部	3:43.9
	鈴木 正治	篠 原		1:20.7			
	山本孝太郎	大入島		1:21.4			
	出水 勝隆	福 山		1:22.2			
	山本 紐男	輪 島		1:25.4			

100 m バタフライ

400 m メドレーリレー

1	田村・鈴木・馬上・大池	中部	4:56.5
2	宮良・小川・川村・杉山	関東	5:01.3
3	中島・秋山・小手川・森田	九州	5:09.6
4	岸上・向井・梅本・原	近畿	5:09.8

1	高橋 栄子	山ノ手	1:23.91:23.4(中学新)
2	中西美智代	野 原	1:27.3 1:27.5
3	川上 静江	淑 徳	1:30.4 1:32.1
4	古賀 幸子	横浜学	1:32.2 1:33.2
5	佐藤 公子	竜 洋	1:35.4 1:36.4
6	下村 昌代	高 陽	1:36.4 1:35.4
7	川合美知子	椛 山	1:40.2 1:38.0
	小緑 好子	宮之城	1:41.0
	岡村さつ子	瀬戸田	1:45.4
	浜崎 洋子	山ノ手	1:46.7
	石山 洋子	横 川	1:47.6
	鈴木 真澄	鶴 尾	1:53.0

女子ノ部 100 m 自由形

1	殿上 玲子	成 女	1:12.4	1:11.8
2	土ヶ内照子	土佐女	1:15.3	1:16.1
3	林 恵美子	八 幡	1:17.4	1:18.3
4	深谷 澄子	椛 山	1:17.7	1:18.8
5	宮本 聖子	静岡大附	1:18.3	1:18.9
6	東 美代子	下 市	1:18.3	1:14.4
7	高嶋 美枝	成 女	1:20.8	1:18.9
	浜田百合子	山ノ手		1:20.7
	川本 倫子	瀬戸田		1:21.0
	水野喜代子	椛 山		1:22.9
	中丸 典子	椛 山		1:24.5
	伊藤 咲子	淑 徳		1:26.3

100 m 背 泳

1	岡田八詠子	五 条	1:24.0	1:24.5
2	福島利恵子	北 条	1:28.0	1:28.6
3	浦上 涼子	熊 西	1:29.7	1:30.6
4	国府 淳子	穂 北	1:30.5	1:29.4
5	原 昇代	北 沢	1:31.1	1:31.8
6	斎田美佐子	鳴門一	1:31.4	1:31.6
7	飯野 悦子	紫 雲	1:31.7	1:31.5
	瓦家 和子	瀬戸田		1:31.9
	水落志保美	成 女		1:32.4
	大内登志恵	横浜学		1:32.5
	道家 和子	椛 山		1:32.7
	花田 好子	帝塚山		1:34.3
	瀬崎 淳子	椛 山		1:34.5
	青山 郁子	鯨 沢		1:38.2

400 m 自由形

1	木村トヨ子	嘉 島	5:56.0
2	早川 一枝	富 士	5:59.3
3	虎野千鶴子	帝塚山	6:11.6
4	中野 厚子	高 陽	6:13.4
5	木村 晴美	松 蔭	6:15.7
6	加藤 毬子	淑 徳	6:16.3
7	渡辺 君子	山ノ手	6:21.6
8	斎 尚子	椛 山	6:25.6
9	小倉知恵子	〃	6:26.3

400 m メドレーリレー

1	福島・水本・古賀・殿上	関東	5:48.0
2	岡田・葉室・中西・東	近畿	5:53.0
3	道家・久保田・川上・林	中部	5:58.2
4	斎田・鈴木・飯野・土ヶ内	四国	6:27.0

8月24日

男子ノ部 100 m 自由形

1	佐藤 晴雄	近 江	1:06.2
---	-------	-----	--------

200 m 自由形

200 m 平 泳

1	永坂美恵子	淑 徳	3:17.5	3:18.1
2	水本 栄子	成 徳	3:17.8	3:17.5
3	田上 和子	八代三	3:17.8	3:19.1
4	山口 栄	館山二	3:24.2	3:21.3
5	網屋 千代	鹿 屋	3:24.6	3:22.4
6	相曾 律子	篠 原	3:25.6	3:27.5
7	浅井 弘美	淑 徳	3:30.0	3:28.2
8	近藤 陽子	椛 山	3:32.7	3:31.4
9	高橋 叔子	成 女	3:37.6	3:33.0
	久保田正子	椛 山		3:33.5
	葉室カヤ子	羽 衣		3:33.8

A 1	加藤 汎	磐田一	2:24.5
2	高橋 和雄	城 東	2:26.8
3	鷲野 季弘	中 京	2:26.9
4	小川 史男	成 蹊	2:32.8
5	笹田 憲之	中 京	2:34.9
B 1	杉山 彰	成 蹊	2:23.5
2	逢坂 清則	輪 島	2:31.6

3	島内 一有	高知	2:36.0
4	前田 義和	城東	2:37.4
5	森 守	中京	2:40.4
400 m 自由形			
1	大池 巖	愛知	4:55.3
2	原 光信	花乃井	5:15.4
3	弓削 敏光	横川	5:16.3
4	芦刈 巧	出水	5:17.4
5	木田 和夫	八代一	5:21.8
6	鈴木 孝治	竜洋	5:22.2
7	渡辺 吉松	美須賀	5:22.5
8	野口 和雄	東田	5:42.4
800 m 自由形			
1	森田 武男	三橋	10:18.0(中学新)
2	清水 清彦	中京	10:50.5
3	中村 信明	鶴見	11:00.2
4	高瀬悦二郎	八代三	11:00.6
5	小沢 祐和	富士	11:20.4
6	石井 良宏	山ノ手	11:27.9
100 m 平泳			
A1	石川 健二	城東	1:19.0(中学新)
2	鈴木 欽次	磐田一	1:20.4
3	向井 純市	海南二	1:21.7
4	穂積 忍	小牧	1:23.1
B1	富山 武久	詫間	1:21.9
2	鈴木 義夫	篠原	1:23.5
3	川島 文雄	竜洋	1:24.0
4	伏木 英和	花乃井	1:25.1
100 m バタフライ			
A1	川村 邦彦	汐田	1:09.8
2	吉川 寿夫	美須賀	1:12.5
3	馬上 豊	中京	1:14.8
4	田中 正巳	花乃井	1:15.9
5	団塚 祝男	大入島	1:20.7
B1	藤田 修孝	日大豊山	1:12.7
2	石村 強	御園	1:14.1
3	小手川 守	日代	1:16.0
4	梅本 義弘	下市	1:17.0
5	坂本 憲正	花乃井	1:17.6
200 m 背泳			
A1	宮良 高志	日大豊山	2:44.3
2	中島 捷之	隈府	2:46.2
3	島田 義二	柏崎一	2:48.9
4	田村 務	中京	2:51.4
5	山本孝太郎	大入島	2:53.9
6	出水 勝隆	福山	3:01.7

B1	岸上 昇	花乃井	2:48.8
2	大堀 洋一	八代三	2:51.0
3	中村 正臣	逗子開成	2:51.1
4	鈴木 正治	篠原	2:56.0
5	山本 紐男	輪島	2:59.8
800 m リレー			
1	大池・清水・鷺野・鈴木	中部	9:40.7(中学新)
2	森田・木田・芦刈・弓削	九州	9:52.3
3	杉山・小川・宮良・川村	関東	10:07.9
4	島内・高橋・中村・前田	四国	10:15.2
5	佐藤・岸上・田中・原	近畿	10:17.6
女子ノ部 100 m 自由形			
1	天野 文子	湖東	1:23.1
200 m 自由形			
A1	木村トヨ子	嘉島	2:48.5
2	虎野千鶴子	帝塚山	2:50.1
3	早川 一枝	富士	2:52.8
4	中野 厚子	高陽	2:56.2
5	木村 晴美	松陰	2:56.6
6	加藤 毬子	淑徳	2:58.5
7	斎 尚子	椋山	2:59.8
8	小倉知恵子	椋山	3:04.3
9	渡辺 君子	山ノ手	3:07.3
B1	殿上 玲子	成女	2:40.5
2	土ヶ内照子	土佐女	2:46.9
3	高島 美枝	成女	2:55.6
4	深谷 澄子	椋山	2:56.3
5	浜田百合子	山ノ手	3:01.7
D1	林 恵美子	八幡	2:57.4
2	宮本 聖子	静大附	2:59.3
3	川本 倫子	瀬戸田	3:00.3
4	中丸 典子	椋山	3:03.1
5	水野喜代子	〃	3:04.1
6	伊藤 咲子	淑徳	3:07.7
100 m 平泳			
A1	水本 栄子	成徳	1:31.3
2	山口 栄	館山三	1:32.8
3	田上 和子	八代三	1:33.3
4	永坂美恵子	淑徳	1:33.6
5	網屋 千代	鹿屋	1:36.4
6	浅井 弘美	淑徳	1:38.4
7	近藤 陽子	椋山	1:38.9
B1	久保田正子	椋山	1:36.4
2	葉室カヤ子	羽衣	1:37.1
3	相曾 律子	篠原	1:39.1
4	高橋 叔子	成女	1:39.4

5	松本 信子	中 部	1:41.6
	50 m バタフライ		
A 1	中西美智代	野 原	37.5
2	川上 静江	淑 徳	37.8
3	小緑 好子	宮之城	40.5
4	浜崎 洋子	山ノ手	43.2
5	石山 洋子	横 川	43.3
6	岡村さつ子	瀬戸田	45.1
B 1	古賀 幸子	横浜学	36.0
2	高橋 栄子	山ノ手	36.2
3	下村 昌代	高 陽	40.9
4	川合美知子	梶 山	42.1
5	佐藤 公子	竜 洋	42.3
6	鈴木 真澄	鶴 尾	47.2
	50 m 背 泳		
A 1	岡田八詠子	五 条	37.7
2	浦上 涼子	態 西	39.2
3	斎田美佐子	鳴門一	40.5

4	大内登志恵	横浜学	41.1
5	福島利恵子	北 沢	41.1
6	道家 和子	梶 山	43.2
7	国府 淳子	穂 北	43.3
B 1	原 昇代	北 沢	40.5
2	水落志保美	成 女	41.3
3	飯野 悦子	紫 雲	41.7
4	瓦家 和子	瀬戸田	42.0
5	花田 好子	帝塚山	42.9
6	瀬崎 淳子	梶 山	43.4
7	青柳 郁子	鰻 沢	43.7

400 m リレー

1	虎野・岡田・東・木村	近畿	5:16.1
"	深谷・加藤・宮本・林	中部	5:16.1
3	天野・浜田・高橋・木村	九州	5:24.6
4	高嶋・原・大内・殿上	関東	5:25.8
5	中野・田村・下村・川本	中国	5:52.0
6	土ヶ内・斎田・飯野・鈴木	四国	6:01.9

学童強化を目指した中部女子水泳クラブの設立

——本連盟太田競泳委員長あて社本寿恵子さんより次のような便りが寄せられましたので御参考に供します。—— (編集)

今夏は当地区在住の女子OB水泳選手を以て中部女子水泳クラブを設立、会長を兵藤秀子さんにして下記の様な事業を行い有意義でしたので御報告申します。

中部女子学童皆泳大会

1. 9月6日午後1時より
1. 淑徳プール50m
1. 参加9校、生徒数約 200名
1. 制限は市内小学校の女子4, 5, 6年として1名を1点に採点しました。スタートは水中からでも可50m皆泳のこと。
1. 反則はロープにつかまったり他のコースを浸害したものとしました。
1. タイムの記録等は一切なしにしました。

兵藤会長より開会の辞あり直ちにレース開始、7名宛が4年生から泳ぎ初めプールサイドには現役の女子選手高校生を配列して万が一に具えました。やはり途中で溺れ初める者もありその折にはマイクで「○○コースをおねがいします」と声をかけますと「オー」と返事をして高校生が飛込んでその生徒の両側にぴったりついて声をかけて励ましました。すると大抵の者は又落付いて泳ぎ初めます。どうしても駄目の者も5~8名あり、高校生が救助してくれました。

親がプールサイドを共に声かけて応援したりして他の

社 本 寿 恵 子

試合にはみられぬ賑やかな和やかな会です。特に役員も選手も全部女子ですので水着の色も美しく面白い賑やかな会でした。

結局皆泳者189名、1位はトヨタ小学校で55名の55点。2位、3位は松栄と御器所が33名で同点なので低学年の多い校を2位とし、1, 2, 3位には賞状、1位には優勝旗を、個人には参加賞タオルを与え皆泳者にはノートを皆泳証と共に与え、1位のトヨタには55名全部にバックルを与えました。

今年はまだ第1回ですので参加者も制限がありました。が来年はもっと多数と思います。来年は参加校よりの要望もあり50, 100の二本立とし50を1点100を2点に採点し1名1レースの制限で行う予定です。

尚年内に女子クラブは当地内の女子選手の記録(中学新, 高校新, 日本新)を出したものにブローチかセーターを与えてこれを表彰し併せて国際大会に出場したのも表彰式を行います。そして反省会を併せて開き来年に資する筈です。尚事務所は愛知水連内におき事務担当は社本義信妻、寿恵子がして居ります故、此の大会と、そして表彰式とについて何か御考えがありましたらお教示下さい。おまちしています。

勿論右により御解りと存じますがこの大会の目的は1人でも泳げる様にしたいのがねらいです。小学校を対照としていつ迄もつづけて行くつもりです。

当地は中学女子の強い処ですけど記録も大事ですが1人でも泳げる事が尚大切と伊勢湾台風の時に身をもって知りましたので、この大会が生まれたのです。

日本スポーツ賞候補推薦

読売新聞社に於て毎年実施している、その年のスポーツ界最優秀選手を決め表彰する日本スポーツ賞に水泳関係最優秀選手として女子背泳の田中聰子選手を推薦した。
推薦理由、同選手水泳略歴は次の通りである。

田中聰子選手推薦理由

1. 世界新記録を作る。

同選手は昭和34年8月、200m背泳に於て 2分37秒1の世界新記録を作ったが、これは戦前の前畑秀子に次ぐ日本競技史上第2回目(女子として)の快挙である。然しこの記録を本年初めアメリカ選手に破られたが同選手は本年7月更に2分33秒3の驚くべき高度の記録を作つてこれを破り現在世界記録保持者として君臨している。

2. ローマ・オリンピック大会で入賞

先般行われたローマ・オリンピック大会では100m背泳に於て1分11秒4の日本新記録を以て第3位に入賞、戦後女子として初めての日章旗を挙げた。

女子背泳は競泳中、日本が最も不得意な種目で1分20秒の線を切ることができなかつたが同選手によつて大幅に破り1分11秒2の世界的レベルにまで上げた功績を

偉大に思う。

3. 同選手は性、明朗快活で、特にオリンピック大会に於て自己の最高記録を大幅に破つて入賞を遂げた。スポーツ選手としてその不屈な精神力を讃える。

田中聰子選手競技歴

昭和32年	50m背泳 38.5	100m背泳 1:23.8	中学日本最高記録樹立
昭和33年	アジア大会 100m背泳 1:15.3		の日本新記録で優勝
昭和34年	日本選手権大会	200m背泳 2:37.1	の世界新記録
		100m背泳 1:13.7	の日本新記録
昭和35年	日本選手権大会	200m背泳 2:33.3	の世界新記録
		100m背泳 1:12.6	の日本新記録
		ローマ・オリンピック大会	100m背泳 第3位(1:11.4日本新記録)入賞
	最高記録 50m 34.8	日本記録 100m 1:11.2	(同)
		200m 2:32.3	世界記録

デイリースポーツ賞受賞者候補の推薦

デイリースポーツ社においては、今般東京オリンピック強化のため各スポーツ団体から中学生、高校生、大学生に分け本年度特に優秀な成績をあげた選手に対しデイリースポーツ賞を授与することとなり水連にも推薦方依頼があつた。水連としては常務理事会において検討した結果、次の諸君を候補者として推薦することとした。

デイリースポーツ賞候補

競 泳

日本水泳連盟

		中 学	高 校	大 学(含一般)
自由形	男	大池 巖 愛知中	藤田 昌計 伊都高	山中 毅 早大
	女	殿上 玲子 東京成女中	江坂 君子 梶山高	佐藤 喜子 天理水
特定	男	石川 健二 平泳 高知城東中	松本 健次郎 平泳 佐伯鶴城高	大崎 剛彦 平泳 早大
	女	岡田 八詠子 背泳 奈良五条中	田中 聰子 背泳 筑紫女高	高松 好子 平泳 天理大

飛 込

		中 学	高 校	大 学
男			藤 本 秀 一 天 理 高	金 戸 俊 介 日 大
			土 佐 忠 雄 "	田 原 和 夫 "

推 薦 理 由

備考 ○成績は全部本年度
○日本ランキング順位は一般、大学、高校
中学、全部を含めての順位である。

競 泳

中 学 の 部

大池 巖 愛知中学校

400m 自由形 4:55.3
牧野選手の持つ日本中学最高記録を30
年ぶりで破る

800m 自由形 10:12.2
(中学日本最高記録)
(日本ランキング29位 中学1位)

殿上 玲子 東京成女中学校

50m 自由形 33.0
(日本ランキング9位 中学1位)

100m " 1:11.7 (" 15位 ")

200m " 2:39.2
(日本ランキング13位 中学1位)

石川 健二 高知城東中学校

100m 平泳 1:18.1
(中学日本最高記録 中学1位)

200m " 2:46.7 (")
(日本ランキング25位 中学1位)

岡田八詠子 奈良五条中学校

50m 背泳 37.7
(日本ランキング4位 中学1位)

100m " 2:22.0 (中学日本最高記録)
(日本ランキング8位 中学1位)

200m " 3:05.6 (" 21位 ")

高 校 の 部

藤田 昌計 和歌山県伊都高校

400m 自由形 4:39.3
(日本ランキング11位 高校1位)

800m " 9:46.8 (" 8位 ")

1500m " 18:31.4 (" 5位 ")

江坂 君子 愛知県椹山学園高校

50m 自由形 30.8 (日本高校最高記録)
(日本ランキング1位)

100m " 1:07.5 (日本高校最高記録)
(日本ランキング4位 高校1位)

200m " 2:32.8 (" 5位 ")

ローマ・オリンピック日本代表に選出さる。

松本健次郎 大分県佐伯鶴城高校

100m 平 泳 1:14.0 (日本高校最高記録)
(日本ランキング5位 高校1位)

200m " 2:38.2 (日本新記録)
(日本ランキング2位 ")

200m 平泳の記録はローマ、オリンピック第2
位に相当する。

田中 聰子 福岡県筑紫女子高校

50m 背 泳 34.8 (日本新記録)

100m " 1:11.2 (")

200m " 2:33.3 (世界新記録)

ローマ・オリンピック 100m背泳3位入賞

大 学 の 部

山中 毅 早稲田大学

100m, 200m, 400m, 800m, 1500m 各自由形1位

200m 2:01.5 世界記録保持者

ローマ・オリンピック400m2位, 800mリレー2位入賞

佐藤 喜子 天理大学本年卒業

昭和29年より次々と日本記録を書替えた日本第一人者
本年100m 1:04.7 (日本新記録)

200m 2:23.4 (")

大学生でないが抜群の選手であるので特に推薦する。

大崎 剛彦 早稲田大学

100m 平泳 1:12.6 (日本対記録)

200m " 2:36.9 (日本新記録 本年度世界最高)

ローマ・オリンピック 200m平泳 2位入賞

高松 好子 奈良県天理大学

100m 平泳 1:22.2 (日本新記録)

200m " 2:53.6 (")

飛 込

高 校 の 部

藤本 秀一 奈良県天理高校

日本高校選手権 飛板飛込に優勝

土佐 忠雄 奈良県天理高校

日本高校選手権大会 高飛込に優勝

大 学 の 部

金戸 俊介 日本大学

室内選手権 飛板、高飛込に優勝

日本選手権 高飛込優勝 ローマ・オリンピック7位

田原 和夫 日本大学

日本学生選手権 飛板、高飛込に優勝

国民体育大会 優勝

以上

第6回 日本中学校水泳通信競技大会反省座談会

期 日・昭和 35 年 10 月 7 日

場 所・丸 ビ ル 精 養 軒

出席者 N H K: 牧 野, 小 林
朝日新聞: 黒 川, 山 下
中 体 連: 田 中
水 連: 小出, 根上, 赤 檜, 菊池, 芦田, 金田, 島田,
他に大会当日お手伝いいただいた方。

小出 本日はおいそがしいところお集りいただき有難うございました。今年は特に NHK にも御後援いただき、関係各方面の御協力によりまして大会を終了しましたことを心から御礼申し上げます。

さて、ローマ大会の例をみてもおわかりのように水泳に於ては年少者に期待するものが非常に大きいのでありまして、その意味から水連としては、小・中学生に力を注ぎたいのであります。

特に、東京大会のことを考えると、何と云っても現在の中学生にその対策を講じて、金メダルを多くとれるようにしなければならないのであります。本日はこうゆう意味を含めて、通信大会の反省をいたしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

芦田 いま専務理事が申されたことから、来年はもっと充実していきたいと思っておりますので、どうぞどしどし御意見、御希望をお聞かせいただきたい。

最初に開催時期の問題からお願いします。

田中 放送陸上との関係があるのではないんですか。それにジュニア指導会との関連も。

牧野・黒川 そりゃそうですね。

黒川 私どもの方としては仕事の関係から考えなければならぬんです。今年はオリンピック等のため特殊事情にあったわけですが、具体的に言って来年は8月10日からの10日間をのぞけば、その前後はあいているわけです。

田中 中体連としては10月下旬熊本での全国中体連理事会にはかります。

菊池 中学生は特に水に入る時期や記録の関係から通信競技だけを考えた場合、8月下旬のおそい方がいいんではないですか。

根上 記録の出る時機にやらせたい。

田中 指導会との関係は

小出 大会と銘打ってやるからには、夏休みに入ってから練習してその成果がみれる時期に朝日・NHKに

入っていただいてやりたいわけです。

根上 全国的にみて中学生の県大会は、年何回位ですか。

田中 県によって違います。

芦田 開催時期を8月下旬にしたらどうですか。

牧野・黒川 構いません。

芦田 ではそういうことで、更に考えさせていただきます。次に種目をふやすということと学年別についてですが、通信網の関係からみてどうですか。

小出 発育途上の中学生にあっては一年生と三年生とでは体格・体力とも相当の差違があり、低学年の者はなかなか大会に出場する機会に恵まれないと聞いています。そこで、低学年の人達にも練習に大いにハリをもたせ、又大会に出て自分の力をためし、更に一層の希望をもたせたいわけです。

牧野 種目の増加とか、学年別にやる ことについては、ここでは早急には返答できません。

小出 勿論そうでしょう。具体的にデーターを作ってご検討いただくことにしなければ……。

芦田 水連でデーターを作りますから、ご検討をお願いします。

黒川 データーを作っていたら検討してみます。

小出 お願いします。

黒川 朝日の場合、地方版の都合で、おそくとも6時頃までには最終的な集計を終らせないと、翌日の新聞に間に合わない。新聞の生命からいっても2日も3日もたつてからでは困るし、通信の意義がなくなります。

芦田 来年も集計は今年のようにやるんですか。今年はNHKでテレビ・ラジオの中継をやっていただいたんですが、集計は実質的に朝日の通信網によった訳ですね。

黒川・牧野 まだ話し合っていないですね。

益田 現状では2時半ごろからいそがしくなる。それ

まではひまなんです。

赤樫 種目ごとにどンドン記録の報告がくれば、かなり多くの種目が消化できるでしょう。

小出 水連としても選手権のようにウェートをおり、地方でもこの大会に大きな力を入れていただいているより一層意義ある大会にしたいですね。とにかく具体的数字を出し、それに基づいて討議しましょう。

芦田 集計その他の関係から、午後3時までには競技終了ということで考えさせていただいて如何でしょう。水連でのデータを作る際の一応の線のこともありますから。

牧野・黒川 はい、結構です。

芦田 それではその問題は一応それで打切らせていただいて、他に皆さん方から何かごございましたら、きたんなくご発表をお願いします。

小林 放送資料の関係や準備の都合上、大会の1カ月前には各会場を決定しておいていただきたい。それに大変困ったんですが、氏名、学校名のフリガナ・学年などは是非落ちなく申込書に書き込んでいただきたい。

金田 集計でも又その後の資料にする場合でも、申込書には氏名のフリガナ・学年など記載するようになってるんですが、記載もれが相当多く困りましたね。

芦田 来年度は要項にも注意事項などで、更にハッキリと書き落しのないようにうたいましょう。

小林 できれば参加校、参加者数も知りたいし、大会前にわかたら出場選手のそれまでの記録も知りたいんですが、通信大会までのランキングのようなものはできませんか。

金田 ご要望ももっともだと思いますが若し来年通信大

会が水泳教室、ジュニア指導員などに8月下旬開催ということになれば相当たしかなのちのいう予想資料は出ますが、中学生の場合、夏休みのはじめ頃と終り頃では記録がすごく違いますし、又、人によってその伸び方もまちまちですから今年のように8月上旬開催ということでその資料を作るとなるとそのための全国集計の手数やら連絡日数を考えてせいぜい7月中旬までの記録ということになり特定のもの以外は参考資料程度ですね。

黒川 水連は夏の期間にあれもこれもというわけであるいろいろの大会が一時期に重なってあるから大変ですね。

牧野 今年開会式をラジオ・テレビでやったわけなんですけど如何ですか。特に開会式に出た選手の負担などからみて……。実際には東京の選手が出たわけですが。

菊池 今年程度でしたら支障はなかったのではないですか。それに意義があったと思います。

根上 文部大臣や全国中体連の会長さんなどこの際に大いに関心を高めてもらえるし、通信大会のPRにもなりますね。まあ、あまり炎天下に選手をさらしておくのはよくないと思いますが。

(全員やることに賛成の表示あり)

芦田 もうありませんか。

田中 3月末までにはすべて決定して貰いたい。

益田 もう一つ追加してお願いします、申込の時1人で2種目申し込まないように注意して欲しい。

芦田 はい、それも要項に更にハッキリうたうことにしましょう。ほかに何かありませんか……。それでは本日はこれで反省会をとちさせていただきます。

小出 どうもご苦労さまでした。

第6回 日本中学校水泳通信競技大会成績

昭和35年8月7日(日)

順位	校名	県名	得点	10	大入島(大分)	49.5
入賞中学校				女子		
男子				優勝	梶山(愛知)	168.5
優勝	中京	(愛知)	146.0点	2	淑徳(〃)	128.5
2	花乃井	(大阪)	113.0	3	成女(東京)	96.0
3	城東	(高知)	87.0	4	山ノ手(大分)	81.0
4	十文字	(福岡)	70.5	5	横浜学園(神奈川)	74.0
5	成蹊	(東京)	58.0	6	五条(奈良)	61.0
6	愛知	(愛知)	56.0	7	下市(〃)	55.0
7	山ノ手	(大分)	54.0	8	瀬戸田(広島)	55.0
8	日大豊山	(東京)	53.0	9	高陽(〃)	45.5
9	桜宮	(大阪)	52.5	10	宮之城(鹿児島)	44.0

順位 府県名 入選者数

男子

優勝	東京都	62人
2	静岡県	59
3	大阪府	50
4	福岡県	48
5	愛知県	47
6	大分県	46
7	熊本県	41
8	広島県	37
9	山口県	32
10	鹿児島県	31

女子

優勝	静岡県	55人
"	東京都	52
3	福岡県	50
4	広島県	48
5	奈良県	44
6	熊本県	39
7	愛知県	36
8	鹿児島県	33
9	愛媛県	30
10	山口県	27

男子 100 m 自由形

順位	時間	氏名	所属校	学年	得点
1	1:04.2	鷺野 季弘	中京(愛知)	(3)	20
2	1:05.5	高橋 和雄	城東(高知)	(3)	19
3	1:05.7	島内 一有	高知(〃)	(2)	18
4	1:06.0	小川 史男	成蹊(東京)	(3)	17
5	1:06.6	舛見 昇	岡崎(京都)	(3)	16
6	1:07.0	橋本 功	桜宮(大阪)	(3)	15
7	1:07.1	末永 栄	通(山口)	(3)	13.5
7	1:07.1	諸戸 徳雄	学文(兵庫)	(3)	13.5
9	1:07.4	服部 重勝	前津(愛知)	(3)	11.5
9	1:07.4	後藤 武司	十文字(福岡)	(3)	11.5
11	1:07.9	逢坂 清則	輪島(石川)	(3)	10
12	1:08.0	臼田 実	日大豊山(東京)	(3)	9
13	1:08.2	谷山 清	室戸(高知)		8
14	1:08.5	宇山 勢一	白浜(千葉)	(3)	6.5
14	1:08.5	朝倉 一郎	三原工(広島)	(3)	6.5
16	1:08.6	中村 淳	人吉一(熊本)	(3)	4.5
16	1:08.6	鈴木 孝治	竜洋(静岡)	(3)	4.5
18	1:08.7	山口 憲二	飫肥(宮崎)	(3)	3
19	1:09.0	中野 悟	高陽(広島)	(2)	2
20	1:09.2	阿部 提	倉敷西(岡山)	(3)	1

21	1:09.3	鈴木 将明	掛川西(静岡)	(3)
21	1:09.3	堀川 保	潮江(高知)	(3)
22	1:09.4	水上 一行	中野(大阪)	(3)
22	1:09.4	小川 忍	春日(奈良)	(3)
25	1:09.6	宮成 吉人	大入島(大分)	(3)
25	1:09.6	北田 義広	山ノ手(〃)	(3)
27	1:09.8	安田 敏郎	泉(石川)	(3)
28	1:10.0	鈴木 義幸	鋸南二(千葉)	(3)
28	1:10.0	広瀬 高尙	高知(高知)	(2)
30	1:10.1	水野健比古	三崎(神奈川)	(3)
30	1:10.1	増田 民雄	稻生沢(静岡)	(2)
32	1:10.2	山脇小五郎	港(大阪)	(3)
33	1:10.4	太田 邦男	成蹊(東京)	(2)
34	1:10.5	丸橋 隆	本庄(埼玉)	(2)
35	1:10.6	奥地 栄志	三木浦分校(三重)	(3)
36	1:10.7	通筋 清	輪島(石川)	(3)
37	1:10.8	釜口 敏行	三原二(広島)	(3)
37	1:10.8	三浦 文憲	久良(愛媛)	(3)
39	1:11.0	浜田 敏輝	西浦上(長崎)	(3)
40	1:11.1	林 義範	比良松(福岡)	(3)
41	1:11.3	中村 弘良	栗津(滋賀)	(3)
42	1:11.4	上松 昇	下市(奈良)	(2)
42	1:11.4	猪野 正久	城東(高知)	(2)
42	1:11.4	中島 稔	東田(東京)	(2)
42	1:11.4	松村 羌	本庄(埼玉)	(3)
42	1:11.4	向 享	蒲江(大分)	(3)
42	1:11.4	星野 千尋	比良松(福岡)	(3)
48	1:11.5	東 健一	大入島(大分)	(2)
48	1:11.5	大橋 邦紘	川内西(鹿児島)	(3)
48	1:11.5	勝島 亮	川口南(埼玉)	(2)

男子 400 m 自由形

○1	4:59.0	森田 武男	三橋(福岡)	(3)	20
2	5:16.4	杉山 彰	成蹊(東京)	(3)	19
3	5:17.3	大坪 繁喜	十文字(福岡)	(2)	18
4	5:21.7	笹田 憲之	中京(愛知)	(2)	17
5	5:22.2	高瀬悦二郎	八代三(熊本)	(1)	16
6	5:22.8	岩村 和平	坂越(兵庫)	(3)	15
7	5:26.3	小沢 祐和	富士(静岡)	(2)	14
8	5:27.8	森 守	中京(愛知)	(2)	13
9	5:28.6	宇田 宏	竜ヶ崎(茨城)	(2)	12
10	5:30.2	福田 憲二	山ノ手(大分)	(2)	11
11	5:30.3	林田 章	山ノ手(大分)	(3)	10
12	5:32.8	前田 義和	城東(高知)	(3)	9
13	5:33.0	寺腰 隆志	富山南(富山)	(3)	8
14	5:33.3	松尾 孝	伊万里(佐賀)	(3)	7
15	5:36.3	菅野 直之	麻布(東京)	(2)	6

16	5:36.4	高木 研作	栗田谷 (神奈川) (3) 5	7	11:07.8	小林兼一郎	広 田 (兵庫) (2) 14
17	5:38.6	東 永二	東 (大阪) (2) 4	8	11:10.0	佐藤 晴雄	近 衛 (京都) (2) 13
18	5:38.8	高橋 等	修 道 (広島) (3) 3	9	11:13.5	渡辺 吉松	美 須 賀 (愛媛) (2) 12
19	5:39.8	東 正三	大 道 (熊本) (3) 2	10	11:14.7	加藤 汎	盤 田 一 (静岡) (3) 11
20	5:40.0	古賀 真康	比 良 松 (福岡) (1) 1	11	11:17.0	中村 信明	鶴 尾 (香川) (3) 10
21	5:40.6	柏原 憲治	常 盤 (山口) (3)	12	11:18.4	細矢 邦夫	岩 手 (岩手) (2) 9
22	5:40.8	内村 好博	篠 原 (静岡) (2)	13	11:26.1	野口 和雄	東 田 (東京) (1) 8
23	5:41.2	矢川 利男	蒲 江 (大分) (3)	14	11:26.8	向山 喜登	攻 玉 社 (") (3) 7
24	5:41.9	松岡 忠祐	口 羽 (島根) (3)	15	11:31.8	古野 隆正	佐 賀 関 (大分) (3) 6
25	5:42.0	久保 皓生	御 浜 (三重) (2)	16	11:35.4	石井 良広	山 ノ 手 (") (1) 5
26	5:43.8	佐敷 誠一	桜 宮 (大阪) (3)	17	11:40.0	天野 憲一	篠 原 (静岡) (2) 4
27	5:45.1	城 孝一	立 田 (愛知) (3)	18	11:40.4	向井 範雄	御 浜 (三重) (3) 3
28	5:45.2	水野 隆雄	雄 踏 (静岡) (8)	19	11:42.0	田原 雅尙	口 羽 (島根) (3) 2
28	5:45.2	上田 義行	湯 里 (鳥取) (2)	20	11:42.7	湯山藍一郎	城 東 (高知) (2) 1
30	5:45.4	藤島 和明	花 乃 井 (大阪) (2)	21	11:44.2	西村 嘉男	瀬 戸 田 (広島) (2)
31	5:46.9	金本 専幸	柳 井 (山口) (2)	22	11:45.3	岩本 和行	常 盤 (山口) (2)
32	5:47.7	村上 繁樹	西 脇 南 (兵庫) (3)	23	11:46.6	木谷 晃彦	高 陽 (広島) (3)
33	5:47.8	竹下 五夫	横 川 (鹿児島) (3)	24	11:50.9	宮村 静雄	打 出 (滋賀) (2)
34	5:47.9	吉原 充穂	丸 之 内 (岡山) (3)	25	11:51.1	中村 正臣	逗子開成 (神奈川) (3)
35	5:48.1	加藤 幸吉	立 田 (愛知) (2)	26	11:53.6	大出 直雄	三 稜 (大阪) (2)
36	5:49.0	松井 良樹	武 蔵 (東京) (3)	27	11:55.0	福山 節雄	川内北 (鹿児島) (2)
37	5:49.5	松本 誠一	新井浜東 (愛媛) (3)	27	11:55.0	米井 要	豊 田 前 (山口) (1)
38	5:49.6	杉本 清	春 日 (奈良) (3)	29	11:55.2	寺内 義平	桜 宮 (大阪) (1)
39	5:50.0	吉田 要	詫 間 (香川) (3)	29	11:55.2	横川 政良	飯 能 一 (埼玉) (3)
40	5:50.1	亀井 正	三 原 工 (広島) (3)	31	11:55.3	井上 政利	瀬 高 (福岡) (2)
41	5:50.4	小林 忠雅	今 宮 (大阪) (3)	32	11:57.6	梅本 三郎	下 市 (奈良) (3)
42	5:51.4	小田原良一	岩 手 (岸手) (3)	33	12:03.2	山本 運平	湯 里 (島根) (3)
43	5:51.6	榎本 陽司	御 浜 (三重) (2)	34	12:04.8	倉本 達夫	日 和 佐 (徳島) (3)
44	5:51.8	森 精治	逗子開成 (神奈川) (3)	35	12:05.1	日当瀬 進	宮之城 (鹿児島) (3)
45	5:52.4	長松 宣文	下 市 (奈良) (3)	36	12:05.8	石田 哲章	南 稜 (大阪) (3)
46	5:52.6	田村 正典	城 西 (高知) (2)	37	12:05.9	桑野 充	皇 子 山 (滋賀) (3)
47	5:53.0	吉川 忠	日 見 (長崎)	38	12:07.0	芳賀 弘由	日 代 (大分) (3)
48	5:53.1	加納 英雄	関東学院 (神奈川) (3)	39	12:08.2	楠本 健	春 日 (奈良) (3)
49	5:54.6	紙谷 竜	立 正 (東京) (1)	40	12:09.0	土井 好美	三 原 工 (広島) (2)
49	5:54.6	高橋 正昭	東 田 (東京) (3)	41	12:09.5	亀本 研二	大 社 (兵庫)
49	5:54.6	加藤 健一	磐 田 一 (静岡) (3)	42	12:09.8	菅野 勝	館 山 二 (千葉) (2)
49	5:54.6	石岡 守邦	喜 連 川 (栃木) (3)	43	12:11.0	横井 芳之	立 田 (愛知) (1)
49	5:54.6	田島 桂三	紫 錦 台 (石川) (3)	44	12:11.4	渡辺 利夫	立 正 (東京) (2)
49	5:54.6	小林 安德	坂 越 (兵庫) (3)	45	12:12.5	中村建二郎	徳 大 附 (徳島) (2)
男 子 800 m 自由形				46	12:12.9	木村 正夫	輪 島 (石川) (2)
◎1	10:12.2	大池 巖	愛 知 (愛知) (3) 20	47	12:14.2	中沢 一則	八 代 二 (熊本) (2)
2	10:33.6	清水 清彦	中 京 (") (3) 19	48	12:16.0	野田 保	坂 (広島) (3)
3	10:55.7	弓削 敏光	横 川 (鹿児島) (3) 18	48	12:16.0	佐野 満喜	西 岬 (千葉) (2)
4	11:00.4	芦刈 功	出 水 (熊本) (3) 17	50	12:19.1	団塚 喜幸	大 入 島 (大分) (3)
5	11:01.4	木田 和夫	八 代 一 (") (2) 16	男 子 200 m 平 泳			
6	11:05.8	原 光信	花 乃 井 (大阪) (3) 15	◎1	2:46.9	石川 健二	城 東 (高知) (3) 20

2	2:56.6	鈴木 欽次	磐田一(静岡)	(3)19	46	3:09.0	草壁 健	明大中野(東京)	(3)
3	2:59.2	穂積 忍	小 牧(愛知)	(3)17.5	49	3:09.2	本田 光彦	日大一(〃)	(2)
3	2:59.2	向井 純市	海南二(和歌山)	(3)17.5	49	3:09.2	福原 義文	八代二(熊本)	(2)
5	3:00.1	中本 義則	国泰寺(広島)	(2)16	49	3:09.2	前田 新維	江 津(島根)	(3)
6	3:00.2	伏木 英和	花乃井(大阪)	(2)15	49	3:09.2	津村 満	夕陽丘(大阪)	(2)
7	3:01.4	鈴木 義光	篠 原(静岡)	(3)14					
8	3:01.7	米田 清久	山 鹿(熊本)	(3)13	1	2:44.2	馬上 豊	中 京(愛知)	(3)19.5
9	3:02.8	山川 功	岡 崎(京都)	(3)12	1	2:44.2	吉川 寿夫	美須賀(愛媛)	(3)19.5
10	3:03.2	三崎 浩	雄 新(愛媛)	(3)11	3	2:44.4	川村 邦彦	汐 田(神奈川)	(3)18
11	3:03.6	折戸 弘	桜 宮(大阪)	(3)9.5	4	2:50.8	田中 正己	花乃井(大阪)	(3)17
11	3:03.6	秋山 暁	櫛 原(福岡)	(2)9.5	5	2:54.4	団塚 祝男	大入島(大分)	(3)16
13	3:03.7	藤井 友埝	柳 井(山口)	(3)8	6	2:54.8	今西 博之	尾 鷲(三重)	(3)15
14	3:03.8	柴田 弘	中 京(愛知)	(3)6.5	7	2:55.2	小手川 守	日 代(大分)	(3)14
14	3:03.8	江藤 豊蔵	臼 杵東(大分)	(3)6.5	8	2:56.0	森 公義	瀬 高(福岡)	(3)13
16	3:04.0	鈴木 英二	東 部(静岡)	(3)4	9	2:58.4	坂本 憲正	花乃井(大阪)	(2)12
16	3:04.0	青木 剛	大入島(大分)	(2)4	10	2:58.6	藤木 達夫	桜 宮(〃)	(3)11
16	3:04.0	川島 文雄	竜 洋(静岡)	(1)4	11	2:59.0	松田 正彦	八代二(熊本)	(3)10
19	3:04.2	前田 鎮禰	小将町(石川)	(3)2	12	3:00.6	木村 充宏	上 町(大阪)	(3)9
20	3:04.4	内野 文雄	熊 西(福岡)	(3)1	13	3:00.8	刑部 祐一	篠 原(静岡)	(3)8
21	3:04.5	仲松 克俱	臼 杵東(大分)	(3)	14	3:01.6	江本 正	森 野(山口)	(3)7
22	3:05.0	安田 博朗	館 山(千葉)	(2)	15	3:02.7	宝勝 忠幸	野 田(石川)	(3)5.5
22	3:05.0	宮下 梅義	千 倉(〃)	(3)	15	3:02.7	得能 一生	三原工(広島)	(3)5.5
24	3:05.2	富山 武久	詫 間(香川)	(3)	17	3:02.9	横山 徹郎	中 村(高知)	(3)4
25	3:05.5	山崎 利男	飯 能一(埼玉)	(3)	18	3:03.4	石村 強	御 園(東京)	(3)3
26	3:05.6	荻田 文彦	早 実(東京)	(3)	19	3:04.1	梅本 義弘	下 市(奈良)	(3)2
26	3:05.6	友清 治	井 荻(〃)	(3)	20	3:04.7	牧野 康二	竜 洋(静岡)	(3)1
28	3:05.8	牧野 祐治	鳴門二(徳島)	(3)	21	3:04.8	野村 克彦	甲 南(兵庫)	(2)
29	3:05.9	大下 敏昭	浜田二(島根)	(3)	22	3:05.0	藤田 修孝	日大豊山(東京)	(2)
30	3:06.0	米川 斎	麻 布(東京)	(3)	22	3:05.0	石渡 政男	北 沢(〃)	(3)
31	3:06.1	古賀 浩之	比良松(福岡)	(3)	24	3:05.7	中谷 哲也	粟 津(滋賀)	(3)
31	3:06.1	棚橋 勝信	青 木(埼玉)	(2)	25	3:06.4	杉本 隆	葵 (愛知)	(3)
33	3:06.4	秋本 和夫	中 野(東京)	(3)	26	3:06.8	長谷川 弘	愛 知(〃)	(3)
34	3:06.6	吉岡 義文	下 市(奈良)	(3)	27	3:07.6	角田 友春	逗子開成(神奈川)	(3)
35	3:07.7	佐久間秀夫	春 日(〃)	(3)	28	3:08.2	札幌 均	倉敷西(岡山)	(3)
36	3:08.0	西 義昭	宮之城(鹿児島)	(3)	29	3:08.0	小林 幸男	青 木(埼玉)	(3)
36	3:08.0	高岡 秀雄	栗 東(滋賀)	(2)	30	3:08.7	中村 昌敬	雄 踏(静岡)	(3)
36	3:08.0	三浦 正次	九度山(和歌山)	(3)	31	3:08.8	村島 吉豊	五 条(奈良)	(3)
36	3:08.0	田中 秀穂	津和野(島根)	(3)	32	3:08.9	阿部 弘	柏崎一(新潟)	(3)
36	3:08.0	池田 正司	日 大(神奈川)	(3)	33	3:09.0	清水 年玉	浄 心(愛知)	(3)
41	3:08.1	斎藤 稔一	逗子開成(神奈川)	(3)	34	3:09.6	田川 小一	蒲 江(大分)	(2)
42	3:08.2	竹内 義伸	鳴門二(徳島)	(2)	35	3:10.0	釜堀 幸男	十文字(福岡)	(3)
43	3:08.3	下橋 盾夫	川内北(鹿児島)	(3)	36	3:10.2	田島 高則	上青木(埼玉)	(3)
44	3:08.6	常原伊三夫	上 町(大阪)	(3)	36	3:10.2	下川 敏彦	熊 西(福岡)	(3)
45	3:08.9	中島 二男	瀬 高(福岡)	(3)	38	3:11.0	諸藤 正雄	三 橋(〃)	(2)
46	3:09.0	三谷 和生	西 脇(兵庫)	(2)	39	3:11.5	富野 博正	下ノ橋(岩手)	(3)
46	3:09.0	須の内和久	桜 宮(大阪)	(2)	40	3:11.7	川村 豊	高 知(高知)	(2)

41	3:11.8	船場 一幸	出水(熊本)(3)
42	3:12.0	岡田 博之	紫錦台(石川)(2)
43	3:12.9	寺内 秀夫	壬生(栃木)(3)
44	3:13.0	松尾 健也	日見(長崎)
44	3:13.0	米田 隆昭	広畑(兵庫)(3)
46	3:13.3	松下 安宏	東部(静岡)(3)
47	3:13.4	大橋 紘二	川内西(鹿児島)(3)
48	3:13.8	青山 静夫	竜洋(静岡)(2)
48	3:13.8	長島 政司	鶴尾(香川)(3)
50	3:14.4	奥田 孝信	港(大阪)(3)

男子 100 m 背泳

1	1:14.8	宮良 高志	日大豊山(東京)(3)20
2	1:16.8	艶島 康	十文字(福岡)(3)19
3	1:17.6	中島 捷之	隈府(熊本)(3)18
4	1:18.3	岸上 昇	花乃井(大阪)(3)17
5	1:18.5	島岡 義二	柏崎一(新潟)(3)16
6	1:19.2	山本幸太郎	大入島(大分)(3)14.5
6	1:19.2	出水 勝重	福山(鹿児島)(3)14.5
8	1:19.5	大堀 洋一	八代三(熊本)(3)13
9	1:20.2	鈴木 忠幸	鋸南二(千葉)(3)12
10	1:20.3	田村 務	中京(愛知)(3)11
11	1:21.4	中原 秋義	瀬高(福岡)(3)10
12	1:21.6	服部 末義	愛知(愛知)(3)9
13	1:22.0	前田 志郎	高知(高知)(3)7.5
13	1:22.0	磯川 記干	伊東南(静岡)(3)7.5
15	1:22.2	高木 正俊	逗子(神奈川)(3)5.5
15	1:22.2	村本 幸雄	川下(山口)(3)5.5
17	1:22.4	岡本 勇	九度山(和歌山)(3)4
18	1:22.7	竹村 進	城東(高知)(3)3
19	1:22.9	山本 紀男	輪島(石川)(2)2
20	1:23.0	浅井 力	葵(愛知)(3)1
21	1:23.2	清水 幸治	八代一(熊本)(3)
22	1:23.5	渡辺 啓之	掛川西(静岡)(3)
23	1:23.6	別所 聰平	成蹊(東京)(3)
23	1:23.6	中和田 守	下市(奈良)(3)
23	1:23.6	池淵 博	鳴門二(徳島)(3)
26	1:23.7	木野 立雄	八幡(静岡)(3)
26	1:23.7	鈴木 正治	篠原(〃)(3)
26	1:23.7	木村 博美	向陽(鹿児島)(3)
29	1:24.0	飯沼 信宏	西岬(千葉)(3)
29	1:24.0	小川 為夫	立田(愛知)(3)
31	1:24.3	渡辺富士夫	美須賀(愛媛)(3)
32	1:24.4	手塚 隆盛	宮之城(鹿児島)(3)
33	1:24.5	下垣 昇	瀬戸田(広島)(3)
34	1:24.6	石川 勝彦	竜洋(静岡)(2)
34	1:24.6	富田 英之	伊勢崎北(群馬)(2)

34	1:24.6	上野 洋平	釜石二(岩手)(3)
37	1:24.9	善家 良夫	御荘(愛媛)(3)
38	1:25.2	和田 憲二	館山二(千葉)(1)
39	1:25.3	高山 俊一	文京一(東京)(3)
39	1:25.3	蔵品 次男	日大一(〃)(3)
41	1:25.5	西村 博昭	湯里(島根)(3)
41	1:25.5	末次 学	城島(福岡)(2)
41	1:25.5	鳥居 篤信	十文字(〃)(2)
44	1:25.7	増田 泰男	甲南(兵庫)(3)
45	1:25.8	渡海 正之	坂越(〃)(1)
45	1:25.8	堺谷 真一	山手(〃)(2)
47	1:25.9	増山 隆久	北沢(東京)(2)
47	1:25.9	平野 敏行	修道(広島)(3)
47	1:25.9	村田 和夫	櫛原(福岡)(3)
50	1:26.1	南 道雄	聖徳(滋賀)(2)

男子 800 m リレー

順位	時間	校名	府県名	得点
1	9:58.6	中京	(愛知)	20
2	10:17.8	城東	(高知)	19
3	10:25.4	花乃井	(大阪)	18
4	10:28.4	十文字	(福岡)	17
5	10:36.4	愛知	(愛知)	16
6	10:36.6	三橋	(福岡)	15
7	10:37.2	桜宮	(大阪)	14
8	10:38.1	成蹊	(東京)	13
9	10:42.0	竜洋	(静岡)	12
10	10:44.8	山ノ手	(大分)	11
11	10:45.7	高知	(高知)	10
12	10:48.0	三原工	(広島)	9
13	10:49.8	磐田一	(静岡)	8
14	10:50.1	横川	(鹿児島)	7
15	10:51.7	日大豊山	(東京)	6
16	10:52.7	坂越	(兵庫)	5
17	10:53.2	御浜	(三重)	4
18	10:54.9	輪島	(石川)	3
19	10:55.0	常盤	(山口)	2
20	10:58.4	篠原	(静岡)	1
21	10:59.2	倉敷西	(岡山)	
22	10:59.8	東田	(東京)	
23	10:59.9	瀬高	(福岡)	
24	11:03.1	下市	(奈良)	
25	11:04.4	富士	(静岡)	
26	11:04.5	立田	(愛知)	
27	11:05.8	比良松	(福岡)	
28	11:06.2	八代二	(熊本)	
29	11:09.3	湯里	(島根)	

30	11:09.8	大 入 島	(大 分)
31	11:10.7	逗 子 開 成	(神奈川)
32	11:12.0	掛 川 西	(静 岡)
32	11:12.0	東 雲	(大 分)
34	11:12.4	美 須 賀	(愛 媛)
35	11:14.4	八 代 三	(熊 本)
36	11:15.5	出 水	(")
37	11:16.6	春 日	(奈 良)
38	11:17.0	瀬 戸 田	(広 島)
39	11:19.0	飾 磨 東	(兵 庫)
40	11:19.2	東	(大 阪)
41	11:23.6	八 代 一	(熊 本)
42	11:23.9	稻 生 沢	(静 岡)
43	11:24.3	岩 手	(岩 手)
44	11:25.8	臼 杵 東	(大 分)
45	11:26.4	高 陽	(広 島)
46	11:26.8	柳 井	(山 口)
46	11:26.8	近 衛	(京 都)
48	11:27.6	宮 之 城	(鹿 児 島)
49	11:28.2	立 正	(東 京)
50	11:28.4	口 羽	(島 根)

男 子 400 m メドレーリレー

1	5:04.8	中 京	(愛 知)	20
2	5:07.2	花 乃 井	(大 阪)	19
3	5:10.0	日 大 豊 山	(東 京)	18
4	5:15.0	山 ノ 手	(大 分)	16
5	5:15.1	城 東	(高 知)	17
6	5:15.7	大 入 島	(")	15
7	5:17.1	瀬 高	(福 岡)	14
8	5:21.1	美 須 賀	(愛 媛)	13
9	5:21.2	下 市	(奈 良)	12
10	5:22.0	愛 知	(愛 知)	11
11	5:22.2	篠 原	(静 岡)	10
12	5:22.5	成 蹊	(東 京)	9
13	5:23.4	汐 田	(神 奈 川)	8
14	5:25.6	高 知	(高 知)	7
15	5:26.1	北 沢	(東 京)	6
16	5:26.7	十 文 字	(福 岡)	5
17	5:26.8	柏 崎 一	(新 潟)	4
18	5:27.0	桜 宮	(大 阪)	3
19	5:27.3	岡 崎	(京 都)	2
20	5:28.5	逗 子 開 成	(神 奈 川)	1
21	5:28.9	竜 洋	(静 岡)	
22	5:29.0	隈 府	(熊 本)	
23	5:29.5	八 代 三	(")	
24	5:30.3	上 町	(大 阪)	

25	5:31.7	輪 島	(石 川)
25	5:31.7	横 川	(鹿 児 島)
27	5:33.0	御 園	(東 京)
28	5:33.8	瀬 戸 田	(広 島)
29	5:34.3	宮 之 城	(鹿 児 島)
30	5:34.8	坂 越	(兵 庫)
31	5:35.4	日 大 一	(東 京)
32	5:36.1	柳 井	(山 口)
33	5:36.3	館 山 二	(千 葉)
34	5:36.7	倉 敷 西	(岡 山)
35	5:36.8	蒲 江	(大 分)
36	5:37.2	前 津	(愛 知)
37	5:37.5	三 原 工	(広 島)
38	5:37.6	小 牧	(愛 知)
39	5:37.7	通	(山 口)
40	5:37.8	八 代 二	(熊 本)
40	5:37.8	粟 津	(滋 賀)
42	5:38.1	修 道	(広 島)
43	5:38.7	三 稜	(大 阪)
44	5:38.7	豊 田 前	(山 口)
44	5:38.7	春 日	(奈 良)
46	5:39.0	福 山	(鹿 児 島)
46	5:39.0	掛 川 西	(静 岡)
48	5:39.4	九 度 山	(和 歌 山)
49	5:39.5	櫛 原	(福 岡)
50	5:40.0	川 下	(山 口)

女 子 100 m 自由形

順位	時間	氏 名	所 属 校	学 年	得 点
1	1:11.9	殿上 玲子	成 女 (東京)	(3)	20
2	1:17.5	土ヶ内照子	土 佐 女 (高知)	(2)	19
3	1:17.8	林 恵美子	八 幡 (静岡)	(3)	18
4	1:18.1	水野喜代子	椋 山 (愛知)	(2)	17
5	1:18.9	高嶋 美枝	成 女 (東京)	(2)	16
6	1:19.3	深谷 澄子	椋 山 (愛知)	(2)	15
7	1:20.5	天野 文子	湖 東 (熊本)	(3)	14
8	1:21.0	池田婦美子	大 道 (")	(3)	13
9	1:21.4	川本 倫子	瀬 戸 田 (広島)	(2)	12
10	1:21.8	伊藤 咲子	淑 徳 (愛知)	(1)	10
10	1:21.8	渡辺 勝美	銚 子 一 (千葉)	(3)	10
10	1:21.8	東 美代子	下 市 (奈良)	(3)	10
13	1:21.9	宮本 聖子	静 大 附 (静岡)	(1)	8
14	1:22.2	村上 容子	土 佐 女 (高知)	(3)	7
15	1:23.4	牧野 保子	横浜学園(神奈川)	(3)	6
16	1:23.6	次郎万茂子	三 丘 (山口)	(2)	5
17	1:24.2	峡戸 一美	口 羽 (島根)	(3)	3.5
17	1:24.2	吉野 礼子	高 陽 (広島)	(1)	3.5

19	1:24.4	平木 和世	垂 水 (兵庫) (3) 2	14	6:39.6	畠山 重子	湯 口 (岩手) (2) 7
20	1:24.6	姫路 賀代	平 野 (大阪) (2) 1	15	6:41.0	足立久美子	杷 木 (福岡) (2) 6
21	1:24.8	中川 静子	嘉 島 (熊本) (1)	16	6:41.5	青本 禎子	筑 紫 女 (〃) (3) 5
22	1:25.0	渋谷 節子	浜 田 二 (島根) (3)	17	6:42.4	鈴木 千賀	中 野 (大阪) (3) 4
23	1:25.2	神谷よしえ	御 荘 (愛媛) (1)	18	6:43.5	日高 素子	口 羽 (島根) (2) 3
23	1:25.2	伊藤由美子	青 山 (東京) (1)	19	6:44.4	後藤 章子	浜 寺 (大阪) (3) 2
23	1:25.2	阿部 伸世	五 条 (奈良) (3)	20	6:46.3	池田 久美	御 荘 (愛媛) (2) 1
26	1:25.4	内野 典子	八王子五 (東京) (1)	21	6:47.2	豊田由美子	八 代 二 (熊本) (2)
27	1:25.6	山崎 光子	川 越 (島根) (3)	22	6:48.2	緒方 洵	出 水 (〃) (3)
28	1:26.2	谷口千代美	御 荘 (愛媛) (1)	23	6:48.3	柏原 道子	三 原 二 (広島) (2)
29	1:26.6	浜谷 幸子	輪 島 (石川) (1)	24	6:50.4	中島千恵子	成 女 (東京) (1)
30	1:26.8	田中美智子	八王子五 (東京) (2)	25	6:52.3	佐々木昌子	磯 津 (愛媛) (3)
31	1:27.0	坂本 和美	八 代 二 (熊本) (1)	26	6:53.5	富永加津子	美 須 賀 (〃) (3)
32	1:27.2	白神 尚子	倉 敷 西 (岡山) (3)	27	6:54.0	額額いつ子	淑 徳 (愛知) (1)
32	1:27.2	松本 幸子	三 原 二 (広島) (2)	28	6:54.4	満尾 清子	宮之城 (鹿児島) (3)
34	1:28.0	諫山 和子	十 文 字 (福岡) (3)	29	6:59.8	刑部 佳江	篠 原 (静岡) (2)
34	1:28.0	安田 艶子	加 茂 川 (京都) (2)	30	7:00.6	吉田三和子	松 蔭 (兵庫) (2)
36	1:28.1	石谷寿美恵	岩 美 (鳥取) (2)	31	7:00.8	疋田 清子	信 愛 (静岡) (2)
36	1:28.1	玉沢 芳子	進 徳 (広島)	32	7:02.6	藤井 文子	川 下 (山口) (2)
38	1:28.4	梶原 光子	杷 木 (福岡) (1)	33	7:05.7	佐古 洋子	野 原 (奈良) (1)
39	1:28.5	石田 直子	中 野 (大阪) (3)	34	7:05.8	山田千恵子	下 田 (静岡) (1)
40	1:29.1	小沢百合子	一 宮 (山梨) (3)	35	7:06.4	戸川 和子	筑 紫 女 (福岡) (2)
41	1:29.4	宇田川光代	高 麗 (埼玉) (3)	36	7:07.0	池田恵美子	御 園 (東京) (3)
42	1:29.6	河地世思子	逗 子 (神奈川) (2)	36	7:07.0	竹下しのぶ	川内西 (鹿児島) (2)
43	1:29.8	大辻 玲子	金 泉 (新潟) (2)	36	7:07.0	森 和子	横 川 (〃) (2)
44	1:30.1	釜村 和枝	兼 六 (石川) (3)	39	7:07.4	大崎 喜子	横浜学園(神奈川)(1)
45	1:31.2	永井 弘子	中 部 (大分) (3)	40	7:07.6	佐々木千鶴子	御 園 (東京) (2)
46	1:31.4	奥田 博子	帝 塚 山 (大阪) (1)	41	7:09.8	長瀬 充子	倉 敷 西 (岡山) (3)
47	1:31.7	吉瀬 夏子	杷 木 (福岡) (2)	42	7:11.4	森野 公子	帝 塚 山 (大阪) (2)
48	1:31.8	中沢 一乃	川 上 一 (奈良) (1)	43	7:12.2	土屋 節子	日 野 (東京) (3)
49	1:32.0	三鬼八千穂	三 木 浦 (三重) (3)	44	7:14.9	山本 孝子	鶴 尾 (香川) (2)
50	1:32.3	鈴木 洋子	富 士 (静岡) (2)	45	7:16.3	日当瀬いつ子	宮之城 (鹿児島) (1)

女 子 400 m 自由形

1	6:04.2	木村トヨ子	嘉 島 (熊本) (3) 20
2	6:13.7	加藤 穂子	淑 徳 (愛知) (3) 19
3	6:14.6	早川 一枝	富 士 (静岡) (1) 18
4	6:17.3	中野 厚子	高 陽 (広島) (3) 17
5	6:20.6	菊谷多鶴子	下 市 (奈良) (2) 16
6	6:22.0	中丸 典子	楯 山 (愛知) (2) 15
7	6:22.9	渡辺 君子	山 ノ 手 (大分) (1) 14
8	6:26.1	小倉千恵子	楯 山 (愛知) (3) 13
9	6:30.8	虎野千鶴子	帝 塚 山 (大阪) (2) 12
10	6:31.6	浜田百合子	山 ノ 手 (大分) (2) 11
11	6:31.8	木村 晴美	松 蔭 (兵庫) (3) 10
12	6:34.1	大谷加代子	穂 北 (宮崎) (2) 9
13	6:39.4	小林 繁子	横浜学園(神奈川)(2) 8

14	6:39.6	畠山 重子	湯 口 (岩手) (2) 7
15	6:41.0	足立久美子	杷 木 (福岡) (2) 6
16	6:41.5	青本 禎子	筑 紫 女 (〃) (3) 5
17	6:42.4	鈴木 千賀	中 野 (大阪) (3) 4
18	6:43.5	日高 素子	口 羽 (島根) (2) 3
19	6:44.4	後藤 章子	浜 寺 (大阪) (3) 2
20	6:46.3	池田 久美	御 荘 (愛媛) (2) 1
21	6:47.2	豊田由美子	八 代 二 (熊本) (2)
22	6:48.2	緒方 洵	出 水 (〃) (3)
23	6:48.3	柏原 道子	三 原 二 (広島) (2)
24	6:50.4	中島千恵子	成 女 (東京) (1)
25	6:52.3	佐々木昌子	磯 津 (愛媛) (3)
26	6:53.5	富永加津子	美 須 賀 (〃) (3)
27	6:54.0	額額いつ子	淑 徳 (愛知) (1)
28	6:54.4	満尾 清子	宮之城 (鹿児島) (3)
29	6:59.8	刑部 佳江	篠 原 (静岡) (2)
30	7:00.6	吉田三和子	松 蔭 (兵庫) (2)
31	7:00.8	疋田 清子	信 愛 (静岡) (2)
32	7:02.6	藤井 文子	川 下 (山口) (2)
33	7:05.7	佐古 洋子	野 原 (奈良) (1)
34	7:05.8	山田千恵子	下 田 (静岡) (1)
35	7:06.4	戸川 和子	筑 紫 女 (福岡) (2)
36	7:07.0	池田恵美子	御 園 (東京) (3)
36	7:07.0	竹下しのぶ	川内西 (鹿児島) (2)
36	7:07.0	森 和子	横 川 (〃) (2)
39	7:07.4	大崎 喜子	横浜学園(神奈川)(1)
40	7:07.6	佐々木千鶴子	御 園 (東京) (2)
41	7:09.8	長瀬 充子	倉 敷 西 (岡山) (3)
42	7:11.4	森野 公子	帝 塚 山 (大阪) (2)
43	7:12.2	土屋 節子	日 野 (東京) (3)
44	7:14.9	山本 孝子	鶴 尾 (香川) (2)
45	7:16.3	日当瀬いつ子	宮之城 (鹿児島) (1)
46	7:16.8	日野 波子	十 文 字 (福岡) (3)
47	7:18.1	松谷多賀子	中 野 (大阪) (1)
48	7:19.3	奥村 百代	加 茂 川 (京都) (3)
49	7:19.3	中沢由美子	浜 田 二 (島根) (3)
50	7:19.6	斎藤トシ江	沼 田 (群馬) (1)

女 子 200 m 平 泳

1	3:13.4	水本 栄子	成 徳 (東京) (3) 20
2	3:18.8	永坂美恵子	淑 徳 (愛知) (3) 19
3	3:20.0	山口 栄	館 山 二 (千葉) (2) 18
4	3:21.4	網屋 千代	鹿 屋 (鹿児島) (2) 17
5	3:22.0	田上 和子	八 代 三 (熊本) (2) 16
6	3:22.7	浅井 弘美	淑 徳 (愛知) (2) 15
7	3:23.2	近藤 陽子	楯 山 (〃) (3) 14
8	3:24.6	久保田正子	楯 山 (〃) (3) 13

49	1:59.7	横山 栄子	紫錦台(石川)(3)
50	1:59.9	山腰千恵子	城 東(高知)(3)
女子 100 m 背 泳			
1	1:27.7	岡田八詠子	五 条(奈良)(3)20
2	1:28.2	斉田美佐子	鳴 門 一(徳島)(3)19
3	1:28.5	浦上 凉子	熊 西(福岡)(1)18
4	1:29.3	国分 淳子	穂 北(宮崎)(3)17
5	1:29.5	寺井とも子	筑紫女(福岡)(3)15.5
5	1:29.5	道家 知子	梶 山(愛知)(2)15.5
7	1:29.8	福島利恵子	北 沢(東京)(3)14
8	1:30.5	瓦家 和子	瀬戸田(広島)(3)13
9	1:30.6	大内登志恵	横浜学園(神奈川)(3)12
10	1:31.2	原 昇代	北 沢(東京)(3)11
11	1:31.6	水落志保美	成 女(東京)(1)10
12	1:32.0	大宮美枝子	淑 徳(愛知)(2)9
13	1:32.3	佐藤 光代	梶 山(〃)(2)8
14	1:32.9	飯野 悦子	紫 雲(香川)(3)7
15	1:33.2	那須田米子	篠 原(静岡)(3)6
16	1:33.8	花田 妙子	帝塚山(大阪)(2)5
17	1:34.0	小原キイ子	宮之城(鹿児島)(2)4
18	1:35.8	白坂 淳子	鹿 屋(〃)(1)3
19	1:36.0	天野みどり	竹 原(広島)(2)2
20	1:36.2	池田 静子	比良松(福岡)(1)0.5
20	1:36.2	西村 知子	彦根東(滋賀)(3)0.5
22	1:36.6	宮崎るみ子	有 田(佐賀)(2)
23	1:36.8	小島恵美子	高 陽(広島)(3)
23	1:36.8	上田橋真弓	横 川(鹿児島)(2)
23	1:36.8	中水タカ子	十文字(福岡)(3)
26	1:37.8	田中カオル	御 荘(愛媛)(3)
27	1:38.4	末金たかえ	杷 木(福岡)(2)
28	1:38.9	島田 詔子	山ノ手(大分)(3)
29	1:39.4	青柳 郁子	鯉 沢(山梨)(3)
30	1:39.6	西村 幸子	筑紫女(福岡)(2)
31	1:39.7	田中 優子	五 条(奈良)(2)
32	1:39.8	今西 悦子	宮之城(鹿児島)(2)
32	1:39.8	志倉 容子	桐 朋(東京)(2)
34	1:39.9	瀬川 昭江	淑 徳(愛知)(1)
35	1:40.0	川北 敏子	下 市(奈良)(3)
36	1:40.1	金丸 公子	穂 北(宮崎)(2)
37	1:40.2	藤本 優子	嘉 島(熊本)(3)
37	1:40.2	森脇 丸枝	川 上 一(奈良)(1)
37	1:40.2	藤本 佳子	進 徳(広島)(2)
37	1:40.2	梅田 雅子	竹 原(〃)(1)
41	1:40.3	渋谷 広江	横浜学園(神奈川)(2)
42	1:40.9	中村 和子	鷺 津(静岡)(3)
43	1:41.2	秋本 純子	森 野(山口)(2)

43	1:41.2	角田美栄子	稻生 沢(静岡)(2)
45	1:41.3	原 福代	八代二(熊本)(2)
46	1:41.5	井上 郁子	山ノ手(大分)(3)
47	1:41.7	元田 雅子	土佐女(高知)(3)
48	1:41.8	宮本 親子	川 越(島根)(2)
48	1:41.8	小池 和子	竜 洋(静岡)(3)
50	1:42.3	北村 紀子	紫錦台(石川)(3)

女子 400 m リレー

順位	時間	校 名	府 県 名	得点
1	5:21.2	梶 山	(愛知)	20
2	5:33.1	成 女	(東京)	19
3	5:38.8	淑 徳	(愛知)	18
4	5:41.0	山 ノ 手	(大分)	17
5	5:47.0	嘉 島	(熊本)	16
6	5:49.7	下 市	(奈良)	15
7	5:51.8	横 浜 学 園	(神奈川)	14
8	5:57.0	宮 之 城	(鹿児島)	13
9	5:57.2	高 陽	(広島)	12
10	5:58.9	口 羽	(島根)	11
11	6:00.2	五 条	(奈良)	10
12	6:03.0	松 蔭	(兵庫)	9
13	6:03.2	土 佐 女 子	(高知)	8
14	6:03.5	御 荘	(愛媛)	7
15	6:03.6	八 代 二	(熊本)	6
16	6:08.5	富 士	(静岡)	5
17	6:08.7	浜 田 二	(島根)	4
18	6:09.2	三 原 二	(広島)	3
19	6:09.4	帝 塚 山	(大阪)	2
20	6:10.4	杷 木	(福岡)	1
21	6:10.9	十 文 字	(福岡)	
22	6:11.1	加 茂 川	(京都)	
22	6:11.1	穂 北	(宮崎)	
24	6:11.7	瀬 戸 田	(広島)	
25	6:13.6	八 幡	(静岡)	
26	6:14.5	野 原	(奈良)	
27	6:19.2	三 丘	(山口)	
28	6:22.1	比 良 松	(福岡)	
29	6:22.4	筑 紫 女	(〃)	
30	6:23.9	中 野	(大阪)	
31	6:25.5	篠 原	(静岡)	
32	6:25.6	北 沢	(東京)	
33	6:26.8	信 愛	(静岡)	
34	6:28.4	竜 洋	(〃)	
35	6:29.2	横 川	(鹿児島)	
36	6:32.0	垂 水	(兵庫)	
37	6:37.8	磯 津	(愛媛)	

38	6:38.0	東田	(東京)	19	6:47.9	浜田	二	(島根)	
39	6:38.8	川下	(山口)	20	6:49.1	鳴戸	一	(徳島)	
40	6:39.0	岩美	(鳥取)	21	6:49.6	口羽		(島根)	
41	6:40.0	野尻湖	(長野)	22	6:51.1	杷木		(福岡)	
42	6:40.5	高麗	(埼玉)	23	6:51.7	美須賀		(愛媛)	
43	6:41.0	竹原	(広島)	24	6:54.8	川上	一	(奈良)	
44	6:41.4	美須賀	(愛媛)	25	6:55.4	八代	二	(熊本)	
45	6:41.8	川上	(奈良)	26	6:56.2	八幡		(静岡)	
45	6:41.8	倉敷	(岡山)	27	6:59.0	彦根	東	(滋賀)	
45	6:41.8	出水	(熊本)	28	6:59.4	垂水		(兵庫)	
48	6:42.0	野沢温泉	(長野)	29	7:01.4	比良	松	(福岡)	
49	6:43.0	館山	二	30	7:02.4	御園		(東京)	
50	6:43.6	鳴門	一	31	7:02.7	帝塚山		(大阪)	
女子 400 m メドレーリレー									
1	5:56.1	淑徳	(愛知)	20	33	7:04.0	野沢温泉	(長野)	
2	5:57.0	椚山	(")	19	34	7:06.3	館山	二	(千葉)
3	6:01.2	成女	(東京)	18	35	6:08.0	東田		(東京)
4	6:10.2	横浜学園	(神奈川)	17	35	7:08.0	青木		(埼玉)
5	6:10.9	山ノ手	(大分)	16	37	7:09.6	竹原		(広島)
6	6:15.4	五条	(奈良)	15	38	7:10.2	北沢		(東京)
7	6:20.4	下市	(")	14	39	7:11.4	念珠ヶ関		(山形)
8	6:22.4	十文字	(福岡)	13	40	7:11.6	三原	二	(広島)
9	6:22.6	瀬戸田	(広島)	12	41	7:11.8	豊田	前	(山口)
10	6:25.1	宮之城	(鹿児島)	11	42	7:14.8	信愛		(静岡)
11	6:34.9	高陽	(広島)	10	43	7:15.4	加茂川		(京都)
12	6:40.4	竜洋	(静岡)	8.5	44	7:15.6	皇子山		(滋賀)
12	6:40.4	筑紫	女	8.5	45	7:16.8	鶴尾		(香川)
14	6:41.8	御荘	(愛媛)	7	46	7:17.2	出比		(熊本)
15	6:43.4	三丘	(山口)	6	47	7:18.0	川内	北	(鹿児島)
16	6:44.9	横川	(鹿児島)	5	48	7:19.1	通		(山口)
17	6:45.0	嘉島	(熊本)	4	49	7:22.2	成徳		(東京)
18	6:47.3	篠原	(静岡)	3	50	7:23.2	輪島		(石川)

日本競泳史上男子100傑 (7)

(昭和35年10月30日現在)

◎ 左肩に(日)とあるは当時の日本記録。

◎ 順位は同記録のものは同位とした。但同記録を2回出したものは、その上位とした。

◎ 記録のところに②とあるは最高記録を2回出したもの、表には先に出した年月日、場所、大会名のみ記した。

◎ 次回は男子200バタフライの予定。

(島田)

100mバタフライ

順	氏名	所属	時間	年令	場所	年月日	大会名
(日) 1	石本 隆	日本	1:00.1	(23)	ロス	33-6-29	国際招待
2	増永 文昭	日大	1:01.3	(19)	瀬宮	33-6-22	日米大阪
3	開田 幸一	日本	1:01.4	(21)	大阪	34-7-15	日大対九州
4	坂井 逸次	早大	1:02.2	(22)	神宮	34-9-13	日本学生
5	吉無田 春男	"	1:02.4②	(19)	"	"	"
6	中島 功	日大	1:02.4	(19)	"	35-9-9	日本学生
7	那須 純哉	聖ポール	1:02.9	(20)	"	35-7-23	日本選手権
8	渡辺 春男	安房一高	1:03.0②	(18)	館山	35-7-24	千葉高校
9	井筒 賢造	日本	1:03.1	(19)	モスタル	35-9-11	日ユ交歓
10	富安 守弘	白水会	1:03.3	(19)	神宮	35-7-22	日本選手権
	佐藤 好助	八代高	1:03.3	(18)	"	35-8-21	日本高校
12	竹本 克彦	法政大	1:03.6	(20)	"	33-9-7	日本学生
13	武市 啓志	高知高	1:03.8	(17)	高知	33-9-28	高知高体育
	来栖 寛	天理水	1:03.8	(19)	神宮	35-7-23	日本選手権
	上田 紀男	法政大	1:03.8	(19)	"	35-9-11	日本学生
16	青木 洋一	専修大	1:03.9	(19)	"	35-9-4	関東学生
17	須藤 洋一	明大	1:04.1	(19)	"	35-9-11	日本学生
18	金城 孝彦	中京商高	1:04.2	(18)	振甫	34-7-24	愛知高校
19	三好 恭弘	白水会	1:04.3	(19)	神宮	35-7-23	日本選手権
20	小島 英光	法政大	1:04.5	(19)	"	33-9-7	日本学生
	宮脇 隆史	法政大	1:04.5	(21)	慶大	35-6-26	中大・法大
	田中英雄	岩国高	1:04.5	(18)	大谷	35-10-10	中国対九州
23	富田 幸人	国士館大	1:04.6	(18)	神宮	35-9-4	関東学生
24	毛越 清	臼杵高	1:04.7	(17)	別府	34-9-13	大分選手権
(日) 25	長沢 二郎	稲泳会	1:04.8	(24)	神宮	31-8-12	日本選手権
	丸山 高正	BSタイヤ	1:04.8	(20)	大阪	34-8-29	全国勤労者
27	水野 信正	法二高	1:04.9	(16)	神宮	35-8-21	日本高校

28	長島	務明	大	1:05.0	(21)	神宮	33-9-7	日本学生
29	山本	修平	中	1:05.1	(21)	西京極	31-7-22	中大対立命
	小我	紀一	"	1:05.1	(19)	神宮	35-6-19	日大対中大
31	岩本	光司	堀川高	1:05.2②	(18)	大阪	35-6-26	関西選手権
32	長谷川	浩造	八幡製鉄	1:05:2	(21)	大牟田	35-7-30	福岡勤労者
33	近藤	正博	明大	1:05.3	(19)	神宮	35-9-11	日本学生
34	俵口	頼康	"	1:05.5	(20)	"	33-9-7	"
35	若井	英雄	竜崎一高	1:05.6	(18)	神宮	35-8-21	日本高校
36	神坂	忠一	津山高	1:05.7	(18)	"	"	"
37	鈴木	竜蔵	中大杉並	1:05.8	(18)	宇都宮	34-8-8	関東高校
38	簗原	友義	日大	1:06.0②	(20)	神宮	32-9-8	日本学生
39	井上	敦雄	日大豊山	1:06.0	(17)	"	35-7-10	東京選手権
	竹村	幸生	高知商高	1:06.0	(18)	高知	35-9-15	高知県体育
41	乾野	正之	桜宮中	1:06.1	(15)	大阪	34-8-23	近畿中学
42	安岡	信雄	日大	1:06.2②	(23)	神宮	29-9-12	日本学生
43	宇留間	光吉	天理大	1:06.2	(20)	大阪	33-8-30	関西学生
	竹田	士郎	関学大	1:06.2	(21)	"	"	"
	遠藤	英康	日大豊山	1:06.2	(17)	神宮	35-7-10	東京選手権
46	吉田	弘	早大	1:06.3	(20)	"	34-9-13	日本学生
	芥川	己之助	三水会	1:06.3	(19)	"	35-7-22	日本選手権
48	浜島	明	白水会	1:06.4	(24)	岐阜	33-7-27	岐阜選手権
	渡辺	常也	中大	1:06.4	(19)	神宮	34-6-21	日大対中大
	大賀	陸郎	八代東高	1:06.4	(16)	"	35-8-21	日本高校
	飯田	智康	法政大	1:06.4	(19)	"	35-9-9	日本学生
52	岩岡	祐一	D S C	1:06.5③	(19)	大阪	35-6-26	関西選手権
53	伴	国雄	中京商高	1:06.5	(16)	浜松	35-6-12	浜名湾高校
54	水野	隆晴	小牧高	1:06.6②	(17)	"	34-8-23	日本高校
55	山下	勝次	稲泳会	1:06.6	(21)	神宮	31-8-12	日本選手権
	細間	輝喜	立大	1:06:6	(20)	"	31-9-9	日本学生
57	河添	克也	聖ポール	1:06.7	(18)	"	32-8-17	日本選手権
	佐藤	邦雄	白河高	1:06.7	(17)	"	35-8-21	日本高校
59	新井	沐	天理高	1:06.8	(17)	天理	35-9-28	奈良県新人
60	吉岡	三博	清泳会	1:06.9②	(19)	大阪	35-6-26	関西選手権
61	三留	謙	富鉄釜石	1:07.0	(21)	"	34-8-29	全国勤労者
	馬場	政義	姫工大附	1:07.0	(18)	甲子園	35-7-3	兵庫選手権
	金親	義弘	大阪高	1:07.0	(16)	布施	35-9-4	大阪府高校
64	小宮	二三夫	安房水産	1:07.1	(17)	神宮	32-8-24	日本高校
	赤毛	秀次	尾道高	1:07.1	(18)	"	35-8-19	"
	山下	洋二	東京教大	1:07.1	(19)	"	35-9-3	関東学生

	北村忠夫	立大	1:07.1	(21)	神宮	35-9-9	日本学生
68	須藤文夫	倉敷大	1:07.4②	(18)	岡山	33-6-29	中国五県
69	森正進	中大	1:07.4	(20)	神宮	31-9-9	日本学生
	金原幸道	慶大	1:07.4	(21)	"	"	"
	谷口哲治	名商大	1:07.4	(20)	振甫	34-7-4	早大対愛知
	武市一良	学芸大	1:07.4	(21)	神宮	35-7-15	全国国公立
73	山下修	慶大	1:07.5	(23)	"	32-9-8	日本学生
	富田紀久男	日大	1:07.5	(20)	"	35-6-19	日大対中大
	堤久	天理大	1:07.5	(21)	大坂	35-8-27	関西学生
76	加藤正美	桜泳会	1:07.6	(19)	神宮	30-7-22	日本選手権
	西田博喜	宇部興産	1:07.6	(18)	野沢	33-8-31	全国勤労者
	坂本和夫	日体大	1:07.6	(22)	神宮	"	関東学生
79	田中誠也	九州	1:07.7	(17)	石橋	32-6-16	日大対九州
	馬場満男	修道高	1:07.7	(15)	呉二河	35-7-31	中国高校
81	竹内允	中大	1:07.8	(22)	神宮	29-9-12	日本学生
	北田稔	五条高	1:07.8	(18)	"	32-8-24	日本高校
	山本修	明大	1:07.8	(20)	浜松	33-7-6	明大対浜名
	柳井清	臼杵高	1:07.8	(17)	臼杵	35-5-22	九州三部
	久保田宇利	自由丘高	1:07.8	(17)	神宮	35-7-28	東京都高校
	寺井文康	日大豊山	1:07.8	(17)	大宮	35-8-13	関東高校
87	三宮享	八幡製鉄	1:08.0	(25)	山口	31-7-22	西部実業
	清水孝	中大杉並	1:08.0	(18)	神宮	35-7-28	東京都高校
89	松尾求	諫早商高	1:08.2②	(18)	瀬高	34-5-10	九州中部高
90	大田一郎	日大	1:08.2	(20)	神宮	32-9-6	日本学生
	古沢征支	"	1:08.2	(20)	"	34-6-21	日大対中大
	関征四郎	浜北高	1:08.2	(17)	浜松	34-8-21	日本高校
	林正友	天理高	1:08.2	(17)	大坂	35-8-7	近畿高校
94	福田広巳	臼杵高	1:08.3	(16)	臼杵	34-6-21	大分予選会
	谷口睦美	広陵高	1:08.3	(17)	浜松	34-8-21	日本高校
96	平山綽保	日大	1:08.4	(21)	神宮	29-9-12	日本学生
	田中穂積	早大	1:08.4	(21)	"	32-9-6	"
	白井克郎	旭化成	1:08.4	(22)	旭化成	35-5-22	宮崎予選会
99	牧本日吉	法泳会	1:08.5	(18)	神宮	33-8-3	東京選手権
	小野原紘平	宮之城高	1:08.5	(18)	大分	34-7-6	九州対県



坂本宗隆

アメリカ

○五輪選考会 8/2~5 デトロイト 50m

男子

100m 自由形 (81名出場)

	予選	再予選	準決勝	決勝
1 L・ラースン ^⑳	56.2		55.8	55.0
2 B・ハンター	56.2		56.0	56.0
3 J・ファーレル ^㉑	55.9		55.6	56.1
4 J・スプライツァー ^⑳	56.4		56.1	56.2
5 G・ハリスン	55.9		55.9	56.1
6 L・モリス	56.3		56.2	56.4
7 R・カウフマン	56.2		56.4	56.4
8 J・マギル	57.2	56.8	56.3	56.9
R・ブリック	56.0		56.5	
P・シンツ	56.3		56.7	
S・クラーク ^㉒	55.5		56.4	
G・モリス	56.4		56.8	
D・デヴァイン	57.1		56.5	
C・T・ウーリー	56.8		56.4	
W・キヤース ^㉓	57.3	56.4	57.0	

200m 自由形 (102名出場)

	予選	準決勝	決勝
1 G・ハリスン ^㉔	2:02.9	2:03.2	2:03.1 (米新)
2 R・ブリック	2:04.8	2:04.6	2:04.2
3 W・ダートン	2:05.1	2:04.8	2:04.4
4 J・ファーレル	2:05.6	2:05.9	2:04.6
5 T・ウインターズ	2:05.1	2:05.7	2:05.1
6 S・クラーク	2:06.5	2:06.0	2:05.2
7 D・ロウ	2:05.2	2:05.1	2:05.7
8 J・ハウス	2:06.2	2:06.0	2:05.8
P・シンツ	2:06.7	2:07.5	
E・フォレット	2:07.4	2:06.4	
W・チェイズ	2:07.7	2:06.4	

D・ラウンサヴェル 2:06.3 2:07.1

400m 自由形 (47名出場)

1 A・ソマーズ	4:24.5	4:25.1
2 E・レンツ ^㉕	4:27.9	4:26.2
3 J・マセド	4:29.7	4:27.4
4 W・ダートン	4:29.4	4:28.6
5 G・ブリーン	4:26.4	4:30.2
6 D・ラウンサヴェル	4:28.9	4:31.3
7 P・シンツ	4:29.7	4:33.6
8 G・ハリスン	4:29.3	4:47.4
G・ハインリッヒ	4:33.4	
C・ロビー	4:33.7	
D・アブラムスン ^㉖	4:33.6	
R・ベンスン ^㉗	4:33.1	
M・トロイ	4:32.1	
W・チェイズ	4:33.1	

1500m 自由形 (22名出場)

1 A・ソマーズ	17:55.0	17:40.0
2 G・ブリーン	18:12.5	17:40.0
3 R・サアリ	18:28.4	18:00.3
4 B・フォス	18:25.1	18:10.5
5 W・ペンドルトン	18:21.9	18:21.5
6 W・ウーラー	18:35.5	18:34.4
7 R・バリー	18:43.4	18:51.8
8 T・バシー	18:47.9	19:00.2
W・ファーレー	18:49.7	

100m 平泳 (37名出場)

1 P・ハイト	1:14.2	1:13.5
2 R・グレイサー	1:13.8	1:14.1
3 J・ミキ	1:15.5	1:14.9
4 C・ジャストレムスキー	1:13.4	1:15.2
5 D・ルッパート	1:15.9	1:15.5
6 K・ナカソネ	1:15.0	1:15.9
7 F・マンシュ	1:15.2	1:16.2
8 G・グリーン	1:15.3	1:17.8

200m 平泳 (40名出場)

1 W・マリケン	2:43.1	2:40.9	
2 C・ジャストレムスキー	2:43.8	2:41.5	
3 F・マンシュ	2:42.3	2:41.6	
4 K・ナカソネ	2:44.0	2:42.9	
5 R・グレイサー	2:40.1	2:43.9	
6 C・グリフィン	2:42.3	2:44.3	
7 P・ハイト	2:40.2	2:44.8	
8 E・メイナード	2:46.4	2:44.6	2:52.1
T・コバッチ	2:46.4	2:44.9	
C・トレメウァン ^㉘	2:46.4	2:46.3	

200m バタフライ (20名出場)

1 M・ト ロ イ	2:14.1 (世新)	2:13.2 (世新)
2 D・ギランダース	2:17.4	2:14.0(世新)
3 A・タシュニク	2:16.8	2:15.5(世新)
4 L・ラ ー ス ン	2:21.6	2:16.0(世新)
5 C・ロ ビ ー	2:18.9	2:18.2
6 R・バ ー ト ン	2:22.2	2:22.4
7 F・シュミット	2:20.3	2:24.0
8 R・キ ッ チ ェ ル	2:20.8	2:26.0
R・ケンドリック	2:25.1	

100m 背 泳 (33名出場)

1 R・ベ ネ ッ ト	1:02.6	1:02.4
2 F・マ ッ キ ニ ー	1:03.1	1:02.8
3 T・ス ト ッ ク	1:03.6	1:03.2
4 L・シ ョ ー ファ ー	1:04.6	1:03.8
5 C・ビ テ イ ッ ク	1:04.1	1:03.8
6 L・カ ト ラ ー	1:03.7	1:04.0
7 J・レ ー ト ケ	1:04.5	1:04.3
8 R・ゴ ー チ ェ ⑮	1:04.0	1:04.5
J・グ ラ ー フ	1:05.1	
E・バル ッ チ	1:05.7	
J・ド ル ビ ー	1:05.4	

飛板飛込 (47名出場)

1 S・ホ ー ル	170.38
2 G・ト ビ ア ン	154.50
3 D・ハ ー パ ー	152.80
4 R・オブライエン	152.50
5 R・ウエプスター	146.08
6 G・ハ リ ス ン	145.28

高 飛 込 (17名出場)

1 R・ウエプスター	166.56
2 G・ト ビ ア ン	159.68
3 R・オブライエン	154.57
4 D・ハ ー パ ー	151.19
5 G・ハ リ ス ン	147.59
6 R・シ ャ コ	140.65

女 子

100m 自由形 (43名出場)

1 C・フォンソルツァ⑮	1:01.3 (米新)	1:02.4	1:02.5
2 C・ウ ッ ド⑭	1:02.6	1:03.2	1:02.8
3 J・スピレーン⑰	1:03.1	1:03.3	1:03.2
4 S・ストーブス⑱	1:04.2	1:04.7	1:04.5
5 D・デヴァロナ⑲	1:04.3	1:04.3	1:04.8
6 M・ボトキン⑳	1:05.8	1:04.9	1:05.1
7 R・ションスン	1:05.3	1:05.7	1:05.4

8 D・グ レ ア ム	1:05.5	1:06.0	1:05.3
S・ド ッ ラ ー	1:04.0	1:04.3	
L・ホ プ キ ン ス⑭	1:05.2	1:05.5	
N・カ ナ ビ ー⑯	1:04.4	1:07.2	

400m 自由形 (17名出場)

1 C・フォンソルツァ	4:49.6	4:44.5(世新)
2 C・ハ ウ ス⑭	4:58.8	4:55.1
3 J・スピレーン	5:07.6	4:56.3
4 D・デヴァロナ	4:59.2	4:58.9
5 J・ブラックウェル	5:04.2	5:04.5
6 L・ワ ト ス ン⑮	5:03.2	5:11.6
7 S・ル ー ス カ	5:08.3	5:12.9
8 S・フィナーレン	5:14.4	5:18.4

100m 平 泳 (26名出場)

1 A・ワ ー ナ ー	1:25.1	1:22.3(米新)
2 J・ダニエルスン	1:23.4	1:22.6
3 L・ク ラ ー ク	1:23.4	1:23.8
4 P・ケムプナー	1:23.8	1:24.0
5 M・ハーグリーブズ	1:24.0	1:23.9
6 J・V・デルカムプ	1:23.6	1:24.1
7 S・ロ ジャ ース	1:23.8	1:25.5
8 A・バンクロフト	1:24.6	1:25.8
L・A・ファークストーン	1:25.3	

200m 平 泳 (30名出場)

1 A・ワ ー ナ ー⑮	2:52.5(米新)	2:53.2
2 P・ケムプナー	3:02.0	2:56.6
3 M・ハーグリーブズ	2:57.9	2:58.4
4 S・ロ ジャ ース	2:56.6	3:00.4
5 J・テルカムプ⑲	2:59.0	3:00.7
6 J・ダニエルスン⑯	2:58.5	3:01.8
7 R・ホイップル⑲	3:01.4	3:04.5
8 A・バンクロフト	3:01.5	3:41.9

100m バタフライ (24名出場)

1 C・ウ ッ ド	1:11.1	1:09.4
2 C・シ ョ ラ ー⑯	1:10.2	1:09.6
3 A・バンクロフト⑯	1:09.2	1:09.8
4 K・シメセック	1:11.6	1:10.2
5 B・コ リ ン ズ⑮	1:11.1	1:10.7
6 S・ド ッ ラ ー	1:10.7	1:10.8
7 S・ル ー ス カ	1:11.5	1:10.9
8 N・ラ ミ ー	1:10.1	1:12.7
J・ブラックウェル	1:11.8	

100m 背 泳 (21名出場)

1 L・バ ー ク	1:10.0 (世新)	1:09.2 (世新)
2 N・ハ ー マ ー⑭	1:13.4	1:11.8
3 C・コ ー ン	1:14.4	1:13.2

4 C・クルーター	1:14.4	1:14.4
5 E・マーフィー	1:14.7	1:14.5
6 L・ジョンソン ^⑩	1:14.2	1:15.2
7 J・ドレッサー ^⑪	1:15.7	1:15.8
8 C・オコナー	1:16.2	1:18.3

飛板飛込

1 P・J・ポーブ	138.63
2 P・ウイラード	129.49
3 J・レンジ	128.23
4 B・マクアリスター	128.23

高飛込

1 P・J・ポーブ	90.48
2 J・イルウィン	86.44
3 K・クラムプ	81.90
4 B・マクアリスター	76.03

100m 自由形(リレー) (48名出場)

1 S・ドゥラー	1:04.1	1:04.8	1:04.2
2 J・スピレーン	1:03.8	1:04.1	1:04.6
3 S・ストーブス	1:04.4	1:04.4	1:04.9
4 M・ボトキン	1:06.4	1:04.8	1:04.9
5 D・デヴァロナ	1:04.7	1:04.7	1:04.9
6 S・ルースカ	1:05.7	1:04.9	1:05.0
7 B・ヌルメイヤー	1:05.7	1:04.9	1:05.1
8 N・カナビー	1:04.8	1:04.3	1:05.3

粒の揃った選手層の厚味、内容の充実等2, 3年前の凋落を考えると、まことに嘘のような気がする。種目によっては、オリンピックよりもこの大会の決勝に残る方がむずかしいものもある。

なお、女子100m自由形(個人)準決勝でドゥラー、ホプキンスの両名は入選しているが、決勝出場を辞退したため、下位のジョンソンとグレアムがせりあがったものと思われる。

豪 州

○記録会 7/30 タウンズヴィル 55y

男子

110y自	1 J・ヘンリックス	57.0
	2 G・シプトン	57.5
	3 J・デヴィット	57.5
1650y自	1 M・ローズ	17:40.2
	2 J・コンラッツ	17:55.8
	3 A・ウッド	18:17.8
110y平	1 W・バートン	1:12.8
	2 T・キャザコール	1:14.1
110yバ	1 K・ベリ	1:03.8
	2 N・ヘイズ	1:04.1

110y背	1 D・タイラ	1:04.6
	2 J・モンクトン	1:05.1

女子

110y自	1 D・フレイザー	1:02.0
	2 L・クラップ	1:04.3
	3 I・コンラッツ	1:06.3
110yバ	1 J・アンドリュ	1:11.6
	2 D・フレイザー	1:15.0

○記録会 8/2 タウンズヴィル 55y

男子

440y自	1 M・ローズ	4:21.3
	2 J・コンラッツ	4:24.3
	3 A・ウッド	4:32.2
220y平	1 W・バートン	2:41.3
440y継選	抜	3:45.7(y世新)

(ヘンリックス56.0, デヴィット, シプトン, ディクソン)

女子

440y自	1 D・フレイザー	4:54.9
	2 I・コンラッツ	4:56.0
220y平	1 R・ラッシュグ	2:56.6
110yバ	1 J・アンドリュ	1:11.8

○記録会 8/4 タウンズヴィル 55y

男子

110y自	1 J・ヘンリックス	56.5
	2 G・シプトン	56.5
	3 J・デヴィット	56.9
220y自	1 M・ローズ	2:05.8
	2 J・コンラッツ	2:06.5
	3 D・ディクソン	2:07.1
	4 J・ヘンリックス	2:07.9
220y平	1 W・バートン	2:42.4
	2 T・キャザコール	2:43.5
110y背	1 D・タイラ	1:04.0

女子

110y自	1 D・フレイザー	1:01.9
	2 L・クラップ	1:04.3
	3 I・コンラッツ	1:05.0
220y平	1 R・ラッシュグ	2:56.1
220y背	1 M・ウイルスン	2:37.2(y世新)
440y混継選	抜	4:50.2(〃)

(ベケット, ラッシュグ, アンドリュ, フレイザー)

○記録会 8/6 タウンズヴィル 55y

880y継選	抜	8:16.6(世新)
	(ヘンリックス 2:04.2	ディクソン 2:05.3
	コンラッツ 2:04.0	ローズ 2:03.1)

女440y 継 選 抜 4:16.2 (世新)
 (フレイザー 1:02.2 コルホーン 1:05.6
 コンラッツ 1:04.4 クラップ 1:04.0)
 旭日の勢であったコンラッツ兄妹が、ともに精彩を欠
 いているのが特に目つく。

欧 州

○ソ連選手権 7/上旬 モスクワ 50m

男 子

100m自	1 P・モルガチエフ	57.7
	2 V・ソローキン	57.7
	3 I・ルチコフスキー	57.9
1500m自	1 G・アンドロソフ	18:17.5(ソ新)
100m平	1 L・コレスニコフ	1:12.1
	2 V・ミナシキン	1:13.7
200m平	1 G・プロコペンコ	2:38.0(ソ新)
	2 V・ゴロフチェンコ	2:40.3
	3 L・コレスニコフ	2:42.1
100mバ	1 G・キセリョフ(高校生)	1:02.6(ソ新)
	2 V・クズミン	1:03.0
200mバ	1 " ⑩	2:18.1(ソ新)
100m背	1 V・シーマル	1:03.3(ソ新)

ジュニア

100m自	1 シュラーボフスキー	57.4
-------	-------------	------

女 子

100m自	1 U・フーグ	1:06.5
	2 リアコヴァカヤ	1:07.2
	3 M・シャマル	1:04.6 1:07.2
400m自	1 U・フーグ	5:15.5
100m平	1 E・マウレル	1:21.8
	2 L・コロボワ	1:22.8
220m平	1 E・マウレル	2:57.1
	2 A・コワレンコ	2:58.3
100mバ	1 V・ポズニアク	1:13.7
100m背	1 L・ヴィクトロワ	1:11.7(ソ新)

ジュニア

100m自	1 G・ソスノワ	1:06.3
-------	----------	--------

○モスクワ 7/下旬

100m自	1 I・ルチコフスキー	56.6
100mバ	1 V・クズミン	1:03.3

女100m自 1 リアコヴァカヤ 1:06.7
 400m混継 1 選 抜 4:14.0

(シーマル, コレスニコフ,
 キセリョフ, ルチコフスキー)

○ヘルシンキ 7/19~20 50m

男 子

100m自	1 K・カユコ(芬)	56.6(芬新)
	2 P-O・リンドベリ(典)	56.7(典新)
	3 B・ノルドワール(ソ)	56.8
400m自	1 L-E・ベンクトソン(ソ)	4:35.8
	2 B-O・アルムステット(ソ)	4:36.0
	3 P-O・エリクソン(ソ)	4:37.8
800m継	1 ネプチューン(ソ)	8:35.8

女 子

100m自	1 B・セゲルストローム(典)	1:05.7
400m自	1 J・セデルクィスト(ソ)	2:23.1(典新) 4:54.7(典新)
	2 B・セゲルストローム(典)	4:58.2

○ハンガリー選手権 ブダペスト 7/30~31 50m

男 子

200m自	1 J・カトナ	2:06.5(洪新)
	2 G・ドバイ	2:06.5
400m自	1 J・カトナ	4:32.3(洪新)
200m平	1 G・クンシャジ	2:43.1
200mバ	1 L・ヴァルセジ	2:31.4
100m背	1 J・チカニー	1:04.5
400m継	1 ドザ	3:52.6

(第1泳者 ドバイ 55.8 欧新)

女 子

100m自	1 B・マダラズ	1:03.4
	2 M・フランク	1:05.3
100m平	1 K・キラーマン	1:21.2
200m平	1 "	2:52.7(洪新)
100m背	1 B・マダラズ	1:13.3
	2 M・ダヴィド	1:13.4

ハンガリー84-96イギリス, ブダペスト 7/16~17

50m

男 子

100m自	1 G・ドバイ	56.5
	2 L・ラントス	57.2
	3 S・クラーク(英)	58.2
400m自	1 J・カトナ	4:33.2
	2 R・チャンピオン(英)	4:35.6
1500m自	1 J・カトナ	17:58.2
	2 R・チャンピオン(英)	18:38.8
	3 R・C・スリーナン(ソ)	18:52.3
200m平	1 G・クンシャジ	2:41.5
	2 G・ローリンソン(英)	2:43.8
200mバ	1 G・シモンズ(ソ)	2:27.9
	2 I・ブライズ(ソ)	2:29.3
100m背	1 G・サイクス(ソ)	1:03.7(英新)
	2 J・チカニー	1:03.7(洪新)

800m継 1 ハンガリー 8:35.2
 400m混継 1 「 4:17.0
 2 イギリス 4:18.0

女子

100m自 1 B・マダラズ ⑩ 1:02.5(欧新)
 2 N・ステュワード(英) 1:04.6
 400m自 1 N・ロー(「) 5:08.4
 2 J・サムエル(「) 5:12.6
 200m平 1 A・ロンズブロー(「) 2:52.3
 2 K・キラーマン 2:53.0
 100mバ 1 P・バイネズ(英) 1:13.8
 100m背 1 N・ステュワード(「) 1:11.2
 2 S・ルイズ(「) 1:12.5
 400m継 1 ハンガリー 4:19.8(洪新)
 2 イギリス 4:22.9
 400m混継 1 イギリス 4:50.2
 2 ハンガリー 4:52.3(洪新)

○スエーデン選手権 7/28~31 フイリスバデット 50m

男子

100m自 1 P-O・リンドベルイ 57.6 56.8
 2 B・ノルドワール 57.9 57.2
 200m自 A 1 P-O・リンドベルイ 2:09.7 2:08.3
 2 L-E・ベングトソン 2:08.9
 3 P-O・エリクソン 2:09.⁶
 B 1 B・ノルドワール 2:09.3
 400m自 1 L-E・ベングトソン 4:34.6
 2 B・ノルドワール 4:40.2
 3 S-G・ヨハンソン 4:40.3
 1500m自 1 L-E・ベングトソン 9:39.3 18:25.5
 (典新) (典新)
 2 B-O・アルムステット 18:49.5
 3 S・エクマン 18:52.9
 100m平 1 R・ルンディン 1:15.6(典新)
 200m平 1 T・リンドストローム 2:39.3(「)
 2 R・ルンディン 2:45.1
 200mバ 1 H・ベングトソン 2:28.0
 100m背 1 B-O・アルムステット 1:06.7(典新)
 女子
 100m自 1 Ka.ラルソン 1:05.4 1:04.5
 2 I・ソルングレン 1:05.2 1:05.4
 3 B・セゲルストローム 1:06.2 1:05.6
 400m自 1 J・セデルクィスト ⑮ 4:55.3
 2 B・セゲルストローム ⑰ 4:56.9
 3 H・ライランデル 5:08.3
 100m平 1 B・エリクソン 1:23.4(典新)
 200m平 1 「 2:56.8 2:55.7
 100mバ 1 Kr.ラルソン 1:14.1 1:14.7

2 Ka.ラルソン 1:14.8
 100m背 1 B・セゲルストローム 1:14.3(典新)
 400m継 1 ネプチューン 4:29.1(「)
 400m混継 1 ラン 5:17.0

○フイリスバデット(典) 8/4 50m

200m自 1 B・ノルドワール 2:06.6(典新)
 2 P-O・リンドベルイ 2:07.8
 3 L-E・ベングトソン 2:08.6
 4 P-O・エリクソン 2:08.6
 200m平 1 T・リンドストローム(1:16.5) 2:39.8
 2 B・ニルソン 2:40.7
 200mバ 1 H・ベングトソン 2:25.7(典新)

女子

100m自 1 I・ソルングレン(30.0) 1:04.3(「)
 2 B・セゲルストローム 1:04.7
 3 Ka.ラルソン 1:04.7
 4 A-C・アンデルソン 1:05.6
 200mバ 1 Ka.ラルソン 2:45.4(典新)

○フイリスバデット 8/17 50m

女200自 1 B・セゲルストローム 2:21.3(欧州)
 「800自 1 J・セデルクィスト 9:55.6(世新)
 ○ウブサラ 9/8

女1500自 1 J・セデルクィスト 19:23.6(世新)
 これでコンラッズ妹(豪)の保持する世界記録は440,
 880 yと1650 yの3つを残すのみで, mの方は全部破ら
 れた。

○西独114-109オランダ マーストリヒト(和)

7/9~10 50m

男子

100m自 1 R・クローン(和) 57.3(和新)
 2 P・フェール 58.8
 3 U・ヤコブセン 58.8
 400m自 1 G・ヘッツ 4:35.6
 2 H・ツィロルド 4:36.8
 1500m自 1 G・ヘッツ 18:43.3
 200m平 1 H-J・トレージャー 2:41.0
 2 N・ルムベル 2:42.5
 200mバ 1 H・ツィロルド 2:25.6
 100m背 1 E・キュッペルス 1:06.6
 800m継 1 西ドイツ 8.44.7
 400m混継 1 「 4:24.7

女子

100m自 1 C・ハステラールス(和) 1:03.4
 2 S・ポッサマス(「) 1:04.5
 400m自 1 J・コステル(「) 5:01.1
 2 C・シムメル(「) 5:01.1

100m平	1 W・ウルセルマン	2:52.5
	2 A・デンハーゲン(和)	2:54.8
100mバ	1 A・フォールバイ(ウ)	1:12.5
	2 M・ヘームスケルク(ウ)	1:12.6
100m背	1 R・ファンフェルゼン(ウ)	1:10.9(世新)
	2 H・シュミット	1:12.8(西独新)
	3 R・ドパー(和)	1:12.8
400m継	1 オランダ	4:19.6
400m混継	1 "	4:53.2

○西独選手権 8/上旬 オスナブルック 50m
男子

100自	1 U・ヤコブセン	58.2
200自	1 H-J・クライン	2:05.4(西独新)
400自	1 "	4:32.0
1500自	1 G・ヘッツ	18:23.7
200平	1 H-J・トレイガー	2:39.9
200バ	1 H・ツィロルド	2:24.0(西独新)
100背	1 E・キューペルス	1:06.0

200背	1 "	2:25.7(西独新)
800継	1 ダルムスタット	8:53.5(西独新)

女子

100自	1 U・ブルナー	1:04.8
400自	1 "	5:08.2
200平	1 W・ウルセルマン	2:50.6
100背	1 H・シュシット	1:12.7(西独新)
200背	1 "	2:42.5(ウ)
400混継	1 ハイデルベルヒ	5:18.0(ウ)

欧州の男子は、ソ連が足踏状態であるが、東西ドイツハンガリー、スエーデンが躍進してきた。女子の方は、オランダは層は厚いが、あまり進歩は見られず、スエーデン、ハンガリー、ドイツ等が迫っている。

中 国

○全中国水泳 9/1 成都

100m平	1 莫 国 雄	1:11.0(世新)
-------	---------	------------

この記録は世界新記録ではあるが、中国はFINAに加盟していないので、公認はされない。

昭和35年度定例代議員会議事録

日 時 昭和35年7月23日(土)
場 所 日本青年館会議室
出 席 者 加盟51団体中出席40団体

会長挨拶

御多用中御参会願ひ感謝に堪えない。本日は御案内の通り、全日本選手権大会兼ローマ・オリンピックの最終予選会の会期2日目に当り選手諸君は非常な活躍を示しているが、本日はローマ大会への派遣準備その他につき御審議願うことになっているのでよろしく御協力頂きたいと思ひます。

議 事

1. 報告事項

1) ローマ・オリンピック大会に関する件(小出専務理事)

役員団、審判団の決定については、さきに会長一任となっていたが、本日御報告致したい。

役員団 小出監督、太田、柴原、鷗田、赤樫各コ1チ、志村マネジャー

審判団 樋口会長、安部、清川、小柳、北村

以上の諸氏である。

ローマ大会への強化対策については、1月の代議員会においても御報告申上げた通り、3月迄に2回にわたる長期強化合宿を行い、飛込は5回、水球は6回にわたる

強化合宿を行った。

明24日に代表選手団を決定、発表し、25日結団式を行い8月12日チャーター機で出発することになっている。ローマの水泳競技は、8月25日から9月3日まで行われ、その後はユーゴ、ハンガリーの招待試合に望むことになっている。ともかく全力を傾け努力致す所存である。帰国は9月22日の予定であるが、その頃熊本で国体夏季大会が行われるので、体協主催の報告会は熊本で行われる。

2) 東京オリンピック大会準備状況

東京大会の準備については、周知の通り組織委員会が中心となり進めており、強化対策については強化対策本部の計画に従い水連より強化カ5年計画提出、経費の補助を得て強化練習なり、海外遠征、コーチの派遣等を効果的に実施致したいと考えている。36年度は、ローマ大会での成績に照らし、女子高校選手等の海外遠征或はソ連への遠征、コーチの派遣等を考慮致したい。詳細は別紙東京オリンピック強化5カ年計画の通りであるが、体協には既に5カ年間で7,000万円乃至8,000万円程度の予算計画を提示してある。なお、強化組織とこれが執行方法

等については別紙の通りであり、また、競泳、水球、飛込各部門別の強化計画も既に体協へ提出済である。(別紙) 今後とも各加盟団体とは十分意見の交換を図り万全を期したいと思っている。

3) 外国関係(安部名誉主事)

ローマ大会終了後、チーム全員でユーゴ、ハンガリーに赴き親善レースを行うことに決定した。そのほかスペイン、フランスから招待の申込があったが、日程の都合上拒否した。

4) 各委員会関係

飛込 東京大会の強化の一環として、全国を7ブロックに分け指導者講習会の開催を予定している。これは指導者陣の不足を補うためであるが、この外高校生を主体とした強化等を計画している。(計画は別紙) その他海外との技術交流を図るべく計画を進めている。

水球 強化等の一環として、インターハイ終了後、8月22日から一週間東大プールで高校選手の強化練習を行う。なお東京大会への強化計画は別紙の通りである。

日本泳法 8月20日に国民皆泳大会、8月22日から25日迄に指導者講習会を開催する。なお8月22日天理プールで日本泳法大会を行うことになっている。

施設 本年1月の定例代議員会において報告した以降公認したプールは18に上っており、非常に多くなっている。小・中学校の標準プールは前号の機関誌に搭載しているから御覧願いたい。なお、東京オリンピックのプールは渋谷のワシントンハイツの一角に5,000坪、25,000名収容のものを作るべく計画が進められている

競泳 「水泳手帳」を作成したので、次の要領で配付したい。

- 中学生：通信競技の各種目50位迄 600部
- 高校生：全国高校6位迄 120部
- 大 学：インカレ6位迄 60部
- 勤労者：決勝6位迄。
- 女 子：全日本ランキング20位迄。

内容については、不備な点もあろうかと思うが御意見を伺いたい。

5) 日本高校準備状況(勝村東京部水協専務理事)

本年度のインターハイは、競泳は神宮プール、水球、飛込は都営プールで行う。一部夜間レースとなるが、デーゲームで開催する。

6) 国体準備状況

9月開催の熊本の国体夏季本会は着々準備が進んでおり、各県の来県を鶴首している次第である。(熊本県代議員)

7) 会長等不在中代理について

会長より次のように報告があった。

- 会長代理 奥野常務理事
- 専務代理 根上常務理事

2. 質疑、協議事項等

1) 国体関係

奈良県代議員より本年の熊本大会にはオリンピック大会代表選手の出場を認められたい旨の提案があったので、協議の結果例外として認めることとした。なお事務的には水連から国体委員会へ申し入れた上後日改めて通知することとした。

2) 水泳教室関係

奈良県代議員より、自由形の出場人員の制限は各学年から一名かまたは長、短距離毎に一名かの質問があったが、太田委員長よりこれは各学年毎に一種目一名であるとの答弁があった。なお、当該生徒の学校長以外に教育委員会にも水連から通知方要請があったがこれを了承した

3) 東京大会強化対策資金について

愛知県代議員より、東京大会のための強化資金の準備状況につき質問があったのに対し、小出専務理事より大会組織委員会の強化対策本部としては、昭和36年以降4年間で総計18億円を要するものとして準備しているが、これは全額組織委で集めることになっている。しかしそれだけで十分かどうか疑問もあるので、水連としては独自の立場で別途最少限の経費の募金計画を考慮している次第である。将来各団体に何分の御協力を頂くことになるものと考えるのでその節はよろしく御願ひ致したい旨の答弁があった。

編 集 後 記

ローマ・オリンピックが終わりました。選手諸君、コーチ各位御苦勞様でした。本号はその報告号と致しました。なお、別掲のように「ジュニアの部」を設け広く利用して戴くことになりましたからよろしく願ひします。(栗村)

編集委員 (いろは順 ◎印委員長) 金田平八郎, 上野徳太郎, ◎栗村 中丸, 坂本亮四郎, 三枝美貴子, 佐藤 幸男, 菊池 章, 島田桃一郎, 島田 博史, 鈴木 祐一

日 本 水 泳 連 盟 機 関 誌	昭和 35 年 12 月 10 日 印 刷 昭和 35 年 12 月 15 日 発 行 日 本 水 泳 連 盟 編 集 兼 発 行 人 栗 村 中 丸 印 刷 所 株 式 会 社 成 島 印 刷 所 東 京 都 中 央 区 日 本 橋 本 石 町 3 の 4 電 話 日 本 橋 (241) 1701. 6509. 7082	東 京 都 千 代 田 区 丸 ノ 内 2 - 2 丸 ビ ル 7 2 2 区 発 行 並 申 込 所 日 本 水 泳 連 盟 電 話 和 田 倉 (201) 3090・4885 番 振 替 口 座 東 京 5 1 7 8 番
水 泳		
第 1 3 5 ・ 1 3 6 号		